仙台市文化財調査報告書第278集

上　野　遺　跡

—平成15年度確認調査・第５次発掘調査報告書—

２００４

仙台市教育委員会

仙台市文化財調査報告書第278集

上　野　遺　跡

—平成15年度確認調査・第５次発掘調査報告書—

２００４

仙台市教育委員会

序　文

仙台市の文化財保護行政に対しまして、日ごろから多大な御協力を賜り、まことに感謝にたえません。

市内南西部の山田・富田地区周辺は、市内でも遺跡が数多く分布する地域であり、そのなかでも上野遺跡は、「縄文の森」として整備事業が行われる山田上ノ台遺跡とともに、市内の代表的な縄文時代の集落跡のひとつです。

今回の発掘調査は、これまで竪穴住居跡が多く発見されている居住地域の東側にあたり、フラスコ状の土坑が数多く発見され、この時代の集落構造を考える上で貴重な成果が得られました。

先人たちの残した貴重な文化遺産を保護し、保存活用を図りつつ次の世代に継承していくことは、現代に生きる私たちの大きな責務であると考えております。また、文化財の保護につきましては、地域の皆様の深い御理解と御協力が必要となります。

その意味でも、今回の調査成果が地域の歴史を解き明かしていくための貴重な資料となり、多くの方々に活用されれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査ならびに本報告書の刊行に際しまして、御協力くださいました皆様に深く感謝申し上げる次第です。

平成16年３月

仙台市教育委員会
教育長　阿　部　芳　吉

例　言

1．本書は、宮城県仙台市太白区富田字上野西・上野中地内に所在する「上野（うわの）遺跡」の平成15年度確認調査・第５次発掘調査報告書である。確認調査は当初第４次発掘調査として、確認調査及び本調査を行ったものである。平成15年度の調査が終了した時点でこれまでの本遺跡の調査履歴を検討して、調査次数を確認し、本調査には調査次数を付し、確認調査には調査次数を付さないこととした。そのために、平成15年度の第４次調査については確認調査部分を確認調査とし、本調査区は第５次調査１区、第５次調査区は第５次調査２区と改めた。

2．本遺跡の調査は、都市計画街路富沢山田線建設に伴う事前調査として行われたものである。

3．調査期間及び、調査面積は以下の通りである。なお、第５次調査の面積は，確認調査区120㎡（トレンチ４箇所分）を含む数値となっている。

確認調査　　平成15年10月27日～平成15年12月19日　　600㎡

第５次調査　　平成15年11月26日～平成16年１月20日　　410㎡

4．本書の作成・編集は、仙台市教育委員会文化財課 工藤信一郎、株式会社玉川文化財研究所 戸田哲也が行った。

5．本書の執筆は、工藤信一郎の責任と指導のもとに、株式会社玉川文化財研究所 中山　豊が行った。

6．本書に係わる一切の資料は、仙台市教育委員会が保管している。

〔上野遺跡発掘調査一覧〕

調査次数	調査年度	調査原因	文　献
第１次	1976（昭和51）年	青少年文化財講座	上野縄文時代遺跡発掘調査市民報告会資料（昭和51年12月）
第２次	1981（昭和56）年	個人住宅建築（浄化槽）	市教委第37集　仙台平野の遺跡群Ⅰ「上野遺跡」（昭和57年３月）
第３次	1983（昭和58）年 1985（昭和60）年	市道十文字線整備	市教委第88集　上野遺跡―市道十文字線関係調査略報（昭和61年３月）
第４次	1987（昭和62）年	電力鉄塔改築	市教委第127集　上野遺跡―電力鉄塔関係発掘調査報告書（平成元年３月）
第５次	2003（平成15）年	都計街路富沢山田線建設	市教委第278集　上野遺跡―平成15年度確認調査・第５次発掘調査報告書　（平成16年３月）

凡　例

1．遺構の記号は竪穴住居跡をＳＩ、掘立柱建物跡をＳＢ、土坑をＳＫ、その他の遺構（埋設土器・配石・遺構プラン）をＳＸとしている。

2．土層説明の土色は農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所　色票監修『新版　標準土色帖』1994年版を使用した。

目　次

序　文
例　言
凡　例

第Ⅰ章　調査の概要 …… 1
　第1節　調査要項 …… 1
　第2節　調査に至る経緯 …… 1
　第3節　遺跡の概観 …… 2
　第4節　調査の経過 …… 2
　第5節　基本層序 …… 7

第Ⅱ章　確認調査 …… 8

第Ⅲ章　第5次調査 …… 59
　第1節　掘立柱建物跡 …… 59
　第2節　土　坑 …… 61
　第3節　包含層出土遺物 …… 81

第Ⅳ章　ま と め …… 84
　第1節　確認調査 …… 84
　第2節　第5次調査 …… 85

報告書抄録 …… 巻末

挿 図 目 次

第１図　遺跡の位置と周辺遺跡 …… 3
第２図　過去の調査地点と今年度調査地点 …… 3
第３図　確認調査区（トレンチ）及び第５次調査区
配置図 …… 5
第４図　１・２トレンチ平面図・土層断面図 …… 15
第５図　３・４・５トレンチ平面図・土層断面図 …… 16
第６図　６・７トレンチ平面図・土層断面図 …… 17
第７図　10・11トレンチ平面図・土層断面図 …… 18
第８図　12・13トレンチ平面図・土層断面図 …… 19
第９図　14・15トレンチ平面図・土層断面図 …… 20
第10図　16・17・18トレンチ平面図・土層断面図 …… 21
第11図　19・20・21・22トレンチ平面図 …… 22
第12図　１トレンチ包含層、２トレンチ１号土坑
（ＳＫ１）・包含層出土遺物 …… 23
第13図　４トレンチ包含層、５トレンチ包含層
出土遺物（１） …… 24
第14図　５トレンチ包含層出土遺物（２） …… 25
第15図　５トレンチ包含層出土遺物（３） …… 26
第16図　６トレンチ１号住居跡（ＳＩ１）・包含層
出土遺物（１） …… 27
第17図　６トレンチ包含層出土遺物（２） …… 28
第18図　６トレンチ包含層出土遺物（３） …… 29
第19図　６トレンチ包含層出土遺物（４） …… 30
第20図　７トレンチ１号住居跡（ＳＩ１）出土遺物 …… 31
第21図　７トレンチ２号住居跡（ＳＩ２）出土遺物 …… 32
第22図　７トレンチ１号埋設土器（ＳＸ１）・包含層
出土遺物（１） …… 33
第23図　７トレンチ包含層出土遺物（２） …… 34
第24図　７トレンチ包含層出土遺物（３） …… 35
第25図　10トレンチ１号住居跡（ＳＩ１）
出土遺物（１） …… 36
第26図　10トレンチ１号住居跡（ＳＩ１）
出土遺物（２） …… 37
第27図　10トレンチ１号住居跡（ＳＩ１）（３）・包含層
出土遺物 …… 38
第28図　11トレンチ包含層、12トレンチ包含層
出土遺物（１） …… 39
第29図　12トレンチ包含層出土遺物（２） …… 40
第30図　13トレンチ１号溝状プラン（ＳＸ１）
出土遺物（１） …… 41
第31図　13トレンチ１号溝状プラン（ＳＸ１）
出土遺物（２） …… 42
第32図　13トレンチ１号溝状プラン（ＳＸ１）
出土遺物（３） …… 43
第33図　13トレンチ１号溝状プラン（ＳＸ１）
出土遺物（４） …… 44
第34図　13トレンチ包含層出土遺物（１） …… 45
第35図　13トレンチ包含層出土遺物（２） …… 46
第36図　13トレンチ包含層出土遺物（３） …… 47
第37図　15・17・18トレンチ出土遺物 …… 48
第38図　１号掘立柱建物跡（ＳＢ１）平面図・断面図 …… 59
第39図　１号掘立柱建物址（ＳＢ１）出土遺物 …… 59
第40図　第５次調査区遺構配置図 …… 60
第41図　１・２・５・10号土坑（ＳＫ１・２・５・10）
平面図・土層断面図 …… 66
第42図　11～15号土坑（ＳＫ11～15）
平面図・土層断面図 …… 67
第43図　16・17・19・20・27～29号土坑（ＳＫ16・17
・19・20・27～29）平面図・土層断面図 …… 68
第44図　18・21・22・33号土坑（ＳＫ18・21・22・33）
平面図・土層断面図 …… 69
第45図　23・25・26・30～32号土坑（ＳＫ23・25・26
・30～32）平面図・土層断面図 …… 70
第46図　34・35号土坑（ＳＫ34・35）
平面図・土層断面図 …… 71
第47図　１・５・10～12・16・18号土坑（ＳＫ１・５・
10～12・16・18）出土遺物 …… 75
第48図　21号土坑（ＳＫ21）出土遺物（２） …… 76
第49図　21号土坑（ＳＫ21）出土遺物（１） …… 77
第50図　25号土坑（ＳＫ25）出土遺物 …… 79
第51図　30・31号土坑（ＳＫ30・31）出土遺物 …… 80
第52図　包含層出土遺物 …… 81

表　目　次

第１表　上野遺跡確認調査区における確認遺構
・プラン一覧表 …… 8
第２表　１トレンチ包含層出土遺物観察表 …… 49
第３表　２トレンチ１号土坑（ＳＫ１）
出土遺物観察表 …… 49
第４表　２トレンチ包含層出土遺物観察表 …… 49
第５表　４トレンチ包含層出土遺物観察表 …… 49
第６表　５トレンチ包含層出土遺物観察表 …… 49
第７表　６トレンチ１号住居跡（ＳＩ１）
出土遺物観察表 …… 50
第８表　６トレンチ包含層出土遺物観察表
（石器については各遺構埋土出土遺物を含む）・50
第９表　７トレンチ１号住居跡（ＳＩ１）
出土遺物観察表 …… 52
第10表　７トレンチ２号住居跡（ＳＩ２）
出土遺物観察表 …… 52
第11表　７トレンチ１号埋設土器（ＳＸ１）
出土遺物観察表 …… 52
第12表　７トレンチ包含層出土遺物観察表 …… 53
第13表　10トレンチ１号住居跡（ＳＩ１）
出土遺物観察表 …… 54
第14表　10トレンチ包含層出土遺物観察表 …… 55
第15表　11トレンチ包含層出土遺物観察表 …… 55
第16表　12トレンチ包含層出土遺物観察表 …… 55
第17表　13トレンチ１号溝状プラン（ＳＸ１）
出土遺物観察表 …… 56
第18表　13トレンチ包含層出土遺物観察表 …… 57
第19表　15トレンチ包含層出土遺物観察表 …… 58
第20表　17トレンチ包含層出土遺物観察表 …… 58
第21表　18トレンチ包含層出土石器 …… 58
第22表　１号掘立柱建物跡（ＳＢ１）
ピット４出土遺物観察表 …… 82
第23表　１号土坑（ＳＫ１）
出土遺物観察表 …… 82
第24表　５号土坑（ＳＫ５）
出土遺物観察表 …… 82
第25表　10号土坑（ＳＫ10）
出土遺物観察表 …… 82
第26表　11号土坑（ＳＫ11）
出土遺物観察表 …… 82
第27表　12号土坑（ＳＫ12）
出土遺物観察表 …… 82
第28表　16号土坑（ＳＫ16）
出土遺物観察表 …… 82
第29表　18号土坑（ＳＫ18）
出土遺物観察表 …… 82
第30表　21号土坑（ＳＫ21）
出土遺物観察表 …… 82
第31表　25号土坑（ＳＫ25）
出土遺物観察表 …… 83
第32表　30号土坑（ＳＫ30）
出土遺物観察表 …… 83
第33表　31号土坑（ＳＫ31）
出土遺物観察表 …… 83
第34表　包含層出土遺物観察表 …… 83

図　版　目　次

図版１　遺跡近景（１トレンチから東を望む）
遺跡近景（６トレンチから西を望む）
遺跡近景（15トレンチ周辺から東を望む）
図版２　１トレンチ全景（北から）
２トレンチ全景（南から）
２トレンチ１号土坑（ＳＫ１）（北西から）
３トレンチ全景（北から）
４トレンチ全景（南から）
５トレンチ全景（北から）
５トレンチ縄文土器出土状態（西から）
５トレンチ須恵器及び土師器坏出土状態（西から）
図版３　６トレンチ全景（南から）
６トレンチ１・２号埋設土器（ＳＸ１・２）及び１号配石状遺構（ＳＸ３）検出状況（北東から）
６トレンチ１・２号埋設土器（ＳＸ１・２）検出状況（南東から）
６トレンチ１号住居跡（ＳＩ１）複式炉上面検出状況（南東から）

7トレンチ全景（南東から）
7トレンチ1号住居跡（ＳＩ１）複式炉検出状態（南東から）
7トレンチ1号住居跡（ＳＩ１）複式炉検出状態（南から）
7トレンチ1・2号埋設土器（ＳＸ１・２）及び周辺遺物検出状態（北西から）
図版4　7トレンチ2号住居跡（ＳＩ２）炉跡検出状態（南西から）
7トレンチ2号住居跡（ＳＩ２）石器出土状態（北から）
10トレンチ全景（南から）
10トレンチ1号住居跡（ＳＩ１）土層断面（北東から）
10トレンチ1号住居跡（ＳＩ１）縄文土器・石器出土状態（東から）
10トレンチ土師器坏出土状態（北東から）
11トレンチ全景（南東から）
12トレンチ全景（南西から）
図版5　13トレンチ全景（北から）
13トレンチ1号溝状プラン（ＳＸ１）南側遺物出土状態（北から）
14トレンチ全景（南から）
14トレンチ土坑状プラン検出状態（西から）
15トレンチ全景（南から）
16トレンチ全景（南から）
17トレンチ全景（北から）
18トレンチ全景（南から）
図版6　第5次調査区全景（西から）
第5次調査区北側遺構集中部（西から）
図版7　1号土坑（ＳＫ１）全景（西から）
1号土坑（ＳＫ１）土層断面（東から）
2号土坑（ＳＫ２）全景（北から）
2号土坑（ＳＫ２）土層断面（南から）
5号土坑（ＳＫ５）全景（北西から）
5号土坑（ＳＫ５）土層断面（北西から）
10号土坑（ＳＫ10）全景（南から）
10号土坑（ＳＫ10）土層断面（北から）
図版8　11号土坑（ＳＫ11）全景（南西から）
11号土坑（ＳＫ11）土層断面（南西から）
12・13号土坑（ＳＫ12・13）全景（南西から）
12号土坑（ＳＫ12）大形把手出土状態（南西から）
14～16号土坑（ＳＫ14～16）全景（北東から）
14号土坑（ＳＫ14）土層断面（南東から）
15号土坑（ＳＫ15）土層断面（南東から）
16号土坑（ＳＫ16）土層断面（東から）
図版9　16～18・27～29・33号土坑（ＳＫ16～18・27～29・33）全景（南東から）
17・27号土坑（ＳＫ17・27）土層断面（南から）
18号土坑（ＳＫ18）全景（東から）
18・33号土坑（ＳＫ18・33）土層断面（南から）
19・20号土坑（ＳＫ19・20）土層断面（北東から）
21号土坑（ＳＫ21）全景及び遺物出土状態（北東から）
21号土坑（ＳＫ21）土器・石器出土状態（東から）
21号土坑（ＳＫ21）土層断面（南東から）
図版10　22号土坑（ＳＫ22）全景（北東から）
22号土坑（ＳＫ22）土層断面（北東から）
23号土坑（ＳＫ23）全景（南東から）
23号土坑（ＳＫ23）土層断面（南から）
25・26号土坑（ＳＫ25・26）全景及び遺物出土状態（北東から）
25号土坑（ＳＫ25）土器・石器出土状態（西から）
25・26号土坑（ＳＫ25・26）土層断面（北西から）
29号土坑（ＳＫ29）全景（南西から）
図版11　29号土坑（ＳＫ29）土層断面（南から）
30号土坑（ＳＫ30）全景（南東から）
30号土坑（ＳＫ30）土層断面（南東から）
31号土坑（ＳＫ31）全景及び遺物出土状態（南東から）
31号土坑（ＳＫ31）土器出土状態（南から）
31号土坑（ＳＫ31）土層断面（南東から）
32号土坑（ＳＫ32）全景（北西から）
32号土坑（ＳＫ32）土層断面（北西から）
図版12　33号土坑（ＳＫ33）北側全景（南東から）
33号土坑（ＳＫ33）土層断面（南から）
34号土坑（ＳＫ34）全景（北西から）
34号土坑（ＳＫ34）土層断面（北から）
35号土坑（ＳＫ35）全景（西から）
1号掘立柱建物跡（ＳＢ１）全景（北東から）
第5次調査1区南東壁土層断面（西から）
第5次調査風景（南西から）
図版13　2トレンチ1号土坑（ＳＫ１）出土土器
2トレンチ包含層出土土器
図版14　5トレンチ包含層出土土器
図版15　6トレンチ1号住居跡（ＳＩ１）出土土器
6トレンチ包含層出土土器
図版16　7トレンチ1号住居跡（ＳＩ１）出土土器

7トレンチ2号住居跡（ＳＩ２）出土土器
図版17　7トレンチ1号埋設土器（ＳＸ１）出土土器
7トレンチ包含層出土土器
図版18　7トレンチ包含層出土土製品
10トレンチ1号住居跡（ＳＩ１）出土土器（1）
図版19　10トレンチ1号住居跡（ＳＩ１）出土土器（2）
図版20　11トレンチ包含層出土土器・土製品
12トレンチ包含層出土土器（1）
図版21　12トレンチ包含層出土土器（2）
13トレンチ1号溝状プラン（ＳＸ１）出土土器（1）
図版22　13トレンチ1号溝状プラン（ＳＸ１）出土土器（2）
図版23　13トレンチ1号溝状プラン（ＳＸ１）出土土器（3）
図版24　13トレンチ1号溝状プラン（ＳＸ１）出土土器（4）
13トレンチ包含層出土土器（1）
図版25　13トレンチ包含層出土土器（2）
図版26　15トレンチ包含層出土土器
17トレンチ包含層出土土器
1号掘立柱建物跡（ＳＢ１）出土土器
1・5・10・12・16・18号土坑（ＳＫ1・5・10・12・16・18）出土土器
図版27　21号土坑（ＳＫ21）出土土器
図版28　25号土坑（ＳＫ25）出土土器
30号土坑（ＳＫ30）出土土器
図版29　31号土坑（ＳＫ31）出土土器
包含層出土土器
図版30　1トレンチ包含層出土石器
4トレンチ包含層出土石器
6トレンチ包含層出土石器
図版31　5トレンチ包含層出土石器
図版32　7トレンチ1号住居跡（ＳＩ１）出土石器
7トレンチ2号住居跡（ＳＩ２）出土石器
7トレンチ包含層出土石器
図版33　10トレンチ1号住居跡（ＳＩ１）出土石器
18トレンチ包含層出土石器
13トレンチ1号溝状プラン（ＳＸ１）出土石器
図版34　13トレンチ包含層出土石器
5号土坑（ＳＫ5）出土石器
21号土坑（ＳＫ21）出土石器
図版35　25号土坑（ＳＫ25）出土石器
包含層出土石器

第Ⅰ章　調査の概要

第1節　調査要項

1）確認調査

遺 跡 名　上野遺跡（宮城県遺跡番号01002　仙台市文化財登録番号Ｃ－108）
所 在 地　宮城県仙台市太白区富田字上野西・上野中地内
調査主体　仙台市教育委員会（生涯学習部文化財課）
調査担当　調査係　主査　佐藤甲二
　　調査係　主事　工藤信一郎
　　調査員　中山　豊（株式会社玉川文化財研究所）
　　調査補助員　鈴木啓介（株式会社玉川文化財研究所）
調査期間　平成15年10月27日～同年12月19日
調査面積　確認調査　600㎡

2）第5次調査

遺 跡 名　上野遺跡（宮城県遺跡番号01002　仙台市文化財登録番号Ｃ－108）
所 在 地　宮城県仙台市太白区富田字上野中地内
調査主体　仙台市教育委員会（生涯学習部文化財課）
調査担当　調査係　主査　佐藤甲二
　　調査係　主事　工藤信一郎
　　主任調査員　小林義典（株式会社玉川文化財研究所）
　　調査員　中山　豊（株式会社玉川文化財研究所）
　　調査補助員　鈴木啓介（株式会社玉川文化財研究所、平成15年12月８日～同年12月26日）
　　調査補助員　前川昭彦（株式会社玉川文化財研究所、平成16年１月６日～同年１月19日）
調査期間　平成15年11月26日～平成16年１月20日
調査面積　410㎡（トレンチ４ヵ所分〔120㎡〕重複）

第2節　調査に至る経緯

今回の発掘調査は、宮城県仙台市太白区富田字上野西・上野中地内に計画された都市計画街路富沢山田線建設に伴う事前調査として実施されたものである。仙台市教育委員会と仙台市太白区建設部建設課の協議により、平成14～17年度に確認調査及び本調査を実施することとなった。

初年度の平成14年度は、遺跡範囲の西端域にあたる約1,350㎡の建設予定地内を対象とした確認調査が仙台市教育委員会によって行われている。遺構は発見されず、わずかな量の縄文土器破片が出土したのみであった。

平成15年度の調査は、仙台市教育委員会の指導により、株式会社玉川文化財研究所（所長 戸田哲也）が行った。

調査は確認調査と第５次調査に分けられ、確認調査は平成14年度確認調査区の東側全域にわたる計画街路内の約7,000㎡を対象として実施した。第５次調査では、確認調査の結果明らかとなった遺構分布範囲の東端部410㎡を対

象とした本調査を実施した。

確 認 調 査　　平成15年10月27日～平成15年12月19日　　600㎡

第５次調査　　平成15年11月26日～平成16年１月20日　　410㎡（重複120㎡）

調査終了後は、年度末の報告書刊行に向けて図面・遺物整理を開始した。

第３節　遺跡の概観

上野遺跡は、宮城県仙台市太白区富田字上野西・上野中地内に所在し、ＪＲ東北本線仙台駅の南西約6.5㎞、同じく長町駅の西約3.5㎞、地下鉄南北線富沢駅の西約２㎞に位置する。地形的には、仙台市の南側を南東方向に流れる名取川下流域の左岸にあたり、広瀬川と名取川に挟まれた通称「名取台地」の東端に立地する。名取川は本遺跡の南約700ｍにあり、この付近から川幅が広くなる。広瀬川との合流点は遺跡の東約５㎞の地点となる。遺跡は周囲との比高差約４～８ｍ、範囲約800×700ｍを測る標高約30ｍの独立した河岸段丘上に広がる。今回調査した平成15年度確認調査・第５次調査地点は、遺跡範囲の南端を東西に横切る市道富沢山田線の北側に沿った区域である。この計画街路範囲は東西約280ｍ・南北15～40ｍ、平坦ながらも東側へ緩やかに傾斜する。本調査区はその東端に位置し、段丘の東側段丘崖縁辺にあたる。数十年前までこの段丘崖の下には湧水を溜めた「イケ」（洗い場）が点在し、生活用水として利用されていた。今回の事業予定区域の東端にも、湧水がほとんど見られなくなったが２ヵ所の「イケ」が確認できる。

上野遺跡は01002（Ｃ－108）として登録され（仙台市教育委員会 1995）、古くから知られている仙台市域を代表する縄文時代遺跡である（松本 1930、伊東 1950）。過去に行われた上野遺跡の調査は、遺跡範囲の西端を南北に延びる市道十文字線沿線域を対象とした第３次調査（金森・工藤・千葉 1986）、今回調査した地区の隣接地にあたる電力鉄塔建設に伴う第４次調査（結城 1989）があり、他に1976年、1981年にも小規模な調査が行われている（主浜 1995・結城 1989）。平成14年度には、今回の調査に先立って行われた仙台市教育委員会による市道富沢山田線の西端域での確認調査がある。

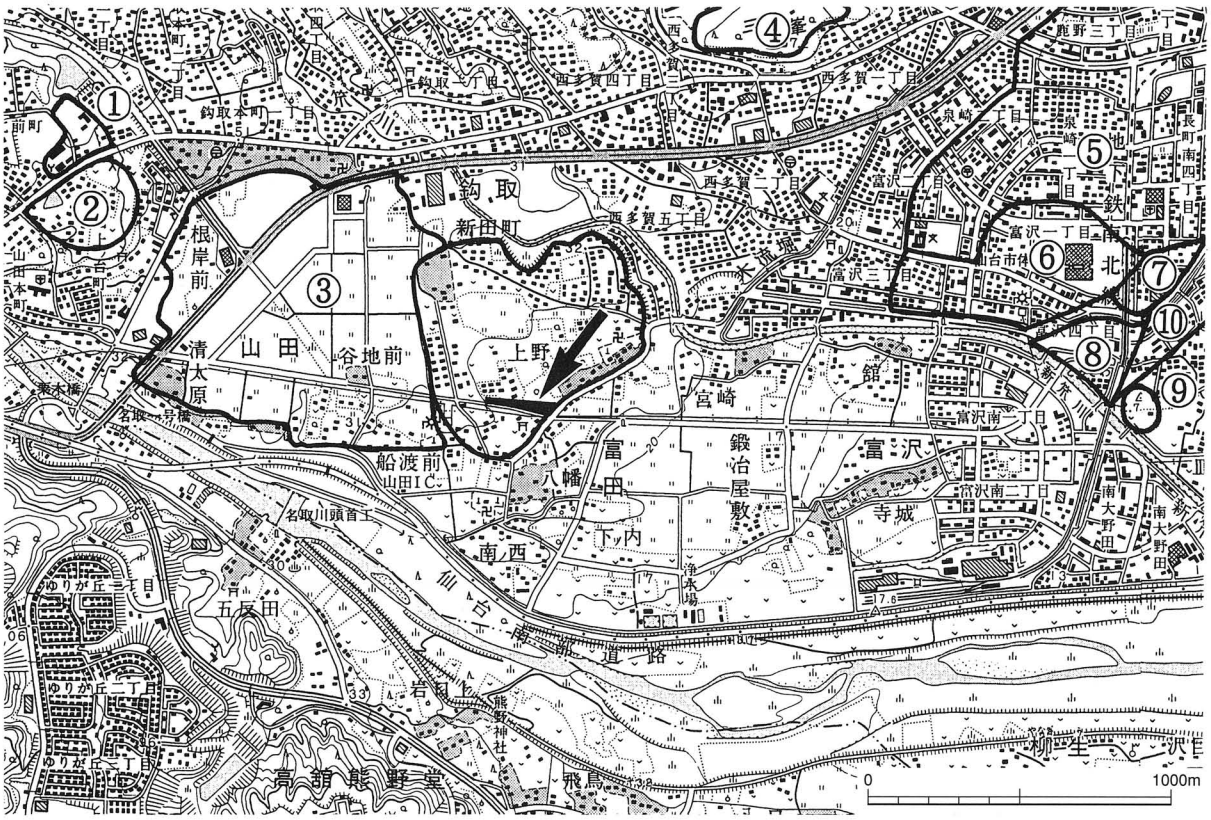
上野遺跡の周辺における縄文時代の主な遺跡は、本遺跡西方の河岸段丘上に①北前遺跡、②山田上ノ台遺跡、本遺跡が立地する段丘西側に隣接する一段低い扇状地に③山田条里遺跡、北方の丘陵地に④三神峯遺跡、東方の低地に⑤富沢遺跡、⑥山口遺跡、⑦下ノ内浦遺跡、⑧下ノ内遺跡、⑨伊古田遺跡、⑩六反田遺跡が位置し（仙台市史編さん委員会 1995等）、本遺跡と同じ縄文時代中期の集落遺跡は、①北前遺跡（大木９式）、②山田上ノ台遺跡（大木10式）、⑧下ノ内遺跡（大木10式）のほか下ノ内遺跡に東隣する⑩六反田遺跡（大木８ｂ・10式）がある。

第４節　調査の経過

今回報告する上野遺跡の発掘調査は、第１節で述べたように確認調査・第５次の２回にわたり行った。本節では、その調査経過と概要について順を追って述べる。

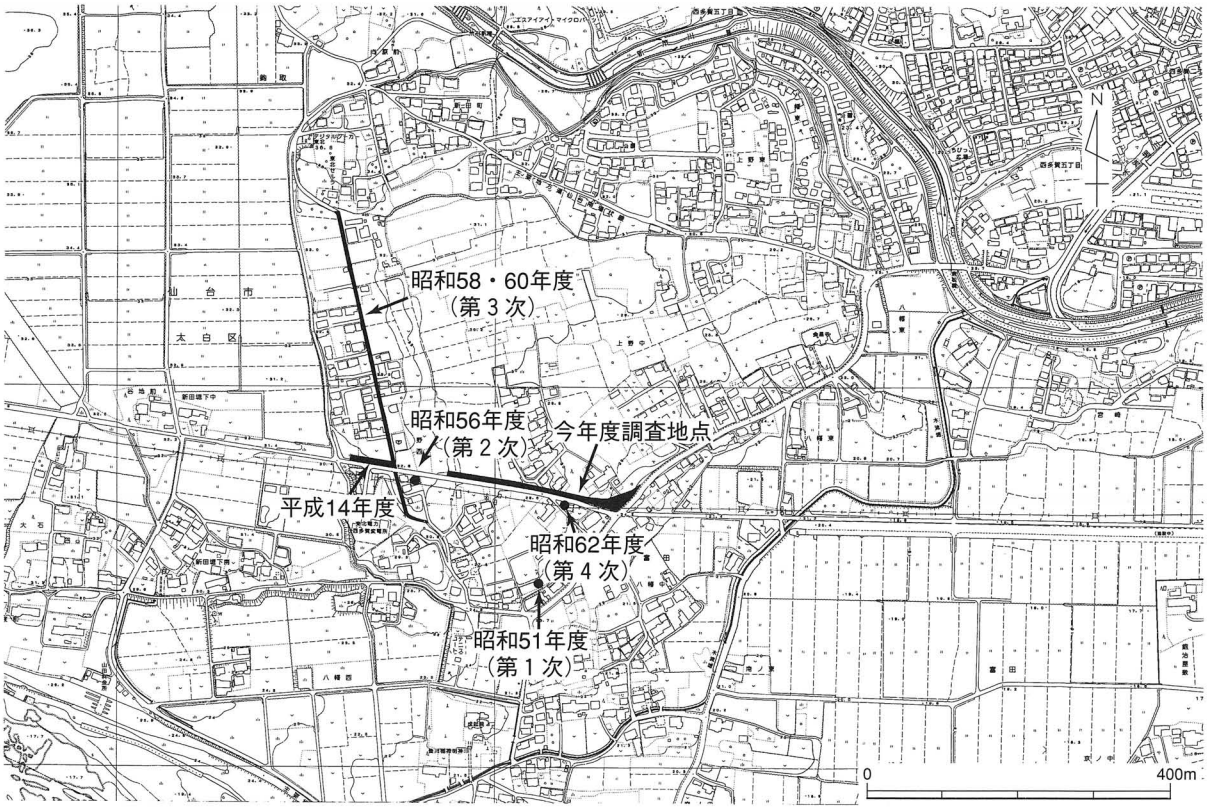
１）確認調査

確認調査は建設予定地内に３×10ｍのトレンチ（確認調査区）を22箇所設定し、西から東に向かって算用数字の１～22を付した（第３図）。調査方法は重機による表土掘削を行い、その後人力による遺構検出・精査を実施した。遺構確認が不明瞭な場合には一部を掘り下げて精査したが、将来本調査が行われることを前提とした調査であったことから、遺構の性格をある程度把握した時点までの精査にとどめた。各々のトレンチとも遺構・遺物の有無、土



←本遺跡　①北前遺跡　②山田上ノ台遺跡　③山田条里遺跡　④三神峯遺跡　⑤富沢遺跡
⑥山口遺跡　⑦下ノ内浦遺跡　⑧下ノ内遺跡　⑨伊古田遺跡　⑩六反田遺跡

第１図　遺跡の位置と周辺遺跡（1 / 25,000）



第２図　過去の調査地点と今年度調査地点（1 / 10,000）

層堆積の観察・記録を行った。平成15年11月４日、１トレンチから確認調査区の掘削を開始し、民家の入口に隣接する８・９トレンチを除いた20箇所の調査を実施した。１トレンチでは遺構の確認はなく、２～４トレンチでは散漫な遺構分布であった。５トレンチ以東で遺構プランの重複が認められ、６・７トレンチでは竪穴住居跡や埋設土器を伴う著しい遺構重複を確認するに至った。平成15年11月14日、仙台市教育委員会との協議・指導により、本遺跡の遺構分布の東限域を確定するため、10トレンチ以東は東端部の22トレンチから西側に向けて、調査を進めることとなった。その結果、遺構は６～10トレンチにかけて特に高い密度で分布し、粗密はあるものの最東端の22トレンチまで遺構の分布が広がることが明らかとなった。

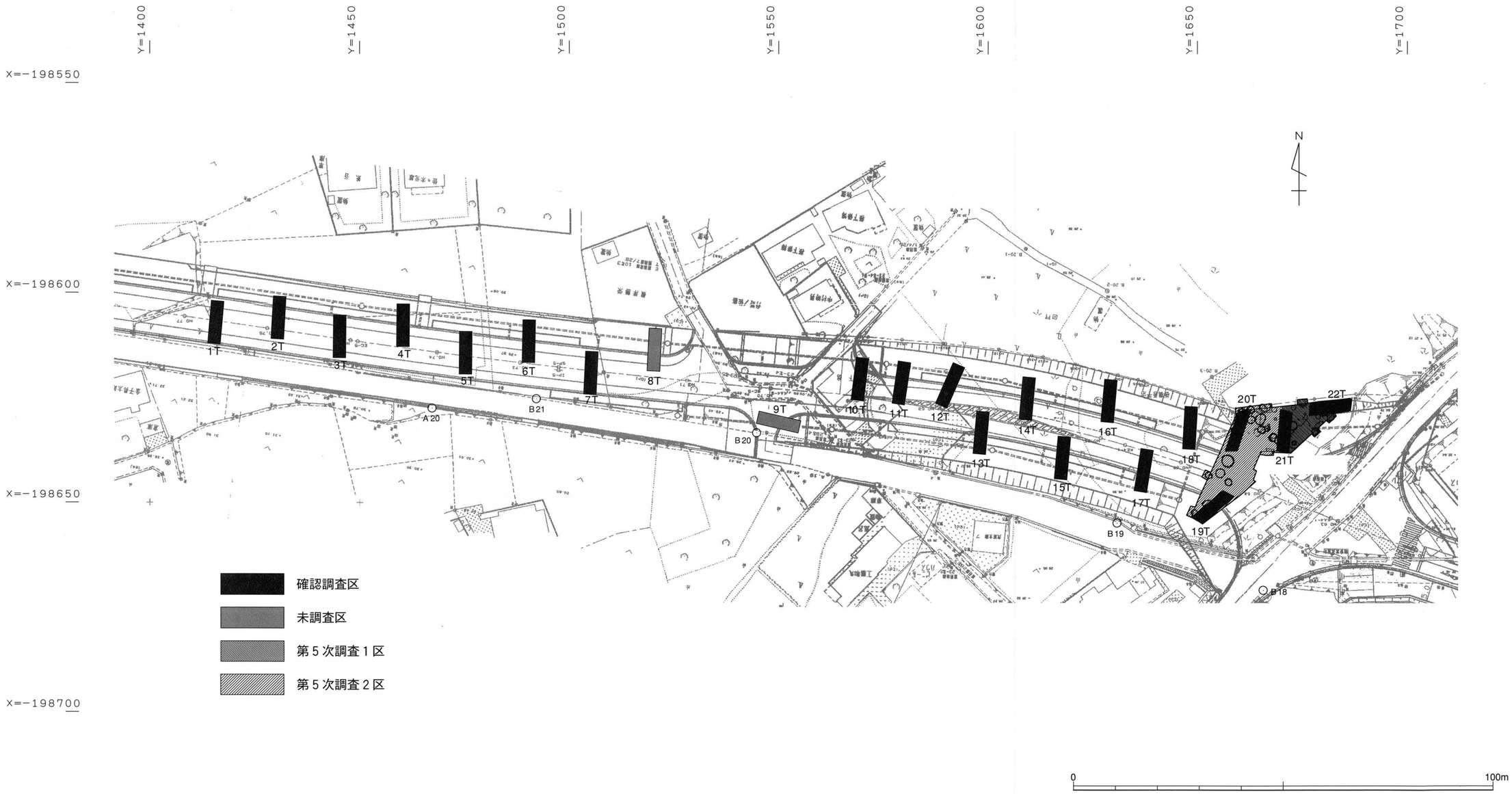
平成15年11月19日、仙台市教育委員会との確認調査の内容検討・協議により、本調査区が確定した。（第５次調査１区）。街路建設計画の関係上、遺跡東端の21・22トレンチ部分を中心とした150㎡である（第３図）。本調査に先立ち、その排土置き場と重機通路確保のため、13～18トレンチを先行して調査を完了させ、埋め戻しを行った。また、本調査と平行して５～７、10～12トレンチの調査を継続し、遺物集中出土部分や一部検出した遺構・炉跡等の付帯施設は土嚢袋やビニールシートで養生して埋め戻した。特に遺構・遺物の確認が著しかった６・７トレンチでは、それらを保護するため山砂によって埋め戻した。

２）第５次調査

第５次調査は、前述のとおり確認調査の結果を受けて遺跡東端部に調査区を設定し、平成15年11月26日に開始した（１区）。確認調査の結果通りにフラスコ状土坑を主体とする土坑７基（フラスコ状土坑は６基）、ピット数基を検出し、西側の確認調査19・20トレンチ方向へ遺構の分布が展開する状況が認められた。このことから、１区の西側に260㎡の調査区を設定し、２区とした（第３・40図）。平成15年12月８日、１区を西側に拡張する形で２区の調査を開始した。調査方法は１・２区ともに確認調査と同様に重機によって表土掘削し、人力によって遺構・遺物の精査を行った。調査グリッドは座標軸に合わせた５m方眼を基本として東－西、南－北方向に設定した。グリッド呼称は調査区内を東から西へ算用数字の１～９、北から南へアルファベットのＡ～Ｆを付し、その組み合わせで表した。遺構番号は第５次調査の１区から２区へ通し番号を付した（第40図）。

２区での検出遺構は土坑22基（フラスコ状土坑は21基）、ピット数基である。このうち土坑１基は１・２区にまたがって検出されたものである（ＳＫ13）。調査区の壁にかかった遺構については仙台市教育委員会と協議の上、一部を拡張して調査することとなった。第５次調査で最終的に検出した遺構は、掘立柱建物跡１棟、土坑28基（フラスコ状土坑は26基）である。

平成16年１月16日、仙台市教育委員会との現地調査終了立会いを行い、同月20日までに埋め戻し及び現場撤収・片付けを終了し、同日仙台市教育委員会との完了立会いを行った。現地撤収後は遺物整理・報告書作成作業に入り、平成16年３月31日に報告書刊行となった。



第３図　確認調査区（トレンチ）及び第５次調査区配置図（1／1,000）

第5節　基本層序

遺跡の土層堆積状態は、遺跡の現況に関連した攪乱が著しい部分も存在した。遺構確認面はⅤ層上面としたが、状況に応じてⅣ層、Ⅵ層で行った箇所もある。確認調査域の西側にあたる1～5トレンチは耕作による攪乱が著しく、表土直下が遺構検出面となる。現況の等高線は西から東に向かって緩やかな傾斜を示し、これに関連して総じて西側が浅く東側に向かうに従い確認面までの深度は深くなる傾向が認められる。確認調査域の中央部にあたる6・7・10トレンチと東側の14トレンチは良好な土層堆積が観察された。確認調査域東側の11～13・15～22トレンチは耕作に加え建物建設・解体、木根痕による攪乱が著しかった。良好な土層堆積が残る6・7・10トレンチでは黒色土中に埋設土器や配石状遺構が検出されている。土層断面の観察では住居跡の掘り込みがⅢ層上面にまで達していた。今後行われる本調査に際し、良好な土層堆積が認められた確認調査域中央部では、黒色土中（Ⅲ層上位）での遺構確認が想定できよう。

本遺跡の基本層序は、以下のとおりである。なお、各確認調査区の報告中に土層堆積図を示したことから、柱状図は図示しなかった。

Ⅰa層　褐色砂質シルト(10YR4/4～6)　現表土・耕作土層である。締まり、粘性に欠く。

Ⅰb層　暗褐色砂質シルト(10YR3/4)　旧耕作土層である。締まり、粘性は弱い。

Ⅰc層　にぶい黄褐色粘土質シルト(10YR4/3)　黄色（Ⅴ層）のブロックを多量に含み、締まり、粘性弱い。耕作に伴うトレンチャー等を主体とする攪乱土層である。

Ⅱ　層　黒褐色粘土質シルト(10YR2/3)　締まりは強く、粘性あり。縄文時代中期の土器片を多量に含む遺物包含層である。遺構の堆積土も本土層に類似したものが多い。なお、6トレンチではⅡ層に対比される土層をa・bの2層に細分した。Ⅱa層は黒褐色（10YR2/3）で締まり・粘性とも強いが、攪乱気味の土層であり、ボソボソしている。Ⅱb層は暗褐色（10YR3/3）で締まり・粘性とも強い土層である。いずれも多量の土器片を含んでいる。第5次調査では、Ⅲ層のブロックを含むⅡb層下位をc層として分層できる。

Ⅲ　層　暗褐色粘土（10YR3/4）　締まり強く硬い。粘性あり。遺構の掘り込み面は、土層堆積の観察から本土層上面となる。上端に遺物が含まれる箇所もあったが、基本的に無遺物である。本土層も6トレンチのⅢ層対比土層がa・bの2層に細分した。Ⅲa層は暗褐色（10YR3/4）で締まり・粘性とも強く、層上端にわずかながら土器片が見られる。Ⅲb層は褐色（10YR4/4）で、締まりは非常に強く硬い。粘性も強い。土器片等の遺物は含まない。いずれも層下端にⅤ層の淡い斑紋が集中し、Ⅳa層に分層することも可能な状態が観察された。

Ⅳ　層　褐色シルト（10YR4/6）　締まり、粘性とも強く、明褐色シルト（Ⅴ層）の斑紋を主体とする漸移層である。層全体が淡い斑紋状を呈し、締りが強く、硬い場合も認められた。

Ⅴ　層　明褐色シルト（10YR6/8）　締まり、粘性ともあり。

Ⅵ　層　黄褐色砂礫（10YR5/8）　粗い砂粒の中に径1～3㎝・5～10㎝の円礫を主体的に含む。

Ⅶ　層　黄褐色砂（10YR5/6）　比較的細かい砂粒を主体とし、水平・斜位のラミナが観察される。

第Ⅱ章　確認調査

本章では、各トレンチごとに土層堆積状況、検出したプラン・遺構と遺物について報告するが、第５次調査区と重複する19～22トレンチの土層断面図については割愛した。また、明らかに現代の攪乱と確認できたものについてはトレンチ平面図から除外してある。

遺構の調査はプラン確認を前提としたため、サブトレンチを含めた掘り下げや半截による遺構精査は一部の遺構を除いて基本的に行っていない。従って、遺構の性格・種別まで把握していないものについては「土坑状プラン」、「ピット状プラン」のように想定される遺構名称に「～状プラン」と呼称し、複数の遺構が重複する不整形のプランについては、「遺構重複状プラン」と呼称した。こうしたことから、プラン確認段階の遺構には遺構番号を付していない。出土遺物があった場合や遺構の性格（種類）が掴めたものについてはトレンチごとに通し番号を付した。第５次調査区となった19～22トレンチについては、本調査時の遺構番号を使用した。なお、トレンチ別の検出遺構一覧は第１表として示してある。

第５次調査において、風倒木痕・その他不明瞭な平面形態や堆積土を持つプランに縄文時代の土坑が含まれていることが分かった。従って、風倒木痕等の疑いのあるプランについても遺構に含めた。

配石を伴う遺構や遺構に関連する状態の遺物については、限られた調査範囲内では帰属遺構や新旧関係の詳細が掴みにくいことから取り上げを行っていない。これらは将来の本調査に委ねることとし、ブルーシートや山砂、土嚢袋等による養生を施して埋め戻した。

第１表　上野遺跡確認調査区における確認遺構・プラン一覧表

トレンチ名	確　認　遺　構　・　プ　ラ　ン
１トレンチ	無し
２トレンチ	フラスコ状土坑１基、土坑状プラン１ヵ所
３トレンチ	土坑状プラン１ヵ所
４トレンチ	土坑状プラン１ヵ所、ピット状プラン12ヵ所
５トレンチ	遺構重複状プラン１ヵ所、ピット状プラン９ヵ所
６トレンチ	住居跡１軒、埋設土器２基、配石状遺構１ヵ所、ピット状プラン３ヵ所
７トレンチ	住居跡２軒、埋設土器２基、ピット状プラン14ヵ所
８トレンチ	未調査
９トレンチ	未調査
10トレンチ	住居跡１軒、土坑状プラン１ヵ所、ピット状プラン９ヵ所
11トレンチ	土坑状プラン１ヵ所
12トレンチ	遺構重複状プラン２ヵ所、ピット状プラン４ヵ所
13トレンチ	溝状プラン１ヵ所、ピット状プラン３ヵ所
14トレンチ	土坑状プラン４ヵ所、ピット状プラン５ヵ所
15トレンチ	遺構重複状プラン１ヵ所、土坑状プラン７ヵ所
16トレンチ	遺構重複状プラン１ヵ所、土坑状プラン２ヵ所
17トレンチ	土坑状プラン２ヵ所
18トレンチ	遺構重複状プラン１ヵ所
19トレンチ	フラスコ状土坑２基、土坑状プラン１ヵ所
20トレンチ	土坑状プラン３ヵ所
21トレンチ	フラスコ状土坑１基、土坑状プラン３ヵ所
22トレンチ	フラスコ状土坑１基

1トレンチ（第4図、図版2）

1トレンチは10×3m（30㎡）、Ⅴ層までの深度は約50cmを測る。土層堆積状態は耕作に伴う攪乱が著しく、Ⅰ層直下にⅤ層が露出する状況である。確認面も耕作による凹凸が著しく、こうした攪乱部の掘り下げも行ったが遺構は確認されなかった。遺物は縄文時代中期の土器・石器が少量出土した。

包含層出土遺物（第12図、第2表、図版30）

2点の石器が出土し、内訳はスクレイパー1点、剥片1点である。その内スクレイパーを図示した。

2トレンチ（第4図、図版2）

2トレンチは10×3m（30㎡）、Ⅴ層までの深度は約60cmを測る。土層堆積状態は耕作に伴う攪乱が著しく、Ⅰ層直下にⅤ層が露出する状況である。確認した遺構は、円形土坑状プラン2ヵ所である。そのうち南東隅のプランについては、サブトレンチによって壁が内傾して立ち上がるフラスコ状土坑（ＳＫ１）であることを確認した。遺物は縄文時代中期の土器・石器が少量出土した。

1号土坑（ＳＫ１）出土遺物（第12図、第3表、図版13）

土器は縄文時代中期の大木8ａ～9式土器が出土している。

包含層出土遺物（第12図、第4表、図版13）

土器は縄文時代中期の大木8ｂ～9式土器が出土している。13は小形土器の破片である。

石器は2点が出土し、内訳は砥石1点、剥片1点である。

3トレンチ（第5図、図版2）

3トレンチは10×3m（30㎡）、Ⅴ層までの深度は約50cmを測る。土層堆積状態は耕作に伴う攪乱が著しく、Ⅰ層直下にⅥ層が露出する状況で、Ⅴ層は一部に薄く残存するのみである。確認した遺構は円形土坑状プラン1ヵ所である。遺物は縄文時代中期の土器破片が少量、剥片1点が出土した。

4トレンチ（第5図、図版2）

4トレンチは10×3m（30㎡）、Ⅴ層までの深度は約40cmを測る。土層堆積状態は、耕作に伴う攪乱によりⅠ層直下にⅣ・Ⅴ層が露出していた。確認した遺構は、長楕円形土坑状プラン1ヵ所、ピット状プラン12ヵ所である。ピット状プランには木根痕も含まれている可能性がある。遺物は縄文時代中期の土器・石器が少量出土した。

包含層出土遺物（第13図、第5表、図版30）

本トレンチからは1点の微細剥離痕のある剥片が出土し、それを図示した。

5トレンチ（第5図、図版2）

5トレンチは10×3m（30㎡）、Ⅴ層までの深度は約50cmを測る。土層堆積状態はトレンチ北側では耕作に伴う攪乱によりⅤ層が露出する状況であったが、南側にはⅢ層以下が残されていた。本トレンチのⅢ層下半はⅤ層の淡い斑紋・粒子が見られ、Ⅳ層に分層することも可能である。確認した遺構は、遺構重複状プラン1ヵ所、ピット状プラン9ヵ所である。遺構重複状プランはトレンチ南側に位置し、住居跡や複数の土坑が重複したものと考えられる。この範囲内で縄文時代中期の土器破片が集中する箇所が確認され、また土師器坏の半完形2点が出土している。これらの遺物は土嚢袋によって養生し埋め戻した。

包含層出土遺物（第13～15図、第6表、図版14）

土器は縄文時代中期の大木8ｂ～9・10式土器が出土した（第13・14図）。26は漆と考えられる黒色の付着物が見

られる胴部破片、27は注口土器の注口部である。28はミニチュア土器の完形品である。図版14の写真資料としたものは焼粘土塊と考えられる。図化しなかったが、埋め戻した遺物以外にも赤焼土器（高台付きの坏）１個体、黒色処理のロクロ土師器坏破片６点（同一個体）が出土している。

石器は20点出土した。内訳はスクレイパー６点、凹石２点、面取り状の磨面を持つ磨石２点、石皿２点、砥石１点、剥片５点（微細剥離痕のあるもの３点を含む）、珪化木破片２点である。その内８点を図示した（第14・15図）。29～32はスクレイパー、33は凹石、34は面取り状の磨面を持つ磨石、35・36は石皿である。

６トレンチ（第６図、図版３）

６トレンチは10×３ｍ（30㎡）、Ⅴ層までの深度は約80㎝を測る。土層堆積状態は良好である。Ⅱ層以下の土層堆積を観察できたが、遺物包含層と遺構堆積土の差は掴みきれなかった。本トレンチでⅢａ・ｂ層とした土層は、遺物包含層ではなく遺構堆積土になる可能性が高い。また、Ⅲｂ層下端にはⅤ層の淡い斑紋が見られ、Ⅳ層に分層可能かもしれない。サブトレンチと平面での精査を繰り返した結果、確認された遺構は住居跡１軒、埋設土器２基、配石状遺構１ヵ所、ピット状プラン３ヵ所である。

住居跡はトレンチ北端に位置し、複式炉の一部を検出した（ＳＩ１）。土器埋設は深鉢形土器２個体が重複し、トレンチ南西隅に位置する（ＳＸ１［北西側］・ＳＸ２［南西側］）。ＳＸ１・２とも大木９～10式土器である。配石状遺構は土器埋設と関連するようにトレンチ南側に位置し、トレンチ外へ展開する（ＳＸ３）。ピット状プランは住居跡に伴う可能性がある。複式炉とその周辺遺物、埋設土器、配石状遺構は検出した状態のままブルーシートと山砂で養生し埋め戻した。遺物は縄文時代中期の土器・石器が多量に出土した。

１号住居跡（ＳＩ１）出土遺物（第16図、第７表、図版15）

土器は縄文時代中期の大木８ａ～10式土器が出土している。

石器は３点が出土し、内訳は凹石１点、剥片１点、珪化木破片１点である。その内凹石を図示した。

包含層出土遺物（第16～19図、第８表、図版15・30）

土器は縄文時代中期の大木８ａ～10式土器が出土している（第16・17図）。

石器は48点の石器が出土し、内訳はスクレイパー１点、敲石３点、凹石11点、磨石14点（面取り状の磨面を持つもの３点を含む）、石皿３点、台石４点、砥石２点、石棒１点、剥片４点（微細剥離痕のあるもの２点を含む）、石核３点、珪化木破片２点である。その内17点を図示した（第17～19図）。35は微細剥離痕のある剥片、36はスクレイパー、37は剥片素材の石核、38～40は敲石、41・42は凹石、43～46は磨石、47は面取り状の磨面を持つ磨石、48・49は台石、50は石棒、51は砥石である。

７トレンチ（第６図、図版３・４）

７トレンチは10×３ｍ（30㎡）、Ⅴ層までの深度は約70㎝を測り、土層堆積状態は良好である。表土直下からトレンチ全体が遺構堆積土と推測でき、住居跡を中心とした著しい遺構重複を示す。サブトレンチと平面での精査により、住居跡２軒、埋設土器２基、ピット状プラン14ヵ所の遺構を確認した。

住居跡はトレンチの南端（ＳＩ１）と北端（ＳＩ２）に位置する。ＳＩ１には埋設土器を伴う複式炉を検出した。南壁西寄りからは焼土が検出され、ＳＩ２に伴う炉跡と考えられる。また、ＳＩ２北壁寄りからは、複数の凹石が集積された状態で出土し、隣接して石錐も認められた。ＳＩ１・２の中間域も住居跡となる可能性が強い。埋設土器は深鉢形土器２個体が接した状態でトレンチの中央部に位置し（ＳＸ１［北西側］・ＳＸ２［南西側］）、ＳＩ１と重複する。重複関係は古→新の順でＳＩ１→ＳＸ２となる。ピット状のプランは住居跡に伴う柱穴の可能性がある。これらの遺構・遺物は検出した状態のままブルーシートと山砂で養生し埋め戻した。遺物は縄文時代中期の土

器・石器が多量に出土し、ＳＸ１・２周辺からは土偶１点が検出された。他に須恵器破片２点がある。

１号住居跡（ＳＩ１）出土遺物（第20図、第９表、図版16・32）

土器は縄文時代中期の大木８ｂ～10式が出土している。縄文土器のほかに須恵器の鉢を含む破片２点が出土している。

石器は17点が出土し、内訳はスクレイパー２点、凹石７点、磨石５点、微細剥離痕のある剥片１点、剥片２点である。その内７点を図示した。13・15はスクレイパー、14は微細剥離痕のある剥片、16・17は凹石、18は磨石、19は面取り状の磨面を持つ磨石である。

２号住居跡（ＳＩ２）出土遺物（第21図、第10表、図版16・32）

土器は縄文時代中期の大木８ａ～10式が出土している。

石器は10点が出土し、内訳はスクレイパー２点、剥片８点（微細剥離痕のあるもの１点を含む）である。その内２点を図示した。17はスクレイパー、18は微細剥離痕のある剥片である。

１号埋設土器（ＳＸ１）（第22図、第11表、図版17）

１～８は埋設土器の一部で、縄文時代中期の大木10式である。

包含層出土遺物（第22～24図、第12表、図版17・18・32）

ＳＩ３として取り上げたＳＩ１とＳＩ２の中間域出土遺物も包含層遺物に含めた。

土器は縄文時代中期の大木８ａ～10式が出土している（第22・23図）。２・３、７・８、20・21はそれぞれ同一個体の土器である。27は土偶の脚部破片で、上面の割れ面は接合面となる。

石器は45点が出土し、内訳はスクレイパー４点、石匙１点、打製石斧１点、敲石１点、凹石13点、磨石８点、石皿13点、微細剥離痕のある剥片４点、石核１点である。その内13点を図示した（第23・24図）。29は石匙、28・30はスクレイパー、31～33は微細剥離痕のある剥片、34は打製石斧、35は敲石、36～38は凹石、39・40は石皿である。

10トレンチ（第７図、図版４）

10トレンチは10×３ｍ（30㎡）、Ⅴ層までの深度は約50㎝を測る。土層堆積状態は一部に現代の攪乱が見られたが、Ⅱ層以下の土層堆積を観察でき、総じて良好である。確認遺構は住居跡１軒、土坑状プラン１ヵ所、ピット状プラン９ヵ所である。

表土掘削時からトレンチ南半部で顕著な遺物出土があり、精査を重ねたが明瞭なプランを検出できなかった。そのため、トレンチ壁面の土層観察から遺構の有無を確認することにし、その住居跡１軒を確認した（ＳＩ１）。トレンチ南東部に塩化ビニール管が設置されていたが、この区域はＳＩ１となることが判明したことから表土除去後、それ以下の掘削は行わなかった。トレンチ西壁の住居跡断面にかかった大形土器破片は取り上げず、ビニールで被覆・保護し埋め戻した。また、ＳＩ１を切り込む土層から完形の土師器坏１点がトレンチ西壁南端から出土したが、これも同様に埋め戻した。ピット状プランはＳＩ１に伴うものを含むと考えられる。土坑状プランは二次堆積土あるいは風倒木痕となる可能性もある。遺物は縄文時代中期の土器・石器が多量に出土した。

１号住居跡（ＳＩ１）出土遺物（第25～27図、第13表、図版18・19・33）

土器は縄文時代中期の大木８ａ～10式が出土している（第25・26図）。

石器は12点が出土し、内訳はスクレイパー１点、石匙１点、剥片８点、珪化木破片２点である。その内、石匙１点を図示した（第27図）。

包含層出土遺物（第27図、第14表、図版32）

縄文時代中期の土器少量、石器７点（凹石１点、面取り状の磨面を持つ磨石１点、石皿１点、剥片４点）が出土している。剥片以外の石器を図示した。

11トレンチ（第７図、図版４）

11トレンチは10×３ｍ（30㎡）、Ⅴ層までの平均深度は約50㎝を測る。土層堆積状態は近年の建築・解体工事と耕作に伴う攪乱が著しく、一部にⅡ層堆積が見られたもののⅠ層直下にⅣ層が露出する状況であった。確認した遺構は不整形土坑状プラン１ヵ所であるが、風倒木痕等の攪乱である可能性もある。遺物は縄文時代中期の土器・石器が少量出土した。

包含層出土遺物（第28図、第15表、図版20）

土器は縄文時代中期の大木８ａ・８ｂ式が出土している。11は上半身板状を呈する土偶の腕部破片である。

石器は２点が出土し、内訳は石棒１点、剝片１点である。その内石棒１点を図示した。12は石棒の基部破片である。

12トレンチ（第８図、図版４）

12トレンチは10×３ｍ（30㎡）、Ⅴ層までの深度は60㎝を測る。土層堆積状態は近年の建築・解体工事と耕作に伴う攪乱が著しく、Ⅰ層直下にⅣ層が露出する箇所も見られた。現代の攪乱が位置していたトレンチ中央よりやや南寄りの約３×３ｍをⅤ層中まで掘り下げ、Ⅲ層以下の土層堆積を観察した。確認した遺構は遺構重複状プラン２ヵ所、ピット状プラン４ヵ所である。

トレンチの北半は全体が遺構重複状プランで、一部にⅢ層が認められた。プラン内には多量の縄文中期の土器破片・石器を含む。トレンチ南側の不整形な遺構重複状プランとピット状プランには、木根痕等の攪乱を含むようである。出土遺物には縄文時代遺物のほかに土師器破片３点がある。

包含層出土遺物（第28・29図、第16表、図版20・21）

包含層遺物は、トレンチ北半の遺構重複状プラン検出時に出土したものが大半である。

土器は縄文時代中期の大木７ｂ～９式が出土している（第28・29図）。16は小形土器の破片である。９・13は同一個体の土器である。縄文土器のほかに内面黒色処理のロクロ土師器破片２点（坏破片１点、甕破片１点）、古墳時代に遡る可能性のある土師器小破片１点が出土している。

石器は２点が出土し、内訳は凹石１点、剝片１点である。その内、凹石１点を図示した（第29図）。

13トレンチ（第８図、図版５）

13トレンチは10×３ｍ（30㎡）、Ⅳ層までの深度は約75㎝を測る。土層堆積の状態は近年の攪乱が著しいが、Ⅰ層直下にⅢ層を確認面とする遺構堆積土が残存する。確認した遺構は溝状プラン（ＳＸ１）１ヵ所、ピット状プラン３ヵ所である。

ＳＸ１はトレンチ中央部をほぼ南北方向に縦走し、プラン縁辺が断層状のひび割れが観察される箇所もある。複数の遺構が重複したものとも考えられ、南側からは大形破片を含む多量の縄文土器が出土した。この区域の約３×３ｍをⅣ層上面まで掘り下げたが、ピット状プランを検出したにとどまった。出土遺物は多量の縄文中期の土器・石器のほかに土師器破片２点である。

１号溝状プラン（ＳＸ１）出土遺物（第30～33図、第17表、図版21～24・33）

土器は縄文時代中期の大木７ｂ～８ｂ式が出土し（第30～33図）、９・27には補修孔が見られる。図版24の写真資料としたものは焼粘土塊または土製品と考えられる。

石器は35点が出土し、内訳はスクレイパー７点、石匙２点、クサビ形石器２点、剝片22点（微細剝離痕のあるもの４点を含む）、石核２点である。その内11点を図示した（第33図）。44・46・47は石匙、45・48・50はスクレイパー、

49・53はクサビ形石器、51・52は石錐、54は凹石である。51の刃部には錐状を呈する部分がある。53の左側縁には転用あるいは併用を示す使用痕と考えられる微細な剝離が認められる。

包含層出土遺物（第34～36図、第18表、図版24・25・33）

ＳＸ１検出時に出土したものが大半である。

土器は縄文時代中期の大木８ａ・８ｂ式が出土している（第34～35図）。16・17は同一個体、28は小形土器の破片である。縄文土器のほかに、底面に糸切り痕を持つものを含む内面黒色処理のロクロ土師器坏破片２点が出土している。

石器は13点が出土し、内訳はスクレイパー４点（三脚状を呈する石器１点を含む）、石匙２点、敲石１点、凹石１点、石皿１点、剝片３点（微細剝離痕のあるもの１点を含む）、石核１点である。その内９点を図示した（第36図）。31・32は石匙、33～36はスクレイパー、37は微細剝離痕のある剝片、39は敲石である。38は三脚状を呈する石器で、抉りの強い下部を刃部としたスクレイパーの一種と考えられる。両側縁の加工は装着に関わるものかも知れない。

14トレンチ（第９図、図版５）

14トレンチは10×３ｍ（30㎡）、Ⅳ層までの深度は約90㎝を測る。土層堆積の状態は近年の攪乱が著しいが、Ⅰ層直下にⅡ層以下の土層堆積を観察でき良好である。確認した遺構は円形土坑状プラン４ヵ所、ピット状プラン５ヵ所である。

円形土坑状プランはトレンチ北側に集中し、３ヵ所が重複する。これらには風倒木痕に特有の土層堆積が認められた。ピット状プランには、木根痕も含まれている可能性がある。出土遺物はない。

15トレンチ（第９図、図版５）

15トレンチは10×３ｍ（30㎡）、Ⅴ層までの深度は約１ｍを測る。土層堆積状態は近年の攪乱が著しく、Ⅰ層直下にⅣ層が確認できる。トレンチ東壁中央の遺構検出部に巨木根があり、遺構保護のため無理な抜根をしなかった。確認した遺構は遺構重複状プラン１ヵ所、円形土坑状プラン７ヵ所である。

遺構重複状プランは西壁中央部にあり、攪乱気味の不整形を呈する。円形土坑状プランは東壁に位置し、７ヵ所中４ヵ所と２ヵ所が重複する。遺物は縄文時代中期の土器・石器が少量出土した。

包含層出土遺物（第37図、第19表、図版26）

土器は縄文時代中期の大木８ｂ式が出土した。

石器は２点が出土し、内訳は敲石１点、剝片１点である。その内、敲石１点を図示した。

16トレンチ（第10図、図版６）

16トレンチは10×３ｍ（30㎡）、Ⅴ層までの平均深度は約80㎝を測る。土層堆積状態は近年の攪乱が著しく、Ⅰ層直下にⅣ・Ⅴ層を検出した。確認した遺構は遺構重複状プラン１ヵ所、土坑状プラン２ヵ所である。トレンチ北側では３基以上の土坑状を呈するプランが重複する。特に攪乱が著しかったトレンチ南側の5.5×３ｍはⅤ層上面まで掘り下げ、南壁から攪乱気味の土坑状プランを確認した。この区域の確認面は攪乱による凹凸が著しい。出土遺物はない。

17トレンチ（第10図、図版５）

17トレンチは10×３ｍ（30㎡）、Ⅴ層までの平均深度は約50㎝を測る。土層堆積状態は近年の攪乱が著しく、Ⅰ

層直下にⅤ層が確認できる状況である。遺構確認面も攪乱による凹凸が著しい。確認した遺構は円形土坑状プラン２ヵ所である。出土遺物は少量の縄文中期の土器破片で、石器は出土しなかった。

包含層出土遺物（第37図、第20表、図版26）

土器は縄文時代中期の大木８ｂ式が出土した。

18トレンチ（第10図、図版５）

18トレンチは10×３ｍ（30㎡）、Ⅴ層までの深度は70㎝を測る。土層堆積状態は近年の攪乱が著しく、Ⅰ層直下にⅣ・Ⅴ層が存在する状況である。遺構確認面も攪乱による凹凸が著しい。トレンチ北側には民家の土間と考えられる層厚約20～35㎝を測る版築状の硬い土層（１層）が見られた。確認した遺構は遺構重複状プラン１ヵ所である。一部を半載したが、２～３基の土坑が重複した可能性もある。遺物は縄文時代中期の土器・石器が少量出土した。

包含層出土遺物（第37図、第21表、図版33）

石器は５点が出土し、内訳はスクレイパー２点、微細剥離痕のある剥片１点、磨石１点、剥片１点である。その内２点を図示した。１はスクレイパー、２は磨石である。

19トレンチ（第11図）

19トレンチは10×３ｍ（30㎡）、Ⅴ層までの深度は約80㎝を測る。土層堆積状態は悪く、Ⅰ層直下にⅤ・Ⅵ層が確認でき、近年の攪乱や推定木根痕も見られる。確認した遺構はフラスコ状土坑２基と土坑状プラン１ヵ所で、第５次調査のＳＫ25・26・31である。遺物は縄文時代中期の土器破片が少量出土したが、石器は出土しなかった。

20トレンチ（第11図）

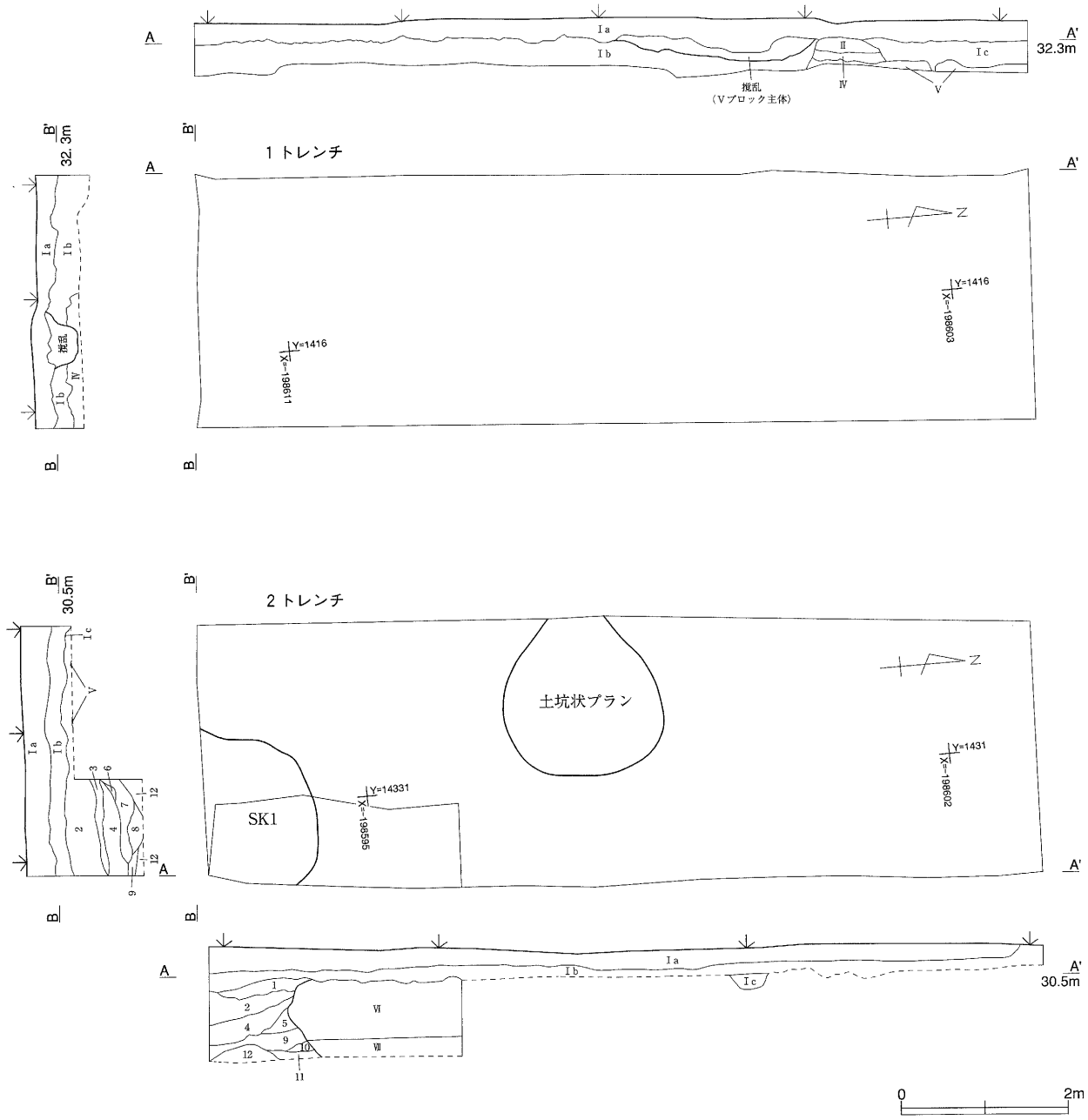
20トレンチは10×３ｍ（30㎡）、Ⅴ層までの深度は80㎝を測る。土層堆積の状態は悪く、Ⅰ層直下にⅤ層が存在する状況である。旧民家への出入口部斜面にあたるため、生活路や水道配管等の攪乱が著しく、ゴミ穴や木根痕も認められた。確認した遺構は土坑状プラン３ヵ所で、第５次調査のＳＫ18・19・20である。出土遺物はない。

21トレンチ（第11図）

21トレンチは10×３ｍ（30㎡）、Ⅴ層までの深度は70㎝を測る。土層堆積状態は悪く、Ⅰ層直下にⅣ・Ⅴ層が存在する状況である。台地縁辺に近いことに関連してか、本トレンチでのⅣ・Ⅴ層は汚れていたため、遺構堆積土との差を掴みにくい状態であった。確認した遺構はフラスコ状土坑１基、土坑状プラン３ヵ所である。フラスコ状土坑はトレンチ西壁にサブトレンチを入れ、土層断面で確認した（第５次調査ＳＫ13）。また、土坑状プラン３ヵ所の内２ヵ所は斜面堆積（二次堆積）を成因とする「しみ」であることが第５次調査の結果明らかとなった。出土遺物はない。

22トレンチ（第11図）

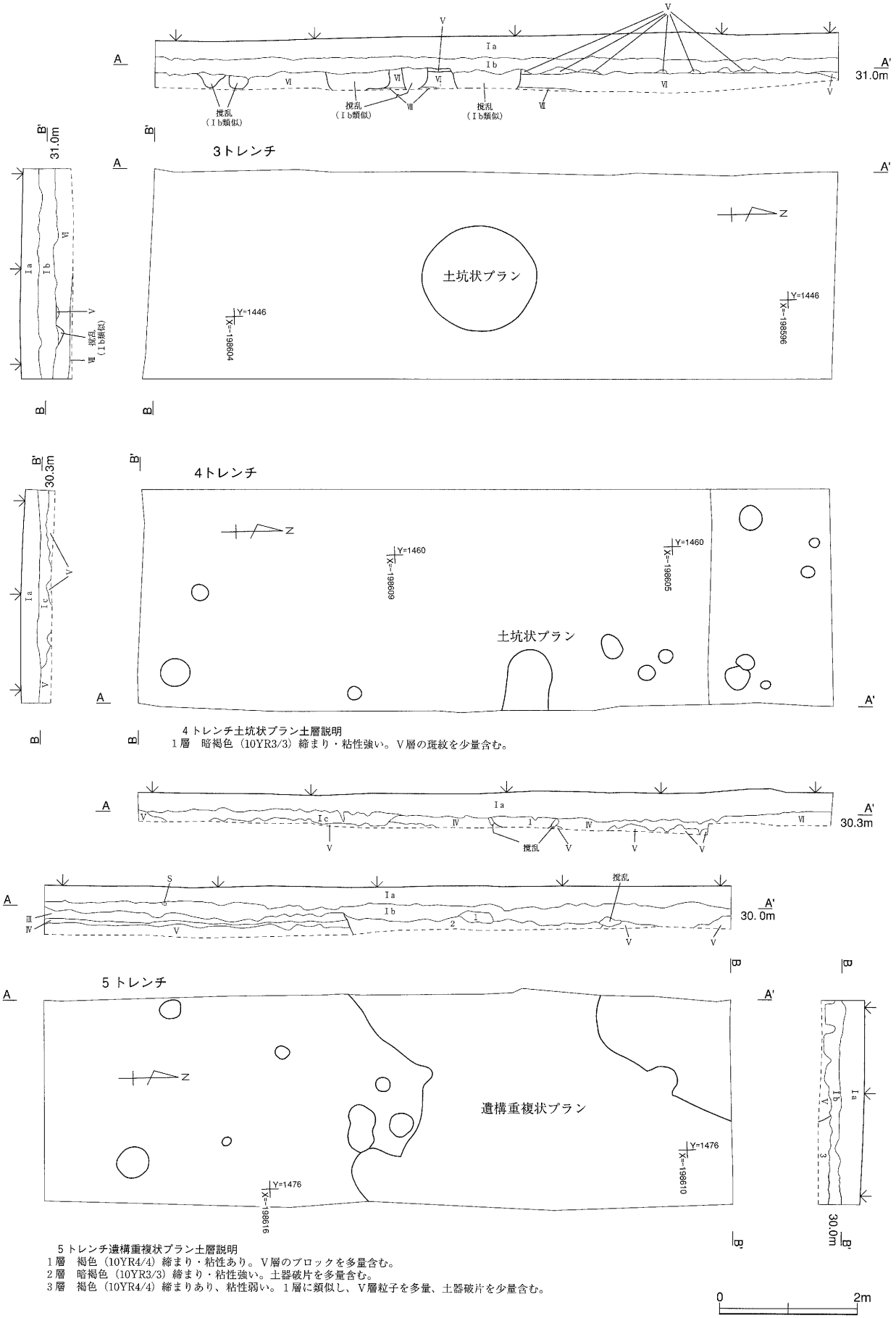
22トレンチは10×３ｍ（30㎡）、Ⅴ層までの深度は70㎝を測る。土層堆積状態は悪く、Ⅰ層直下にⅣ・Ⅴ層が存在する状況である。本トレンチには巨木の根も多く、木根痕による攪乱が著しかった。確認した遺構はフラスコ状土坑１基である（第５次調査ＳＫ１）。また、トレンチ東側からは台地東縁に並行する主軸を持つ近代以降の溝状を呈する攪乱が検出された。遺物は縄文中期の土器が少量、石器剥片２点が出土した。



2トレンチ1号土坑（ＳＫ１）土層説明

1層　暗褐色（10YR3/3）締まり・粘性弱い。土器破片・礫を多量含む。
2層　暗褐色（10YR3/4）締まり・粘性強い。土器破片・礫を多量、炭化物粒子を少量、層下半にⅤ層粒子・Ⅵ層起源の小円礫を少量含む。
3層　黒褐色（10YR2/3）締まり・粘性非常に強い。炭化物粒子を少量、層下半にⅤ層斑紋を少量含む。
4層　にぶい黄褐色（10YR4/3）締まり・粘性強い。炭化物粒子を多量、右半から左下端にⅤ層ブロック・斑紋を多量、左半にⅥ層起源の砂礫を多量、土器破片少量含む。
5層　褐色（10YR4/4）締まり・粘性弱い。Ⅴ層粒子・Ⅵ層起源の砂粒・炭化物粒子を多量含む。
6層　褐色（10YR4/6）締まり・粘性弱い。Ⅵ・Ⅶ層起源の砂粒を多量含む。
7層　暗褐色（10YR3/3）締まり弱く、粘性強い。炭化物粒子を多量、Ⅵ層起源の小円礫を少量、下端から右端にⅤ層粒子を多量含む。
8層　暗褐色（10YR3/4）締まり・粘性強い。炭化物粒子を多量、土器破片・Ⅵ層起源の円礫を少量含む。
9層　黄褐色砂質（10YR5/6）締まり・粘性弱い。Ⅴ層ブロック・粒子、Ⅵ・Ⅶ層起源の砂粒を多量含む。
10層　褐色砂質（10YR4/6）締まり・粘性なし。９層に類似し、Ⅵ層起源の小円礫を含む。
11層　暗褐色（10YR3/4）締まり弱く、粘性強い。Ⅴ層粒子・炭化物粒子を微量含む。
12層　黄褐色シルト（10YR5/8）締まり・粘性弱い。Ⅴ層粒子・Ⅵ層起源の小円礫を含む。

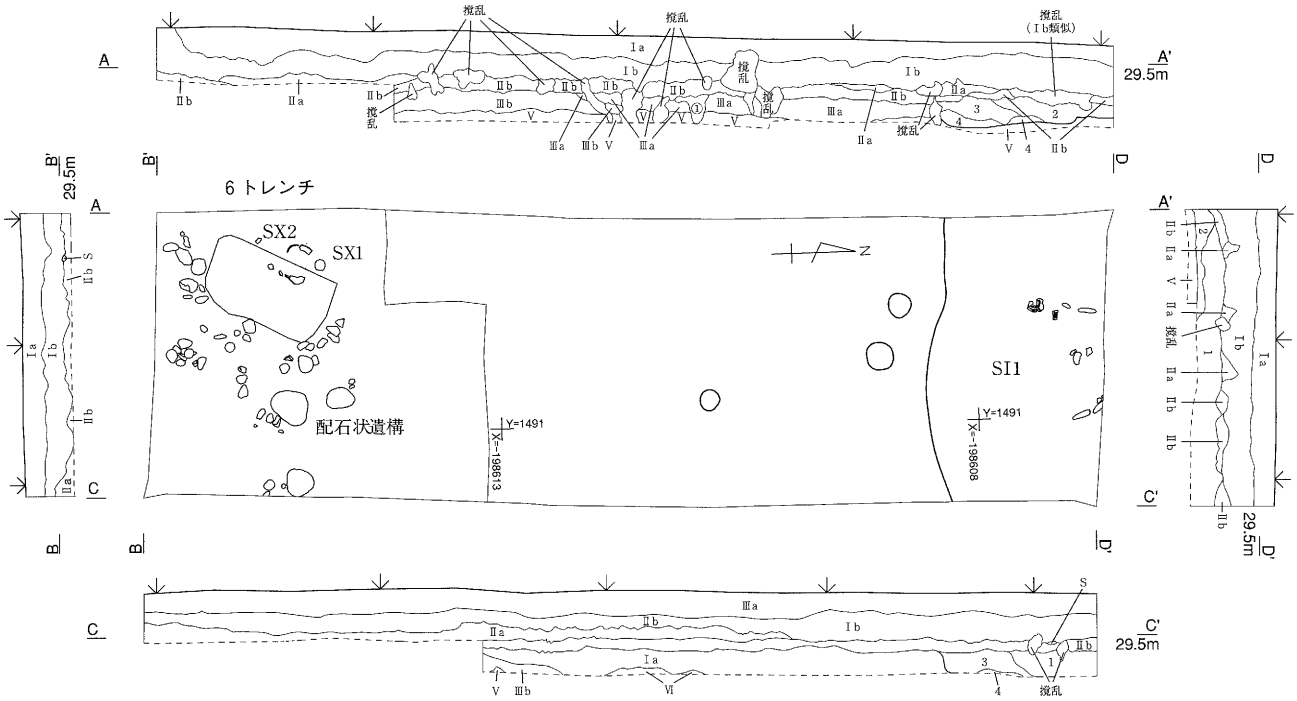
第４図　１・２トレンチ平面図・土層断面図



4トレンチ土坑状プラン土層説明
1層　暗褐色（10YR3/3）締まり・粘性強い。Ⅴ層の斑紋を少量含む。

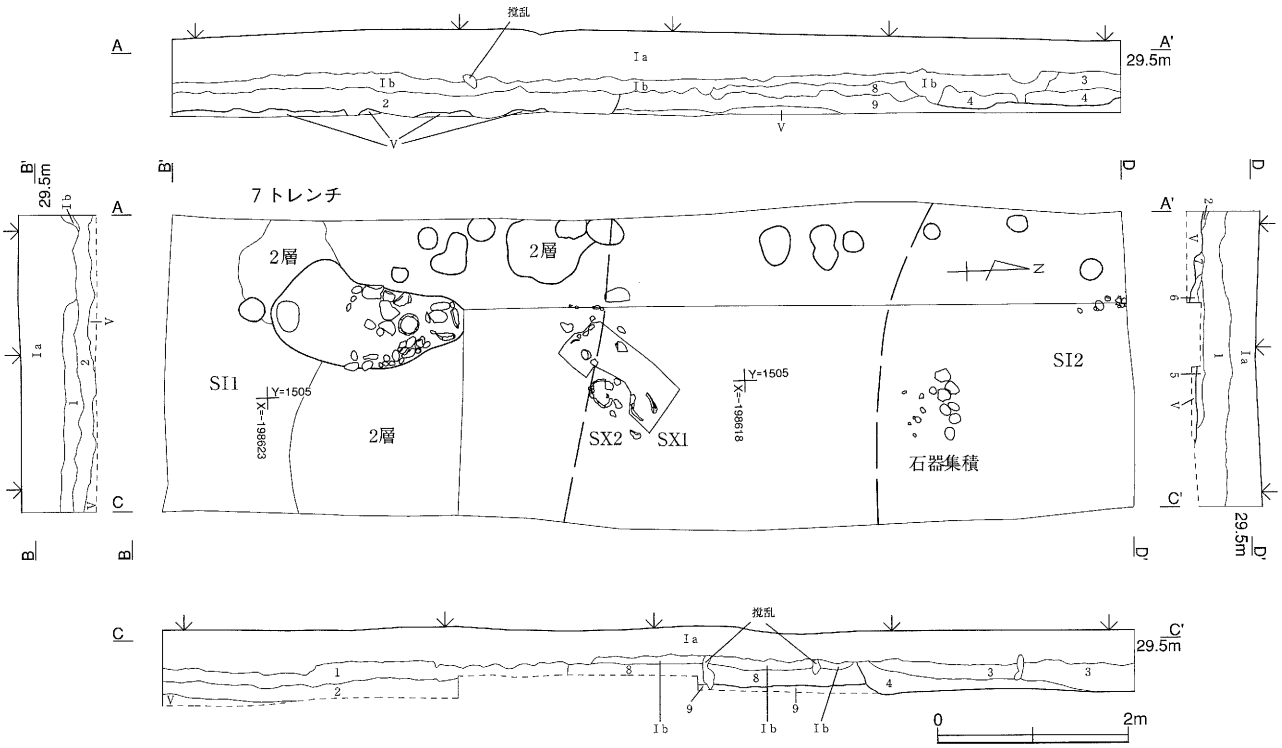
5トレンチ遺構重複状プラン土層説明
1層　褐色（10YR4/4）締まり・粘性あり。Ⅴ層のブロックを多量含む。
2層　暗褐色（10YR3/3）締まり・粘性強い。土器破片を多量含む。
3層　褐色（10YR4/4）締まりあり、粘性弱い。1層に類似し、Ⅴ層粒子を多量、土器破片を少量含む。

第5図　3・4・5トレンチ平面図・土層断面図



6トレンチ1号住居跡（ＳＩ１）土層説明
1層　暗褐色（10YR3/3）締まりあり、粘性強い。土器破片・礫を多量、Ⅴ層粒子・炭化物粒子を少量含む。
2層　暗褐色（10YR3/4）締まり・粘性強い。土器破片を少量、下端にⅤ層斑紋を含む。
3層　にぶい黄褐色（10YR4/3）締まり非常に強く、粘性強い。Ⅴ層ブロックを少量、土器破片を微量含む。
4層　褐色（10YR4/6）締まり・粘性強い。Ⅲ層粒子、Ⅴ層粒子・ブロック・斑紋を多量含む。

6トレンチピット土層説明
①層　暗褐色（10YR3/4）締まり・粘性強い。Ⅲａ層に類似し、土器小破片を含む。下端にⅤ層粒子・ブロックを多量含み、締まり弱い。

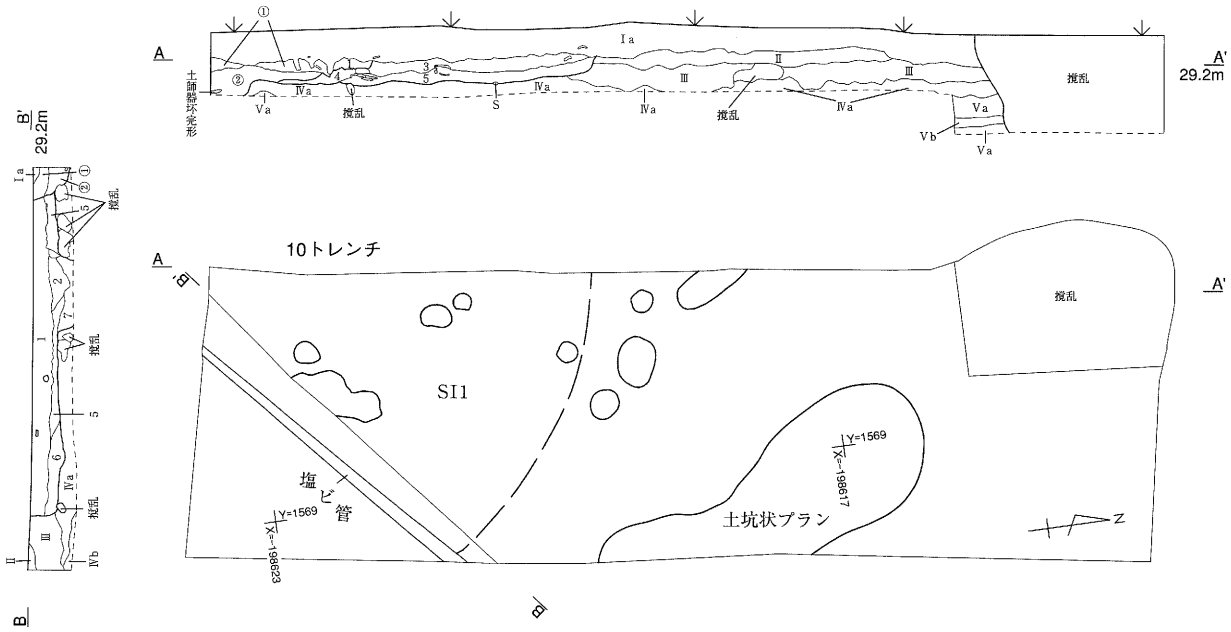


7トレンチ1号住居跡（ＳＩ１）土層説明
1層　暗褐色（10YR3/4）締まりややあり、粘性強い。土器破片を多量、Ⅴ層ブロックを少量含む。3層に類似する。
2層　黒褐色（10YR2/2）締まり非常に強く、粘性強い。土器破片を多量、下端にⅤ層粒子・斑紋を少量含む。5層に類似する。

7トレンチ2号住居跡（ＳＩ２）土層説明
3層　暗褐色（10YR3/3）締まり弱く、粘性強い。土器破片を少量、炭化物粒子を微量含む。
4層　黒褐色（10YR2/3）締まりやや弱く、粘性強い。土器片を少量含む。下半にⅤ層粒子・斑紋が集中する。
5層　暗褐色（10YR3/4）締まり非常に強く硬い。粘性あり。土器破片を多量含む。
6層　明赤褐色（2.5YR5/8）締まりあり、粘性弱い。焼土粒子主体。
7層　暗褐色（10YR3/4）締まり非常に強く、粘性あり。Ⅴ層斑紋を少量、焼土ブロック・炭化物粒子微量含む。

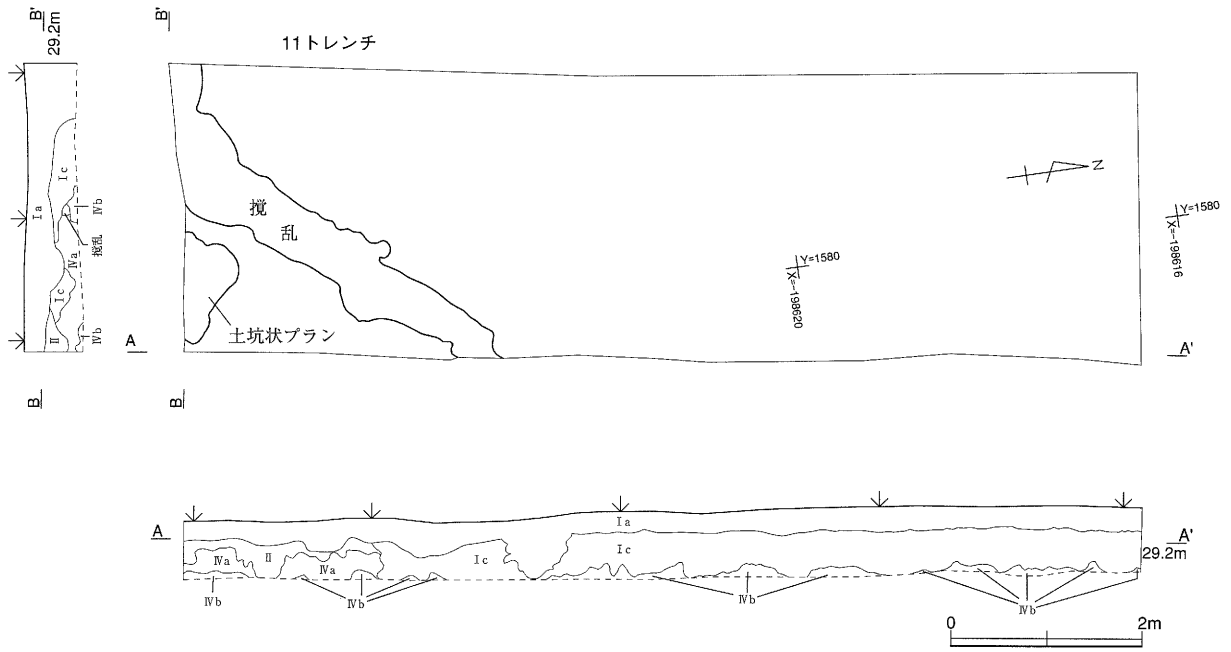
7トレンチ遺構堆積土土層説明
8層　暗褐色（10YR3/3）締まり・粘性あり。1・6層に類似する。
9層　黒褐色（10YR2/3）締まり・粘性強い。下端にⅤ層粒子・斑紋、炭化物粒子を少量含む。

第6図　6・7トレンチ平面図・土層断面図

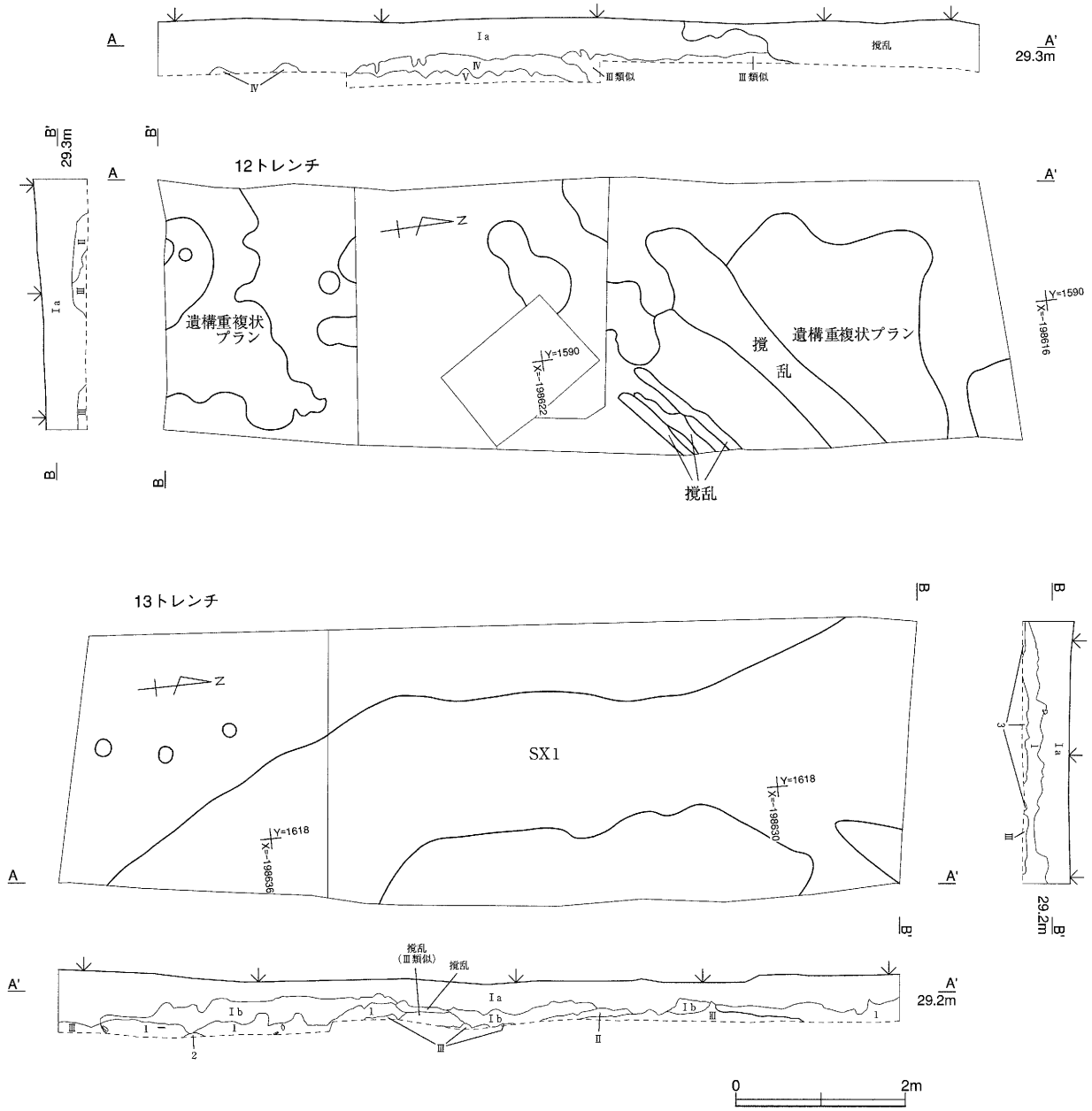


10トレンチ１号住居跡（ＳＩ１）土層説明

1層　黒褐色（10YR3/2）締まり・粘性あり。土器破片多量、炭化物粒子・円礫・角礫少量、焼土粒子を微量含む。①層に類似する。
2層　黒褐色（10YR2/3）締まりやや強く、粘性強い。Ⅴ層粒子を多量、土器破片・炭化物粒子を少量、焼土粒子を微量含む。
3層　黒褐色（10YR2/2）締まり・粘性強い。土器破片を多量、円礫・角礫を少量含む。Ⅱ層に類似する。
4層　黒褐色（10YR2/3）締まり・粘性強い。Ⅳ層粒子・ブロックを多量、土器破片を少量含む。
5層　黒褐色（10YR2/3）締まり・粘性非常に強い。土器破片、Ⅳ層粒子・ブロック・斑紋多量、円礫を少量含む。
6層　褐色（10YR4/6）締まり・粘性非常に強い。全体がⅣ層の斑紋状を呈する。
7層　褐色（10YR4/6）締まり・粘性非常に強い。6層に類似。
①層　暗褐色（10YR3/4）締まり弱く、粘性強い。縄文土器小破片・Ⅴ層ブロックを含む。
②層　暗褐色（10YR3/3）締まり弱く、粘性あり。両端にⅤ層ブロック・斑紋を含む。下端に土師器坏が正位で出土。

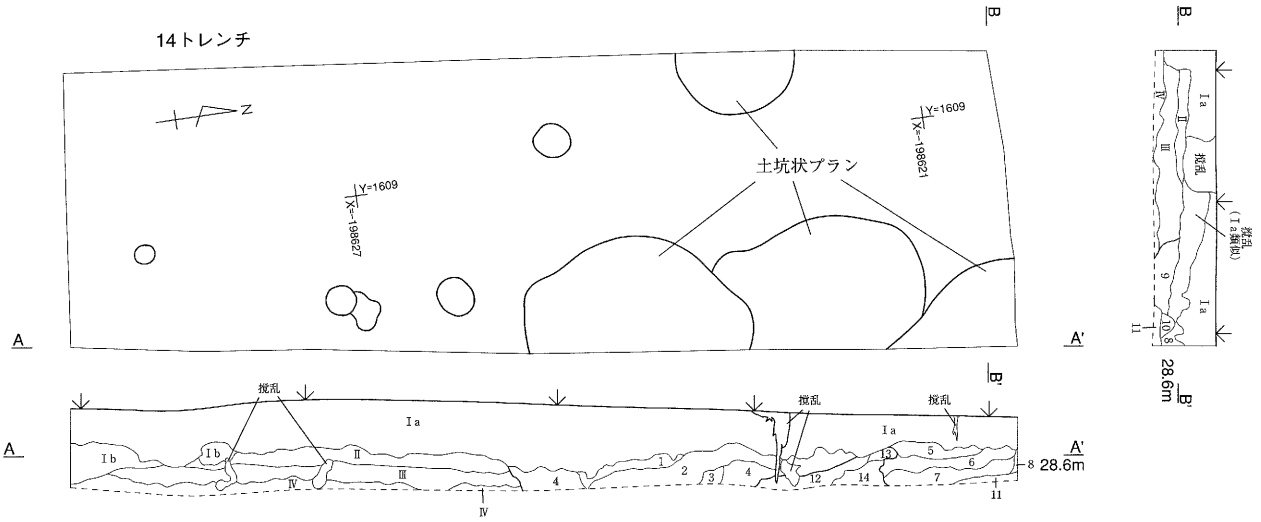


第７図　10・11トレンチ平面図・土層断面図



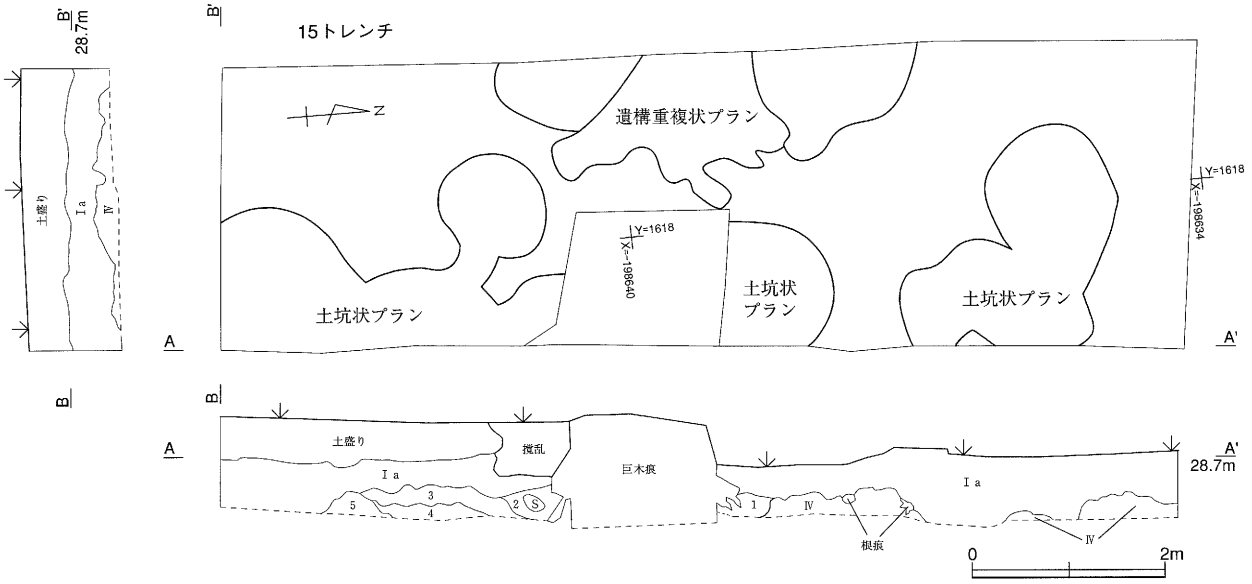
13トレンチ1号溝状プラン（ＳＸ１）土層説明
1層　黒褐色（10YR2/2）締まりあり、粘性強い。土器破片・礫・炭化物粒子を多量に含む。Ⅱ層に類似。
2層　黒色（10YR2/1）締まり・粘性強い。土器破片・炭化物粒子を多量含む。

第８図　12・13トレンチ平面図・土層断面図



14トレンチ土坑状プラン（3ヵ所）土層説明

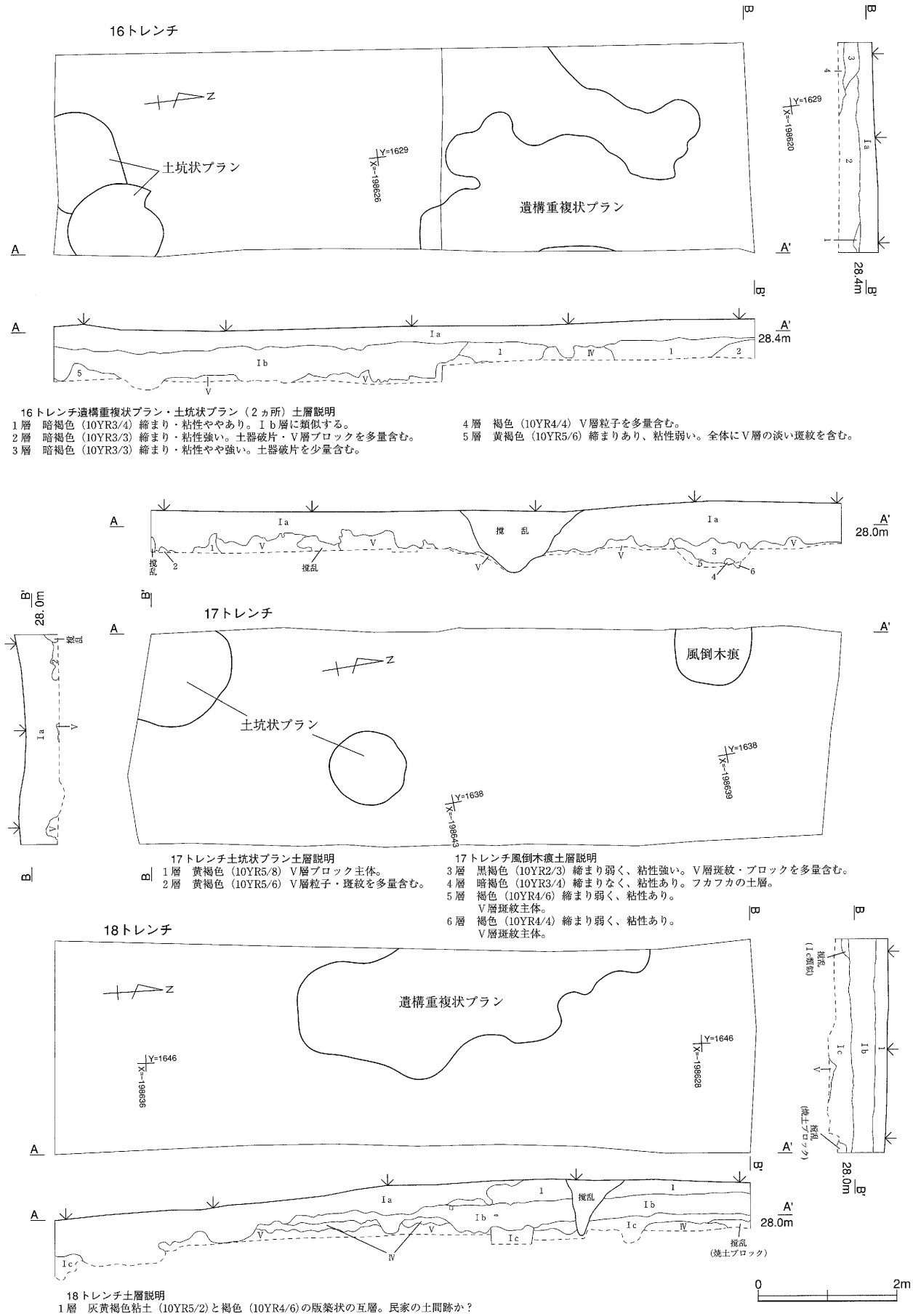
1層　暗褐色（10YR3/4）締まり・粘性あり。Ⅱ層に類似する。
2層　褐色（10YR4/4）締まり強く、硬い。粘性あり。Ⅲ層に類似する。
3層　褐色（10YR4/6）締まり強く、粘性あり。Ⅴ層粒子を多量含む。Ⅳ層に類似する。
4層　暗褐色（10YR3/4）締まり強く、硬い。粘性弱い。Ⅱ・Ⅲ層が混じったような土層。
5層　暗褐色（10YR3/4）締まり・粘性弱い。Ⅱ層に類似する。
6層　暗褐色（10YR3/3）締まり強く、粘性あり。Ⅱ層に類似する。
7層　暗褐色（10YR3/3）締まり強く、6層より硬い。粘性あり。Ⅴ層粒子・斑紋を含む。
8層　暗褐色（10YR3/4）締まり・粘性弱い。5層に類似する。
9層　褐色（10YR4/4）締まり強く、硬い。粘性弱い。Ⅲ層に類似する。
10層　暗褐色（10YR3/4）締まり強く、硬い。粘性弱い。9層に類似する。
11層　褐色（10YR4/6）締まり強く、粘性あり。Ⅴ層粒子を多量含む。Ⅳ層に類似する。
12層　暗褐色（10YR3/4）締まり強く、硬い。粘性弱い。4層に類似する。
13層　暗褐色（10YR3/4）締まり・粘性弱い。5層に類似する。
14層　黄褐色（10YR5/6）締まり強く、粘性弱い。Ⅴ層粒子・ブロック主体。



15トレンチ土坑状プラン（4ヵ所）土層説明

1層　黒褐色（10YR2/3）締まり・粘性弱い。炭化物含む。
2層　黒褐色（10YR2/3）締まり・粘性弱い。1層に類似する。
3層　黒褐色（10YR2/2）締まり・粘性弱い。土器破片を含む。
4層　暗褐色（10YR3/3）締まり・粘性弱い。Ⅴ層粒子・斑紋を多量含む。
5層　暗褐色（10YR3/4）締まり・粘性やや強い。Ⅴ層ブロック・斑紋を含む。

第9図　14・15トレンチ平面図・土層断面図



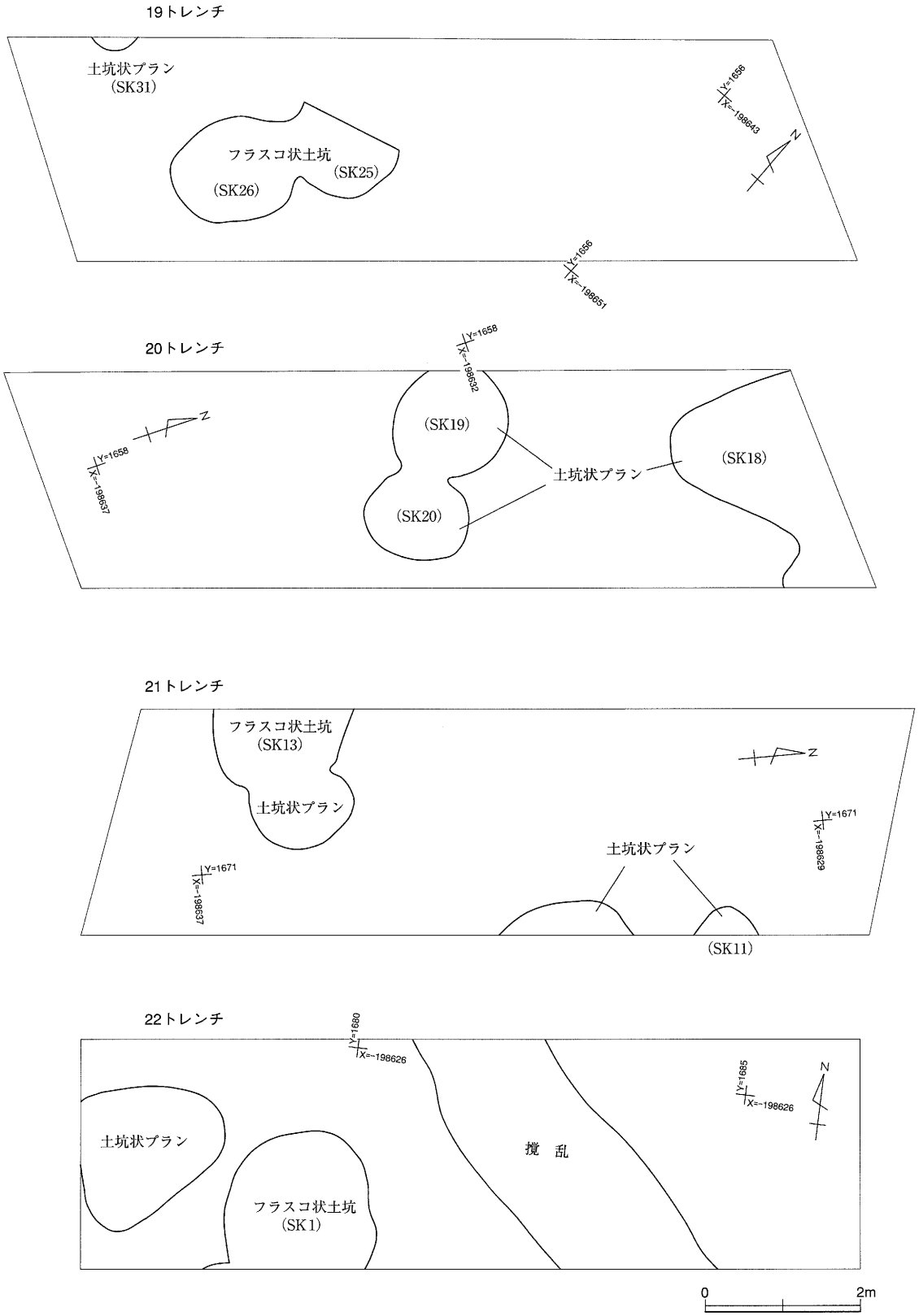
16トレンチ遺構重複状プラン・土坑状プラン（２ヵ所）土層説明
1層　暗褐色（10YR3/4）締まり・粘性ややあり。Ⅰb層に類似する。
2層　暗褐色（10YR3/3）締まり・粘性強い。土器破片・Ⅴ層ブロックを多量含む。
3層　暗褐色（10YR3/3）締まり・粘性やや強い。土器破片を少量含む。
4層　褐色（10YR4/4）Ⅴ層粒子を多量含む。
5層　黄褐色（10YR5/6）締まりあり、粘性弱い。全体にⅤ層の淡い斑紋を含む。

17トレンチ土坑状プラン土層説明
1層　黄褐色（10YR5/8）Ⅴ層ブロック主体。
2層　黄褐色（10YR5/6）Ⅴ層粒子・斑紋を多量含む。

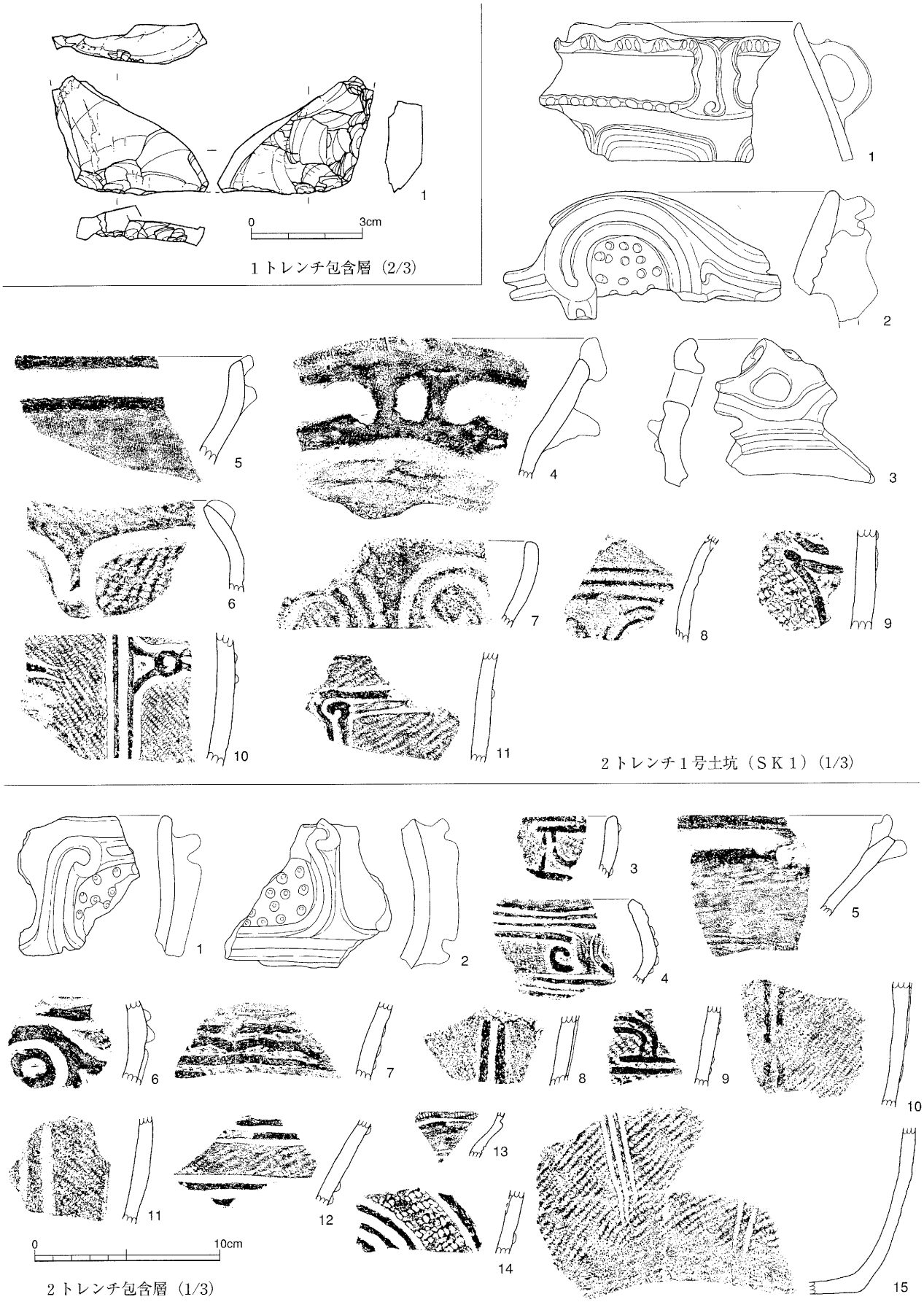
17トレンチ風倒木痕土層説明
3層　黒褐色（10YR2/3）締まり弱く、粘性強い。Ⅴ層斑紋・ブロックを多量含む。
4層　暗褐色（10YR3/4）締まりなく、粘性あり。フカフカの土層。
5層　褐色（10YR4/6）締まり弱く、粘性あり。
　　Ⅴ層斑紋主体。
6層　褐色（10YR4/4）締まり弱く、粘性あり。
　　Ⅴ層斑紋主体。

18トレンチ土層説明
1層　灰黄褐色粘土（10YR5/2）と褐色（10YR4/6）の版築状の互層。民家の土間跡か？

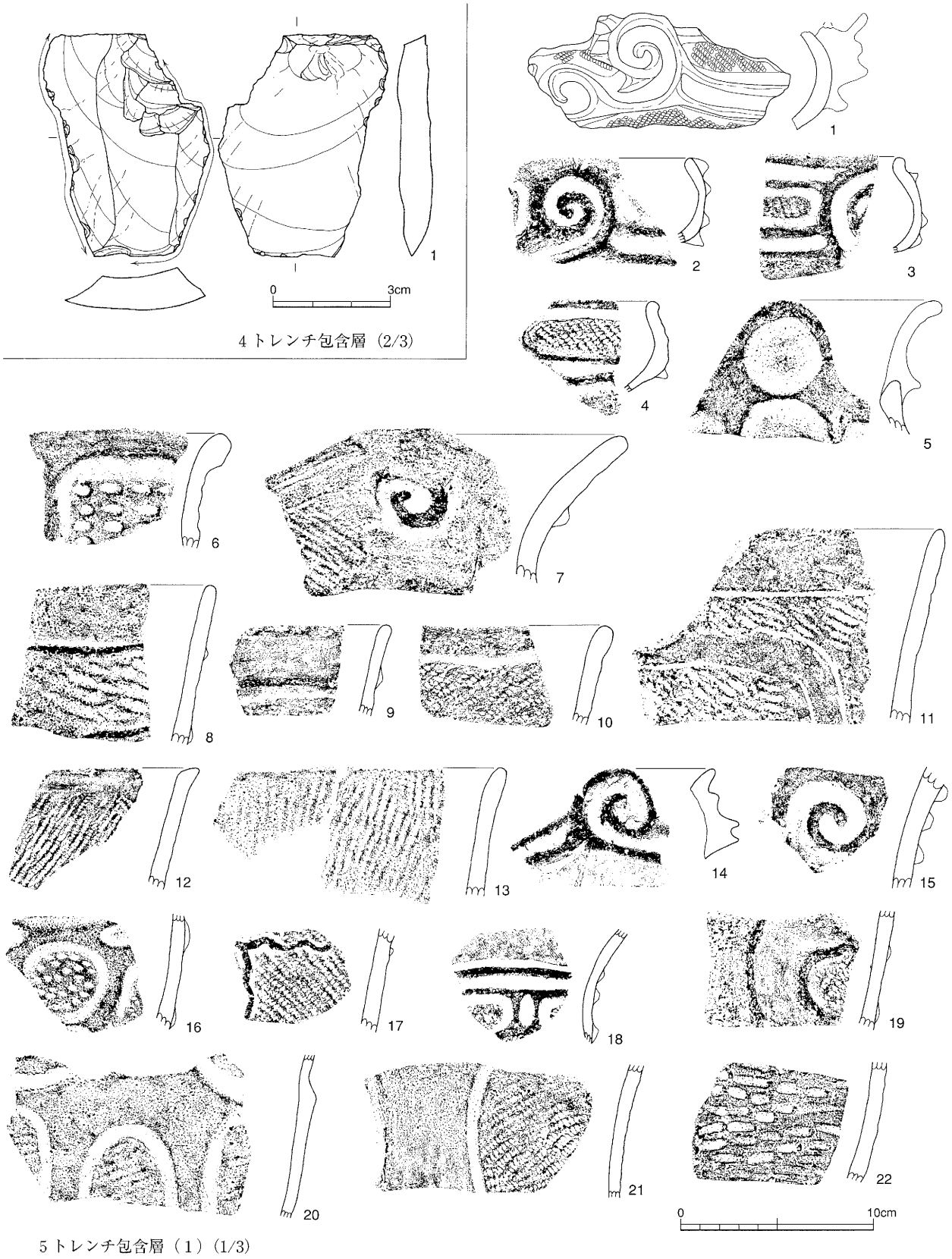
第10図　16・17・18トレンチ平面図・土層断面図



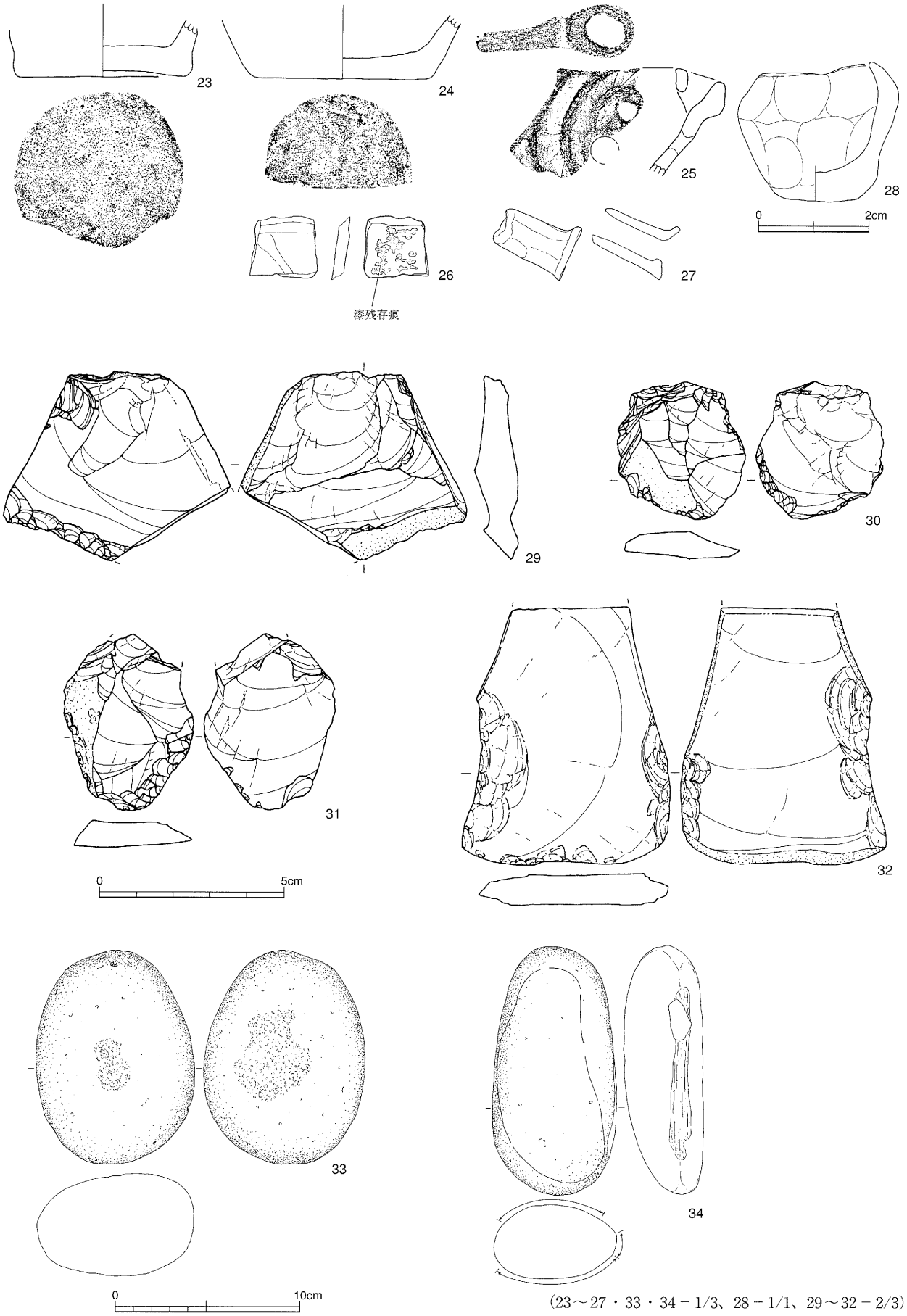
第11図　19・20・21・22トレンチ平面図



第12図　1トレンチ包含層、2トレンチ1号土坑（ＳＫ１）・包含層出土遺物

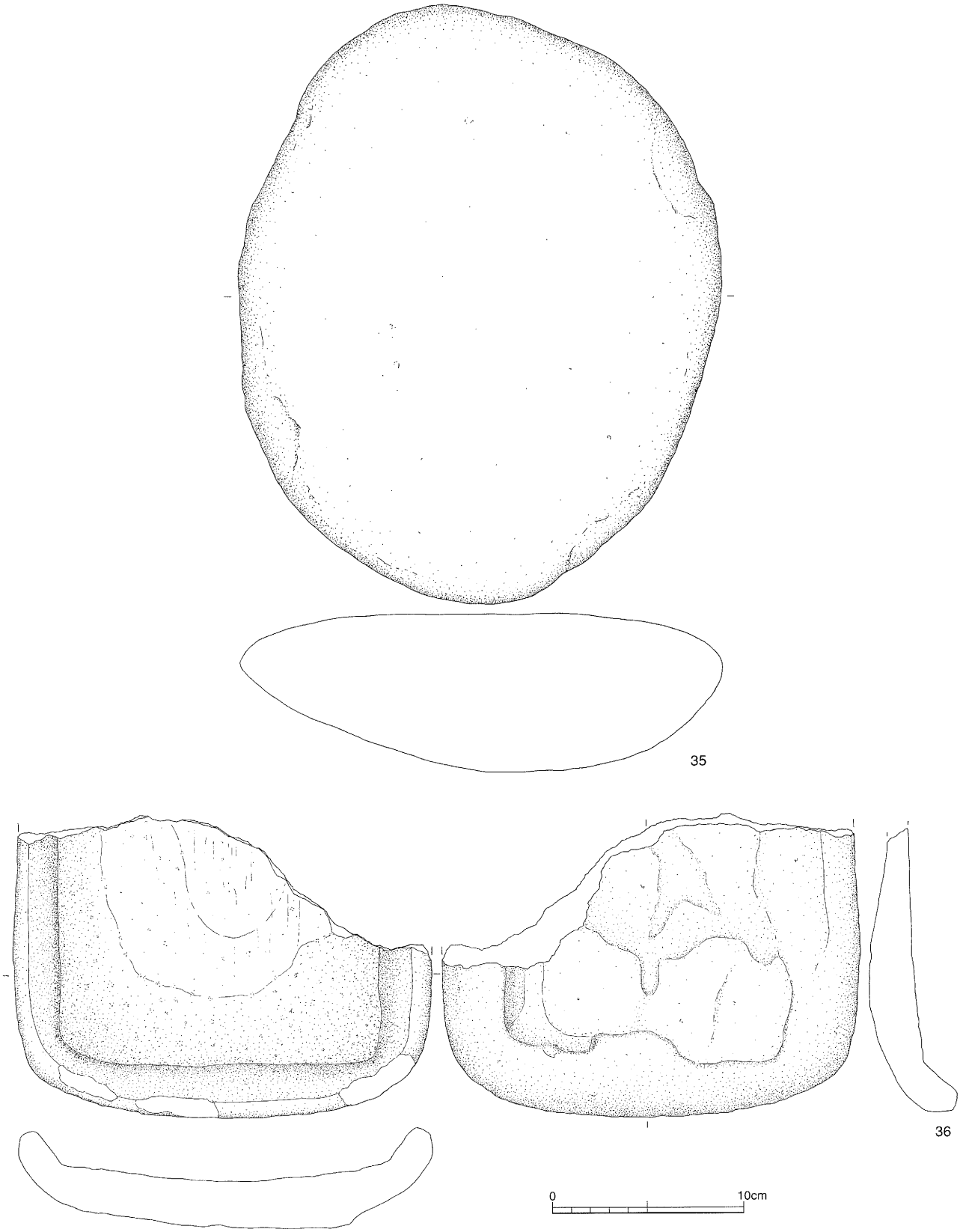


第13図　4トレンチ包含層、5トレンチ包含層出土遺物（1）



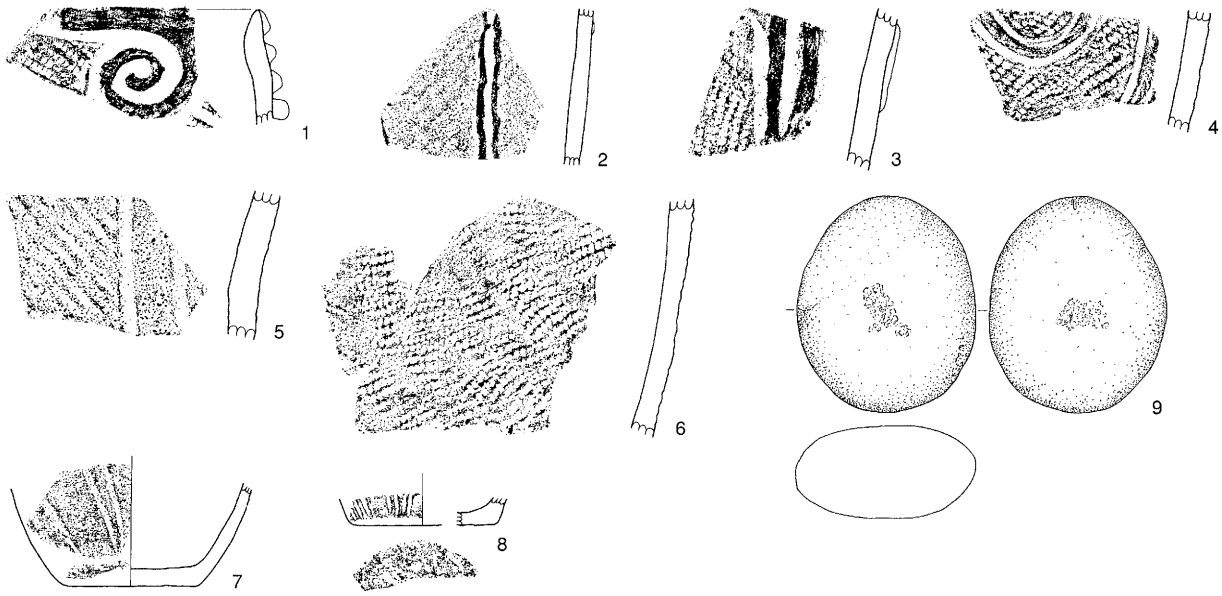
(23～27・33・34－1/3、28－1/1、29～32－2/3)
5トレンチ包含層（2）

第14図　5トレンチ包含層出土遺物（2）

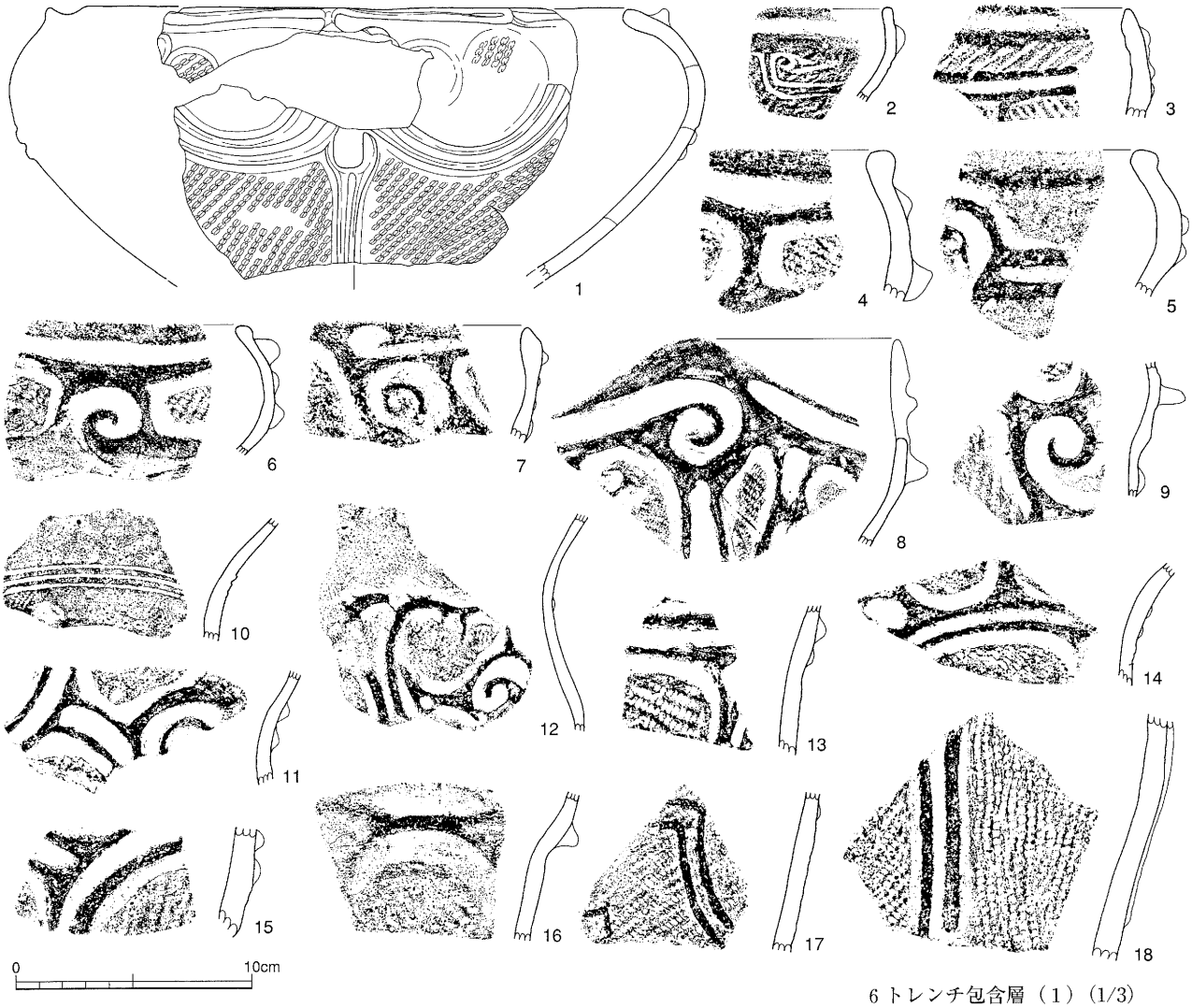


5トレンチ包含層（3）(1/3)

第15図　5トレンチ包含層出土遺物（3）

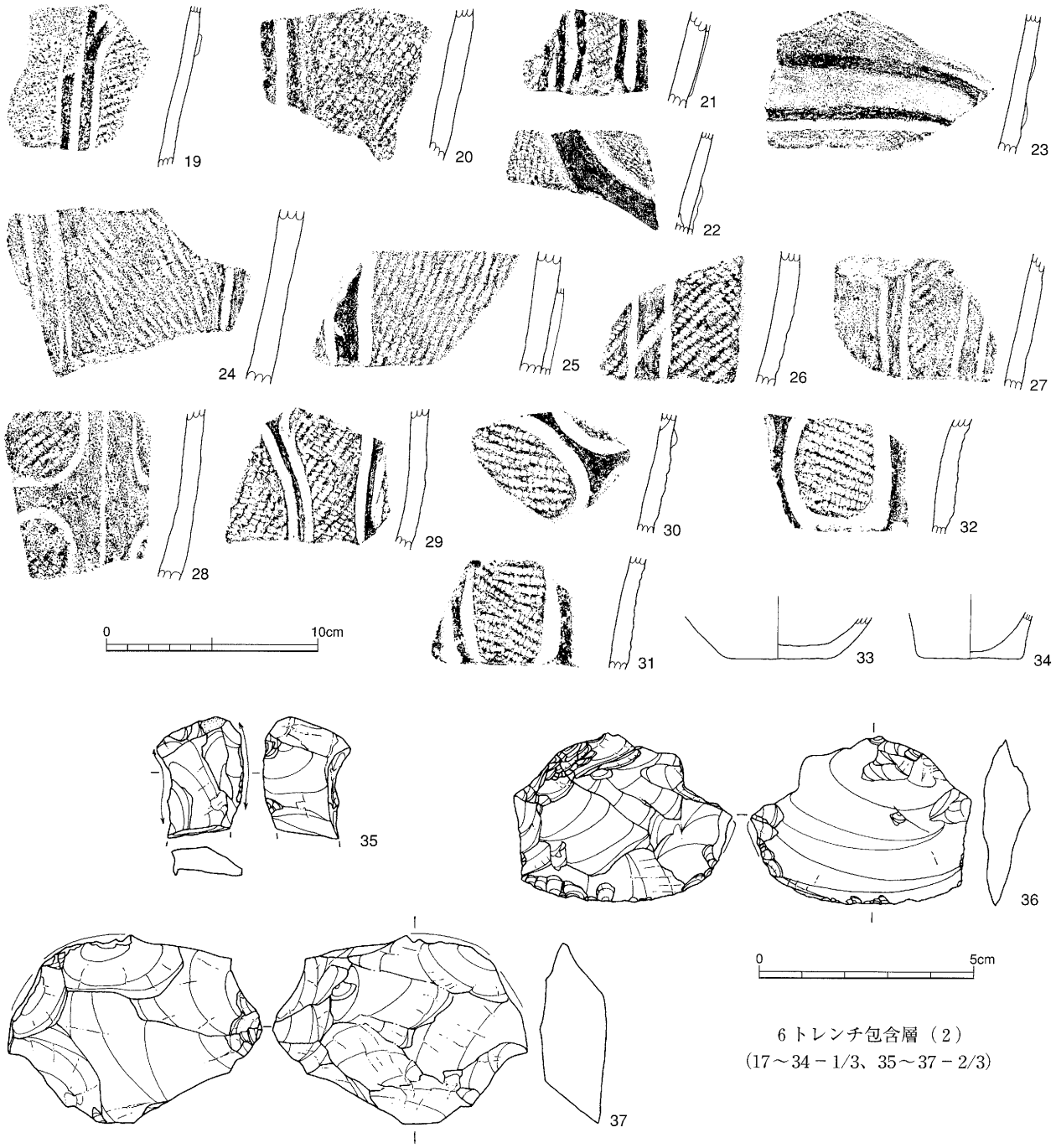


6トレンチ1号住居跡（ＳＩ１）(1/3)



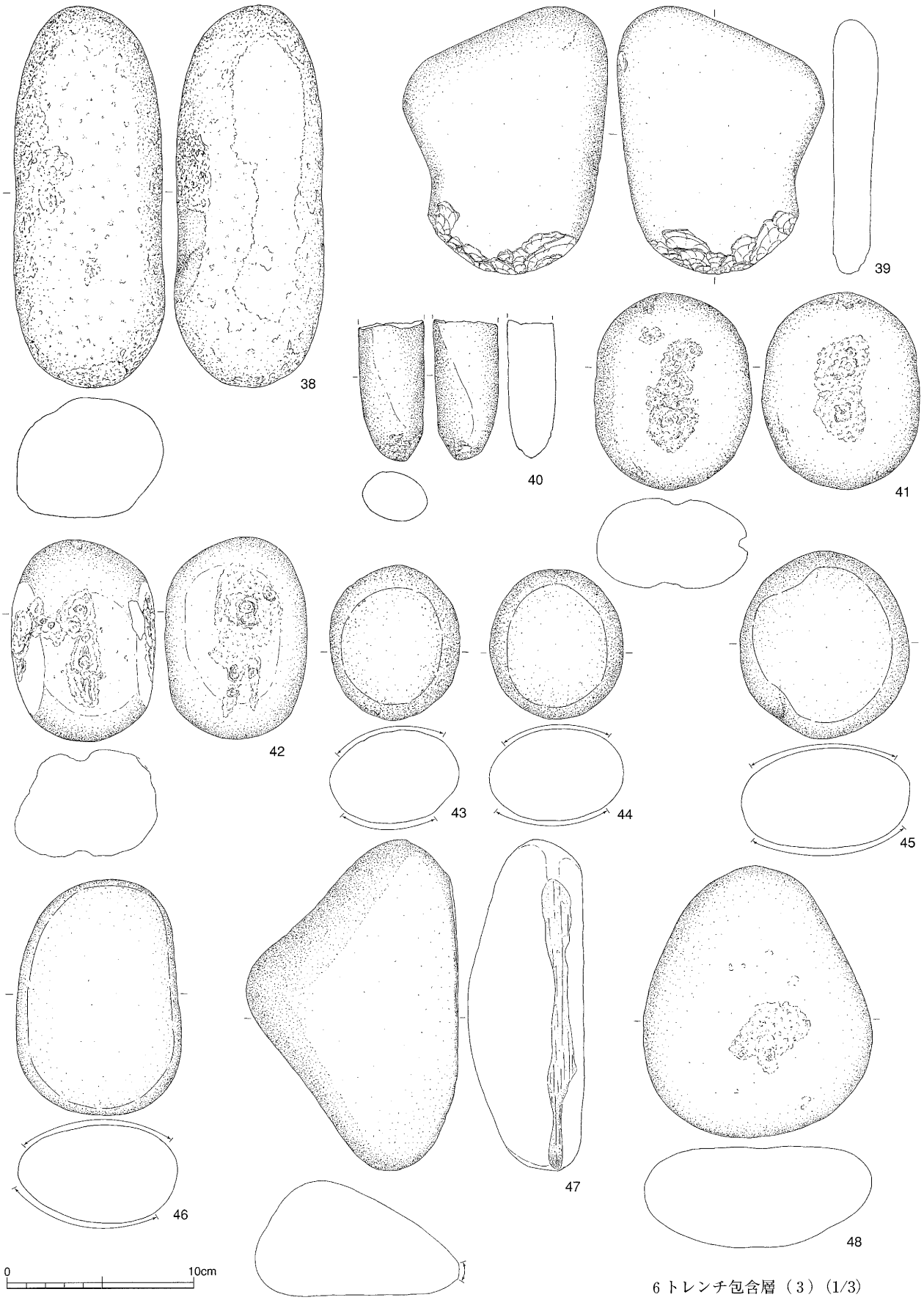
6トレンチ包含層（1）(1/3)

第16図　6トレンチ1号住居跡（ＳＩ１）・包含層出土遺物（1）

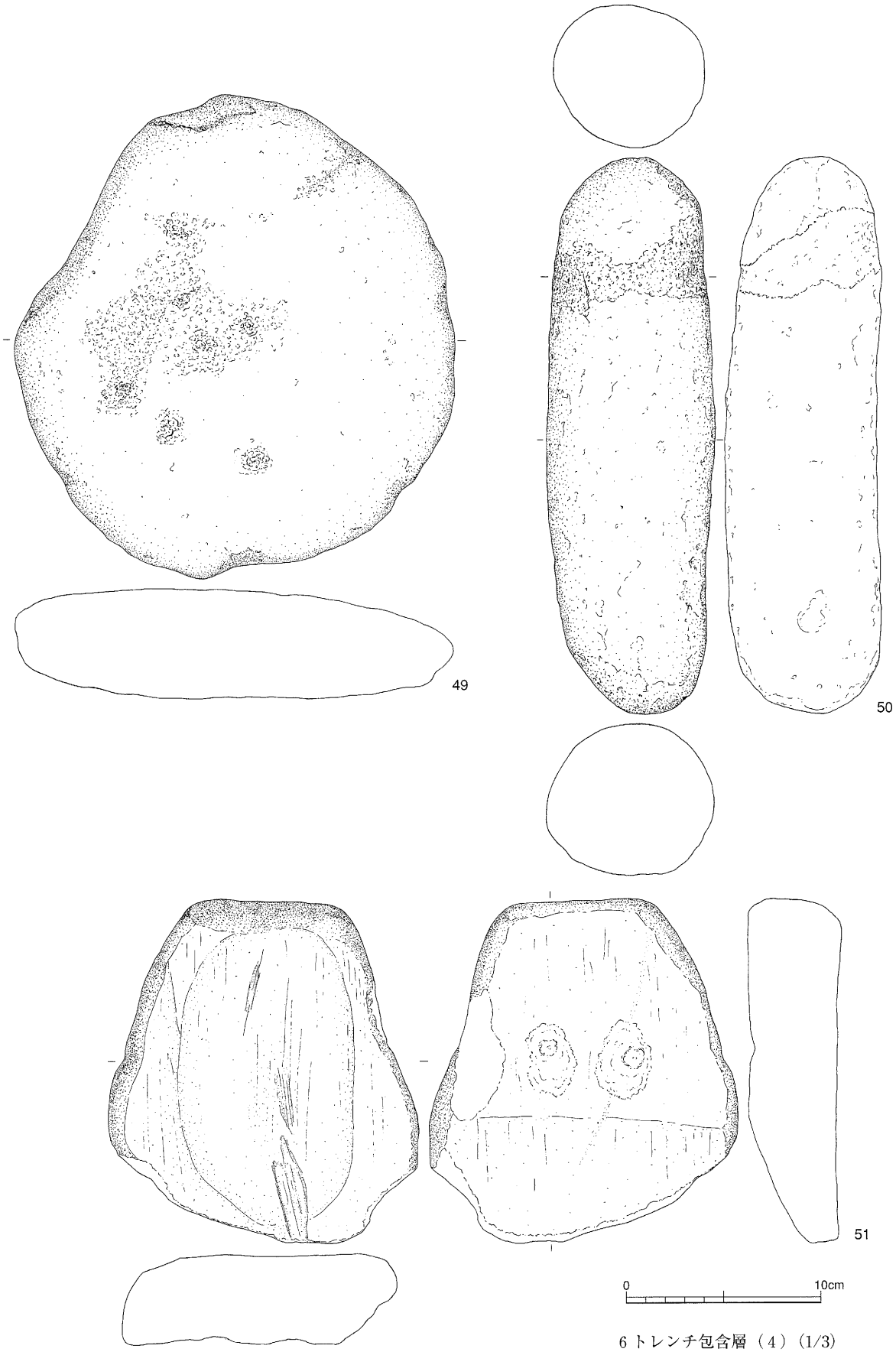


6トレンチ包含層（2）
（17～34－1/3、35～37－2/3）

第17図　6トレンチ包含層出土遺物（2）

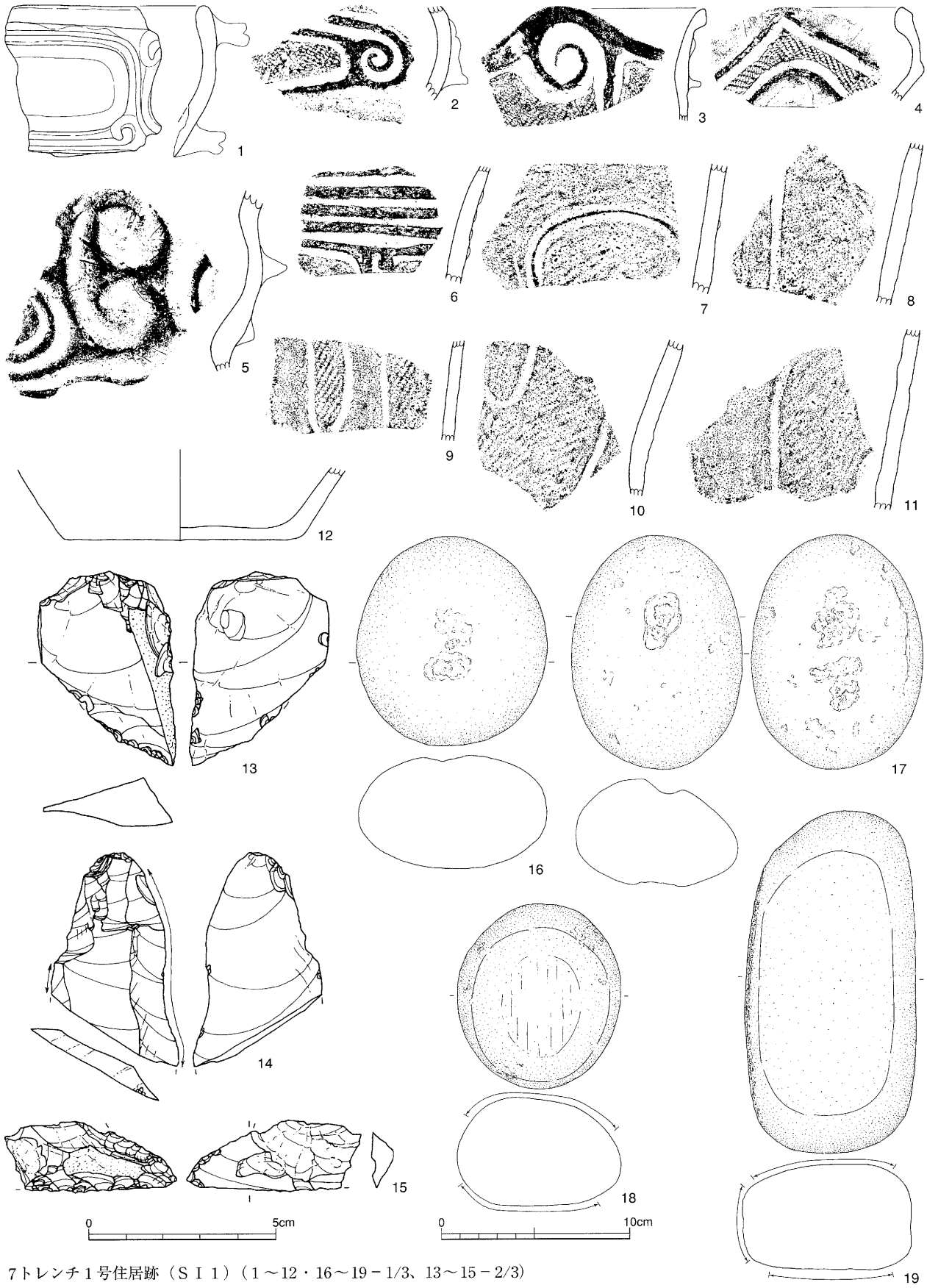


第18図　6トレンチ包含層出土遺物（3）



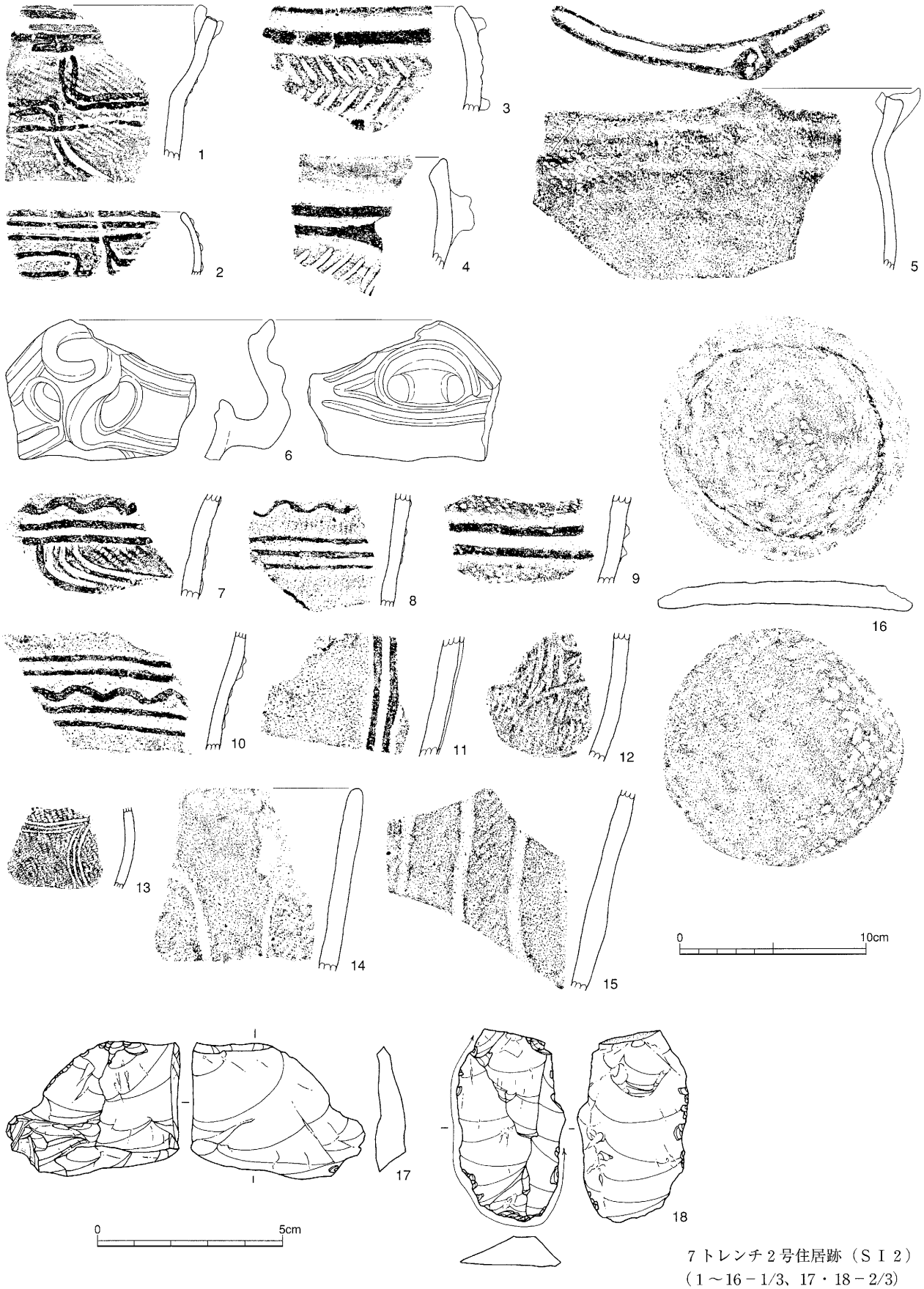
6トレンチ包含層（4）（1/3）

第19図　6トレンチ包含層出土遺物（4）



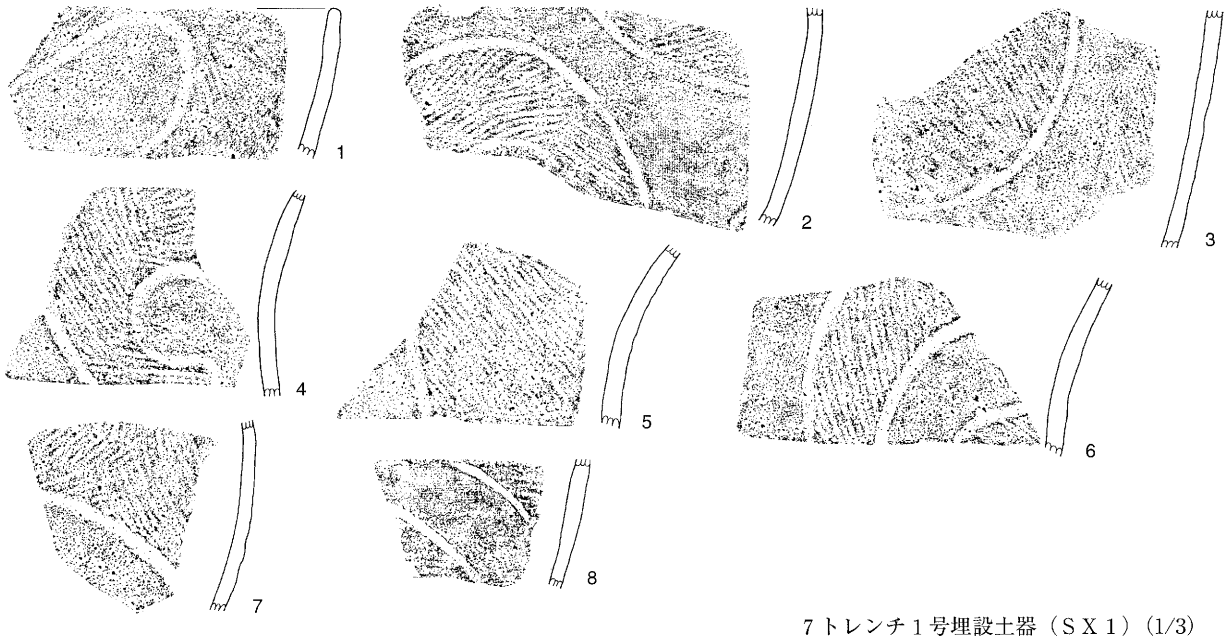
7トレンチ１号住居跡（ＳＩ１）（１～12・16～19－1/3、13～15－2/3）

第20図　7トレンチ１号住居跡（ＳＩ１）出土遺物

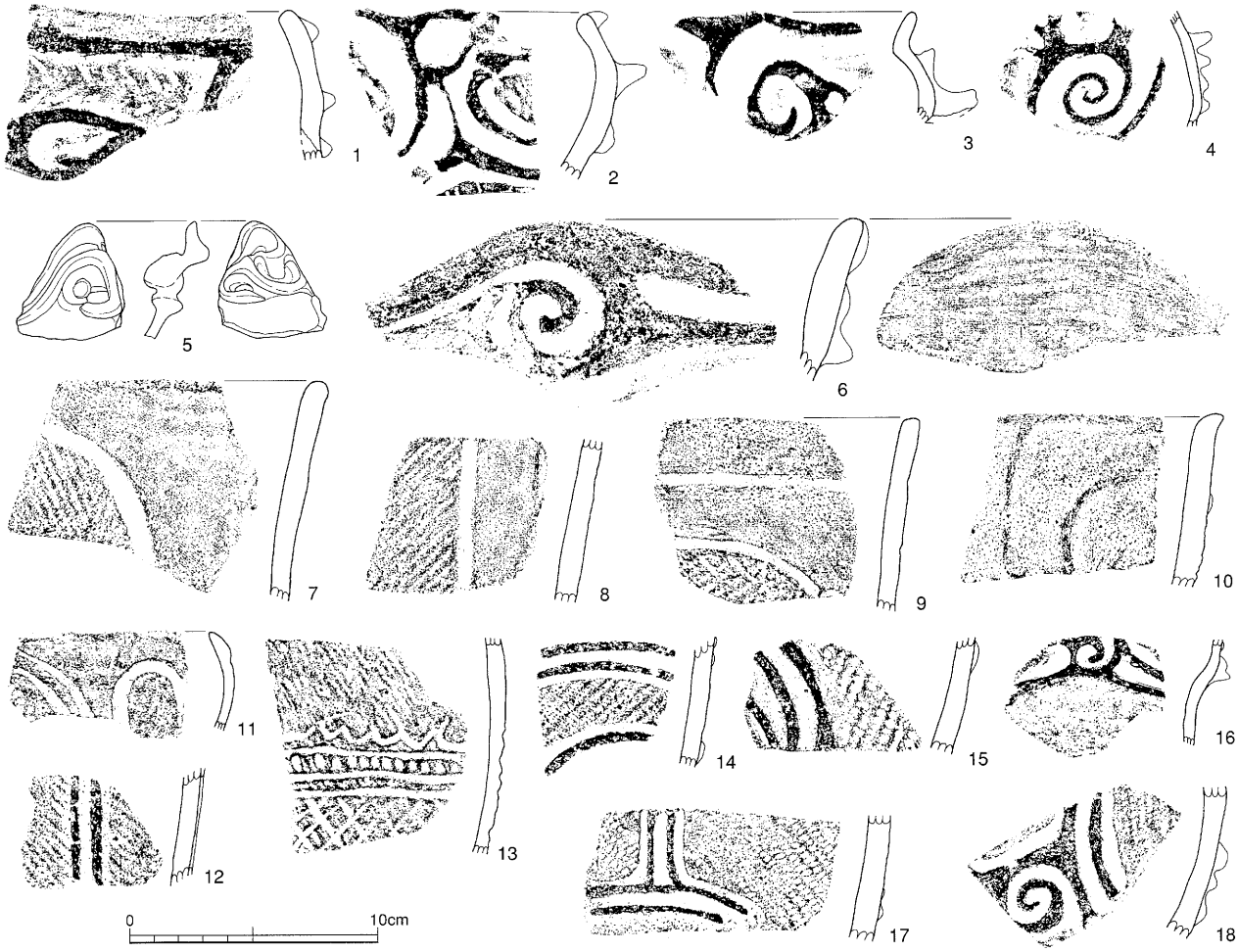


7トレンチ2号住居跡（ＳＩ２）
（1～16－1/3、17・18－2/3）

第21図　7トレンチ2号住居跡（ＳＩ２）出土遺物

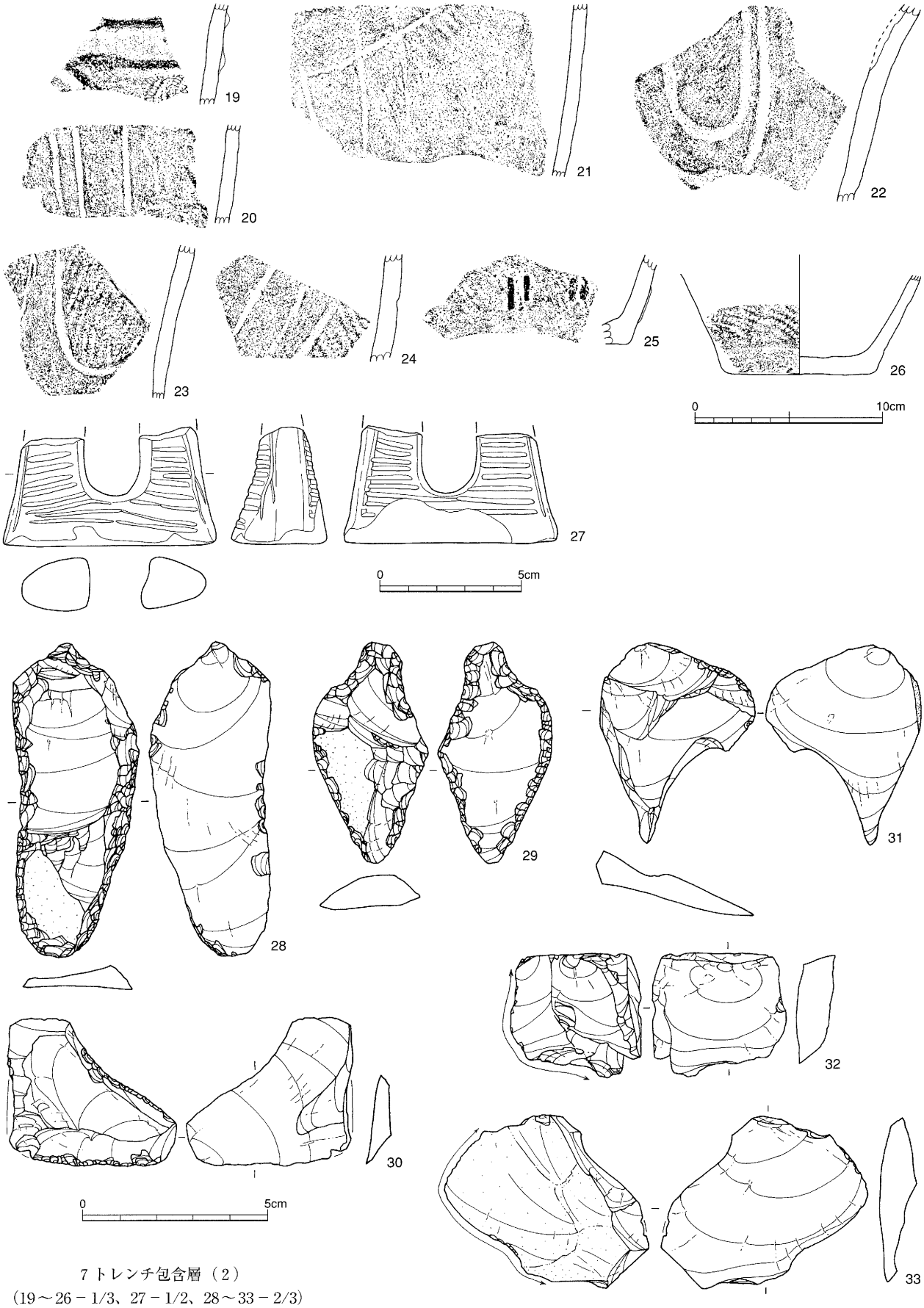


7トレンチ1号埋設土器（ＳＸ１）(1/3)



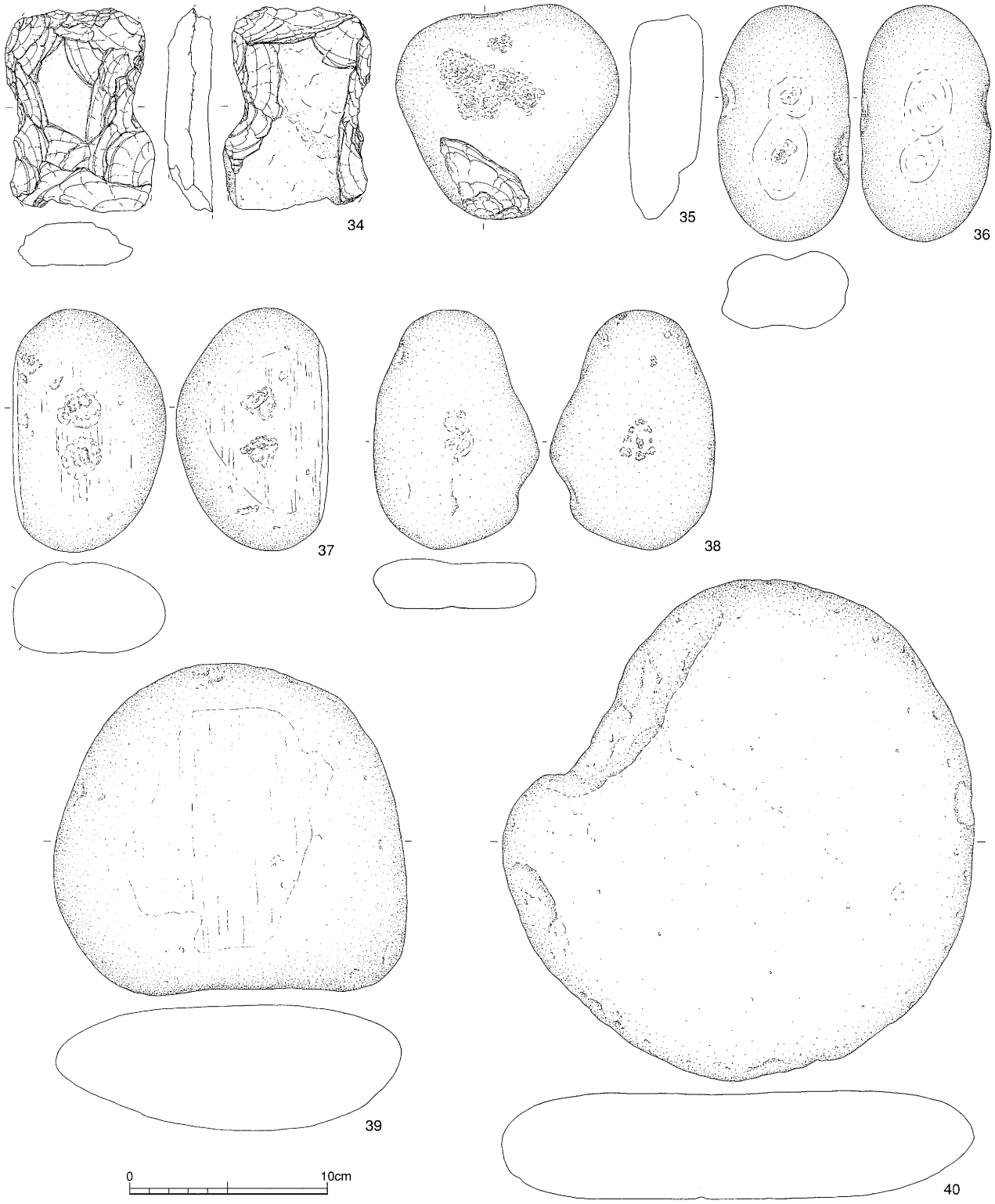
7トレンチ包含層（1）(1/3)

第22図　7トレンチ1号埋設土器（ＳＸ１）・包含層出土遺物（1）



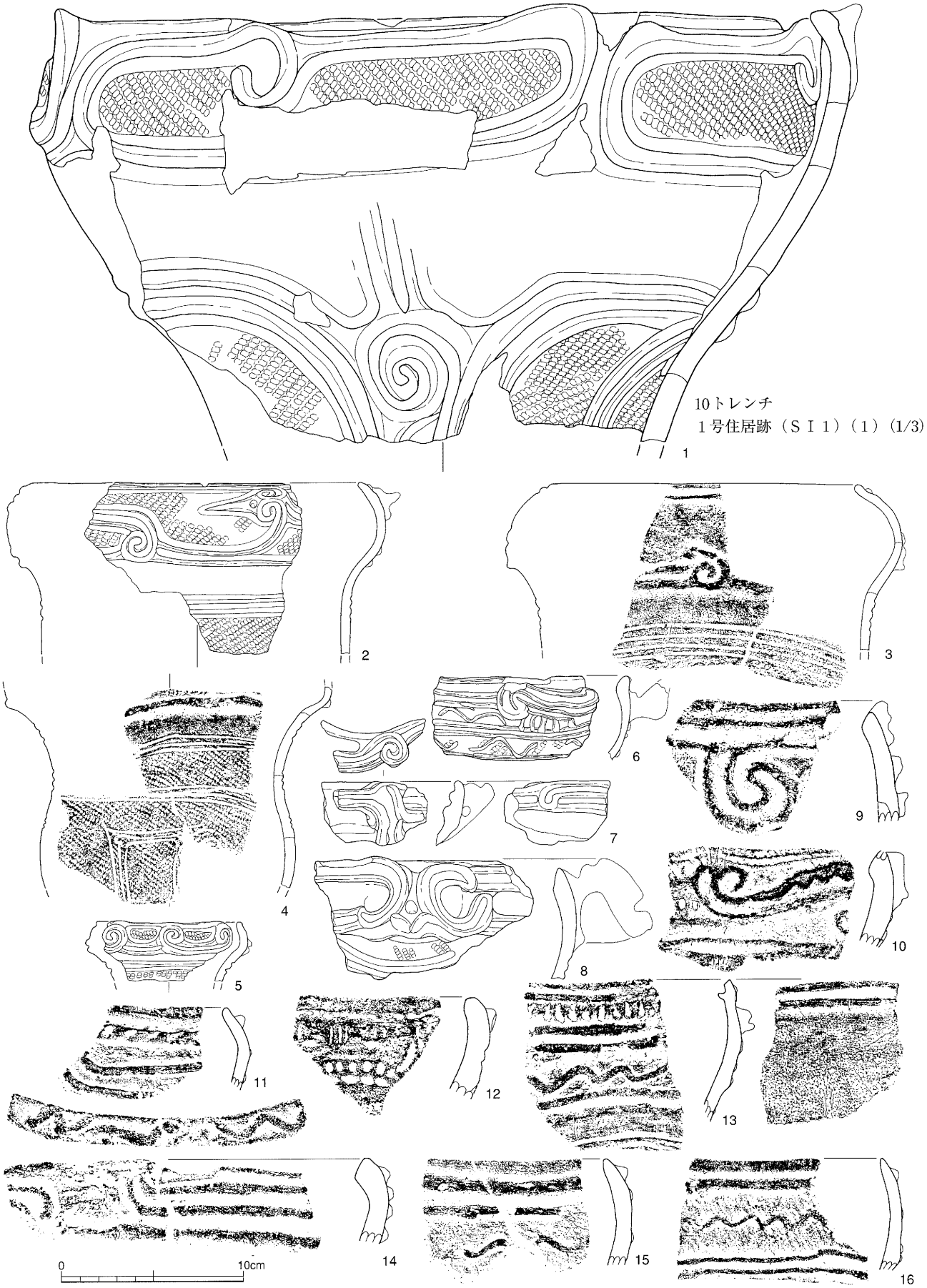
7トレンチ包含層（2）
（19～26－1/3、27－1/2、28～33－2/3）

第23図　7トレンチ包含層出土遺物（2）

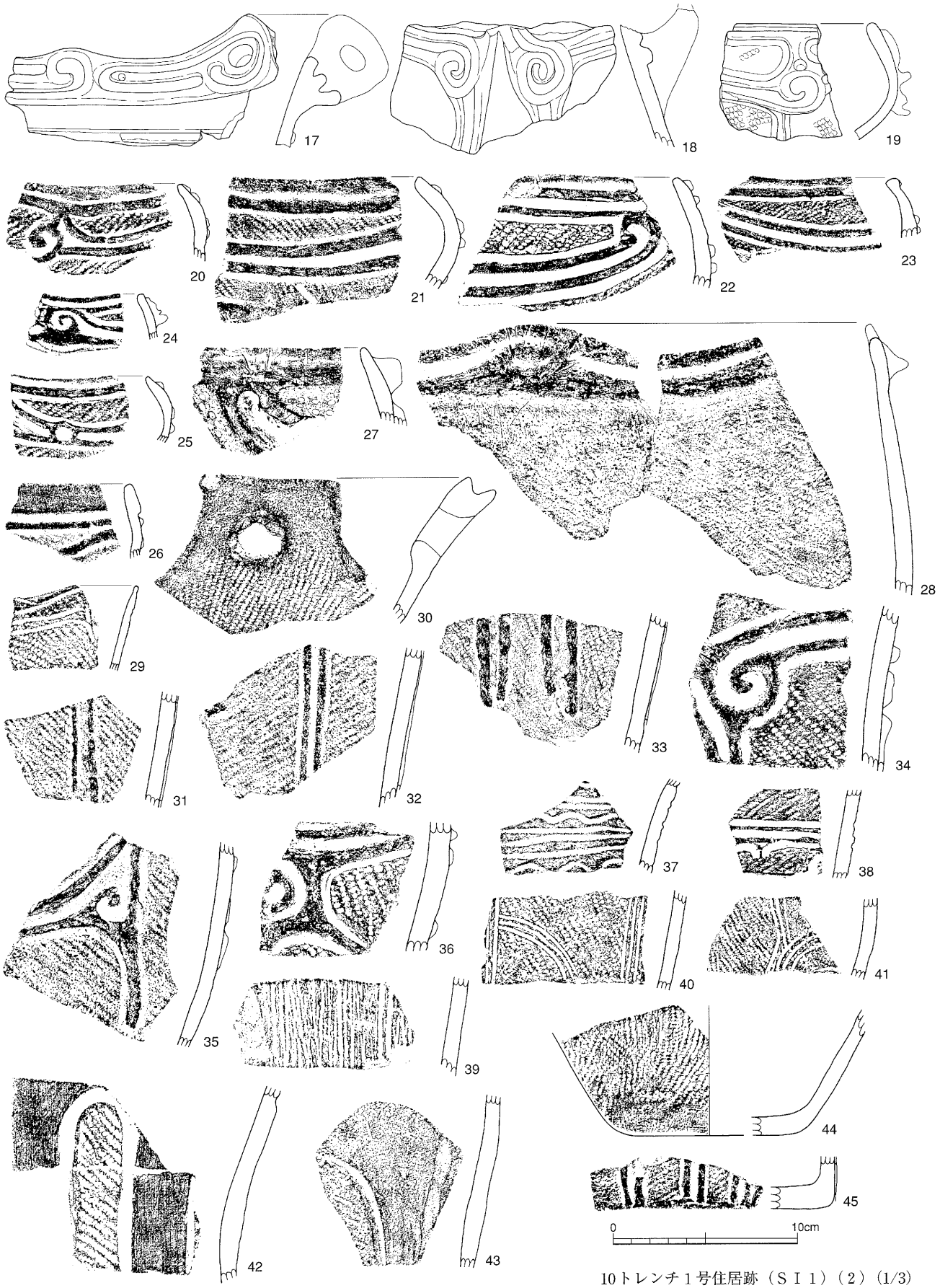


7トレンチ包含層（3）(1/3)

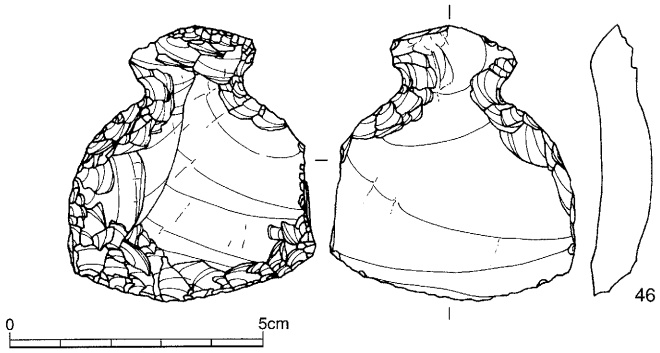
第24図　7トレンチ包含層出土遺物（3）



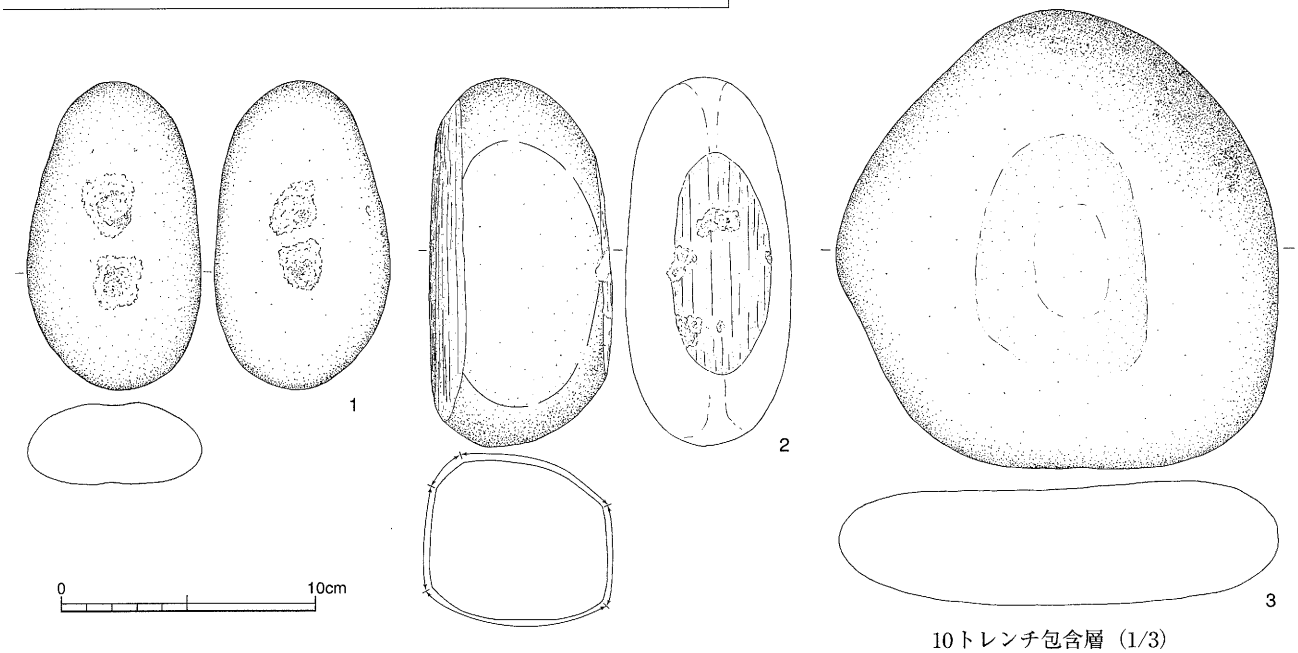
第25図　10トレンチ１号住居跡（ＳＩ１）出土遺物（1）



第26図　10トレンチ１号住居跡（ＳＩ１）出土遺物（２）

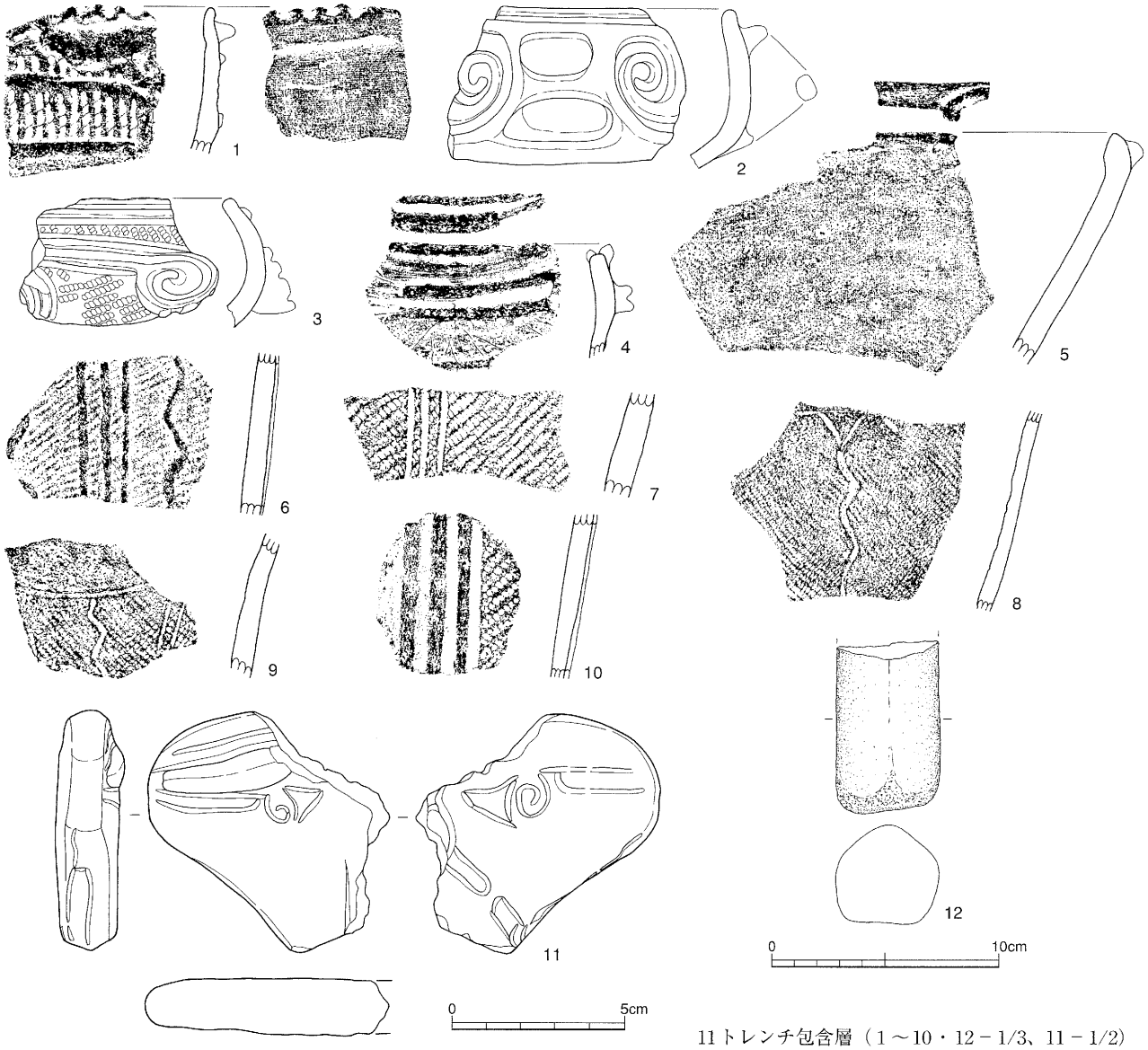


10トレンチ１号住居跡（ＳＩ１）（３）(2/3)

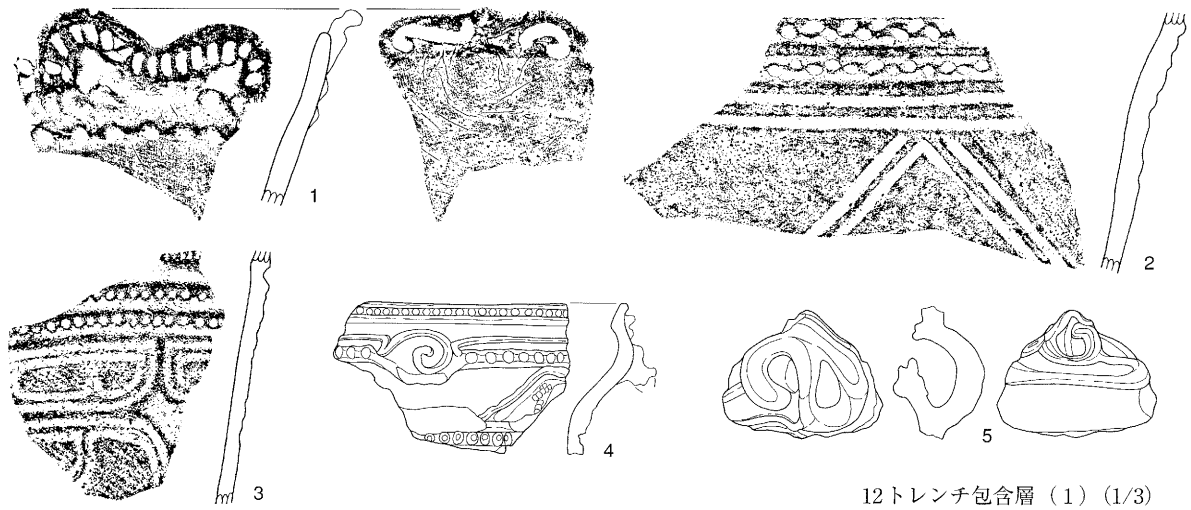


10トレンチ包含層（1/3）

第27図　10トレンチ１号住居跡（ＳＩ１）（３）・包含層出土遺物

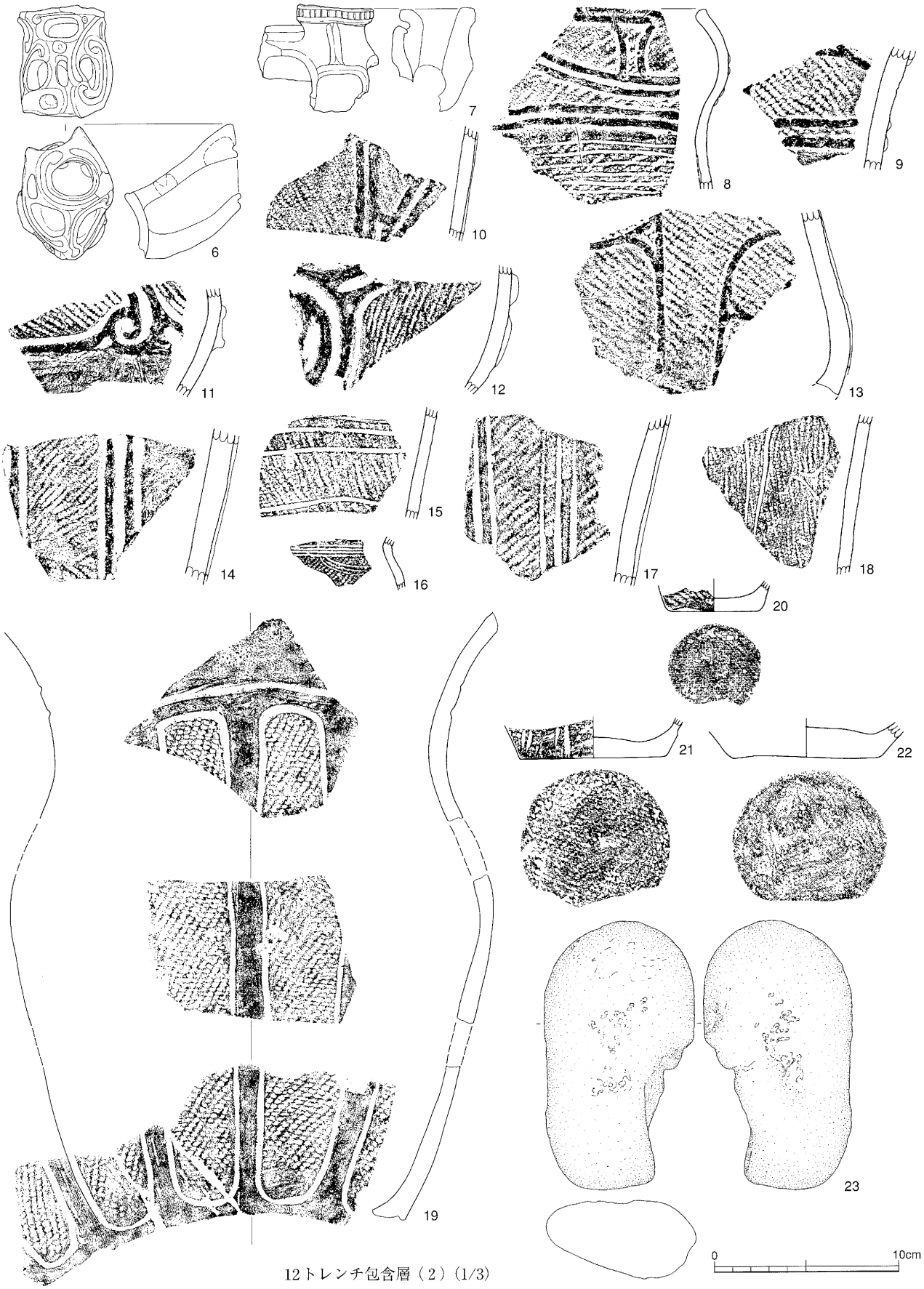


11トレンチ包含層（1～10・12－1/3、11－1/2）



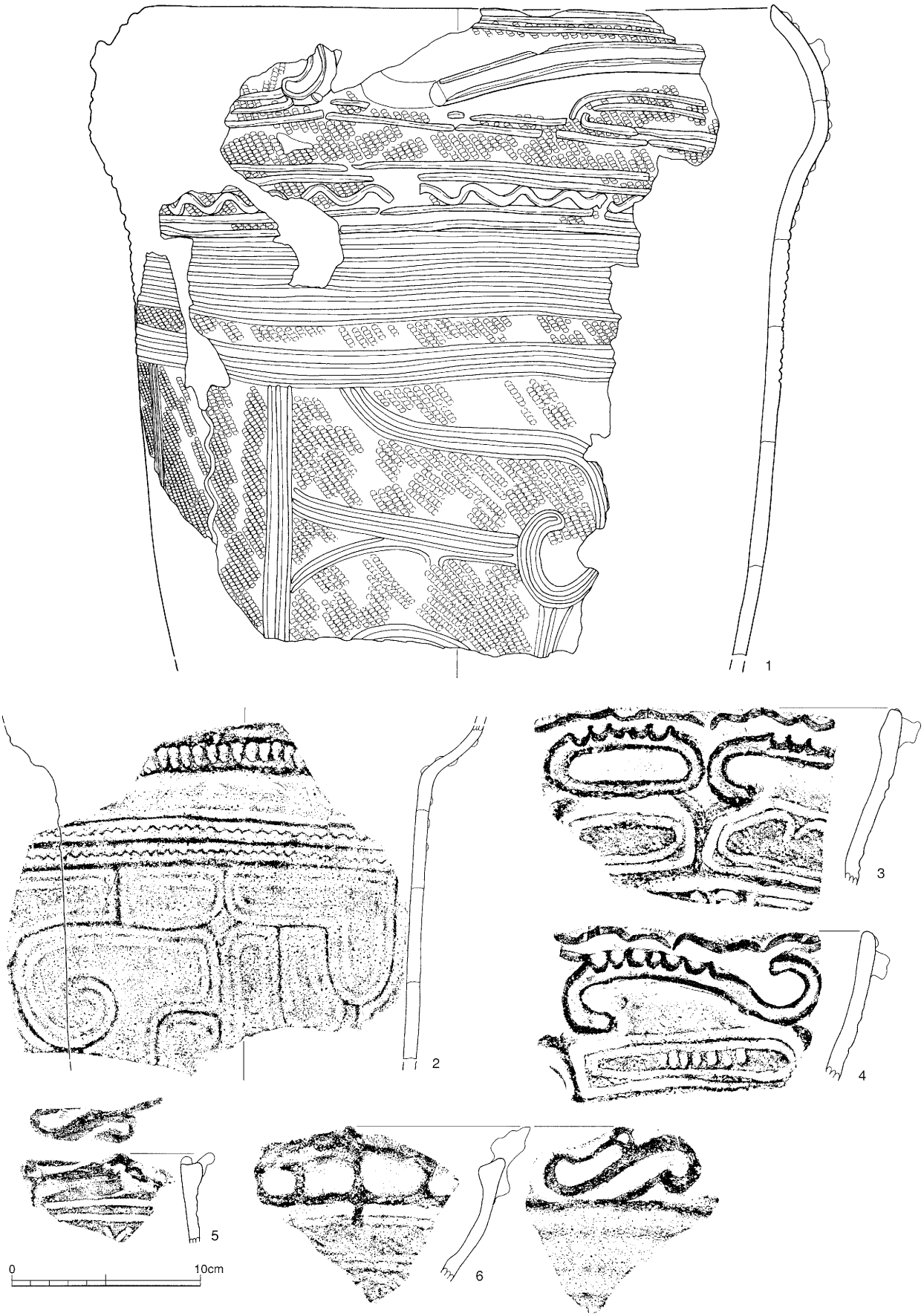
12トレンチ包含層（1）（1/3）

第28図　11トレンチ包含層、12トレンチ包含層出土遺物（1）



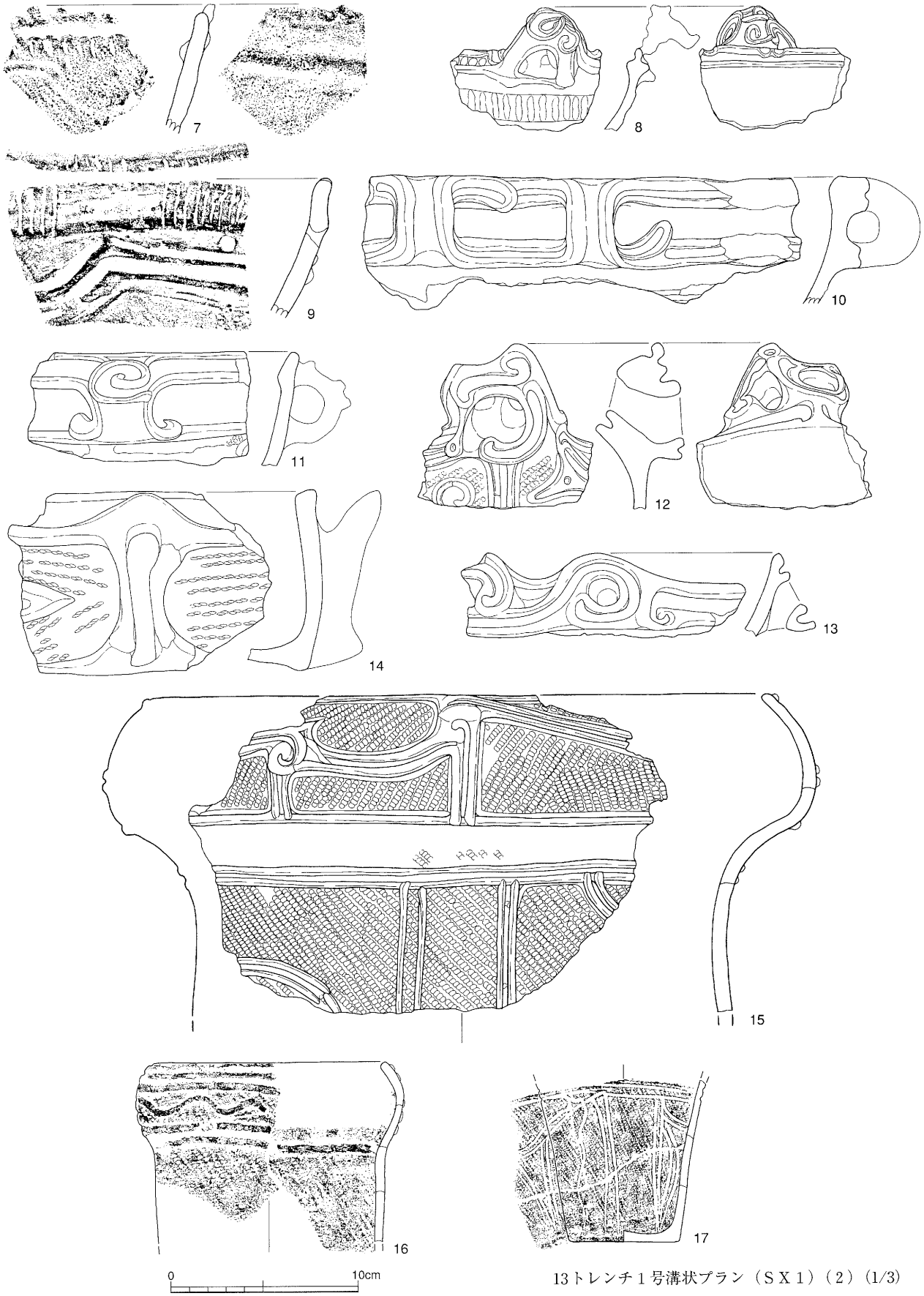
12トレンチ包含層（2）(1/3)

第29図　12トレンチ包含層出土遺物（2）



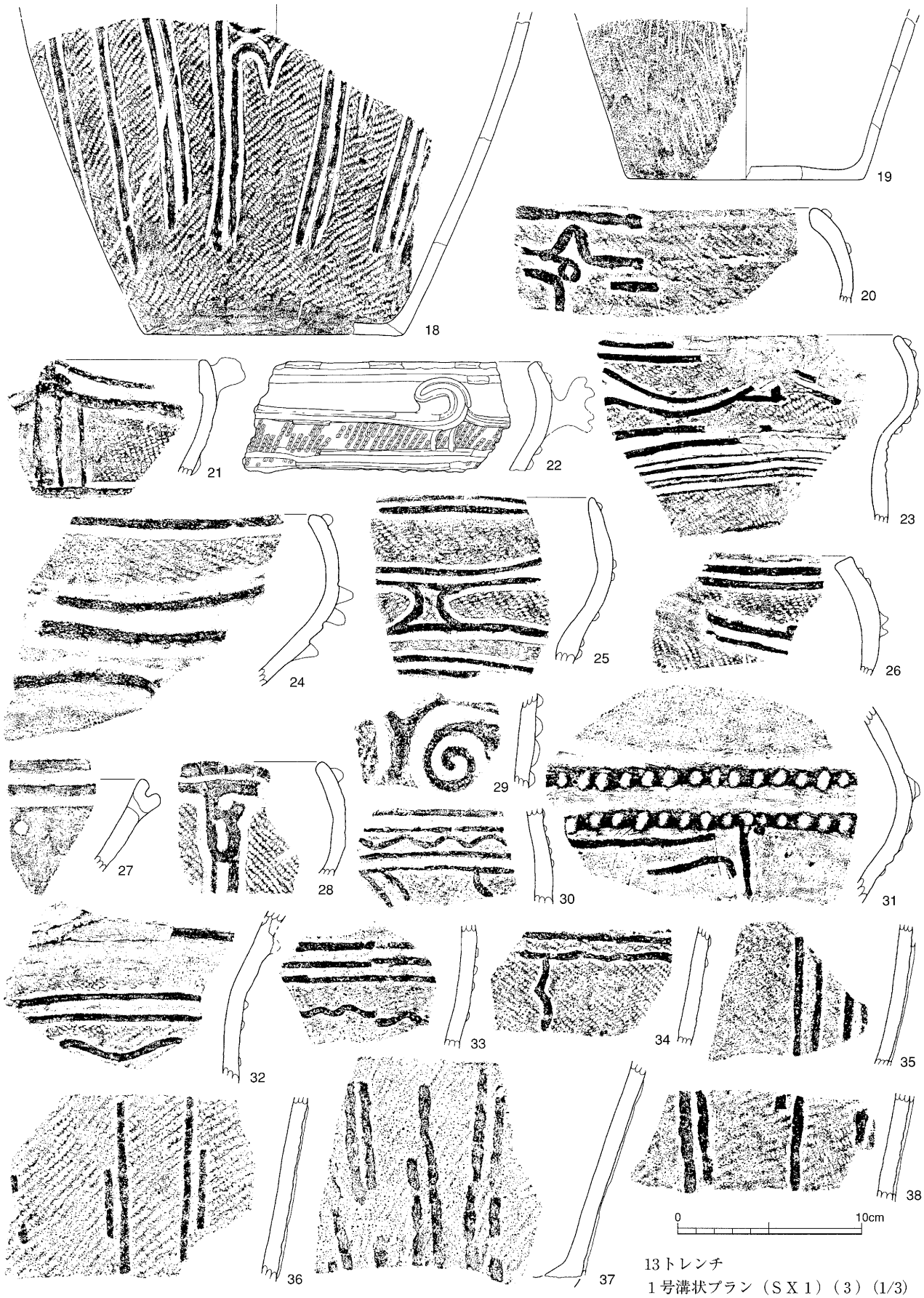
13トレンチ１号溝状プラン（ＳＸ１）（１）(1/3)

第30図　13トレンチ１号溝状プラン（ＳＸ１）出土遺物（１）

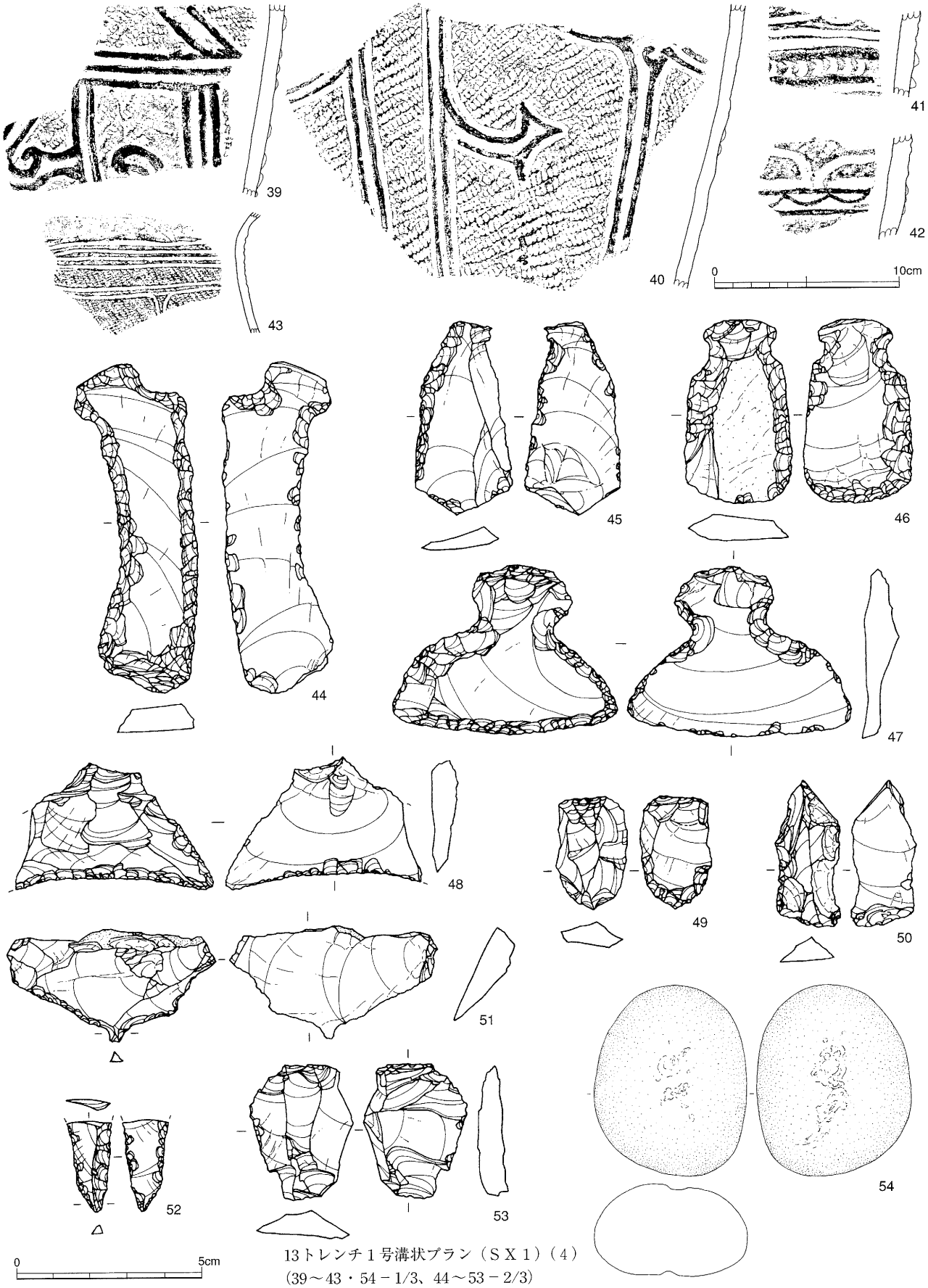


13トレンチ１号溝状プラン（ＳＸ１）（２）(1/3)

第31図　13トレンチ１号溝状プラン（ＳＸ１）出土遺物（２）

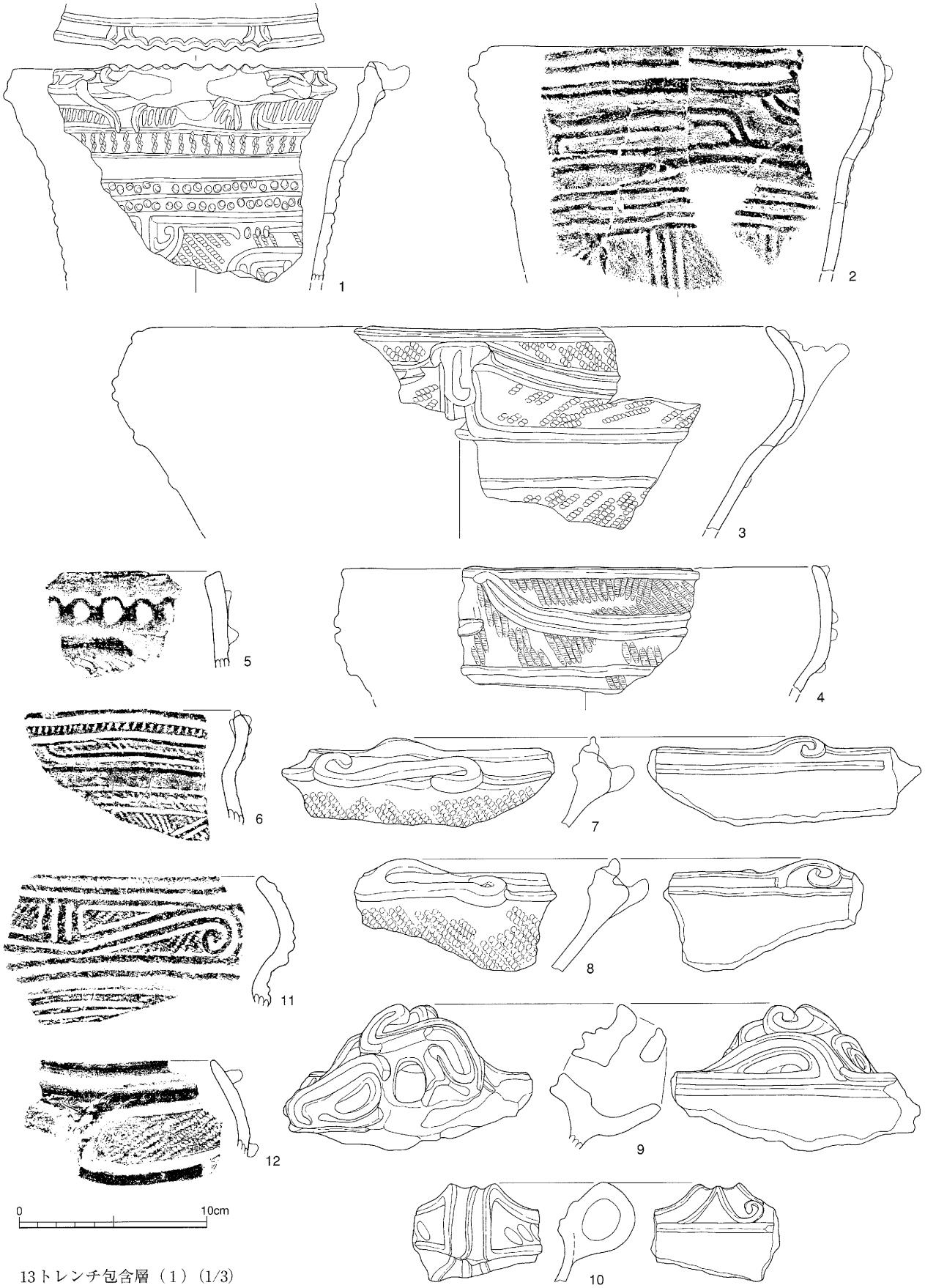


第32図　13トレンチ１号溝状プラン（ＳＸ１）出土遺物（３）



13トレンチ１号溝状プラン（ＳＸ１）（４）
（39～43・54－1/3、44～53－2/3）

第33図　13トレンチ１号溝状プラン（ＳＸ１）出土遺物（４）



13トレンチ包含層（1）(1/3)

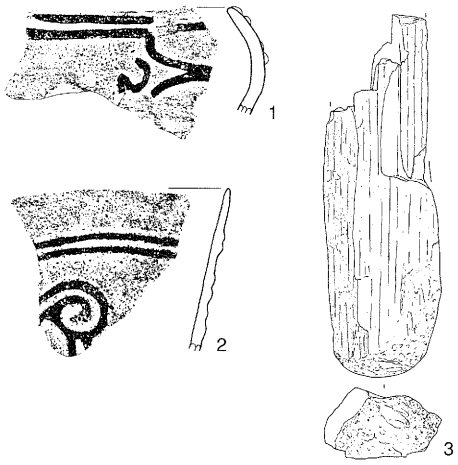
第34図　13トレンチ包含層出土遺物（1）

13トレンチ包含層（2）(1/3)

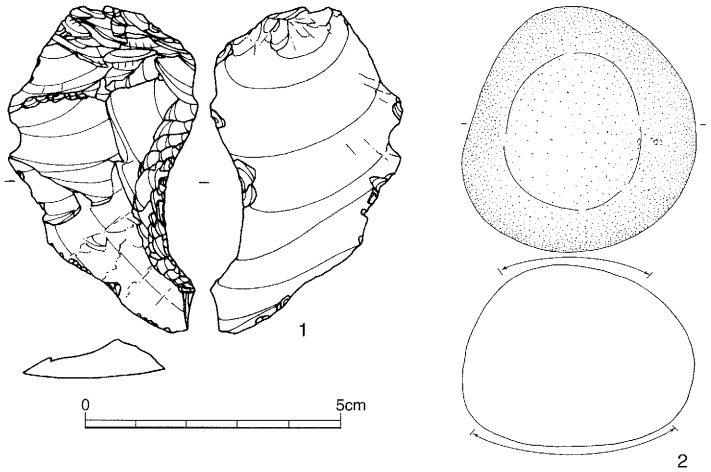
第35図　13トレンチ包含層出土遺物（2）

13トレンチ包含層（3）（31～38－2/3、39－1/3）

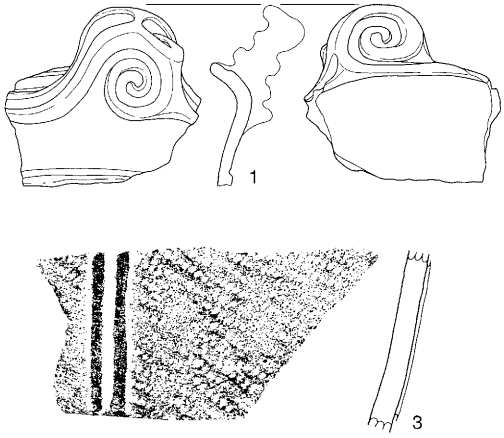
第36図　13トレンチ包含層出土遺物（3）

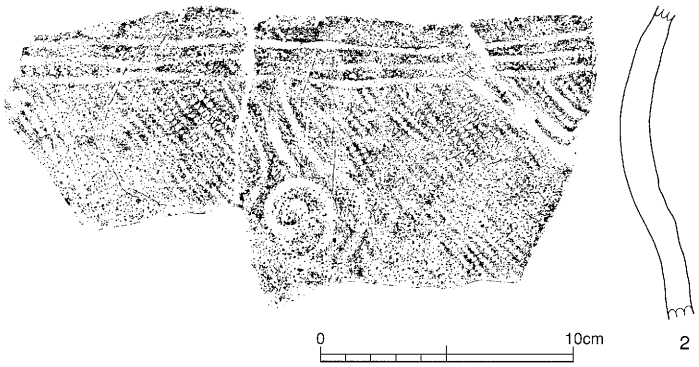


15トレンチ包含層（1/3）



18トレンチ包含層（1－2/3、2－1/3）





17トレンチ包含層（1/3）

第37図　15・17・18トレンチ出土遺物

確認調査トレンチ出土遺物観察表

土器　法量：cm、（ ）：残存値、推：推定数値
石器　大きさ：mm、重量：g、（ ）：残存値

第２表　１トレンチ包含層出土遺物観察表

挿図番号	層　位	器　種	石　材	長	幅	厚	重　量	遺存度	特　　徴	登録番号	写真図版
第12図１	Ⅰ　層	スクレイパー	珪質頁岩	(32.2)	(42.4)	10.5	13.2	右側欠損		K001	図版30－１

第３表　２トレンチ１号土坑（ＳＫ１）出土遺物観察表

挿図番号	層　位	器形・部位	口径×器高×底径	文　様　・　地　文　の　特　徴	登録番号	写真図版
第12図１	上　層	深鉢・口縁部		剥落激しい　口縁部：隆帯による横位文様区画　隆帯端部はひだ状橋状把手上に隆帯貼付け　頸部：横位楕円文区画	A001	図版13－１
第12図２	上　層	深鉢・口縁部		渦巻隆帯　口縁部扇状の舌状突起（小波状）　隆帯区画内円形刺突文	A002	図版13－２
第12図３	上　層	深鉢・口縁部		剥落激しい　口縁部隆帯装飾小把手	A003	図版13－３
第12図４	上　層	深鉢・口縁部		口縁部の開き大　隆帯による横位の退化した渦巻文	A004	図版13－４
第12図５	上　層	深鉢・口縁部		口唇部下に１条太沈線	A005	図版13－５
第12図６	上　層	深鉢・胴部		口縁部内湾　地文縄文ＬＲを充填施文　横位窓枠状隆帯区画	A006	図版13－６
第12図７	上　層	深鉢・口縁部		沈線による渦巻・弧状区画文	A007	図版13－７
第12図８	上　層	深鉢・頸部		横位＋弧状の隆線　剥落激しい	A008	図版13－８
第12図９	上　層	深鉢・胴部		地文縄文ＲＬ　弧状に隆帯貼付	A009	図版13－９
第12図10	上　層	深鉢・胴部		地文縄文ＬＲ　隆・沈線縦位文様区画内に隆帯貼付による文様　縄文充填施文　剥落激しい	A010	図版13－10
第12図11	上　層	深鉢・胴部		地文縄文ＲＬ　隆帯＋沈線による縦・横位の文様区画	A011	図版13－11

第４表　２トレンチ包含層出土遺物観察表

挿図番号	層　位	器形・部位	口径×器高×底径	文　様　・　地　文　の　特　徴	登録番号	写真図版
第12図１	Ⅰ　層	深鉢・口縁部		隆帯＋沈線による横位の渦巻・窓枠状区画　区画内に円形刺突文	A012	図版13－１
第12図２	Ⅰ　層	深鉢・口縁部		１と同一個体	A013	図版13－２
第12図３	Ⅰ　層	深鉢・口縁部		剥落激しい　地文縄文不明　貼付隆帯による横位文様区画　区画内直線・弧状の貼付隆帯	A014	図版13－３
第12図４	Ⅰ　層	深鉢・口縁部		剥落激しい　地文縄文ＬＲ不明瞭　横位沈線区画内に渦巻隆帯貼付＋沈線	A015	図版13－４
第12図５	Ⅰ　層	深鉢・口縁部		口縁部文様幅狭い　口唇部下に沈線１条　沈線下に鍔状隆帯	A016	図版13－５
第12図６	Ⅰ　層	深鉢・口縁部		口唇部欠損　隆帯＋沈線による横位渦巻文区画　区画内にＲＬの縄文	A017	図版13－６
第12図７	Ⅰ　層	深鉢・胴部		地文に２段の縄文磨滅　撚りは不明瞭　横位に複数の隆帯貼付	A018	図版13－７
第12図８	Ⅰ　層	深鉢・胴部		磨滅激しい　地文縄文ＬＲ　縦位貼付隆帯２条	A019	図版13－８
第12図９	Ⅰ　層	深鉢・胴部		磨滅激しい　地文縄文ＬＲ　横位・曲線の２条１組の隆帯貼付	A020	図版13－９
第12図10	Ⅰ　層	深鉢・胴部下半		磨滅激しい　地文縄文ＲＬ　２条１組の貼付隆帯縦位	A021	図版13－10
第12図11	Ⅰ　層	深鉢・胴部下半		磨滅激しい　地文縄文ＬＲ　２条１組の縦位沈線区画　磨消縄文	A022	図版13－11
第12図12	Ⅰ　層	深鉢・頸部		地文縄文ＲＬ　横位２条１組の平行隆帯＋沈線	A023	図版13－12
第12図13	Ⅰ　層	小形深鉢・頸部		地文縄文ＬＲ　横位細沈線	A024	図版13－13
第12図14	Ⅰ　層	深鉢・胴部		地文縄文ＲＬ　３条１組の貼付隆帯＋沈線による渦巻もしくは曲線文	A025	図版13－14
第12図15	Ⅰ　層	深鉢・底部		地文縄文ＲＬ　３条１組の縦位沈線区画	A026	図版13－15

第５表　４トレンチ包含層出土遺物観察表

挿図番号	層　位	器　種	石　材	長	幅	厚	重　量	遺存度	特　　徴	登録番号	写真図版
第13図１	Ⅰ　層	微細剥離痕のある剥片	珪質頁岩	58.5	44.1	10.0	25.5	完　形	両側縁に微細剥離痕	K002	図版30－１

第６表　５トレンチ包含層出土遺物観察表

挿図番号	層　位	器形・部位	口径×器高×底径	文　様　・　地　文　の　特　徴	登録番号	写真図版
第13図１	Ⅰｂ～２層	深鉢・口縁～頸部		地文縄文ＲＬ　貼付隆帯＋沈線による横位文様区画　渦巻文　渦巻小突起　表面タール状付着物	A027	図版14－１
第13図２	Ⅰｂ～２層	深鉢・口縁部		剥落激しい　地文不明瞭　貼付隆帯＋沈線による横位渦巻文区画	A028	図版14－２
第13図３	Ⅰｂ～２層	深鉢・口縁部		剥落激しい　地文縄文不確定（RL?）　貼付隆帯＋沈線による横位渦巻文区画	A029	図版14－３
第13図４	Ⅰｂ～２層	深鉢・口縁部		地文縄文ＲＬ　貼付隆帯＋沈線横位区画文	A030	図版14－４
第13図５	Ⅰｂ～２層	深鉢・口縁部		口縁部舌状突起　「8」字状微隆起　区画内窪む	A031	図版14－５
第13図６	Ⅰｂ～２層	深鉢・口縁部		貼付隆帯＋沈線による窓枠状文様区画　区画内横位列点文	A032	図版14－６
第13図７	Ⅰｂ～２層	深鉢・口縁部		小波状　貼付隆帯＋沈線横位文様区画　波頂部に渦巻貼付隆帯　隆帯大半剥落　区画内地文縄文ＬＲ	A033	図版14－７
第13図８	Ⅰｂ～２層	深鉢・口縁部		やや弧状を呈する微隆起帯　区画内の縄文磨滅し不明瞭（Ｒ？）	A034	図版14－８
第13図９	Ⅰｂ～２層	深鉢・口縁部		横位低隆帯＋沈線	A035	図版14－９
第13図10	Ⅰｂ～２層	深鉢・口縁部		振幅小さい波状口縁　地文縄文ＲＬ　口唇部肥厚　口唇部下に沈線	A036	図版14－10
第13図11	Ⅰｂ～２層	深鉢・口縁部		沈線による横位及び曲線的な文様・区画　区画内縄文LRを充填　磨消縄文	A037	図版14－11
第13図12	Ⅰｂ～２層	深鉢・口縁部		地文縄文ＲＬ　口唇部肥厚	A038	図版14－12
第13図13	Ⅰｂ～２層	深鉢・口縁部		地文縄文ＲＬ　口縁部端やや外反	A039	図版14－13

挿図番号	層　位	器形・部位	口径×器高×底径	文　様　・　地　文　の　特　徴	登録番号	写真図版
第13図14	Ｉｂ～２層	深鉢・口縁部		口縁部文様幅狭い　貼付隆帯＋沈線　渦巻状小突起　波状口縁	A040	図版14－14
第13図15	Ｉｂ～２層	深鉢・胴部		貼付隆帯＋沈線による渦巻文	A041	図版14－15
第13図16	Ｉｂ～２層	深鉢・胴部上半		貼付低隆帯＋沈線横位渦巻状文様区画　区画内ヘラ状施文具により斜～横位列点文	A042	図版14－16
第13図17	Ｉｂ～２層	深鉢・胴部		地文縄文ＬＲ　波状隆帯縦・横貼付	A043	図版14－17
第13図18	Ｉｂ～２層	深鉢・頸部		地文縄文ＲＬ　貼付隆帯＋沈線による横位区画文	A044	図版14－18
第13図19	Ｉｂ～２層	深鉢・胴部		曲線的な貼付隆帯　区画内縄文ＬＲ充填	A045	図版14－19
第13図20	Ｉｂ～２層	深鉢・頸～胴部		剥落激しい　地文縄文ＲＬ？　太沈線による逆「Ｕ」字あるいは波状文磨消縄文	A046	図版14－20
第13図21	Ｉｂ～２層	深鉢・胴部		太沈線による曲線文区画　区画内に縄文ＬＲを充填	A047	図版14－21
第13図22	Ｉｂ～２層	深鉢・胴部		横位短沈線による列点文	A048	図版14－22
第14図23	Ｉｂ～２層	深鉢・底部	－×－×(10)		A049	図版14－23
第14図24	Ｉｂ～２層	深鉢・底部	－×－×10		A050	図版14－24
第14図25	Ｉｂ～２層	浅鉢注口部？		注口部小突起　隆帯による渦巻文　外面赤色顔料塗付	A051	図版14－25
第14図26	Ｉｂ～２層	？・胴部		沈線　裏面に漆？付着	A052	図版14－26
第14図27	Ｉｂ～２層	注口土器・注口部		体部との接合面良好に残る	A053	図版14－27
第14図28	Ｉｂ～２層	手捏ミニチュア・完形	2.1×2.5×1.5～2.9	指頭痕	A054	図版14－28
	Ｉｂ～２層	焼粘土塊		手捏	P003	図版14（写真資料）

挿図番号	層　位	器　種	石　材	長	幅	厚	重　量	遺存度	特　徴	登録番号	写真図版
第14図29	Ｉｂ～２層	スクレイパー	珪質頁岩	51.9	62.0	11.8	35.1	右側欠損	下辺刃部	K003	図版31－29
第14図30	Ｉｂ～２層	スクレイパー	珪質頁岩	37.8	35.0	7.5	14.4	完　形	下辺刃部	K004	図版31－30
第14図31	Ｉｂ～２層	スクレイパー	珪質頁岩	48.2	35.6	7.2	17.6	上端欠損	下半縁辺刃部	K005	図版31－31
第14図32	Ｉｂ～２層	スクレイパー	凝灰岩	70.8	56.5	8.5	60.3	上端欠損	両側縁下位に刃部　左側刃部は弱い抉り　下辺に微細剥離痕	K006	図版31－32
第14図33	Ｉｂ～２層	凹　石	閃緑岩	117.2	87.0	55.8	855	完　形	両面中央に敲打による窪み　裏面は広く弱い敲打痕	K044	
第14図34	Ｉｂ～２層	磨　石	安山岩	136.1	67.8	40.7	505	完　形	両面と右側縁を使用　右側縁に面取り状の磨面	K045	
第15図35	Ｉｂ～２層	石　皿	安山岩	317.9	256.8	84.4	9000	完　形	正面を使用面とする扁平石皿	K046	図版31－35
第15図36	Ｉｂ～２層	石　皿	砂　岩	(161.9)	221.9	29.2	1070	上半欠損	隅丸長方形　縁取り・底面脚部作り出し（底面磨耗顕著）使用面中央滑らか	K047	図版31－36

第７表　６トレンチ１号住居跡（ＳＩ１）出土遺物観察表

挿図番号	層　位	器形・部位	口径×器高×底径	文　様　・　地　文　の　特　徴	登録番号	写真図版
第16図１	１・２層	深鉢・口縁部		地文縄文ＬＲ　貼付隆帯＋沈線　渦巻状隆帯横位区画	A055	図版15－１
第16図２	１・２層	深鉢・胴部		磨滅激しい　地文縄文ＲＬ？　２条１組貼付隆帯縦位文様区画	A056	図版15－２
第16図３	１・２層	深鉢・胴部		地文縄文ＲＬ２条１組貼付隆帯＋沈線縦位文様区画	A057	図版15－３
第16図４	１・２層	深鉢・胴部		地文縄文ＲＬ　２条１組渦巻状沈線	A058	図版15－４
第16図５	１・２層	深鉢・胴部		磨滅激しい　地文縄文ＬＲ？　２本１組縦位平行沈線　磨消縄文	A059	図版15－５
第16図６	１・２層	深鉢・胴部		地文異方向回転縄文ＬＲ	A060	図版15－６
第16図７	１・２層	深鉢・底部	－×－×5.5	磨滅激しい　縄文不明　２条１組縦位細沈線	A061	図版15－７
第16図８	１・２層	深鉢・底部		３条１組縦位細沈線	A062	図版15－８

挿図番号	層　位	器　種	石　材	長	幅	厚	重　量	遺存度	特　徴	登録番号	写真図版
第16図９	上層	凹　石	閃緑岩	86.5	70.7	37.2	325	完　形	両面に敲打による浅い窪み	K048	

第８表　６トレンチ包含層出土遺物観察表

挿図番号	層　位	器形・部位	口径×器高×底径	文　様　・　地　文　の　特　徴	登録番号	写真図版
第16図１	Ｉ　層	深鉢・口縁～胴部		口縁部内湾　二重口縁風　地文縄文ＬＲＬ？　口縁部２条１組貼付隆帯＋沈線による細線　胴部縦位文様区画　器表面頸部までタール状物質付着	A063	図版15－１
第16図２	Ｉｂ～Ⅱｂ、ＳＩ１	深鉢・口縁部		磨滅激しい　地文縄文不明　口唇直下に段　２条１組細沈線横位渦巻文	A064	図版15－２
第16図３	Ｉｂ～Ⅱｂ、ＳＩ１上層	深鉢・口縁部		２条１組の貼付横位隆帯＋沈線区画　区画内細沈線	A065	図版15－３
第16図４	Ｉｂ～Ⅱｂ、ＳＩ１上層	深鉢・口縁部		磨滅激しい　貼付隆帯＋沈線　口縁部横位窓枠状区画　区画内縄文ＲＬ	A066	図版15－４
第16図５	Ｉｂ～Ⅱｂ、ＳＩ１	深鉢・口縁部		磨滅激しい　貼付隆帯＋沈線　横位渦巻＋窓枠状区画　地文不明	A067	図版15－５
第16図６	Ｉ　層	深鉢・口縁部		磨滅激しい　地文縄文ＲＬ？　貼付隆帯＋沈線　渦巻文＋横位窓枠状区画	A068	図版15－６
第16図７	Ｉｂ～Ⅱｂ、ＳＩ１	深鉢・口縁部		磨滅激しい　地文縄文不明　６とほぼ同様の文様構成	A069	図版15－７
第16図８	Ｉｂ～Ⅱｂ、ＳＩ１	深鉢・口縁部		口縁部舌状突起　波状口縁　波頂部貼付渦巻文＋沈線　頸部以下ワラビ手状貼付隆帯＋沈線　地文縄文ＬＲ　磨消縄文	A070	図版15－８
第16図９	Ｉ　層	深鉢・頸部		地文縄文ＲＬ　隆帯貼付＋沈線　渦巻文	A071	図版15－９
第16図10	Ｉｂ～Ⅱｂ、ＳＩ１	深鉢・胴部		頸部下３条１組横位沈線　沈線下に地文縄文ＲＬ	A072	図版15－10

挿図番号	層　位	器形・部位	口径×器高×底径	文　様　・　地　文　の　特　徴	登録番号	写真図版
第16図11	Ⅰb～Ⅱb、ＳⅠ1	深鉢・頸～胴部		２条１組貼付隆帯＋沈線による渦巻文	A073	図版15－11
第16図12	Ⅰb～Ⅱb、ＳⅠ1	深鉢・口縁～胴部		胴部２条１組の貼付隆帯＋沈線縦位区画　区画内貼付隆帯による渦巻文	A074	図版15－12
第16図13	Ⅰb～Ⅱb、ＳⅠ1	深鉢・口縁下～胴部上半		地文ＬＲ縄文横位　太沈線＋低隆帯　横位楕円区画文	A075	図版15－13
第16図14	Ⅰb～Ⅱb、ＳⅠ1	深鉢・胴部		磨滅激しい　地文縄文ＬＲ横位回転　２条１組貼付隆帯＋沈線　楕円・弧状の文様区画構成	A076	図版15－14
第16図15	Ⅰ　層	深鉢・胴部		磨滅著しい　地文縄文２段撚り不明　２条１組貼付隆帯＋沈線　渦巻文	A077	図版15－15
第16図16	Ⅰ　層	深鉢・口縁～胴部上半		地文縄文ＬＲ　貼付隆帯＋沈線　口縁横位楕円区画　胴部縦位文様区画	A078	図版15－16
第16図17	Ⅰb～Ⅱb、ＳⅠ1	深鉢・胴部		地文縄文ＲＬ　２条１組貼付隆帯渦巻文	A079	図版15－17
第16図18	Ⅰb～Ⅱb、ＳⅠ1上層	深鉢・胴部下半		地文縄文ＲＬＲかＲＬ　２条１組貼付隆帯＋沈線　懸垂文	A080	図版15－18
第17図19	Ⅰ　層	深鉢・胴部		地文縄文ＲＬ　２条１組貼付隆帯＋沈線　懸垂文	A081	図版15－19
第17図20	Ⅰb～Ⅱb、ＳⅠ1上層	深鉢・胴部下半		地文縄文ＲＬ　２条１組貼付隆帯＋沈線　縦位文様区画	A082	図版15－20
第17図21	Ⅰ　層	深鉢・胴部		地文縄文ＲＬ？　３条１組貼付隆帯　渦巻文？	A083	図版15－21
第17図22	Ⅰb～Ⅱb、ＳⅠ1上層	深鉢・胴部		地文縄文ＲＬ　幅広低隆帯中央を指頭により２条に分割　渦巻文	A084	図版15－22
第17図23	Ⅰb～Ⅱb、ＳⅠ1上層	深鉢・胴部		磨滅激しい　地文縄文ＬＲ？　間隔の広い２条１組の貼付隆帯＋沈線	A085	図版15－23
第17図24	Ⅰ　層	深鉢・胴部下半		磨滅激しい　地文縄文ＬＲないしＲ　２条１組の縦位沈線　磨消縄文	A086	図版15－24
第17図25	Ⅰb～Ⅱb、ＳⅠ1	深鉢・胴部		地文縄文ＲＬ　縦位隆帯＋隆帯脇沈線	A087	図版15－25
第17図26	Ⅰ　層	深鉢・胴部		地文縄文ＲＬ　縦位２条１組の沈線　磨消縄文	A088	図版15－26
第17図27	Ⅰb～Ⅱb、ＳⅠ1	深鉢・胴部		地文縄文ＲＬ	A089	図版15－27
第17図28	Ⅰb～Ⅱb、ＳⅠ1	深鉢・胴部		剥落激しい　３条１組沈線による縦・横位文様区画　縄文ＬＲを充填施文　磨消縄文	A090	図版15－28
第17図 29	Ⅰb～Ⅱb、ＳⅠ1	深鉢・胴部		地文縄文ＲＬ　２条１組の沈線による縦位文様区画　渦巻状文様　磨消縄文	A091	図版15－29
第17図30	Ⅰb～Ⅱb、ＳⅠ1	深鉢・胴部		地文縄文ＲＬ　２条１組の沈線＋隆帯による横位楕円区画　渦巻文　磨消縄文	A092	図版15－30
第17図31	Ⅰb～Ⅱb、ＳⅠ1	深鉢・胴部		地文縄文ＬＲ　２条１組の沈線＋隆帯による区画文	A093	図版15－31
第17図32	Ⅰb～Ⅱb、ＳⅠ1	深鉢・胴部		地文縄文ＬＲ　２条１組の沈線＋隆帯による区画文	A094	図版15－32
第17図33	Ⅰb～Ⅱb、ＳⅠ1上層	深鉢・底部	－×－×5.2	胴部下端まるみをもち立ち上がる	A095	図版15－33
第17図34	Ⅰb～Ⅱb、ＳⅠ1上層	深鉢・底部	－×－×5.0	胴部下端直線的に立ち上がる	A096	図版15－34

挿図番号	層　位	器　種	石　材	長	幅	厚	重　量	遺存度	特　　徴	登録番号	写真図版
第17図35	Ⅰ　層	微細剥離痕のある剥片	メノウ	(28.6)	20.9	6.0	4.6	下部欠損	両側縁に微細剥離痕	K007	図版30－35
第17図36	Ⅰ　層	スクレイパー	珪質頁岩	39.7	51.8	10.6	20.0	完　形	下辺刃部	K008	図版30－36
第17図37	Ⅰb～Ⅱb、ＳⅠ1上層	石　核	珪質頁岩？	44.8	59.5	15.9	43.5		剥片を素材とする　石材に黒色雲母含む	K009	図版30－37
第18図38	Ⅰb～Ⅱb、ＳⅠ1上層	敲　石	砂　岩	206.4	81.2	64.5	1540	完　形	裏面に自然面残存　敲石以外の製品か？	K049	
第18図39	ⅠbⅡb～ＳⅠ1	敲　石	閃緑岩	144.7	111.7	24.2	610	完　形	扁平礫下端に剥離を伴う敲打部	K050	図版30－39
第18図40	Ⅰb～Ⅱb、ＳⅠ1上層	敲　石	凝灰岩	(76.1)	35.0	26.1	100.7	上半欠損	棒状礫下端に敲打痕集中	K051	
第18図41	Ⅰ　層	凹　石	閃緑岩	106.8	85.1	48.5	600	完　形	両面に敲打による窪み　２カ所連結	K052	
第18図42	Ⅰ　層	凹　石	閃緑岩	109.8	77.2	57.5	470	完　形	両面・両側縁に敲打による窪み両面・左側縁２カ所連結両側縁は面取り状	K053	
第18図43	Ⅰ　層	磨　石	安山岩	84.0	69.5	50.5	345	完　形	両面を使用	K054	
第18図44	Ⅰ　層	磨　石	閃緑岩	81.5	73.0	49.8	410	完　形	両面を使用	K055	
第18図45	Ⅰ　層	磨　石	閃緑岩	102	91.1	54.8	705	完　形	両面を使用	K056	
第18図46	Ⅰb～ＳⅠ1・2上層、8・9層	磨　石	安山岩	128.1	89.2	53.4	940	完　形	両面を使用	K057	
第18図47	Ⅰ　層	磨　石	閃緑岩	179.7	113.6	62.8	1500	完　形	両面と右側縁を使用　右側縁に面取り状の磨面	K058	図版30－47
第18図48	Ⅰ　層	台　石	閃緑岩	147.5	123.4	54.7	1405	完　形	正面中央下位に弱い敲打痕集中凹石類似	K059	
第19図49	Ⅰ　層	台　石	多孔質安山岩	251.2	228.8	57.2	4170	完　形	正面中央～左側に敲打痕集中扁平石皿類似	K060	
第19図50	Ⅰ　層	石　棒	砂　岩	290.0	87.1	79.6	2330	完　形	裏面に自然面残存　全体的に弱い敲打	K061	図版30－50
第19図51	Ⅰ　層	砥　石	砂　岩	179.5	160.1	49.2	1720	完　形	粒子粗い　両面を使用し　裏面中央に２カ所の敲打による窪みが並列	K062	

第９表　７トレンチ１号住居跡（ＳＩ１）出土遺物観察表

挿図番号	層　位	器形・部位	口径×器高×底径	文　様　・　地　文　の　特　徴	登録番号	写真図版
第20図１	１・２層	深鉢・口縁部		隆帯による横位窓枠状区画　隆帯中央短沈線による渦巻文	A097	図版16－１
第20図２	１・２層	深鉢・口縁部		地文縄文ＲＬ？　貼付隆帯＋沈線による横位文様区画　渦巻文	A098	図版16－２
第20図３	１・２層	深鉢・口縁部		地文縄文ＲＬ　波状口縁　波状部高さのある渦巻文垂下	A099	図版16－３
第20図４	１・２層	深鉢・口縁部		波状口縁　微隆起帯による逆Ｕ字状の文様構成　区画内：回転方向を変化させた縄文ＲＬを充填	A100	図版16－４
第20図５	１・２層	深鉢・口縁部		高さに富む隆帯＋沈線による文様区画　渦巻文	A101	図版16－５
第20図６	１・２層	深鉢・胴部		幅広の横位多沈線＋隆帯による縦・横位文様区画	A102	図版16－６
第20図７	１・２層	深鉢・胴部		剥落激しい　地文縄文ＲＬ　２条１組の隆帯による渦巻文	A103	図版16－７
第20図８	１・２層	深鉢・胴部		剥落激しい　２条１組の沈線による平行沈線文	A104	図版16－８
第20図９	１・２層	深鉢・胴部		剥落激しい　地文縄文ＲＬ　平行沈線によるＵ字・逆Ｕ字状文様構成　磨消縄文	A105	図版16－９
第20図10	１・２層	深鉢・胴部		剥落激しい　地文縄文ＲＬ？　平行沈線による曲線的Ｊ字区画　磨消縄文	A106	図版16－10
第20図11	１・２層	深鉢・胴部		剥落激しい　地文縄文ＲＬ？　平行沈線による曲線的な文様	A107	図版16－11
第20図12	１・２層	深鉢・底部	－×－×12.5	胴部下端は直線的に外傾する　横位のヘラミガキ状工具痕	A108	図版16－12

挿図番号	層　位	器　種	石　材	長	幅	厚	重　量	遺存度	特　　徴	登録番号	写真図版
第20図13	１・２層	スクレイパー	珪質頁岩	52.2	37.5	13.0	20.2	完　形	両側縁の一部に二次加工	K010	図版32－13
第20図14	１・２層	微細剥離痕のある剥片	珪質頁岩	(58.0)	34.9	5.8	11.6	下端欠損	両側縁に微細な剥離痕	K011	図版32－14
第20図15	１・２層	スクレイパー	珪質頁岩	(19.3)	(46.8)	6.2	4.9	先端部破片	横形石匙の端部破片？	K012	図版32－15
第20図16	１・２層	凹　石	閃緑岩	113.4	103.6	61.2	985	完　形	正面中央に敲打による窪み２カ所連結	K063	
第20図17	１・２層	凹　石	閃緑岩	126.8	92.4	57.0	870	完　形	正面中央に敲打による窪み裏面２カ所	K064	
第20図18	１・２層	磨　石	閃緑岩	100.4	87.9	58.7	720	完　形	両面を使用　両面とも中央部が平坦化	K065	
第20図19	１・２層	磨　石	閃緑岩	185.1	92.6	57.5	1550	完　形	両面と左側縁を使用　左側縁に面取り状の磨面	K066	

第10表　７トレンチ２号住居跡（ＳＩ２）出土遺物観察表

挿図番号	層　位	器形・部位	口径×器高×底径	文　様　・　地　文　の　特　徴	登録番号	写真図版
第21図１	３・４層	深鉢・口縁～胴部上半		受け口状二重口縁、地文縄文ＬＲ　口縁部：２条１組の貼付隆帯　クランク文　胴部：２条１組弧状沈線	A109	図版16－１
第21図２	３・４層	深鉢・口縁部		剥落激しい　地文縄文ＲＬ？　２条１組の貼付隆帯によるクランク文　口縁部湾曲　ＳＩ１と接合	A110	図版16－２
第21図３	３・4～8・9層	深鉢・口縁～胴部		高さのある隆帯による横位文様区画　区画内横位綾杉文	A111	図版16－３
第21図４	３・４層	深鉢・口縁部		高く幅広の隆帯による横位楕円区画　区画内横位綾杉文	A112	図版16－４
第21図５	３・４層	深鉢・口縁～胴部		受け口状二重口縁　口唇部に沈線　口縁部渦巻小突起	A113	図版16－５
第21図６	３・４層	深鉢・口縁部		波状口縁　波頂部渦巻突起　２条１組の貼付隆帯による横位渦巻区画	A114	図版16－６
第21図７	３・４層	深鉢・頸～胴部		地文縄文ＬＲ　頸部：貼付隆帯横位波状文　胴部：貼付隆帯＋沈線クランク文	A115	図版16－７
第21図８	３・４層	深鉢・頸部		剥落激しい　頸部：横位貼付波状隆帯　３条１組横位隆帯	A116	図版16－８
第21図９	３・４層	深鉢・頸部		剥落激しい　地文縄文ＬＲ　２条１組横位並行隆帯	A117	図版16－９
第21図10	３・４層	深鉢・頸部		剥落激しい　２条１組横位貼付隆帯を２段　隆帯間に貼付波状隆帯	A118	図版16－10
第21図11	３・４層	深鉢・胴部		剥落激しい　２条１組縦位貼付隆帯	A119	図版16－11
第21図12	３・４層	深鉢・胴部		地文縄文ＬＲ　３条１組沈線による剣先状渦巻文	A120	図版16－12
第21図13	３・４層	深鉢・胴部		地文縄文ＬＲ　３条１組細沈線による弧線文	A121	図版16－13
第21図14	３・４層	深鉢・口縁部		剥落激しい　地文縄文ＲＫ？　沈線による逆Ｕ字状文様　磨消縄文	A122	図版16－14
第21図15	３・４層	深鉢・胴部		剥落激しい　太沈線による曲線的文様区画　区画内縄文ＲＬ？　磨消縄文	A123	図版16－15
第21図16	３・４層	深鉢・底部	－×－×13.3	内面・外面に網代痕	A124	図版16－16

挿図番号	層　位	器　種	石　材	長	幅	厚	重　量	遺存度	特　　徴	登録番号	写真図版
第21図17	３・４層	スクレイパー	珪質頁岩	36.9	47.0	8.1	13.5	完　形	上辺に二次加工	K013	図版32－17
第21図18	３・４層	微細剥離痕のある剥片	珪質頁岩	52.2	29.8	8.0	13.0	完　形	左側縁から右側縁にかけて微細な剥離痕	K014	図版32－18

第11表　７トレンチ１号埋設土器（ＳＸ１）出土遺物観察表

挿図番号	層　位	器形・部位	口径×器高×底径	文　様　・　地　文　の　特　徴	登録番号	写真図版
第22図１	上　層	深鉢・口縁部		剥落激しい　太沈線によるＣ字・逆Ｃ字状の曲線的文様区画が見られ区画内に回転方向を変え縄文ＬあるいはＬＲを充填施文　磨消縄文　１～８は同一個体	A125	図版17－１
第22図２	上　層	深鉢・胴部		同　上	A126	図版17－２
第22図３	上　層	深鉢・胴部		同　上	A127	図版17－３
第22図４	上　層	深鉢・胴部		同　上	A128	図版17－４
第22図５	上　層	深鉢・胴部		同　上	A129	図版17－５
第22図６	上　層	深鉢・胴部		同　上	A130	図版17－６

挿図番号	層　位	器形・部位	口径×器高×底径	文　様　・　地　文　の　特　徴	登録番号	写真図版
第22図７	上　層	深鉢・胴部		同　上	A131	図版17－７
第22図８	上　層	深鉢・胴部		同　上	A132	図版17－８

第12表　７トレンチ包含層出土遺物観察表

挿図番号	層　位	器形・部位	口径×器高×底径	文　様　・　地　文　の　特　徴	登録番号	写真図版
第22図１	Ⅰ～３・４層	深鉢・口縁部		貼付隆帯　横位文様区画　剣先状渦巻文　区画内横位綾杉文	A133	図版17－１
第22図２	３・4～8・９層	深鉢・口縁部		波状口縁　波頂部隆帯＋沈線渦巻突起　高い隆帯横位楕円区画　３と同一個体	A134	図版17－２
第22図３	３・4～8・９層	深鉢・口縁部		同　上	A135	図版17－３
第22図４	Ⅰ　層	深鉢・口縁部		地文縄文ＬＲ　小波状口縁　貼付隆帯＋沈線　渦巻文	A136	図版17－４
第22図５	Ⅰb～ＳⅠ1・2上層、8・9層	深鉢・口縁部		渦巻小突起　波状口縁	A137	図版17－５
第22図６	Ⅰ　層	深鉢・口縁部		波状口縁　波頂部に貼付隆帯＋沈線　渦巻文　横位文様区画	A138	図版17－６
第22図７	８・９層	深鉢・口縁部		太沈線による曲線的文様区画　剝落激しい　縄文ＲＬを充填　磨消縄文	A139	図版17－７
第22図８	８・９層	深鉢・胴部		太沈線による直線的な文様区画　地文縄文ＲＬ	A140	図版17－８
第22図９	８・９層	深鉢・口縁部		剝落激しい　太沈線による曲線的文様区画　区画内縄文施文　撚り不明　磨消縄文	A141	図版17－９
第22図10	Ⅰb～ＳⅠ1・2上層、8・9層	深鉢・口縁部		剝落激しい　貼付隆帯による曲線的文様区画　区画内縄文不明	A142	図版17－10
第22図11	８・９層	深鉢・口縁部		口縁部湾曲　単沈線・複沈線による逆Ｕ字状曲線的文様	A143	図版17－11
第22図12	８・９層	深鉢・胴部		地文縄文ＬＲ　２条１組隆帯垂下	A144	図版17－12
第22図13	８・９層	深鉢・胴部		地文縄文ＬＲ　平行沈線間に刻み　以下に単沈線による斜格子文	A145	図版17－13
第22図14	８・９層	深鉢・胴部		剝落激しい　地文縄文ＲＬ？	A146	図版17－14
第22図15	Ⅰb～ＳⅠ1・2上層、8・9層	深鉢・胴部		地文縄文ＬＲ　横位？隆帯＋沈線　渦巻文	A147	図版17－15
第22図16	Ⅰb～ＳⅠ1・2上層、8・9層	深鉢・口縁下～胴部上半		剝落激しい　地文縄文ＲＬ？　隆帯＋沈線による横位文様区画　渦巻文	A148	図版17－16
第22図17	Ⅰb～ＳⅠ1・2上層、8・9層	深鉢・胴部		地文縄文ＬＲ　２条１組貼付隆帯＋沈線　区画文　懸垂文	A149	図版17－17
第22図18	Ⅰ　層	深鉢・胴部		剝落激しい　地文縄文ＲＬ？　貼付隆帯＋沈線　渦巻文・区画文	A150	図版17－18
第23図19	Ⅰb～ＳⅠ1・2上層、8・9層	深鉢・胴部		地文縄文ＲＬ　微隆起帯による文様構成	A151	図版17－19
第23図20	８・９層	深鉢・胴部		剝落激しい　３条縦位平行沈線　磨消縄文	A152	図版17－20
第23図21	８・９層	深鉢・胴部		剝落激しい　太沈線逆Ｕ字状文様区画　区画内縄文未確定　磨消縄文	A153	図版17－21
第23図22	８・９層	深鉢・胴部		剝落激しい　２条１組Ｕ字状沈線区画　区画内縄文未確定　磨消縄文	A154	図版17－22
第23図23	８・９層	深鉢・胴部		剝落激しい　太沈線Ｕ字状文様区画　区画内縄文ＲＬ充填　磨消縄文	A155	図版17－23
第23図24	８・９層	深鉢・胴部		剝落激しい　３条１組太沈線曲線的文様区画　区画内地文縄文ＬＲ　磨消縄文	A156	図版17－24
第23図25	８・９層	深鉢・底部		全体の1／8程度残存　剝落激しい　地文縄文未確定　２条１組貼付隆帯垂下	A157	図版17－25
第23図26	８・９層	深鉢・底部	－×－×8.2	地文縄文ＬＲ　胴部下端から直線的に外傾する	A158	図版17－26
第23図27	８・９層	土偶・脚部		表・裏面横位平行沈線	P001	図版18－27

挿図番号	層　位	器　種	石　材	長	幅	厚	重　量	遺存度	特　　徴	登録番号	写真図版
第23図28	Ⅰb～ＳⅠ1・2上層、8・9層	スクレイパー	珪質頁岩	84.9	33.5	6.0	25.8	完　形	縦形　つまみ部の括れ弱い	K015	図版32－28
第23図29	Ⅰ　層	石　匙	珪質頁岩	59.5	30.9	8.5	12.6	完　形	縦形	K016	図版32－29
第23図30	Ⅰ　層	スクレイパー	珪質頁岩	40.3	45.0	5.4	8.8	ほぼ完形	横形　つまみ部不明瞭　左側縁の一部欠損	K017	図版32－30
第23図31	Ⅰb～ＳⅠ1・2上層、8・9層	微細剝離痕のある剝片	珪質頁岩	54.4	41.9	8.4	12.0	完　形	右側縁に微細剝離痕	K018	図版32－31
第23図32	Ⅰ　層	微細剝離痕のある剝片	珪質頁岩	33.8	35.5	9.6	11.4	完　形	左側縁に微細剝離痕	K019	図版32－32
第23図33	上　層	微細剝離痕のある剝片	頁　岩	47.0	55.4	10.0	22.7	完　形	左側縁に微細剝離痕	K020	図版32－33
第24図34	８・９層	打製石斧	安山岩	(103.7)	74.9	23.0	205	ほぼ完形	分銅形　上下縁使用に伴う欠損？	K067	図版32－34
第24図35	Ⅰb～ＳⅠ1・2上層、8・9層	敲　石	閃緑岩	109.3	112.8	37.0	525	完　形	下端に剝離を伴う敲打痕集中　正面中央に弱い敲打痕集中　台石あるいは凹石類似	K068	
第24図36	Ⅰb～９層	凹　石	安山岩	119.8	65.5	39.0	275	完　形	両面・両側縁に窪み　両面・両側縁とも２カ所連結　風化・磨耗著しい	K069	
第24図37	Ⅰb～９層	凹　石	閃緑岩	123.8	77.3	46.2	680	完　形	両面に敲打による窪み　２カ所左側縁に面取り状の磨面	K070	
第24図38	８・９層	凹　石	閃緑岩	121.8	83.0	25.2	385	完　形	両面中央に敲打による窪み　扁平礫素材	K071	
第24図39	Ⅰb～９層	石　皿	閃緑岩	168.9	178.0	63.9	2860	完　形	厚みのある扁平礫素材　正面使用面　研磨痕著しく滑らか	K072	
第24図40	Ⅰb～ＳⅠ1・2上層、8・9層	石　皿	閃緑岩	254.6	236.2	53.8	4870	完　形	扁平礫素材　正面使用面	K073	

第13表　10トレンチ１号住居跡（ＳＩ１）出土遺物観察表

挿図番号	層　位	器形・部位	口径×器高×底径	文　様　・　地　文　の　特　徴	登録番号	写真図版
第25図１	下　層	深鉢・口縁～胴部上半	43.7×(24.5)×－	小波状口縁　渦巻小突起　口縁部：隆帯横位楕円区画　胴部：隆帯渦巻文・曲線文様　地文縄文ＲＬ	A159	図版18－１
第25図２	下　層	深鉢・口縁～胴部上半	推18.3×(9.4)×－	地文縄文ＲＬ　口縁部：内面２条１組貼付隆帯＋沈線　剣先状渦巻文横位文様区画　胴上半：３条１組貼付隆帯＋横位平行沈線	A160	図版18－２
第25図３	下　層	深鉢・口縁～胴部上半	推18.0×(9.0)×－	剥落激しい　地文縄文未確定　口縁部：湾曲　２条１組貼付隆帯＋沈線　横位文様区画　胴上半：４条１組横位平行沈線	A161	図版18－３
第25図４	下　層	深鉢・口縁～胴部上半	(18.0)×(11.3)×－	地文縄文ＬＲ　口縁部：内湾　貼付隆帯＋沈線　横位文様区画　頸部：３条１組横位平行沈線　胴部：３条１組沈線剣先状渦巻文	A162	図版18－４
第25図５	下　層	深鉢・口縁～胴部上半		小形　口縁部：貼付隆帯＋沈線渦巻文　横位楕円区画　頸部：横位平行沈線　地文縄文ＲＬ？	A163	図版18－５
第25図６	下　層	深鉢・口縁部		地文縄文ＲＬ　貼付隆帯＋沈線　横位平行＋波状文　横Ｓ字把手状隆帯	A164	図版18－６
第25図７	下　層	深鉢・口縁部		立体的な貼付隆帯＋沈線　立体的な渦巻把手　横位文様区画	A165	図版18－７
第25図８	下　層	深鉢・口縁部		立体的な貼付隆帯＋沈線　渦巻文による横位文様区画　渦巻文交点ではＸ字状把手	A166	図版18－８
第25図９	下　層	深鉢・口縁部		幅広貼付隆帯＋凹線渦巻文	A167	図版18－９
第25図10	下　層	深鉢・口縁部		口唇部欠損　立体的・細貼付隆帯＋隆帯上の凹線・波状貼付隆帯　横位文様区画　横Ｓ字状渦巻文　縄文原体圧痕Ｌ	A168	図版18－10
第25図11	下　層	深鉢・口縁部		貼付隆帯　横位文様区画　隆帯上刻み　２条１組細貼付隆帯によるクランク文	A169	図版18－11
第25図12	下　層	深鉢・口縁部		隆帯＋刺突　隆帯指頭摘み　押引き様の単・複横位施文	A170	図版18－12
第25図13	下　層	深鉢・口縁部		立体的・平面的貼付隆帯＋縦位短沈線　口縁直下立体的鍔状隆帯　横位平行・波状隆帯　地文撚糸ＬＲ	A171	図版18－13
第25図14	下　層	深鉢・口縁部		貼付隆帯＋沈線　口唇部貼付波状隆帯　２条１組貼付によるクランク文　横位文様区画	A172	図版18－14
第25図15	下　層	深鉢・口縁部		剥落激しい　地文縄文未確定　横位平行・波状貼付隆帯	A173	図版18－15
第25図16	下　層	深鉢・口縁部		剥落激しい　地文縄文未確定　横位平行・波状貼付隆帯	A174	図版18－16
第26図17	下　層	深鉢・口縁部		口縁部文様幅狭い　波状口縁　貼付隆帯＋沈線渦巻文　立体的な渦巻突起	A175	図版19－17
第26図18	下　層	深鉢・胴部上半		隆帯＋沈線　渦巻文把手	A176	図版19－18
第26図19	下　層	深鉢・口縁部		内湾　剥落激しい　地文縄文未確定　貼付隆帯＋沈線　渦巻文による横位文様区画	A177	図版19－19
第26図20	下　層	深鉢・口縁部		内湾　地文縄文ＬＲ横位　貼付隆帯＋沈線　渦巻文	A178	図版19－20
第26図21	下　層	深鉢・口縁部		内湾　地文縄文ＲＬ　貼付隆帯　渦巻文による文様区画	A179	図版19－21
第26図22	下　層	深鉢・口縁部		内湾　地文縄文ＲＬ　貼付隆帯＋沈線　渦巻文による文様区画	A180	図版19－22
第26図23	下　層	深鉢・口縁部		内湾　地文縄文ＲＬ　貼付隆帯＋沈線　渦巻文による文様区画	A181	図版19－23
第26図24	下　層	深鉢・口縁部		貼付隆帯＋沈線　渦巻文による文様構成　渦巻部立体的	A182	図版19－24
第26図25	下　層	深鉢・口縁部		地文縄文ＲＬ　内湾　貼付隆帯＋沈線渦巻文	A183	図版19－25
第26図26	下　層	深鉢・口縁部		地文縄文ＬＲ？　貼付隆帯＋沈線　渦巻文	A184	図版19－26
第26図27	下　層	深鉢・口縁部		貼付隆帯＋太隆線　渦巻状文による文様区画　区画内ペン先状刺突文	A185	図版19－27
第26図28	下　層	深鉢・口縁～胴部		口縁部文様幅狭い　剥落激しい　地文縄文ＬＲ？　波状口縁　貼付隆帯＋沈線渦巻文　波頂部に渦巻中央	A186	図版19－28
第26図29	下　層	深鉢・口縁部		地文縄文ＬＲ　波状口縁　沈線	A187	図版19－29
第26図30	下　層	深鉢・口縁～胴部		地文縄文ＲＬもしくはＲＬＲ　波状口縁　逆台形の舌状口縁　中央部に円孔　口唇部に凹線	A188	図版19－30
第26図31	下　層	深鉢・胴部		地文縄文ＬＲ　縦位平行貼付隆帯	A189	図版19－31
第26図32	下　層	深鉢・胴部		地文縄文ＲＬ　縦位平行貼付隆帯＋沈線	A190	図版19－32
第26図33	下　層	深鉢・胴部		地文縄文ＬＲ　縦位平行貼付隆帯	A191	図版19－33
第26図34	下　層	深鉢・胴部		地文縄文ＬＲ　貼付隆帯＋沈線　渦巻文	A192	図版19－34
第26図35	下　層	深鉢・胴部		剥落激しい　地文縄文ＬＲ？　貼付隆帯＋沈線　渦巻文	A193	図版19－35
第26図36	下　層	深鉢・口縁部		口唇部欠損　地文縄文ＬＲ　貼付隆帯＋沈線　渦巻文	A194	図版19－36
第26図37	下　層	深鉢・胴部		櫛歯状条線文	A195	図版19－37
第26図38	下　層	深鉢・胴部		横位平行・波状沈線	A196	図版19－38
第26図39	下　層	深鉢・胴部		地文縄文ＬＲ　３条１組縦位細沈線による縦位文様区画　区画内３条１組弧状沈線	A197	図版19－39
第26図40	下　層	深鉢・胴部		地文縄文Ｒ？　沈線	A198	図版19－40
第26図41	下　層	深鉢・胴部		地文縄文ＬＲ　３条１組の沈線による懸垂文	A199	図版19－41
第26図42	下　層	深鉢・胴部		地文縄文ＬＲ　太沈線による逆Ｕ字状文　磨消縄文	A200	図版19－42
第26図43	下　層	深鉢・胴部		剥落激しい　地文縄文ＬＲ？　太沈線による振幅大きい波状文　磨消縄文	A201	図版19－43
第26図44	下　層	深鉢・底部		地文縄文ＲＬ　胴部下端やや丸みを帯び外傾して立ち上がる	A202	図版19－44
第26図45	下　層	深鉢・底部		地文縄文ＲＬ？　２条１組貼付隆帯垂下	A203	図版19－45

挿図番号	層　位	器　種	石　材	長	幅	厚	重　量	遺存度	特　　徴	登録番号	写真図版
第27図46	下　層	石　匙	珪質頁岩	54.5	48.5	10.0	30.7	完　形	縦形　裏面刃部縁辺に使用に伴うと考えられる光沢顕著	K021	図版33－46

第14表　10トレンチ包含層出土遺物観察表

挿図番号	層　位	器　種	石　材	長	幅	厚	重　量	遺存度	特　　徴	登録番号	写真図版
第27図 1	Ⅱ　層	凹　石	閃緑岩	123.0	69.0	32.2	375	完　形	両面中央に敲打による窪み　両面とも２カ所	K074	
第27図 2	Ⅱ　層	磨　石	閃緑岩	146.9	72.8	63.5	1085	完　形	両面と両側面を使用　両側縁に面取り状の磨面	K075	
第27図 3	Ⅱ　層	石　皿	安山岩	183.2	173.3	47.5	2345	完　形	正面使用面　浅く窪む	K076	

第15表　11トレンチ包含層出土遺物観察表

挿図番号	層　位	器形・部位	口径×器高×底径	文　様　・　地　文　の　特　徴	登録番号	写真図版
第28図 1	Ⅰ　層	深鉢・口縁部		地文撚糸Ｌ　口唇部部分的に鋸歯状　貼付隆帯による横位渦巻文	A204	図版20－１
第28図 2	Ⅰ　層	深鉢・口縁部		貼付隆帯＋沈線　横位渦巻文区画　立体的な橋状把手	A205	図版20－２
第28図 3	Ⅰ　層	深鉢・口縁部		地文縄紋ＲＬ　内湾　貼付隆帯＋沈線　渦巻文による横位文様区画　渦巻突起	A206	図版20－３
第28図 4	Ⅰ　層	深鉢・口縁部		高さのある貼付隆帯＋沈線　口唇部受口状	A207	図版20－４
第28図 5	Ⅰ　層	深鉢・口縁部		口縁部文様幅狭い　貼付隆帯＋沈線　渦巻文	A208	図版20－５
第28図 6	Ⅰ　層	深鉢・胴部		地文縄文ＲＬ　垂下する３条１組の貼付隆帯による縦位区画　区画内蛇行貼付隆帯	A209	図版20－６
第28図 7	Ⅰ　層	深鉢・胴部		地文縄文ＲＬ　３条１組の縦位平行沈線区画	A210	図版20－７
第28図 8	Ⅰ　層	深鉢・胴部		地文縄文ＲＬ　沈線　横位　Ｙ字　垂下蛇行	A211	図版20－８
第28図 9	Ⅰ　層	深鉢・胴部		地文縄文ＲＬ　２条１組縦位＋垂下する蛇行沈線	A212	図版20－９
第28図10	Ⅰ　層	深鉢・胴部		地文縄文ＲＬ　３条１組貼付隆帯＋沈線による縦位文様区画	A213	図版20－10
第28図11	Ⅰ　層	板状土偶		表面に隆帯と沈線　裏面に沈線による渦巻・三角形等による人体・装飾を表現	P002	図版20－11

挿図番号	層　位	器　種	石　材	長	幅	厚	重　量	遺存度	特　　徴	登録番号	写真図版
第28図12	Ⅰ　層	石　棒	安山岩	(76.3)	45.9	43.5	260	基部破片	縁辺に弱い敲打痕　各面に自然面残存	K077	

第16表　12トレンチ包含層出土遺物観察表

挿図番号	層　位	器形・部位	口径×器高×底径	文　様　・　地　文　の　特　徴	登録番号	写真図版
第28図 1	Ⅰ　層	深鉢・口縁部		波状口縁　刻みを有する立体的な波状隆帯　横位波状隆帯	A214	図版20－１
第28図 2	Ⅰ　層	深鉢・胴部		貼付隆帯＋沈線　隆帯は交互刺突による鋸歯状文　２条１組沈線による三角文	A215	図版20－２
第28図 3	Ⅰ層～遺構重複状プラン上面	深鉢・胴部		上部：横位貼付隆帯＋沈線＋刺突文　下部：貼付隆帯＋沈線によるパネル状区画文　地文縄文ＬＲ	A216	図版20－３
第28図 4	Ⅰ層～遺構重複状プラン上面	深鉢・口縁～頸部		口縁部文様幅狭　口唇部直下横位円形刺突文　貼付隆帯＋沈線渦巻文　頸部：渦巻文　横位刺突文	A217	図版20－４
第28図 5	Ⅰ　層	深鉢・口縁部		貼付隆帯渦巻突起	A218	図版20－５
第29図 6	Ⅰ層～遺構重複状プラン上面	深鉢・口縁部		中空透かし突起	A219	図版20－６
第29図 7	Ⅰ層～遺構重複状プラン上面	深鉢・口縁部		円筒状突起　橋状把手	A220	図版20－７
第29図 8	Ⅰ　層	深鉢・口縁～胴部上半		地文縄文ＲＬ　口縁部：貼付隆帯＋沈線による２条１組の弧状文　頸部：横位平行沈線	A221	図版20－８
第29図 9	Ⅰ層～遺構重複状プラン上面	深鉢・胴部		地文縄文ＬＲ　２条１組貼付隆帯	A222	図版20－９
第29図10	Ⅰ　層	深鉢・胴部		地文縄文ＬＲ　２条１組貼付隆帯	A223	図版20－10
第29図11	Ⅰ　層	深鉢・胴部		地文縄文ＬＲ横位回転　貼付隆帯＋沈線渦巻文　横位文様区画	A224	図版20－11
第29図12	Ⅰ　層	深鉢・胴部		地文縄文ＬＲ　横位回転　貼付隆帯＋沈線渦巻文　横位文様区画	A225	図版20－12
第29図13	Ⅰ　層	深鉢・胴部下半		地文縄文ＬＲ　貼付隆帯　直・弧状文　剣先状文	A226	図版20－13
第29図14	Ⅰ層～遺構重複状プラン上面	深鉢・胴部		地文縄文ＲＬ　２条１組縦位貼付隆帯＋沈線	A227	図版20－14
第29図15	Ⅰ　層	深鉢・胴部		地文縄文ＬＲ　横位平行沈線	A228	図版20－15
第29図16	Ⅰ　層	深鉢・頸～胴部下半		小形土器　地文縄文ＲＬ　頸部：横位密接平行・弧状沈線	A229	図版20－16
第29図17	Ⅰ　層	深鉢・胴部		地文縄文ＲＬ　２条１組縦位貼付隆帯＋沈線	A230	図版21－17
第29図18	Ⅰ層～遺構重複状プラン上面	深鉢・胴部		地文縄文ＬＲ　２条1組沈線　剣先状渦巻文	A231	図版21－18
第29図19	Ⅰ層＋Ⅰ層～遺構重複状プラン上面	深鉢・口縁～胴部下端		地文縄文ＲＬ　太沈線による縦位隅丸長方形区画　磨消縄文	A232	図版21－19
第29図20	Ⅰ　層	深鉢・底部	－×－×4.8	胴部下端やや丸みを帯び外傾して立ち上がる	A233	図版21－20
第29図21	Ⅰ層～遺構重複状プラン上面	深鉢・底部	－×－×7.8	２条１組縦位沈線　底部網代痕　ミガキ	A234	図版21－21
第29図22	Ⅰ　層	深鉢・底部	－×－×8.0	若干上げ底	A235	図版21－22

挿図番号	層　位	器　種	石　材	長	幅	厚	重　量	遺存度	特　　徴	登録番号	写真図版
第29図23	Ⅰ　層	凹　石	多孔質安山岩	147.1	80.5	42.9	615	完　形	両面中央に敲打による窪み　両面とも２カ所　素材礫の形状変形	K078	

第17表　13トレンチ１号溝状プラン（ＳＸ１）出土遺物観察表

挿図番号	層　位	器形・部位	口径×器高×底径	文　様　・　地　文　の　特　徴	登録番号	写真図版
第30図１	１・３層	深鉢・口縁～胴部下半	推33.5×(35.0)×－	地文縄文ＬＲ　口縁部：２条１組横位貼付隆帯　立体的横Ｓ字状貼付隆帯　頸部：２条１組横位貼付隆帯・単波状隆帯　胴部上半：横位平行沈線列　胴部中～下半：３条１組縦位沈線（縦位区画）　区画内単蛇行縦位沈線・渦巻文	A236	図版21－１
第30図２	１　層	深鉢・口縁～胴部中位		剥落激しい　口縁部：平行貼付隆帯間縦押圧文　胴部上半：平行貼付隆帯間波状(鋸歯状)隆帯　胴部下半：２条１組貼付隆帯　渦巻文	A237	図版21－２
第30図３	１　層	深鉢・口縁部		口縁部：立体的貼付隆帯横位楕円　横Ｓ字文　上端に鋸歯状貼付隆帯文様交点Ｙ字状隆帯貼付　以下太沈線横位楕円区画	A238	図版22－３
第30図４	１　層	深鉢・口縁部		３と同一個体	A239	図版22－４
第30図５	１　層	深鉢・口縁部		口唇部に沿い横Ｓ字貼付隆帯　平行沈線	A240	図版22－５
第30図６	１・３層	深鉢・口縁部		口縁外面：渦巻区画　口縁内面：横Ｓ字渦巻隆帯貼付	A241	図版22－６
第31図７	１　層	深鉢・口縁部		口唇鋸歯状突起　横位隆帯上刻み　２条１組沈線　曲線文　地文縄文ＬＲ？	A242	図版22－７
第31図８	１　層	深鉢・口縁部		渦巻装飾把手（突起）　縦位押圧縄文	A243	図版22－８
第31図９	１　層	深鉢・口縁部		口唇部刻み　縦位集合沈線　２条１組隆帯＋沈線　クランク文　補修孔	A244	図版22－９
第31図10	１・３層	深鉢・口縁部		橋状把手　隆帯横位Ｓ字状渦巻文	A245	図版22－10
第31図11	１　層	深鉢・口縁部		Ｘ状橋状把手　貼付隆帯渦巻文	A246	図版22－11
第31図12	１・３層	深鉢・口縁部		地文縄文ＲＬ　波状口縁　波頂部立体的渦巻把手	A247	図版22－12
第31図13	１　層	深鉢・口縁部		波状口縁　口縁部文様幅狭い　貼付隆帯＋沈線　横Ｓ字渦巻文	A248	図版22－13
第31図14	１　層	深鉢・口縁部		地文縄文Ｒ　横位原体圧痕　立体的隆帯　二重口縁　横位文様区画　渦巻文　交点山形突起	A249	図版22－14
第31図15	１・３層	深鉢・口縁～胴部	推34.0×(17.5)×－	地文縄文ＬＲ　口縁：貼付隆帯＋沈線　横位剣先状渦巻文　頸部：無文　胴部：２条１組貼付隆帯　縦位区画　区画内渦巻文	A250	図版22－15
第31図16	１・３層	深鉢・口縁～底部	12.6×(10.6)×－	小形土器　地文縄文ＬＲ　口縁部：２条１組貼付隆帯　区画内貼付波状隆帯	A251	図版22－16
第31図17	１・３層	深鉢・頸～底部	－×(9.0)×5.8	小形土器　口縁部：無し　地文縄文ＬＲ　頸部：２条１組横位平行沈線　胴部：２条１組縦位区画　区画内弧線文	A252	図版22－17
第32図18	１　層	深鉢・胴～底部	－×－×推14.0	地文縄文ＲＬ　１・２条１組貼付隆帯＋沈線　縦位文様区画　区画内剣先状渦巻文	A253	図版23－18
第32図19	１　層	深鉢・胴下半～底部	－×－×12.8	縦～斜位細沈線　底部上げ底・木葉痕？(細沈線？)	A254	図版23－19
第32図20	１　層	深鉢・口縁部		地文縄文ＬＲ　１条・２条１組貼付隆帯　クランク文	A255	図版23－20
第32図21	１　層	深鉢・口縁部		地文縄文ＬＲ　貼付隆帯渦巻文　縦位３条１組・横位文様区画　沈線	A256	図版23－21
第32図22	１　層	深鉢・口縁部		縄文地文ＲＬ　立体的横Ｓ字状渦巻貼付隆帯　２条１組縦・横位貼付隆帯	A257	図版23－22
第32図23	１　層	深鉢・口縁～胴部上半		地文縄文ＲＬ　口縁部：２条１組横位渦巻文　頸部：３条１組横位平行沈線	A258	図版23－23
第32図24	１　層	深鉢・口縁部		地文縄文ＬＲ　立体的横位渦巻貼付隆帯＋沈線	A259	図版23－24
第32図25	１・３層	深鉢・口縁～頸部		地文縄文ＬＲ　口縁部：２条１組貼付隆帯　横位渦巻　楕円形文様区画　頸部：横位平行貼付隆帯＋沈線	A260	図版23－25
第32図26	１　層	深鉢・口縁部		地文縄文ＬＲ　２条１組立体的横位貼付隆帯＋沈線　２条１組横位貼付隆帯	A261	図版23－26
第32図27	１　層	浅鉢？・口縁部		口唇部沈線　補修孔	A262	図版23－27
第32図28	１　層	深鉢・口縁部		地文縄文ＬＲ　貼付隆帯＋沈線　横位文様区画	A263	図版23－28
第32図29	１　層	深鉢・胴部		貼付隆帯＋沈線　渦巻文	A264	図版23－29
第32図30	１・３層	深鉢・胴部		地文縄文ＲＬ　貼付隆帯　横位・波状文	A265	図版23－30
第32図31	１　層	深鉢・胴部		貼付横位隆帯＋刻み目　２条１組貼付細隆帯	A266	図版23－31
第32図32	１　層	深鉢・頸部		地文縄文ＲＬ　頸部：無文体　貼付平行・波状文＋沈線	A267	図版23－32
第32図33	１・３層	深鉢・胴部		貼付平行・波状隆帯	A268	図版23－33
第32図34	１　層	深鉢・胴部		地文縄文ＬＲ　横位平行貼付隆帯　縦位貼付蛇行隆帯	A269	図版23－34
第32図35	１　層	深鉢・胴部		地文縄文ＬＲ　横位平行貼付隆帯　縦位貼付蛇行隆帯	A270	図版23－35
第32図36	１・３層	深鉢・胴部		地文縄文ＬＲ　２条１組縦位貼付隆帯	A271	図版23－36
第32図37	１　層	深鉢・胴部		地文縄文ＲＬ　縦位平行貼付隆帯	A272	図版23－37
第32図38	１・３層	深鉢・胴部		地文縄文ＲＬ　縦位平行貼付隆帯	A273	図版23－38
第33図39	１　層	深鉢・頸～胴部		地文縄文ＲＬ　口縁：２条１組　頸部３条１組横位平行貼付隆帯　胴部：２・３条貼付隆帯　縦位区画　区画内渦巻文	A274	図版24－39
第33図40	１　層	深鉢・胴部		地文縄文ＲＬ　２条１組縦位貼付隆帯＋沈線　縦位区画文　区画内剣先状渦巻文	A275	図版24－40
第33図41	１・３層	深鉢・胴部		横位貼付平行隆帯間波状貼付隆帯＋沈線	A276	図版24－41
第33図42	１・３層	深鉢・胴部		横位貼付隆帯間円形文＋沈線	A277	図版24－42
第33図43	１・３層	深鉢・頸～胴部上端		地文縄文ＬＲ　横位平行沈線　縦位文様区画	A278	図版24－43
		焼粘土塊・土製品？		手捏	P004	図版24（写真資料）

挿図番号	層　位	器　種	石　材	長	幅	厚	重　量	遺存度	特　徴	登録番号	写真図版
第33図44	１　層	石　匙	珪質頁岩	90.2	33.5	0.7	26.4	完　形	縦形　刃部から両面にかけて使用に伴うと考えられる光沢顕著	K022	図版33－44
第33図45	１　層	スクレイパー	珪質頁岩	53.5	26.1	4.8	8.9	完　形	縦形　つまみ部の括れ弱い	K023	図版33－45
第33図46	１・３層	石　匙	珪質頁岩	50.2	29.5	0.7	13.9	完　形	縦形	K024	図版33－46
第33図47	１　層	石　匙	珪質頁岩	46.8	60.6	9.4	20.2	完　形	横形	K025	図版33－47
第33図48	１・３層	スクレイパー	珪質頁岩	35.8	(53.2)	7.0	11.1	左端欠損	横形石匙に類似するがつまみ部の作出なし	K026	図版33－48

挿図番号	層　位	器　　種	石　材	長	幅	厚	重　量	遺存度	特　　徴	登録番号	写真図版
第33図49	1・3層	クサビ形石器	珪質頁岩	31.1	19.7	6.5	5.0	完　形	下端に二次加工	K027	図版33－49
第33図50	1・3層	スクレイパー	珪質頁岩	40.7	17.6	6.5	5.0	完　形	左側縁に二次加工	K028	図版33－50
第33図51	1・3層	石　錐	珪質頁岩	31.2	56.7	8.0	13.1	完　形	下辺刃部　下端中央は錐状を呈する	K029	図版33－51
第33図52	1・3層	石　錐	珪質頁岩	(25.2)	12.2	2.8	1.0	上部欠損	尖頭状を呈する	K030	図版33－52
第33図53	1・3層	クサビ形石器	珪質頁岩	37.1	28.4	8.0	7.7	完　形	上下辺ほぼ平行　両極打法　両側縁に微細剥離痕	K031	図版33－53
第33図54	1　層	凹　石	安山岩	105.0	83.2	49.8	590	完　形	両面中央に敲打による窪み　両面とも2カ所　裏面連結	K079	

第18表　13トレンチ包含層出土遺物観察表

挿図番号	層　位	器形・部位	口径×器高×底径	文　様　・　地　文　の　特　徴	登録番号	写真図版
第34図1	Ⅰ～1層	深鉢・口縁～胴部	推19.5×(12.0)×－	口唇部：鋸歯状文　渦巻突起　横位貼付楕円区画刻み　横位貼付平行隆帯間縦位縄文原体圧痕・交互刺突による鋸歯状文　渦巻文　胴部：地文縄文ＬＲ	A279	図版24－1
第34図2	Ⅰ～3層	深鉢・口縁～胴部		口縁部：横位貼付隆帯・渦巻文　口唇部：渦巻小突起　クランク文　胴部：2・4条横位・縦位貼付隆帯	A280	図版24－2
第34図3	Ⅰ～1層	深鉢・口縁～胴部		地文縄文ＲＬ　口縁部：貼付隆帯＋沈線　横Ｓ字渦巻文　渦巻部立体的　頸部：無文　胴上部：横位貼付隆帯	A281	図版24－3
第34図4	Ⅰ～3層	深鉢・口縁部		地文縄文Ｌ　貼付隆帯＋沈線　渦巻文？	A282	図版24－4
第34図5	Ⅰ～3層	深鉢・口縁部		横位貼付波状・横位隆帯　区画内斜位刻み	A283	図版24－5
第34図6	Ⅰ～1層	深鉢・口縁～胴部		地文縄文ＬＲ　口縁：受口状　刻み　横位貼付隆帯＋沈線　胴部：横位平行沈線間波状沈線　斜位沈線	A284	図版24－6
第34図7	Ⅰ～1層	深鉢・口縁部		地文縄文ＬＲ　口縁部文様幅狭　二重口縁内渦巻文　渦巻部小突起　口唇部：横位横Ｓ字貼付隆帯	A285	図版24－7
第34図8	Ⅰ～1層	深鉢・口縁部		地文縄文ＬＲ　口縁部文様幅狭　内面口唇部：貼付渦巻隆帯＋沈線	A286	図版24－8
第34図9	Ⅰ～1層	深鉢・口縁部		渦巻中空把手	A287	図版24－9
第34図10	Ⅰ～1層	深鉢・口縁部		波状口縁・橋状把手　把手上貼付隆帯渦巻文　斜位刻み	A288	図版24－10
第34図11	Ⅰ～1層	深鉢・口縁～頸部		地文縄文ＲＬ　貼付横位隆帯＋沈線による横位渦巻文様区画　頸部：横位細沈線	A289	図版25－11
第34図12	Ⅰ～1層	深鉢・口縁部		地文縄文ＲＬ　貼付隆帯＋沈線　横位楕円区画	A290	図版25－12
第35図13	Ⅰ～1層	深鉢・口縁～胴部		地文縄文ＬＲ　波状口縁　口唇部：沈線渦巻文　頸部：横位平行沈線　胴部：弧状沈線	A291	図版25－13
第35図14	Ⅰ～1層	深鉢・口縁部		地文縄文ＬＲ　貼付隆帯＋沈線　横位渦巻文	A292	図版25－14
第35図15	Ⅰ～1層	深鉢・口縁部		地文縄文ＬＲ　横位貼付隆帯＋沈線　横位楕円区画	A293	図版25－15
第35図16	Ⅰ～3層	深鉢・口縁部		地文縄文ＬＲ　2条1組縦位貼付隆帯	A294	図版25－16
第35図17	Ⅰ～1層	深鉢・口縁部		地文縄文ＲＬ　2条1組貼付隆帯　縦位文様区画　渦巻文	A295	図版25－17
第35図18	1・3層	深鉢・胴部		地文縄文ＲＬ　2・3条1組貼付隆帯　渦巻文	A296	図版25－18
第35図19	1・3層	深鉢・胴部		地文縄文ＲＬ　1・2条1組貼付隆帯＋沈線　縦位文様区画　区画内渦巻文	A297	図版25－19
第35図20	Ⅰ～3層	深鉢・胴部		地文縄文ＲＬ　貼付隆帯＋沈線　縦位文様区画	A298	図版25－20
第35図21	Ⅰ～3層	深鉢・胴部		地文縄文ＲＬ　沈線による渦巻文	A299	図版25－21
第35図22	Ⅰ～1層	深鉢・口縁～胴部		地文縄文ＬＲ　2・3条1組貼付隆帯＋沈線　パネル状文様区画　渦巻文　剣先文	A300	図版25－22
第35図23	Ⅰ～1層	深鉢・胴部		地文縄文ＬＲ　複沈線によるパネル状渦巻文	A301	図版25－23
第35図24	Ⅰ～3層	深鉢・胴部		地文縄文ＬＲ　複沈線による幾何学文	A302	図版25－24
第35図25	Ⅰ～3層	深鉢・胴部		地文縄文ＬＲ　細沈線による渦巻文　垂下する蛇行沈線	A303	図版25－25
第35図26	Ⅰ～1層	深鉢・胴下半～底部		地文縄文ＬＲ　複沈線による渦巻文　底部網代痕	A304	図版25－26
第35図27	Ⅰ～3層	深鉢・胴部		地文縄文ＬＲ　複沈線による渦巻文　底部網代痕	A305	図版25－27
第35図28	Ⅰ～1層	深鉢・口縁～胴部		小形土器　地文縄文Ｌ　沈線による文様区画	A306	図版25－28
第35図29	Ⅰ～1層	浅鉢・口縁～胴部		波状口縁　口縁内部に3条1組の貼付隆帯による渦巻文	A307	図版25－29
第35図30	Ⅰ～3層	浅鉢・口縁～胴部		口縁鍔状　貼付隆帯＋沈線　渦巻文	A308	図版25－30

挿図番号	層　位	器　　種	石　材	長	幅	厚	重　量	遺存度	特　　徴	登録番号	写真図版
第36図31	Ⅰ～3層	石　匙	珪質頁岩	60.3	30.4	9.8	20.9	完　形	縦型	K032	図版34－31
第36図32	Ⅰ～3層	石　匙	珪質頁岩	50.0	29.0	4.0	7.3	完　形	縦型	K033	図版34－32
第36図33	Ⅰ～1層	スクレイパー	珪質頁岩	46.9	36.2	4.8	9.6	完　形	両側縁に二次加工	K034	図版34－33
第36図34	Ⅰ～1層	スクレイパー	珪質頁岩	39.9	45.2	10.5	15.7	完　形	下辺に二次加工　両側縁に微細剥離痕	K035	図版34－34
第36図35	Ⅰ～1層	スクレイパー	頁　岩	68.0	50.5	11.5	41.2	完　形	両側縁に二次加工　下辺に微細剥離痕	K036	図版34－35
第36図36	Ⅰ～1層	スクレイパー	珪質頁岩	24.0	41.0	16.0	11.8	完　形	尖頭状の下端に二次加工・微細剥離痕	K037	図版34－36
第36図37	Ⅰ～1層	微細剥離痕のある剥片	珪質頁岩	46.5	54.0	13.4	29.0	完　形	下辺に微細剥離痕	K038	図版34－37
第36図38	Ⅰ～1層	スクレイパー	安山岩	57.0	43.9	12.0	26.2	完　形	平面三脚状、横断面台形　下辺に強い抉り、両側縁は緩い抉り上辺を除き片面二次加工	K039	図版34－38
第36図39	Ⅰ～3層	敲　石	閃緑岩	70.0	83.1	20.6	160	完　形	上下端に敲打痕　下辺に剥離痕伴う	K080	

第19表　15トレンチ包含層出土遺物観察表

挿図番号	層　位	器形・部位	口径×器高×底径	文　様　・　地　文　の　特　徴	登録番号	写真図版
第37図１	Ⅰ　層	深鉢・口縁部		小形土器　２条１組横位貼付隆帯による剣先状渦巻文	A309	図版26－１
第37図２	Ⅰ　層	深鉢・口縁～胴部		２条１組貼付隆帯による横位平行隆帯　渦巻文	A310	図版26－２

挿図番号	層　位	器　種	石　材	長	幅	厚	重　量	遺存度	特　徴	登録番号	写真図版
第37図３	Ⅰ　層	敲　石	珪化木	(143.4)	46.4	28.0	165	上部欠損	棒状礫素材　下端敲打部	K081	

第20表　17トレンチ包含層出土遺物観察表

挿図番号	層　位	器形・部位	口径×器高×底径	文　様　・　地　文　の　特　徴	登録番号	写真図版
第37図１	Ⅰ　層	深鉢・口縁部		波状口縁　内外面・口唇部に渦巻文	A311	図版26－１
第37図２	Ⅰ　層	深鉢・頸～胴部		地文縄文ＬＲ　頸部：３条横位平行沈線　胴部：沈線渦巻文	A312	図版26－２
第37図３	Ⅰ　層	深鉢・胴部		地文縄文ＬＲ　２条１組縦位貼付隆帯	A313	図版26－３

第21表　18トレンチ包含層出土遺物観察表

挿図番号	層　位	器　種	石　材	長	幅	厚	重　量	遺存度	特　徴	登録番号	写真図版
第37図１	Ⅰ　層	スクレイパー	珪質頁岩	6.5	37.5	7.2	15.4	完　形	右側縁に抉り　左側縁の一部に微細剥離痕	K040	図版33－１
第37図２	Ⅰ　層	磨　石	安山岩	97.3	91.8	72.3	825	完　形	両面を使用	K082	

第Ⅲ章　第５次調査

第５次調査区から発見された遺構は、掘立柱建物跡１棟と土坑28基である（第40図）。第５次調査は第Ⅰ章第３節「調査の経過」で述べたように、最終的に連続した調査区となったため、１区・２区を合わせた一つの調査区として扱うこととする。また、土坑はＳＫ１～35まで番号を付してあるが、ＳＫ３・４・６～９の６基はＳＫ５周辺の二次堆積土、ＳＫ24はＳＫ23と重複する木根痕であったため欠番とした。

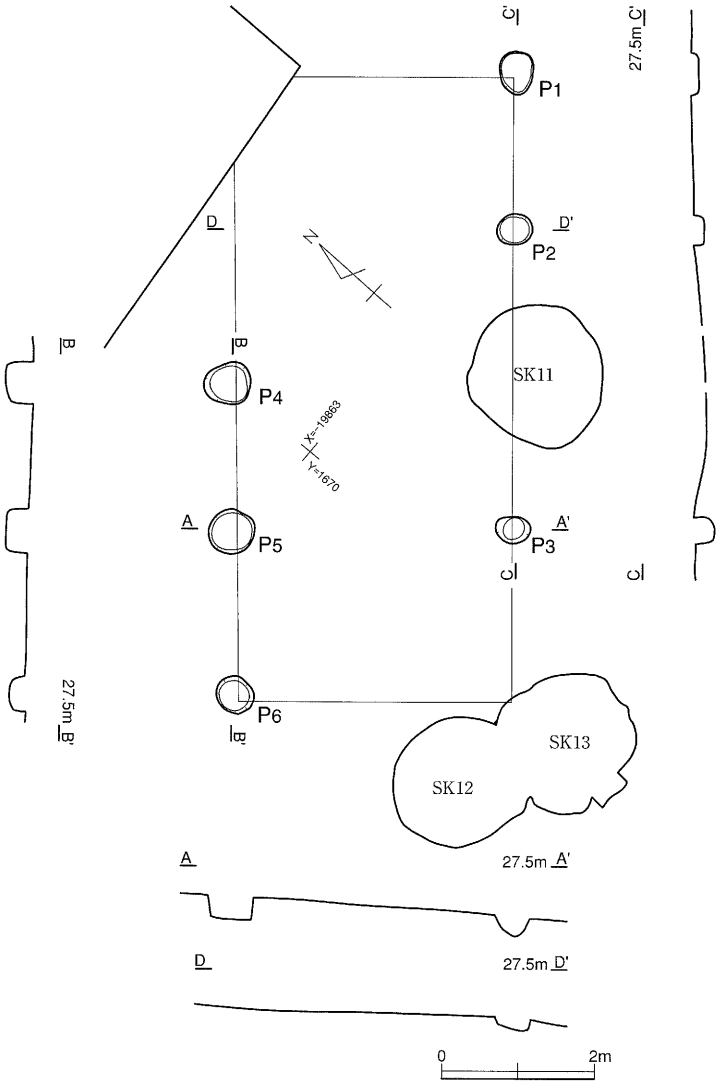
第１節　掘立柱建物跡

１号掘立柱建物跡（ＳＢ１）（第38図、図版12）

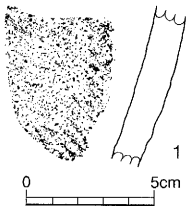
調査区北側の中央Ａ・Ｂ－５・６区に位置し、一部は調査区外へ延びる。ＳＫ11・13と重複するが、新旧関係は掴みきれなかった。しかし、本遺構を構成する柱穴の一つが位置すると考えられる付近で観察したＳＫ11の土層断面には、本遺構に伴うような柱穴は確認されなかった。柱穴配置の平面形態は長方形を呈する。規模は長軸約8.4ｍ、短軸約3.7ｍを測る。主軸方位はＮ－41°－Ｅである。柱穴はP_1～P_6が検出された。P_2－P_3間とP_3南西側の柱穴は、ＳＫ11・13との切り合い部分である。P_4北東側の柱穴は削平のため消失したと考えられ、さらに北東側の本遺構北端に該当する柱穴は調査区外に位置すると考えられる。各柱穴の堆積土は黄褐色シルト粒子・ブロックを含む暗褐色（10YR3/3）で、土坑の堆積土に類似するものであった。P_4から縄文時代中期の土器小破片１点が出土した。本遺構の時期については、Ⅰ層直下が遺構確認面となることに加え、本遺構の確認が調査後半で土坑との切り合い関係を意識的に把握できなかったこともあり、慎重を期し時期不明としておきたい。

出土遺物（第39図、第22表、図版26）

１はP_4から出土した縄文時代中期の土器破片である。



第38図　１号掘立柱建物跡（ＳＢ１）平面図・断面図（1/100）



第39図　１号掘立柱建物跡（ＳＢ１）出土遺物（1/3）

第40図　第５次調査区遺構配置図（1／200）

第2節　土　坑

1号土坑（ＳＫ１）（第41図、図版７）

調査区北東側のＡ－７・８区に位置する。平面形は開口部、坑底とも不整楕円形を呈する。壁は崩落により開く箇所があるが、内傾して立ち上がるフラスコ状土坑である。規模は開口部約2.3×1.9m、坑底約2.2×1.9m、深度約84cmを測る。堆積土から縄文時代中期の土器小破片がわずかに出土している。

出土遺物（第47図、図版26）

土器は縄文時代中期中葉の大木８ｂ式が出土している。

2号土坑（ＳＫ２）（第41図、第23表、図版７）

調査区北壁中央に近いＡ－６・７区に位置する。平面形は開口部、坑底とも略円形を呈する。壁は崩落により垂直をなす箇所があるが、内傾して立ち上がる断面逆台形を呈したフラスコ状土坑である。規模は開口部約1.7×1.5m、坑底約2.1×1.7m、深度約80cmを測る。堆積土から縄文時代中期の土器小破片がわずかに出土している。

5号土坑（ＳＫ５）（第41図、図版７）

調査区北側の南東壁中央、Ｂ－７区に位置する。土坑中央に調査区壁面があたり、その断面形態は上端に徳利状の括れを持ち、下半が内傾して立ち上がるフラスコ状土坑である。平面形は開口部が不整楕円形（確認面での形状で、土層断面の掘り込み面よりも下位）、坑底が略円形を呈する。規模は開口部約1.7×1.2m、坑底約1.7m、深度1.3mを測る。堆積土から縄文時代中期の土器・石器がわずかに出土している。

出土遺物（第47図、第24表、図版26）

土器はいずれも縄文時代中期のもので、１は大木８ｂ式の口縁部である。

石器はスクレイパー１点が出土している。

10号土坑（ＳＫ10）（第41図、図版７）

調査区北側の南東壁寄り、Ｃ－６区に位置する。平面形は開口部、坑底とも不整円形を呈する。壁はやや開き気味に立ち上がる土坑である。規模は開口部約１m、坑底約85cm、深度約54cmを測る。堆積土からは角礫とともに縄文時代中期の土器破片がわずかに出土している。

出土遺物（第47図、第25表、図版26）

土器はいずれも縄文時代中期のもので、１は大木８ｂ式の口縁部である。

11号土坑（ＳＫ11）（第42図、図版８）

調査区北側の中央寄り、Ｂ－６区に位置する。ＳＢ１と重複するが、新旧関係は掴みきれなかった。平面形は開口部、坑底とも略円形を呈する。壁は内傾して立ち上がるフラスコ状土坑である。規模は開口部約1.9×1.7m、坑底約2.1×２m、深度約1.04mを測る。坑底中央には径約35cm（底径約24cm）、深度約13cmを測る小ピットがある。堆積土から縄文時代中期の土器小破片がわずかに出土している。

出土遺物（第47図、第26表）

１は縄文時代中期の大木８ｂ式である。

12号土坑（ＳＫ12）（第42図、図版８）

調査区北側の中央寄り、Ｂ・Ｃ－５区に位置する。ＳＢ１・ＳＫ13と重複するが、ＳＢ１との新旧関係は掴みきれなかった。ＳＫ13との重複関係は古→新の順でＳＫ13→本遺構となる。平面形は開口部、坑底とも略円形を呈する。壁は崩落により開く箇所があるが、内傾して立ち上がるフラスコ状土坑である。規模は開口部約1.8×1.7m、坑底約２m、深度約60cmを測る。堆積土からは縄文時代中期の土器小破片１点が出土したにすぎないが、北東側壁際の坑底直上からは同時期の大形把手破片が出土している。

出土遺物（第47図、第27表、図版26）

１は縄文時代中期の大木８ａ～８ｂ式の大形把手である。

13号土坑（ＳＫ13）（第42図、図版８）

調査区北側の中央寄り、Ｂ・Ｃ－５・６区に位置する。ＳＫ12と重複し、新旧関係は本遺構（古）→ＳＫ12（新）となる。平面形は開口部、坑底とも略円形を呈する。壁は崩落により開く箇所もあるが、内傾して立ち上がるフラスコ状土坑である。規模は開口部約1.8×1.7m、坑底約1.8m、深度約57cmを測る。出土遺物はない。

14号土坑（ＳＫ14）（第42図、図版８）

調査区北側の中央寄り、Ｂ－５区に位置する。ＳＫ15と重複し、新旧関係は本遺構（古）→ＳＫ15（新）となる。平面形は開口部、坑底とも略円形を呈する。壁は崩落により垂直になる箇所があるが、内傾して立ち上がるフラスコ状土坑である。規模は開口部約1.4×1.3m、坑底約1.1×1.2m、深度約58cmを測る。坑底中央には径約24cm（底径約15cm）、深度約８cmの小ピットがある。出土遺物はない。

15号土坑（ＳＫ15）（第42図、図版８）

調査区北側の西寄り、Ｂ－４・５区に位置する。ＳＫ14と重複し、新旧関係はＳＫ14（古）→本遺構（新）となる。平面形は開口部、坑底とも略円形を呈する。壁は崩落により垂直になる箇所があるが、内傾して立ち上がるフラスコ状土坑である。規模は開口部約２×1.6m、坑底約1.7m、深度約68cmを測る。堆積土から縄文時代中期の土器小破片がわずかに出土している。

16号土坑（ＳＫ16）（第43図、図版８・９）

調査区北側の北西寄り、Ａ・Ｂ－４・５区に位置する。平面形は開口部、坑底とも不整楕円形を呈する。壁は崩落により上半部が開き、垂直になる箇所もあるが、下半は内傾して立ち上がるフラスコ状土坑である。規模は開口部約2.8×2.3m、坑底約2.7×２m、深度約77cmを測る。堆積土から縄文時代中期の土器破片がわずかに出土している。

出土遺物（第47図、第28表、図版26）

１は縄文時代中期の大木８ｂ式土器である。

17号土坑（ＳＫ17）（第43図、図版９）

調査区北壁の西寄、Ａ－５区に位置する。ＳＫ27と重複し、新旧関係は本遺構（古）→ＳＫ27（新）となる。平面形は開口部、坑底とも略円形を呈する。壁は崩落により開くが、下端部に内傾した箇所が残されたフラスコ状土坑である。規模は開口部約2.5×2.4m、坑底約2.1×２m、深度約1.2mを測る。堆積土から縄文土器の小破片がわずかに出土している。

18号土坑（ＳＫ18）（第67図、図版９）

調査区北側の北西端、Ａ・Ｂ－３・４区に位置する。ＳＫ33と重複し、新旧関係は本遺構（古）→ＳＫ33（新）となる。平面形は開口部、坑底とも略円形を呈する。壁は崩落により開く箇所があるが、内傾して立ち上がるフラスコ状土坑である。規模は開口部約1.9×1.6m、坑底約1.9×1.8m、深度約66cmを測る。堆積土から縄文土器の小破片がわずかに出土している。

出土遺物（第57図、第29表、図版26）

１・２は縄文時代中期の大木８ｂ式土器である。

19号土坑（ＳＫ19）（第66図、図版９）

調査区北側の西壁寄り、Ｂ－３区に位置する。ＳＫ20と重複し、新旧関係はＳＫ20（古）→本遺構（新）となる。平面形は開口部、坑底とも長楕円形を呈する。壁は外傾して立ち上がる土坑である。規模は開口部約1.9×1.3m、坑底約1.7×1.2m、深度約20cmを測る。坑底の南東側には径約30×24cm（底面約22×15cm）、深度約17cmを測る小ピットがある。出土遺物はない。

20号土坑（ＳＫ20）（第43図、図版９）

調査区北側の西壁寄り、Ｂ－３・４区に位置する。ＳＫ19と重複し、新旧関係は本遺構（古）→ＳＫ19（新）となる。平面形は開口部、坑底とも略円形を呈する。壁は崩落により垂直となる箇所があるが、内傾して立ち上がるフラスコ状土坑である。規模は開口部約1.3×１m、坑底約1.1m、深度約53cmを測る。出土遺物はない。

21号土坑（ＳＫ21）（第44図、図版９）

調査区南側の北寄り、Ｃ・Ｄ－３区に位置する。平面形は開口部、坑底とも略円形を呈する。壁は崩落により上半が開くが、下半は内傾して立ち上がるフラスコ状土坑である。規模は開口部約2.9m、坑底2.6×2.4m、深度約1.2mを測る。坑底の一部に、礫層の一部が露出した箇所が認められた。堆積土下層からは、縄文時代中期の大形の深鉢形土器１個体分を中心とする大形破片が北西側にまとまって、また石器も出土している。

出土遺物（第48・49図、第30表、図版27）

土器はいずれも縄文時代中期の大木８ａ～８ｂ式で、１は復元完形土器である（第49図）。

石器は10点出土した。内訳は敲石１点（４）、凹石６点（５～10）、磨石３点（11～13）である（第48図）。

22号土坑（ＳＫ22）（第44図、図版10）

調査区南側の北寄り、Ｄ－２・３区に位置する。平面形は開口部、坑底とも円形を呈する。壁は崩落により垂直となるが、内傾して立ち上がる箇所を残すフラスコ状土坑である。規模は開口部約2.1×２m、坑底約2.2×1.9m、深度約80cmを測る。出土遺物はない。

23号土坑（ＳＫ23）（第45図、図版10）

調査区南側の中央寄り、Ｄ・Ｅ－３区に位置する。平面形は開口部、坑底とも略円形を呈する。壁は内傾して立ち上がる断面逆台形を呈したフラスコ状土坑である。規模は開口部約1.6×1.5m、坑底約1.8×1.7m、深度約64cmを測る。出土遺物はない。

25号土坑（ＳＫ25）（第45図、図版10）

調査区南側の南端寄り、Ｆ－２区に位置する。ＳＫ26と重複し、新旧関係はＳＫ26（古）→本遺構（新）となる。平面形は開口部、坑底とも略円形を呈する。壁は崩落により開く箇所もあるが、内傾して立ち上がるフラスコ状土坑である。規模は開口部約1.5m、坑底約1.4×1.3m、深度約43cmを測る。坑底は礫層を掘り込んでいる。堆積土上～中層からは縄文中期の土器の大形破片、石器が出土している。

出土遺物（第50図、第31表、図版28）

土器は縄文時代中期の大木８ａ～８ｂ式が出土している。

石器は５点出土した。内訳は凹石２点（７・８）、磨石２点（９・10）、石皿１点（11）である。

26号土坑（ＳＫ26）（第45図、図版10）

調査区南側の南端、Ｆ－２区に位置する。ＳＫ25と重複し、新旧関係は本遺構（古）→ＳＫ25（新）となる。平面形は開口部、坑底とも略円形を呈する。壁は垂直ないしやや開くが、一部に内傾して立ち上がるフラスコ状土坑である。規模は開口部約1.5m、坑底約1.3m、深度約54cmを測る。坑底は礫層を掘り込んでいる。出土遺物はない。

27号土坑（ＳＫ27）（第43図、図版９）

調査区北壁の西寄り、Ａ－４・５区に位置する。ＳＫ17・28と重複し、新旧関係はＳＫ28（古）→ＳＫ17→本遺構（新）となる。平面形は開口部、坑底とも略円形を呈する。壁は内傾して立ち上がる断面逆台形を呈したフラスコ状土坑である。規模は開口部約1.6m、坑底約1.9m、深度約83cmを測る。出土遺物はない。

28号土坑（ＳＫ28）（第43図、図版９）

調査区北壁の西寄り、Ａ－４区に位置する。ＳＫ27・29と重複し、新旧関係は本遺構（古）→ＳＫ27・29（新）となる。平面形は開口部、坑底とも略円形を呈すると考えられる。壁は開き気味に立ち上がる。壁の遺存が悪いが、坑底の形状や規模から、フラスコ状土坑の坑底部分が残存したものと考えられる。規模は推定坑底約2.2m、深度約38cmを測る。出土遺物はない。

29号土坑（ＳＫ29）（第43図、図版９～11）

調査区北壁の北西端寄り、Ａ－４区に位置する。ＳＫ28と重複し、新旧関係はＳＫ28（古）→本遺構（新）となる。平面形は開口部、坑底とも略円形を呈する。壁は崩落により垂直ないし開く箇所があるが、内傾して立ち上がるフラスコ状土坑である。規模は開口部約1.8×1.6m、坑底約1.6×1.5m、深度約89cmを測る。出土遺物はない。

30号土坑（ＳＫ30）（第45図、図版11）

調査区南側の北寄り、西壁Ｄ－２区に位置する。平面形は開口部、坑底とも不整楕円形を呈する。壁は崩落により開く箇所があるが、内傾して立ち上がるフラスコ状土坑である。規模は開口部約1.7×1.3m、坑底約1.7×1.4m、深度約65cmを測る。堆積土から縄文時代中期の土器小破片がわずかに出土している。

出土遺物（第51図、第32表、図版28）

土器はいずれも縄文時代中期のもので、１・２は大木８ａ～８ｂ式である。

31号土坑（ＳＫ31）（第45図、図版11）

調査区南側の南西端、Ｆ－１区に位置する。平面形は開口部、坑底とも略円形を呈する。壁は内傾して立ち上が

るフラスコ状土坑である。規模は開口部約1.5m、坑底約1.5m、深度約59cmを測る。坑底は礫層を掘り込んでいる。堆積土下層からは縄文時代中期の深鉢形土器１個体分の大形破片が、中央よりやや北西側にまとまって出土している。

出土遺物（第51図、第33表、図版29）

土器はいずれも縄文時代中期のもので、１は大木８ｂ式の復元完形土器である。

32号土坑（ＳＫ32）（第45図、図版11）

調査区北側の南東壁北東、Ａ・Ｂ－８区に位置する。平面形は開口部、坑底とも略円形を呈する。壁はやや開き気味に立ち上がる土坑であるが、坑底の形状や規模から本来はフラスコ状土坑であったと推測される。規模は開口部約2.1×1.9m、坑底約1.8×1.7m、深度約50cmを測る。出土遺物はない。

33号土坑（ＳＫ33）（第44図、図版12）

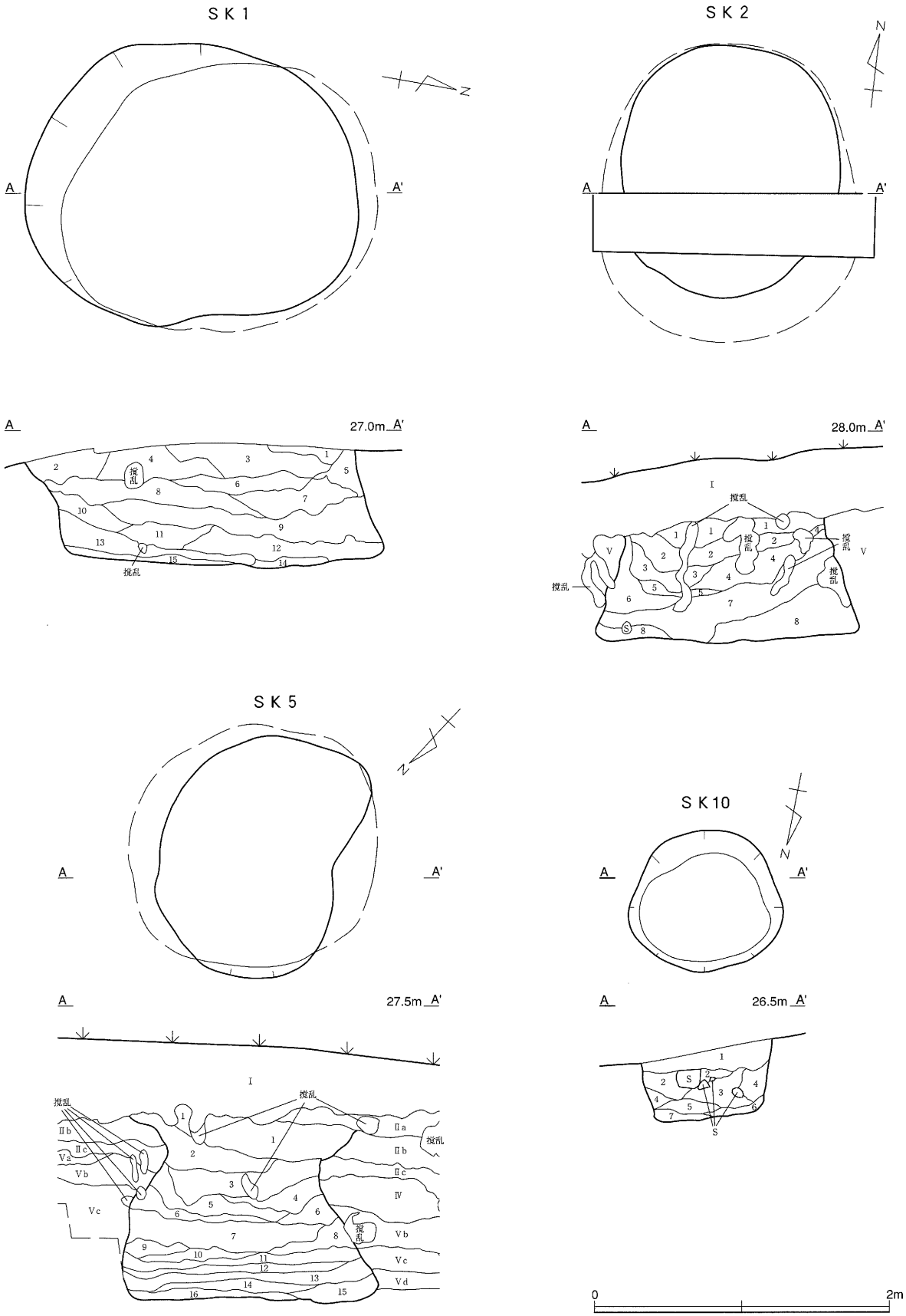
調査区北側の北西端、Ａ－３・４区に位置する。ＳＫ18と重複し、新旧関係はＳＫ18（古）→本遺構（新）となる。平面形は開口部、坑底とも不整楕円形を呈する。壁は垂直ないし開き気味に立ち上がる土坑であるが、坑底の形状や規模から本来はフラスコ状土坑であったと推測される。規模は推定開口部約２×1.5m、推定坑底約1.6×1.4m、深度約45cmを測る。出土遺物はない。

34号土坑（ＳＫ34）（第46図、図版12）

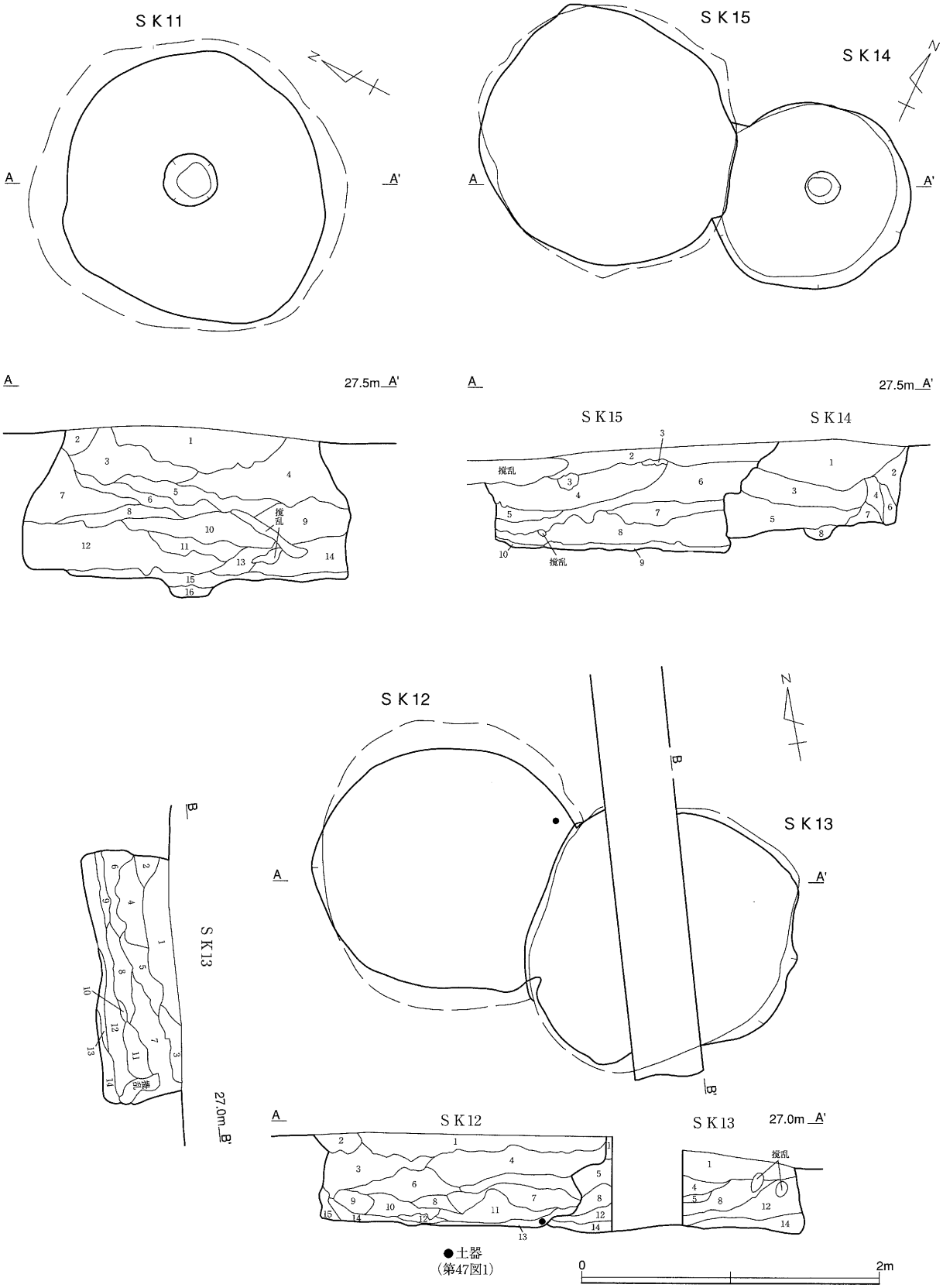
調査区北側の中央南壁、Ｃ－５区に位置する。平面形は開口部、坑底とも略円形を呈すると考えられる。壁は内傾して立ち上がるフラスコ状土坑である。規模は開口部約1.8m、坑底約1.7m、深度約57cmを測る。出土遺物はない。

35号土坑（ＳＫ35）（第46図、図版12）

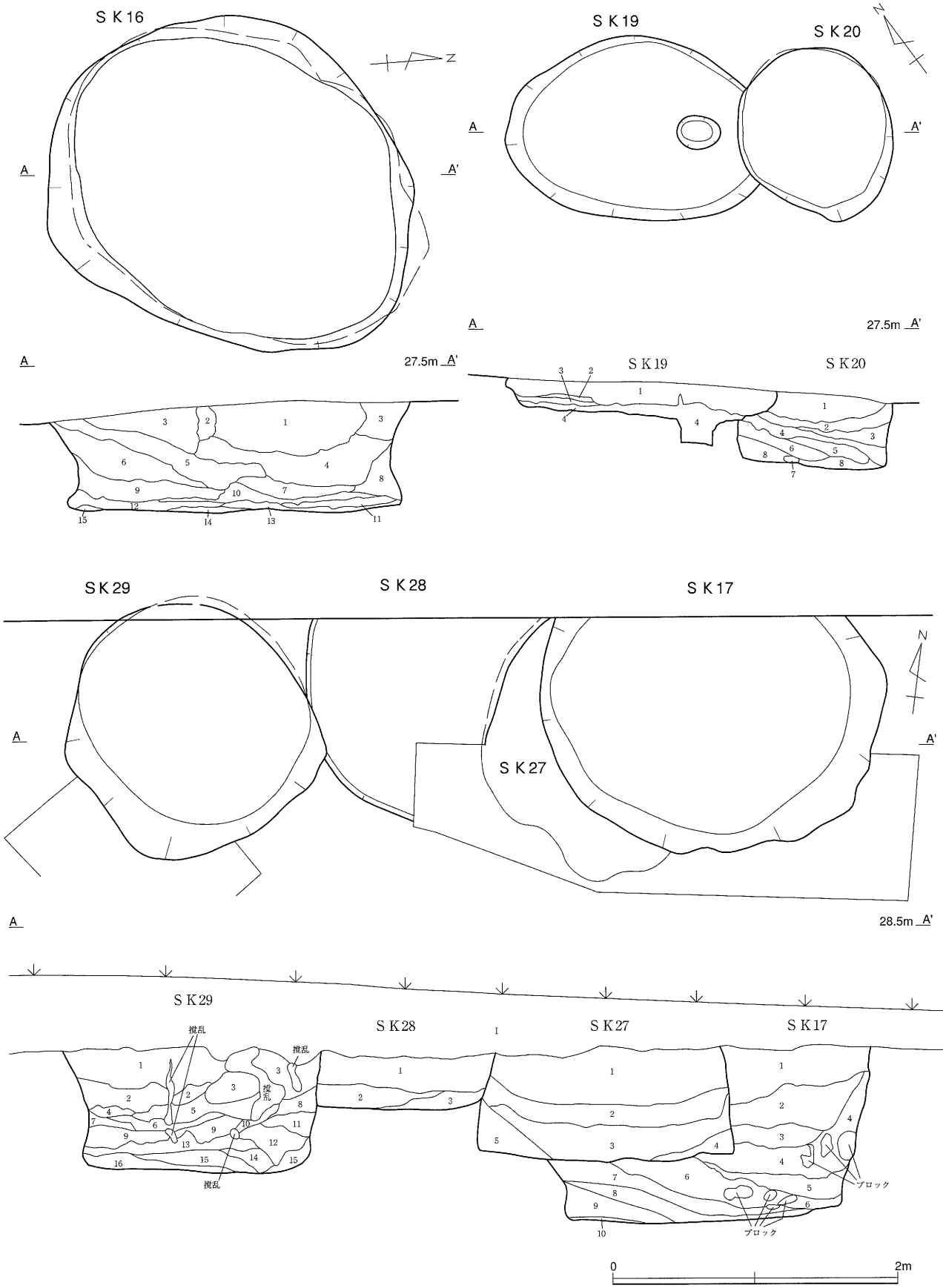
調査区北側の北西寄り、Ａ・Ｂ－４区に位置する。平面形は開口部、坑底とも略円形を呈する。壁は開き気味に立ち上がる土坑である。坑底の形状や規模から、フラスコ状土坑の坑底部分が残存したものと考えられる。規模は開口部約２×1.8m、坑底約1.8×1.7m、深度約22cmを測る。出土遺物はない。



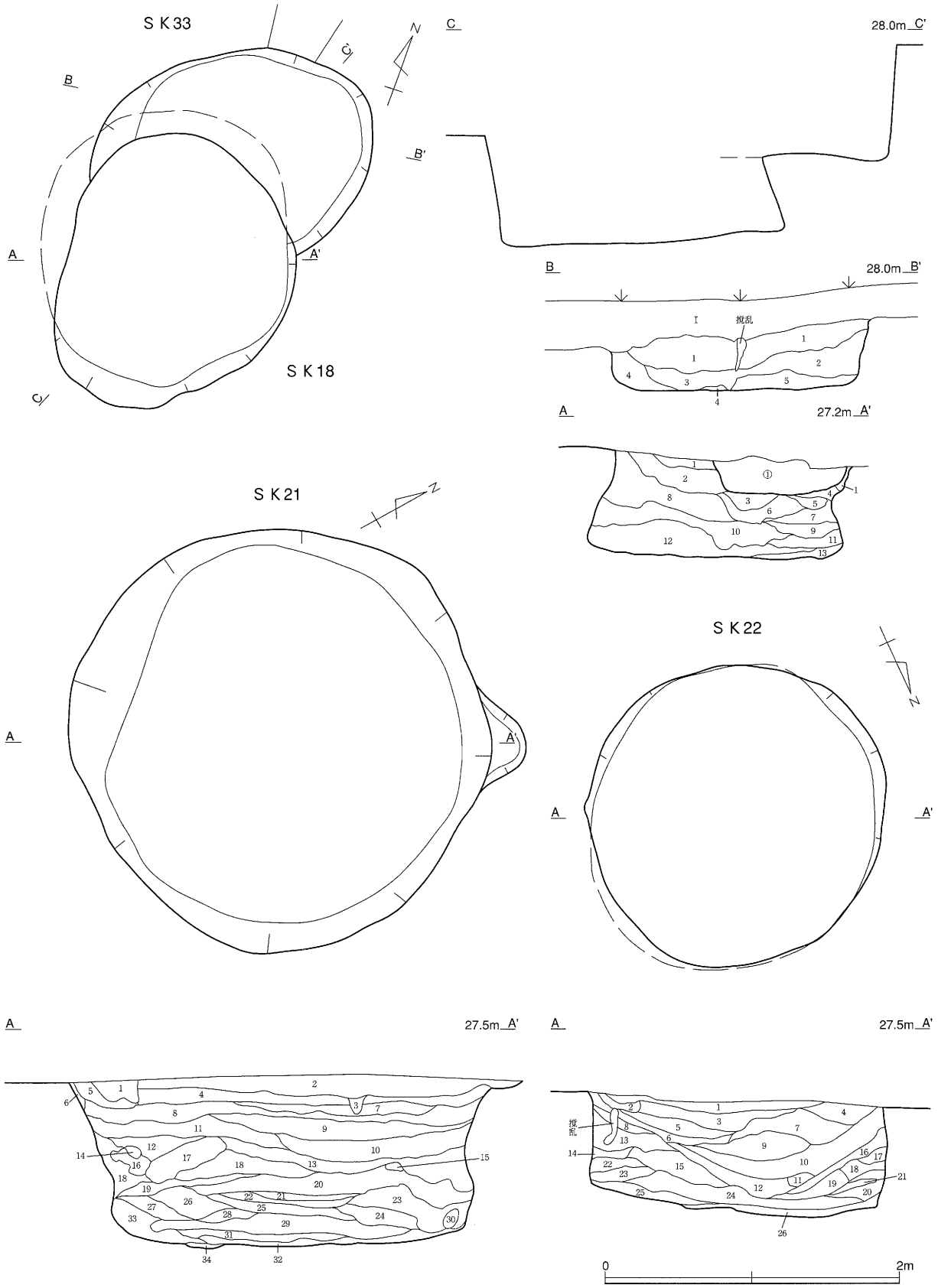
第41図　1・2・5・10号土坑（SK1・2・5・10）平面図・土層断面図（1/40）



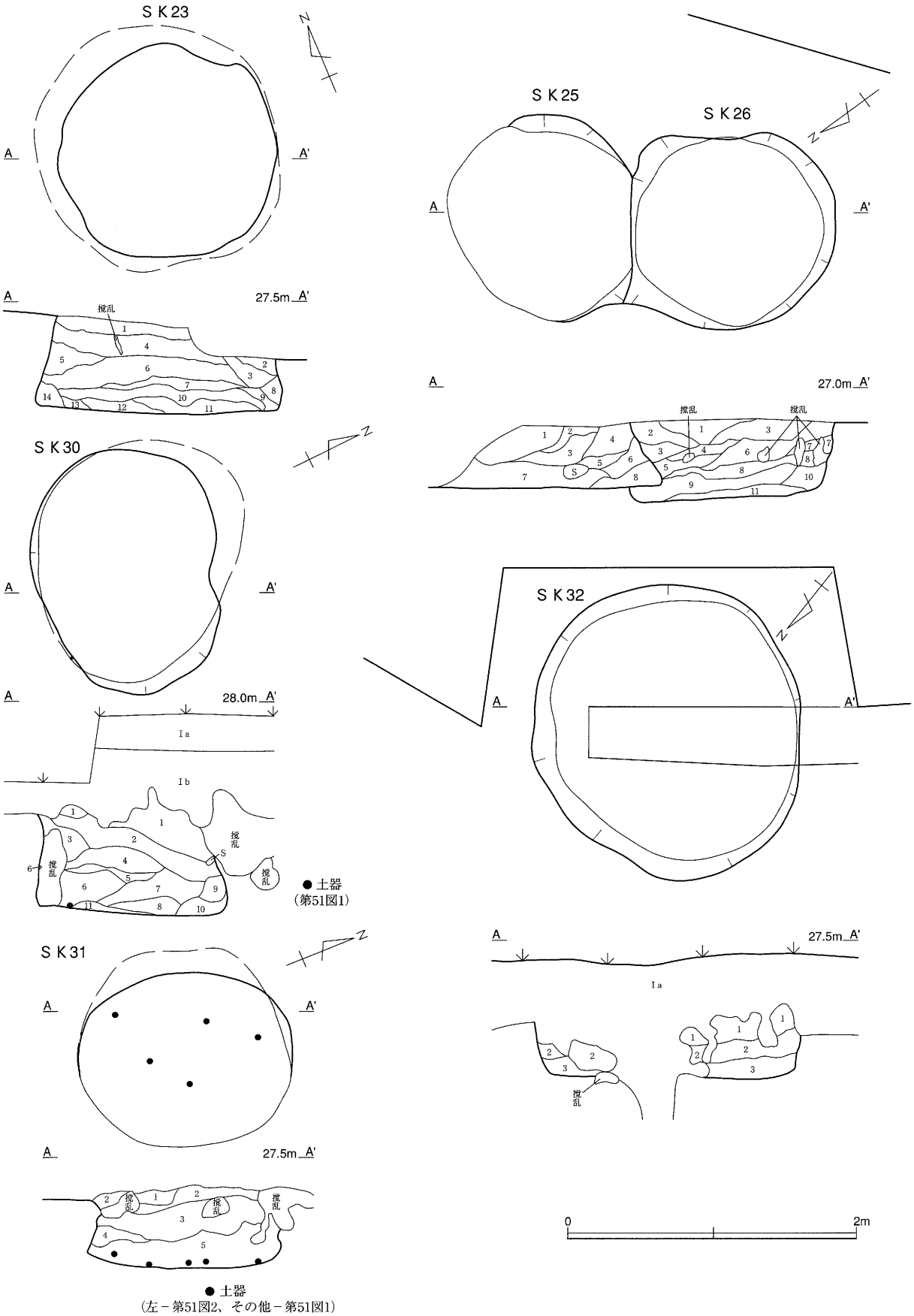
第42図　11～15号土坑（ＳＫ11～15）平面図・土層断面図（1/40）



第43図　16・17・19・20・27～29号土坑（SK16・17・19・20・27～29）平面図・土層断面図（1/40）



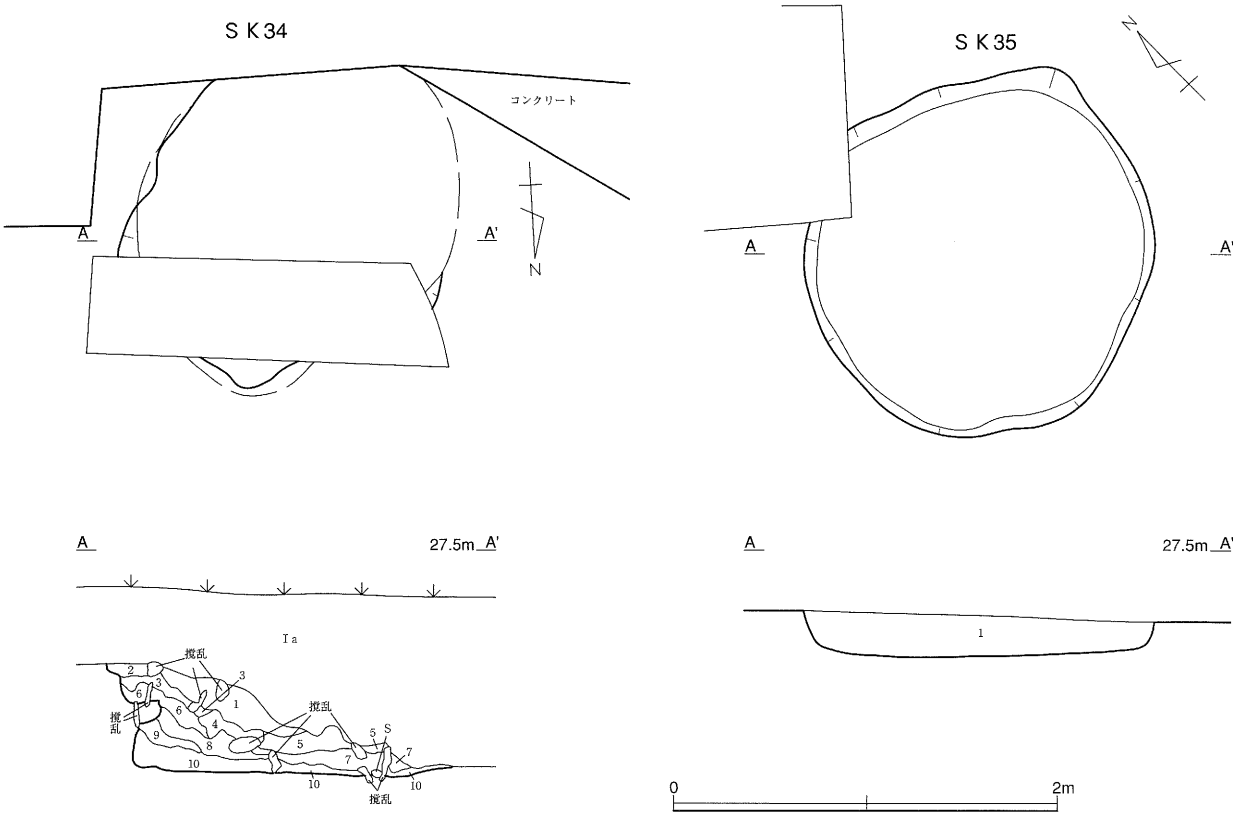
第44図　18・21・22・33号土坑（ＳＫ18・21・22・33）平面図・土層断面図（1/40）



● 土器
（第51図1）

● 土器
（左－第51図2、その他－第51図1）

第45図　23・25・26・30～32号土坑（ＳＫ23・25・26・30～32）平面図・土層断面図（1/40）



第46図　34・35号土坑（ＳＫ34・35）平面図・土層断面図（1/40）

土坑土層説明（第41～46図）

１号土坑（ＳＫ１）土層説明

１層　褐色（10YR4/4）締まりあり、粘性ややあり。
２層　にぶい黄褐色（10YR5/4）締まりあり、粘性ややあり。
３層　にぶい黄褐色（10YR4/3）締まりあり、粘性弱い。
４層　褐色（10YR4/4）締まり・粘性あり。
５層　褐色（10YR4/6）締まり・粘性あり。黄褐色（10YR5/8）の小ブロックを含む。
６層　褐色（10YR4/4）締まりあり、粘性弱い。
７層　褐色（10YR4/4）締まり・粘性あり。黄褐色（10YR5/6）のブロックを少量含む。
８層　褐色（10YR4/4）締まりあり、粘性なし。
９層　褐色（10YR4/4）締まり・粘性あり。黄褐色（10YR5/6）のブロックを含む。
10層　黄褐色（10YR5/6）締まり弱く、粘性ややあり。
11層　褐色（10YR4/4）締まり弱く、粘性あり。
12層　褐色砂質（10YR4/4）締まり弱く、粘性あり。黄褐色（10YR5/6）のブロックを含む。
13層　黄褐色砂礫（10YR5/6）締まりなく、粘性弱い。
14層　にぶい黄褐色砂質（10YR4/3）締まり弱く、粘性ややあり。
15層　褐色砂質（10YR4/4）締まり弱く、粘性あり。

２号土坑（ＳＫ２）土層説明

１層　暗褐色（10YR3/4）締まりあり、粘性弱い。
２層　褐色（10YR4/6）締まりあり、粘性弱い。
３層　褐色（10YR4/6）２層に類似するが黄褐色（10YR5/6）のブロックを多量に含む。
４層　にぶい黄褐色（10YR4/3）締まり・粘性あり。明黄褐色（10YR6/6）のブロックを含む。
５層　にぶい黄褐色（10YR4/3）４層に類似するが明黄褐色（10YR6/6）のブロックは少ない。
６層　褐色シルト（10YR4/4）締まりなし、粘性ややあり。
７層　黄褐色シルト（10YR5/6）締まりあり、粘性ややあり。
８層　黄褐色（10YR5/8）締まり・粘性あり。明黄褐色（10YR6/6）のブロックを少量含む。

５号土坑（ＳＫ５）土層説明

１層　暗褐色（10YR3/4）締まりややあり、粘性弱い。
２層　暗褐色（10YR3/4）１層に類似するが締まりやや増し、ややシルト質である。
３層　褐色（10YR4/4）締まりあり、粘性ややあり。
４層　褐色シルト（10YR4/6）締まりあり、粘性なし。
５層　褐色（10YR4/6）４層に類似するが黄褐色のブロックを含む。
６層　黄褐色砂質シルト（10YR5/6）締まり・粘性弱い。
７層　褐色砂質（10YR4/6）締まり・粘性なし。
８層　褐色砂質（10YR4/6）７層に類似するが黄褐色（10YR5/8）の粘質土ブロックを含む。
９層　褐色（10YR4/4）締まり・粘性弱い。暗褐色（10YR3/3）のブロックを含む。
10層　褐色（10YR4/6）締まりあり、粘性ややあり。黄褐色（10YR5/6）のブロックを多量に含む。
11層　褐色（10YR4/4）締まりあり、粘性ややあり。暗褐色（10YR3/4）、黄褐色（10YR5/6）のブロックを含む。
12層　褐色（10YR4/6）締まり・粘性弱い。
13層　黄褐色（10YR5/8）締まりあり、粘性ややあり。
14層　褐色（10YR4/6）締まり・粘性弱い。暗褐色のブロック少量含む。
15層　褐色（10YR4/6）14層に類似するが、暗褐色のブロックを含まない。
16層　褐色（10YR4/4）締まり弱く、粘性あり。黄褐色（10YR5/8）のブロックを多量に含む。

10号土坑（ＳＫ10）土層説明

１層　暗褐色（10YR3/4）締まり・粘性あり。黄褐色（10YR5/6）のブロックを微量含む。
２層　暗褐色（10YR3/4）１層に類似するが黄褐色（10YR5/6）のブロックをやや多く含む。
３層　にぶい黄褐色シルト（10YR4/3）締まりややあり、粘性弱い。
４層　黄褐色砂質（10YR5/6）締まり・粘性弱い。
５層　褐色（10YR4/4）締まりあり、粘性ややあり。黄褐色（10YR5/6）のブロックを含む。
６層　褐色（10YR4/6）締まり・粘性あり。黄褐色（10YR5/8）のブロックを少量含む。
７層　にぶい黄褐色（10YR4/3）締まりあり、粘性強い。

11号土坑（ＳＫ11）土層説明

１層　褐色（10YR4/4）締まりややあり、粘性強い。径3㎜の橙色スコリアを微量含む。
２層　褐色シルト（10YR4/4）締まりなし、粘性ややあり。褐色（10YR4/6）のブロックを含む。
３層　褐色シルト（10YR4/6）締まり弱く、粘性なし。
４層　黄褐色シルト（10YR5/6）締まり弱く、粘性ややあり。
５層　褐色シルト（10YR4/6）締まり・粘性弱い。明黄褐色（10YR6/6）のブ

ロックを微量含む。
6層　褐色（10YR4/4）締まりなし、粘性ややあり。
7層　褐色砂質シルト（10YR4/6）締まり・粘性なし。部分的に粘土質を含む。
8層　褐色（10YR4/4）粘性あるが、締まり弱く、粘性あり。黄褐色（10YR 5/6）のブロックを含む。
9層　褐色砂質（10YR4/6）締まり・粘性弱い。
10層　暗褐色（10YR3/4）締まりあり、粘性ややあり。
11層　褐色（10YR4/6）締まり・粘性ややあり。黄褐色のブロックを微量含む。
12層　褐色（10YR4/6）締まりややあり、粘性あり。明黄褐色の粘質ブロックをやや多く含む。
13層　褐色（10YR4/4）締まり弱く、粘性あり。黄褐色（10YR5/6）のブロックを少量含む。
14層　黄褐色粘質（10YR5/6）締まり・粘性強い。
15層　暗褐色（10YR3/4）締まり弱く、粘性あり。
16層　褐色（10YR4/6）締まりややあり、粘性あり。黄褐色（10YR5/6）のブロックを少量含む。

12号土坑（ＳＫ12）土層説明
1層　暗褐色（10YR3/4）締まり・粘性ややあり。褐色（10YR4/6）のブロックを含む。
2層　褐色シルト（10YR4/4）締まり・粘性ややあり。
3層　褐色シルト（10YR4/6）締まりあり、粘性弱い。黄褐色（10YR5/6）のブロックを含む。
4層　褐色シルト（10YR4/4）締まり弱く、粘性あり。
5層　暗褐色（10YR3/4）締まり・粘性あり。褐色（10YR4/6）のブロックを少量含む。
6層　褐色シルト（10YR4/4）締まり・粘性弱い。黄褐色（10YR5/6）のブロックを少量含む。
7層　暗褐色（10YR3/4）締まりあり、粘性やや強い。やや砂質の黄褐色（10YR5/6）のブロックを多量に含む。
8層　暗褐色シルト（10YR3/4）締まりややあり、粘性弱い。褐色（10YR4/4）のブロックを少量含む。
9層　黄褐色砂質（10YR5/6）ブロック。締まりなく、粘性弱い。
10層　暗褐色粘質（10YR3/4）締まり・粘性あり。
11層　褐色シルト（10YR4/6）締まり・粘性弱い。
12層　褐色（10YR4/4）締まりなく、粘性ややあり。暗褐色（10YR3/4）のブロックを微量含む。
13層　褐色粘質（10YR4/4）締まり・粘性強い。
14層　褐色（10YR4/6）締まり・粘性あり。黄褐色（10YR5/6）のブロックを少量含む。
15層　褐色（10YR4/6）締まりなく、粘性強い。暗褐色（10YR3/4）、褐色（10YR4/4）のブロックを多量に含む。

13号土坑（ＳＫ13）土層説明
1層　褐色（10YR4/6）締まりややあり、粘性弱い。
2層　黄褐色シルト（10YR5/6）締まり・粘性にあり。褐色（10YR4/6）のブロックを含む。
3層　褐色（10YR4/6）ブロック。締まり・粘性弱い
4層　褐色（10YR4/4）締まり弱く、粘性ややあり。黄褐色（10YR5/6）のブロックを少量含む。
5層　黄褐色（10YR5/6）締まり・粘性あり。
6層　褐色シルト（10YR4/6）締まり・粘性あり。
7層　褐色（10YR4/6）締まり弱く、粘性ややあり。
8層　黄褐色シルト（10YR5/6）締まりあり、粘性ややあり。
9層　黄褐色（10YR5/8）締まりややあり、粘性弱い。褐色（10YR4/6）のブロックを少量含む。
10層　褐色（10YR4/6）締まり・粘性弱い。黄褐色（10YR5/8）のブロックを少量含む。
11層　黄褐色シルト（10YR5/6）締まり・粘性弱い。褐色（10YR4/6）のブロックを含む。
12層　黄褐色シルト（10YR5/8）締まり・粘性あり。
13層　褐色（10YR4/4）締まり弱く、粘性あり。
14層　黄褐色砂質（10YR5/8）締まり弱く、粘性あり。

14号土坑（ＳＫ14）土層説明
1層　褐色（10YR4/6）締まり・粘性ややあり。
2層　褐色砂質シルト（10YR4/6）締まり・粘性なし。部分的に粘土質を含む。
3層　褐色（10YR4/4）締まりあり、粘性ややあり。
4層　褐色砂質シルト（10YR4/6）締まり・粘性なし。
5層　暗褐色（10YR3/4）締まりあり、粘性ややあり。
6層　黄褐色砂質シルト（10YR5/6）締まり弱く、粘性ややあり。
7層　褐色砂質シルト（10YR4/4）締まり・粘性なし。黄褐色（10YR5/6）のブロックを含む。
8層　暗褐色（10YR3/4）締まり・粘性強い。

15号土坑（ＳＫ15）土層説明
1層　褐色（10YR4/4）締まりあり、粘性ややあり。黄褐色（10YR5/8）のブロックを少量含む。
2層　にぶい黄褐（10YR4/3）締まり・粘性やや強い。
3層　黄褐色（10YR5/6）締まり・粘性あり。
4層　暗褐色（10YR3/4）締まりやや弱く、粘性あり。褐色（10YR4/4）、黄褐色（10YR5/8）のブロックをやや多く含む。
5層　黄褐色シルト（10YR5/6）締まり・粘性やや弱い。
6層　褐色シルト（10YR4/4）締まり弱く、粘性ややあり。黄褐色（10YR5/8）のブロックを多量に含む。
7層　黄褐色砂質（10YR5/6）締まり・粘性弱い。暗褐色（10YR3/4）のブロックを含み、部分的にラミナ状を呈す。
8層　褐色砂質シルト（10YR4/6）締まり・粘性弱い。
9層　暗褐色粘質（10YR3/4）締まり・粘性強い。褐色（10YR4/4）のブロックを少量含む。
10層　褐色（10YR4/4）締まり弱く、粘性ややあり。黄褐色（10YR5/6）のブロックを少量含む。

16号土坑（ＳＫ16）土層説明
1層　暗褐色（10YR3/3）締まり・粘性あり。黄褐色（10YR5/6）のブロックを含む。
2層　褐色シルト（10YR4/6）ブロック。締まり弱く、粘性ややあり。暗褐色（10Y R3/3）のブロックを少量含む。
3層　黄褐色シルト（10YR5/6）締まり・粘性弱い。
4層　褐色砂質（10YR4/4）締まり・粘性弱い。暗褐色（10YR3/3）、黄褐色（10YR5/6）をやや多く含む。
5層　褐色砂質（10YR4/4）締まり・粘性弱い。暗褐色（10YR3/3）のブロックを少量含む。
6層　黄褐色砂質（10YR5/6）締まり・粘性なし。
7層　褐色砂質（10YR4/4）締まり弱く、粘性あり。暗褐色（10YR3/4）のブロックを少量含む。
8層　黄褐色シルト（10YR5/6）締まりやや弱く、粘性あり。
9層　黄褐色砂質（10YR5/6）締まり・粘性なし。部分的に粘土質のブロックを含む。
10層　暗褐色（10YR3/4）締まり・粘性あり。
11層　黄褐色シルト（10YR5/8）締まり・粘性弱い。
12層　黄褐色（10YR5/6）締まり・粘性あり。
13層　にぶい黄褐色砂質（10YR5/6）　締まり弱く、粘性あり。
14層　黄褐色（10YR5/6）締まり・粘性あり。
15層　黄褐色（10YR5/6）締まり弱く、粘性あり。

17号土坑（ＳＫ17）土層説明
1層　暗褐色（10YR3/4）締まりあり、粘性ややあり。
2層　褐色（10YR4/4）締まり・粘性あり。
3層　褐色（10YR4/4）３層に類似するが締まり・粘性弱い。
4層　褐色シルト（10YR4/6）締まり・粘性弱い。褐色（10YR4/4）、黄褐色（10YR5/6）のブロックを含む。
5層　褐色シルト（10YR4/4）締まり・粘性弱い。黄褐色（10YR5/6）を微量含む。
6層　暗褐色（10YR3/4）締まりあり、粘性強い。褐色（10YR4/4）、黄褐色（10YR5/6）のブロックを含む。
7層　褐色砂質（10YR4/4）締まり・粘性弱い。
8層　褐色（10YR4/4）７層に類似するが暗褐色（10YR3/4）をラミナ状に含む。
9層　黄褐色砂質（10YR5/8）締まり・粘性なし。
10層　黄褐色（10YR5/6）９層に類似するが色調暗く、粘性増す。

18号土坑（ＳＫ18）・33号土坑（ＳＫ33）土層説明
①層　暗褐色（10YR3/4）ＳＫ33の堆積土４・５層に対比される土層。
1層　暗褐色（10YR3/4）締まりあり、粘性ややあり。
2層　暗褐色（10YR3/3）締まりあり、粘性やや強い。酸化鉄のブロック、明黄褐色（10YR6/6）のブロックを含む。
3層　褐色（10YR4/6）締まり・粘性やや弱い。
4層　黄褐色（10YR5/8）締まりややあり、粘性なし。ラミナ状に黒褐色（10YR3/2）を部分的に含む。
5層　にぶい黄褐色（10YR4/3）締まり・粘性やや強い。褐色（10YR4/6）のブロックを含む。
6層　褐色（10YR4/6）締まりややあり、粘性なし。
7層　褐色（10YR4/4）締まり・粘性やや強い。明黄褐色（10YR6/6）のブロックを含む。
8層　褐色（10YR4/4）締まりあり、粘性強い。酸化鉄を含む。
9層　にぶい黄褐色砂質（10YR4/3）　締まり・粘性弱い。
10層　にぶい黄褐色（10YR4/3）締まり・粘性強い。酸化鉄認められる。
11層　褐色砂質（10YR4/4）締まり・粘性弱い。
12層　黒褐色粘質（10YR3/2）締まり・粘性強い。明黄褐色（10YR6/6）のブロックを少量含む。
13層　黄褐色シルト（10YR5/6）締まりは弱く、粘性強い。

19号土坑（ＳＫ19）土層説明
1層　褐色（10YR4/6）締まり・粘性あり。黄褐色（10YR5/6）のブロックを含む。
2層　暗褐色（10YR3/3）締まりあり、粘性ややあり。
3層　褐色シルト（10YR4/4）締まり・粘性弱い。黄褐色のブロックをやや多く含む。
4層　黒褐色粘質（10YR2/3）締まり・粘性強い。

20号土坑（ＳＫ20）土層説明
1層　にぶい黄褐色（10YR4/3）締まり・粘性あり。炭化物粒子、黄褐色（10YR5/6）のブロックを含む。
2層　褐色（10YR4/4）締まり・粘性ややあり。黄褐色（10YR5/6）のブロックを多量に含む。
3層　にぶい黄褐色（10YR4/3）締まり弱く、粘性ややあり。黄褐色のブロックを少量含む。
4層　にぶい黄褐色（10YR4/3）３層に類似するが、締まりさらに弱く、色調暗い。
5層　にぶい黄褐色シルト（10YR5/4）　締まり弱く、粘性あり。
6層　黒褐色（10YR2/3）締まりあり、粘性強い。

7層　褐色砂質（10YR4/4）ブロック。締まり・粘性弱い。
8層　暗褐色粘質（10YR3/3）締まり・粘性強い。

21号土坑（ＳＫ21）土層説明
1層　暗褐色（10YR3/3）締まり・粘性あり。黄褐色（10YR5/8）のブロックを含む。
2層　黒褐色（10YR2/2）締まりあり、粘性ややあり。黄褐色（10YR5 /8）をラミナ状に含む。
3層　黄褐色シルト（10YR5/8）締まり・粘性弱い。
4層　暗褐色（10YR3/4）締まりあり、粘性ややあり。黄褐色（10YR5/8）を単位の大きいラミナで含む。
5層　褐色（10YR4/6）締まり弱く、粘性ややあり。
6層　黄褐色シルト（10YR5/6）締まり弱く、粘性ややあり。
7層　暗褐色（10YR3/3）締まり・粘性あり。黄褐色（10YR5/8）のブロックを含む。
8層　褐色（10YR4/4）締まり・粘性やや強い。黄褐色（10YR5/8）、明黄褐色（10YR6/8）のブロックを含む。
9層　黄褐色シルト（10YR5/6）締まりあり、粘性ややあり。黒褐色（10YR 3/2）のブロックを含む。
10層　にぶい黄褐色（10YR4/3）締まりあり、粘性ややあり。黒褐色（10YR 5/8）のブロックを多量に含む。
11層　暗褐色（10YR3/4）締まりあり、粘性強い。黄褐色（10YR5/8）のブロックを多量に含む。
12層　暗褐色（10YR3/3）粘性強いが、締まりあり、粘性強い。黄褐色（10 YR5/8）のブロックをやや多く含む。
13層　褐色（10YR4/4）締まり・粘性あり。黒褐色（10YR2/2）、黄褐色（10 YR5/8）のブロックを多量に含む。
14層　黄褐色（10YR4/6）ブロック。締まり弱く、粘性あり。
15層　黒褐色（10YR2/3）ブロック。締まりあり、粘性強い。褐色（10YR4/6）のブロックを少量含む。
16層　にぶい黄褐色（10YR4/3）ブロック。締まり・粘性やや強い。褐色（10 YR4/6）のブロックを少量含む。
17層　黄褐色シルト（10YR5/6）ブロック。締まり弱く、粘性あり。
18層　褐色（10YR4/4）締まり弱く、粘性あり。
19層　暗褐色シルト（10YR3/3）締まり弱く、粘性あり。黄褐色（10YR5/6）、黒褐色（10YR2/3）のブロックを含む。
20層　褐色（10YR4/4）締まり弱く、粘性やや強い。黄褐色（10YR5/6）のブロックを多量に含む。
21層　褐色（10YR4/4）締まり・粘性ややあり。黄褐色（10YR5/6）、黒褐色（10YR2/3）を含む。
22層　褐色シルト（10YR4/6）締まり弱く、粘性あり。黄褐色（10YR5/8）のブロックを少量含む。
23層　黄褐色砂質シルト（10YR5/6）締まりなし、粘性弱い。
24層　暗褐色（10YR3/3）締まりあり、粘性やや強い。黄褐色（10YR5/6）のブロックを少量含む。
25層　褐色土（10YR4/6）締まり・粘性弱い。黄褐色（10YR5/6）のブロックを含む。
26層　黄褐色シルト（10YR5/6）締まり弱く、粘性ややあり。
27層　褐色シルト（10YR4/6）締まり・粘性弱い。
28層　黒褐色（10YR3/2）締まり弱く、粘性あり。褐色（10YR4/6）をラミナ状に少量含む。
29層　褐色（10YR4/6）締まり・粘性弱い。明黄褐色（10YR7/6）、黒褐色（10 YR3/2）黄褐色（10YR5/6）のブロックを含む。
30層　暗褐色（10YR3/4）ブロック。締まり・粘性ややあり。黄褐色（10YR 5/6）、黒褐色（10YR2/3）のブロックを含む。
31層　黄褐色（10YR5/8）締まり・粘性弱い。
32層　暗褐色（10YR3/4）締まり弱く、粘性あり。褐色（10YR4/4）のブロックをやや多く含む。
33層　黄褐色（10YR5/8）締まり・粘性弱い。
34層　明黄褐色シルト（10YR6/8）締まり・粘性あり。黄褐色（10YR5/8）のブロックを含む。

22号土坑（ＳＫ22）土層説明
1層　暗褐色（10YR3/4）締まりあり、粘性ややあり。明黄褐色土ブロックをラミナ状に多量含む。
2層　にぶい黄褐色砂質（10YR6/6）締まりややり、粘性弱い。炭化物 粒子を微量に含む。
3層　褐色（10YR4/4）締まりあり、粘性ややあり。褐色（10YR4/6）のブロックを多量に含む。
4層　褐色（10YR4/4）締まり・粘性あり。黄褐色（10YR5/6）のブロックを含む。
5層　黄褐色（10YR5/6）締まり・粘性あり。褐色（10YR4/6）のブロックを多量に含む。
6層　褐色（10YR4/4）締まり・粘性ややあり。黄褐色（10YR5/6）のブロックを含む。
7層　黄褐色（10YR5/8）締まり・粘性あり。褐色（10YR4/6）を含む。
8層　にぶい黄褐色（10YR4/3）　締まり弱く、粘性あり。
9層　褐色（10YR4/4）締まり弱く、粘性あり。褐色（10YR4/6）のブロックを少量含む。
10層　褐色（10YR4/4）締まり弱く、粘性あり。
11層　黄褐色（10YR5/6）ブロック。締まり・粘性あり。
12層　褐色（10YR4/4）締まり弱く、粘性ややあり。黄褐色（10YR5/6）のブロックを含む。
13層　褐色（10YR4/6）締まり・粘性ややあり。部分的に粘土化が認められる。
14層　褐色（10YR4/4）締まり・粘性あり。黄褐色（10YR5/6）のブロックを少量含む。
15層　褐色（10YR4/6）締まり・粘性ともにややあり。
16層　黒褐色（10YR2/3）締まり・粘性あり。褐色（10YR4/4）のブロックを含む。
17層　褐色（10YR4/6）締まり弱く、粘性やや強い。
18層　にぶい褐色（10YR4/3）締まりあり、粘性強い、炭化物粒子を微量含む。
19層　褐色（10YR4/4）締まりあり、粘性やや強い。
20層　褐色砂質（10YR4/6）締まり弱く、粘性あり。
21層　褐色砂質（10YR4/4）締まり弱く、粘性ややあり。
22層　黄褐色砂質（10YR5/6）締まり・粘性弱い。
23層　黄褐色（10YR5/8）締まり・粘性ややあり。
24層　黄褐色（10YR5/6）締まり・粘性ややあり。
25層　黄褐色シルト（10YR5/8）締まり弱く、粘性あり。
26層　褐色（10YR4/6）締まり弱く、粘性ややあり。

23号土坑（ＳＫ23）土層説明
1層　褐色（10YR4/4）締まり・粘性強い。黄褐色のブロックを少量含む。
2層　黄褐色（10YR5/6）締まり・粘性あり。黄褐色（10YR5/6）のブロックを少量含む。
3層　褐色（10YR4/6）締まり・粘性あり。
4層　黄褐色砂質シルト（10YR5/6）　締まりあり、粘性弱い。
5層　褐色（10YR4/6）締まり・粘性あり。黄褐色（10YR5/6）のブロックを微量含む。
6層　黄褐色シルト（10YR5/6）締まり・粘性弱い。暗褐色（10YR3/4）、褐色（10YR4/6）のブロックを含む。
7層　褐色（10YR4/6）締まり・粘性あり。黄褐色（10YR5/6）のブロックをやや多く含む。
8層　褐色（10YR4/6）締まりあり、粘性強く。黄褐色（10YR5/6）のブロックを少量含む。
9層　褐色（10YR4/4）締まり・粘性強い。黄褐色のブロックを含む。
10層　黄褐色シルト（10YR5/6）締まりややあり、粘性弱い。
11層　褐色粘質（10YR4/6）粘性、締まり・粘性やや強い。
12層　褐色シルト（10YR4/6）締まり弱く、粘性あり。黄褐色（10YR5/6）のブロックを少量含む。
13層　黄褐色シルト（10YR5/6）締まり弱く、粘性あり。
14層　褐色土シルト（10YR4/6）締まり・粘性やや弱い。黄褐色（10YR5/6）のブロックを少量含む。

25号土坑（ＳＫ25）土層説明
1層　褐色（10YR4/6）黄褐色ブロック主体層。天井崩落土。
2層　暗褐色（10YR3/3）締まり・粘性あり。炭化物粒子を少量含む。
3層　暗褐色（10YR3/4）締まりあり。黄褐色ブロックを多量に含む。
4層　暗褐色（10YR3/3）締まりあり。
5層　褐色（10YR4/4）締まりあり。黄褐色ブロック多量、炭化物粒子を微量含む。
6層　暗褐色（10YR3/4）締まりあり。炭化物粒子を微量含む。
7層　にぶい黄褐色（10YR4/3）締まり・粘性あり。黄褐色ブロック少量、炭化物粒子を微量含む。
8層　黒褐色（10YR2/3）締まりあり。炭化物粒子を少量含む。

26号土坑（ＳＫ26）土層説明
1層　暗褐色（10YR3/3）締まりあり、粘性弱い。
2層　暗褐色（10YR3/4）締まりあり、粘性弱い。黄褐色ブロックを少量含む。
3層　暗褐色（10YR3/3）締まりあり、粘性弱い。黄褐色ブロック少量、炭化物粒子を微量含む。
4層　褐色（10YR4/4）　締まりあり、粘性弱い。黄褐色粒子を多量に含む。
5層　暗褐色（10YR3/4）締まりやや弱く、粘性弱い。黄褐色粒子を少量含む。
6層　にぶい黄褐色（10YR4/3）締まりあり、粘性弱い。黄褐色ブロック少量含む。
7層　暗褐色（10YR3/3）締まりあり、粘性なし。黄褐色粒微量含む。
8層　褐色（10YR4/4）締まりあり、粘性なし。黄褐色ブロックを多量に含む。
9層　にぶい黄褐色（10YR4/3）締まりあり、粘性弱い。黄褐色粒子を多量に含む。
10層　にぶい黄褐色（10YR4/3）9層に類似するが黄褐色ブロックを多量に含む。
11層　暗褐色（10YR3/3）締まり・粘性あり。黄褐色ブロック微量含む。

27号土坑（ＳＫ27）土層説明
1層　暗褐色（10YR3/4）締まり・粘性あり。
2層　褐色（10YR4/4）粘性ややあり、締まりあり、粘性ややあり。黄褐色（10YR5/6）のブロックを微量含む。
3層　褐色（10YR4/4）2層に類似するが締まり・粘性強くなる。
4層　褐色シルト（10YR4/4）締まり・粘性ややあり。
5層　黄褐色砂質（10YR5/6）締まり・粘性強くなる。

28号土坑（ＳＫ28）土層説明
1層　暗褐色（10YR3/4）締まり・粘性あり。
2層　暗褐色（10YR3/3）1層に類似するが色調明るく、黄褐色（10YR5/6）のブロックを少量含む。
3層　黄褐色（10YR5/8）締まり・粘性強い。暗褐色（10YR3/4）のブロックを多量に含む。

29号土坑（ＳＫ29）土層説明
1層　黒褐色（10YR2/3）締まり・粘性あり。
2層　褐色（10YR4/6）締まり・粘性にやや強い。暗褐色（10YR3/4）のブロックを含む。
3層　暗褐色（10YR3/4）締まり・粘性ややあり。

4層　暗褐色（10YR3/4）3層に類似するが粘性やや増し、黄褐（10YR5/6）のブロックを少量含む。
5層　暗褐色（10YR3/4）4層に類似するが黄褐色（10YR5/6）のブロックを多量に含む。
6層　黄褐色（10YR5/6）締まり・粘性やや強い。暗褐色（10YR3/4）、褐色（10YR4/6）のブロックを多量に含む。
7層　暗褐色（10YR3/3）4層に類似するが色調暗く、黄褐色（10YR5/6）のブロックが減る。
8層　褐色（10YR4/6）締まり・粘性やや強い。暗褐色（10YR3/4）のブロックを多量に含む。
9層　褐色（10YR4/4）締まり・粘性やや強い。
10層　暗褐色（10YR3/3）締まり・粘性あり。
11層　黄褐色（10YR5/6）締まりあり、粘性弱い。
12層　黄褐色（10YR5/6）11層に類似するが明黄褐色（10YR6/6）のブロックを少量含む。
13層　黄褐色シルト（10YR5/8）締まりややあり、粘性弱い。褐色（10YR4/6）のブロックを微量含む。
14層　褐色シルト（10YR4/4）締まり・粘性弱い。
15層　褐色（10YR4/6）14層に類似するが色調やや暗い。
16層　暗褐色（10YR3/3）締まりあり、粘性ややあり。褐色（10YR4/6）のブロックを多量に含む。

30号土坑（ＳＫ30）土層説明
1層　暗褐色（10YR3/4）締まりあり、粘性ややあり。褐色（10YR4/6）、黄褐色（10YR5/6）のブロックを少量含む。
2層　にぶい黄褐色（10YR4/3）締まりあり、粘性ややあり。黄褐色（10YR5/6）の小ブロックを少量含む。
3層　褐色（10YR4/4）締まり弱く、粘性あり。黄褐色（10YR5/6）、褐色（10YR4/6）ブロックをやや多く含む。
4層　褐色（10YR4/6）3層に類似するが黄褐色（10YR5/6）、褐色（10YR4/6）のブロックを多量に含む。
5層　黄褐色（10YR5/6）締まり・粘性あり。暗褐色（10YR3/4）、褐色（10YR4/6）のブロックを含む。
6層　褐色（10YR4/6）締まり弱く、粘性あり。黄褐色（10YR5/8）のブロックを含む。
7層　褐色（10YR4/6）6層に類似するが黄褐色土のブロックを多量に含む。
8層　黄褐色（10YR5/6）締まり・粘性あり。
9層　暗褐色粘質（10YR3/3）締まりあり、粘性強い。
10層　黄褐色シルト（10YR5/8）締まり・粘性ややあり。褐色（10YR4/6）のブロックを含む。

31号土坑（ＳＫ31）土層説明
1層　暗褐色（10YR3/3）締まり・粘性あり。褐色（10YR4/4）のブロックを含む。
2層　黄褐色（10YR5/6）締まりあり、粘性弱い。褐色（10YR4/6）のブロックを微量含む。
3層　褐色（10YR4/6）締まり弱く、粘性ややあり。
4層　褐色（10YR4/6）3層に類似するが暗褐色（10YR3/4）のブロックを含む。
5層　褐色（10YR4/4）締まり・粘性あり。暗褐色（10YR3/3）のブロックを少量含む。

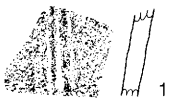
32号土坑（ＳＫ32）土層説明
1層　褐色（10YR4/6）締まり・粘性あり。
2層　褐色（10YR4/6）1層に類似するが締まり増す。
3層　黄褐色（10YR5/6）締まりあり、粘性ややあり。

33号土坑（ＳＫ33）土層説明
1層　褐色（10YR4/6）締まり・粘性あり。
2層　褐色（10YR4/6）1層に類似するが黄褐色（10YR5/6）のブロックを含む。
3層　褐色（10YR4/4）締まり弱く、粘性ややあり。黄褐色（10YR5/6）のブロックを多量に含む。
4層　暗褐色（10YR3/3）締まりやや弱く、粘性あり。黄褐色（10YR5/6）のブロックを微量含む。
5層　暗褐色（10YR3/4）4層に類似するが色調明るく、黄褐色（10YR5/6）のブロックが増加する。

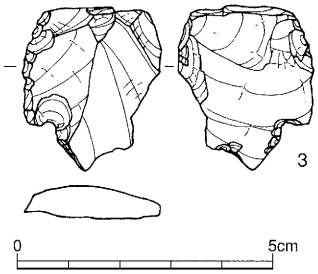
34号土坑（ＳＫ34）土層説明
1層　褐色（10YR4/4）締まりあり、粘性弱い。黄褐色粒子・小ブロックを少量含む。
2層　褐色（10YR4/6）締まりあり、粘性弱い。黄褐色シルトブロック主体。壁崩落土。
3層　褐色（10YR4/4）締まりあり、粘性弱い。黄褐色シルトブロックを多量に含む。
4層　褐色（10YR4/6）締まりあり、粘性弱い。黄褐色シルトブロックを多量に含む。壁崩落土。
5層　褐色（10YR4/4）粘性弱く、締まりあり。黄褐色粒・小ブロックを多量に含む。
6層　褐色（10YR4/4）締まりあり、粘性弱い。黄褐色粒・小ブロックを少量含む。
7層　褐色（10YR4/4）6層に類似した黄褐色粒・小ブロックを少量含む。
8層　暗褐色（10YR3/4）締まり弱い。黄褐色粒・小ブロックを少量含む。
9層　褐色（10YR4/4）締まりあり、粘性弱い。黄褐色シルトブロックを多量に含む。天井崩落土か。
10層　褐色（10YR4/4）締まり・粘性あり。黄褐色粒・小ブロックを少量含む。

35号土坑（ＳＫ35）土層説明
1層　褐色（10YR4/4）締まり・粘性なし。黄褐色シルトブロック・粒子を多量に含む。

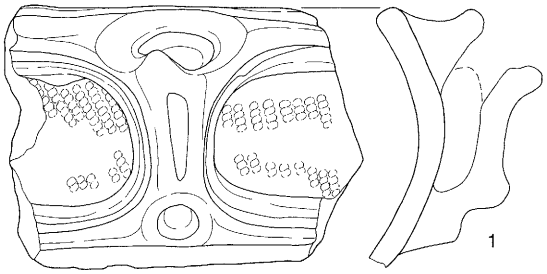
1号土坑（ＳＫ１）(1/3)

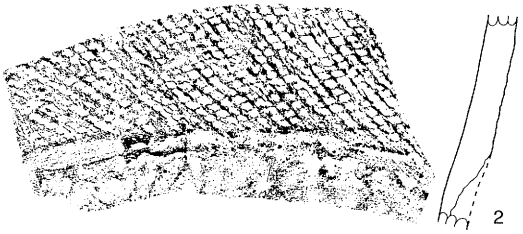


11号土坑（ＳＫ11）(1/3)

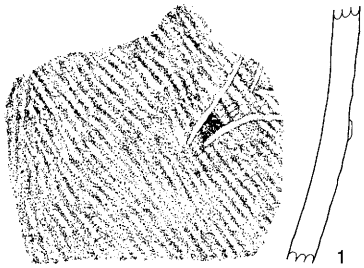


5号土坑（ＳＫ５）
（１・２－1/3、３－2/3）

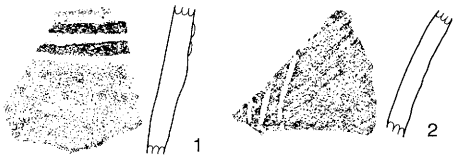




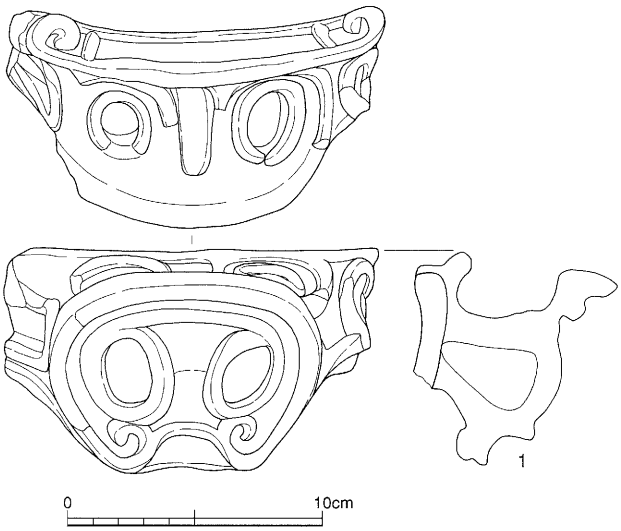
10号土坑（ＳＫ10）(1/3)



16号土坑（ＳＫ16）(1/3)



18号土坑（ＳＫ18）(1/3)

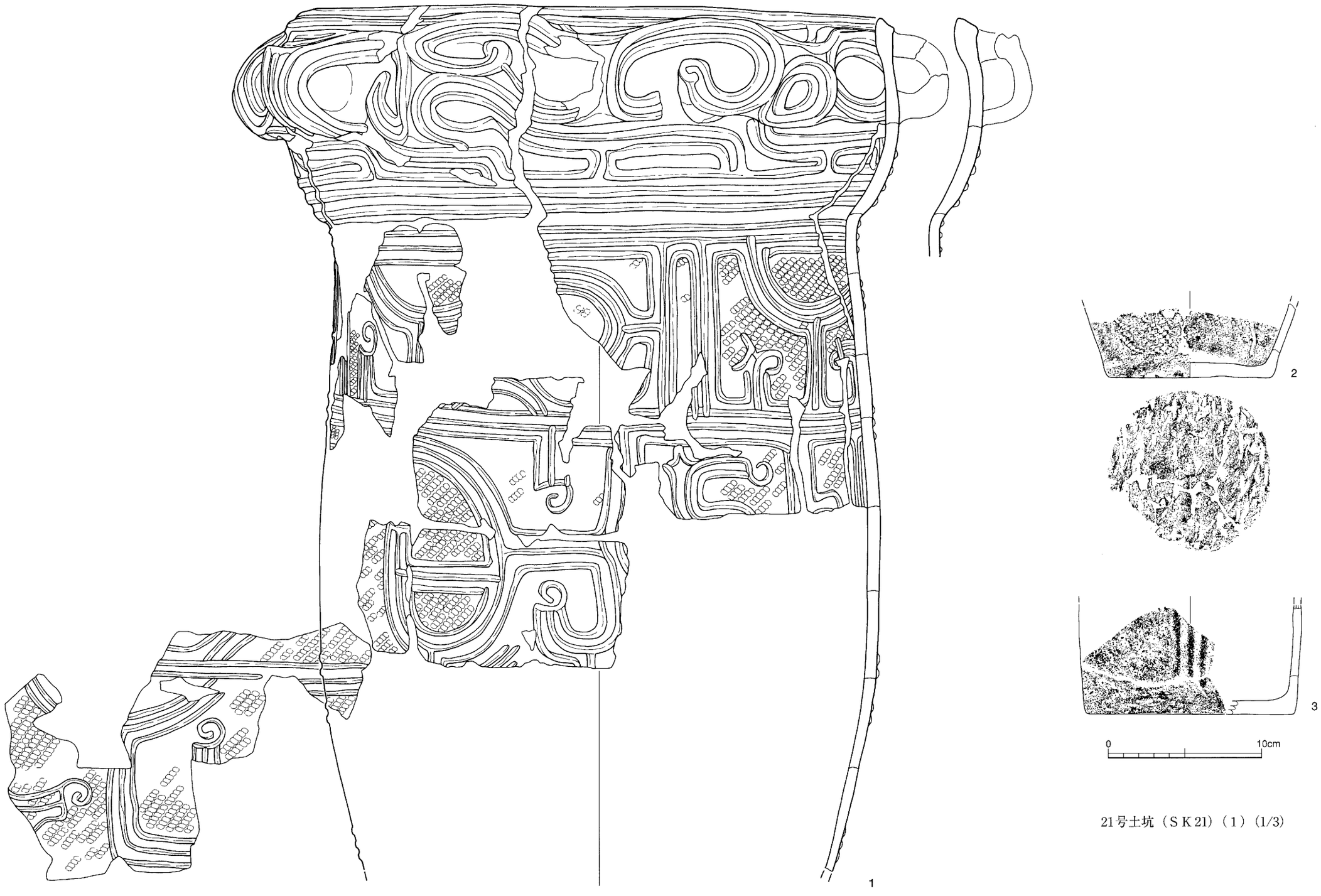


12号土坑（ＳＫ12）(1/3)

第47図　１・５・10～12・16・18号土坑（ＳＫ１・５・10～12・16・18）出土遺物

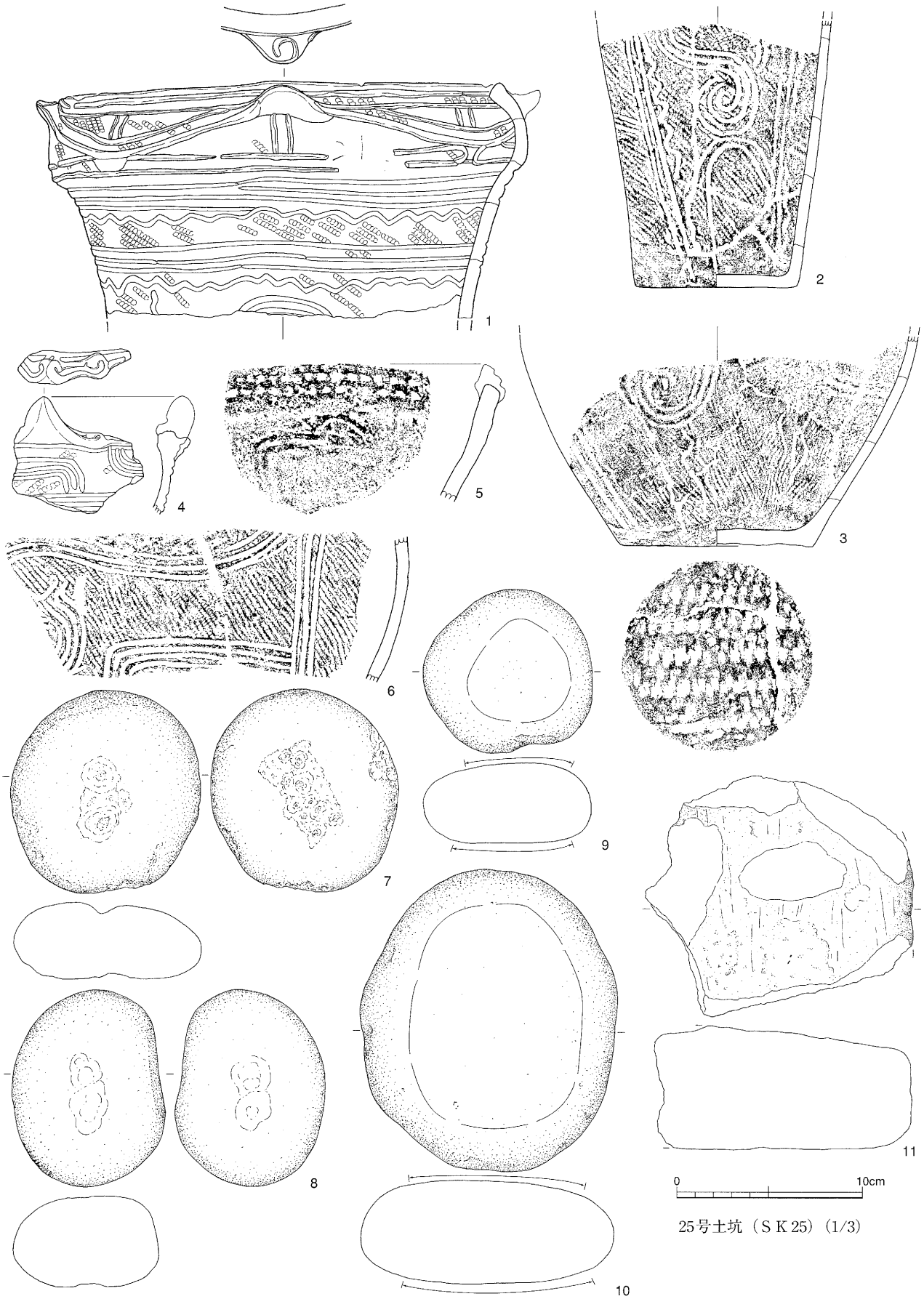
21号土坑（ＳＫ21）（２）(1/3)

第48図　21号土坑（ＳＫ21）出土遺物（２）



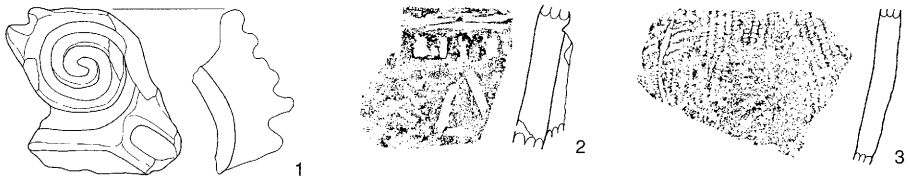
21号土坑（ＳＫ21）（１）（1/3）

第49図　21号土坑（ＳＫ21）出土遺物（１）



25号土坑（ＳＫ25）（1/3）

第50図　25号土坑（ＳＫ25）出土遺物



30号土坑（ＳＫ30）(1/3)

31号土坑（ＳＫ31）(1/3)

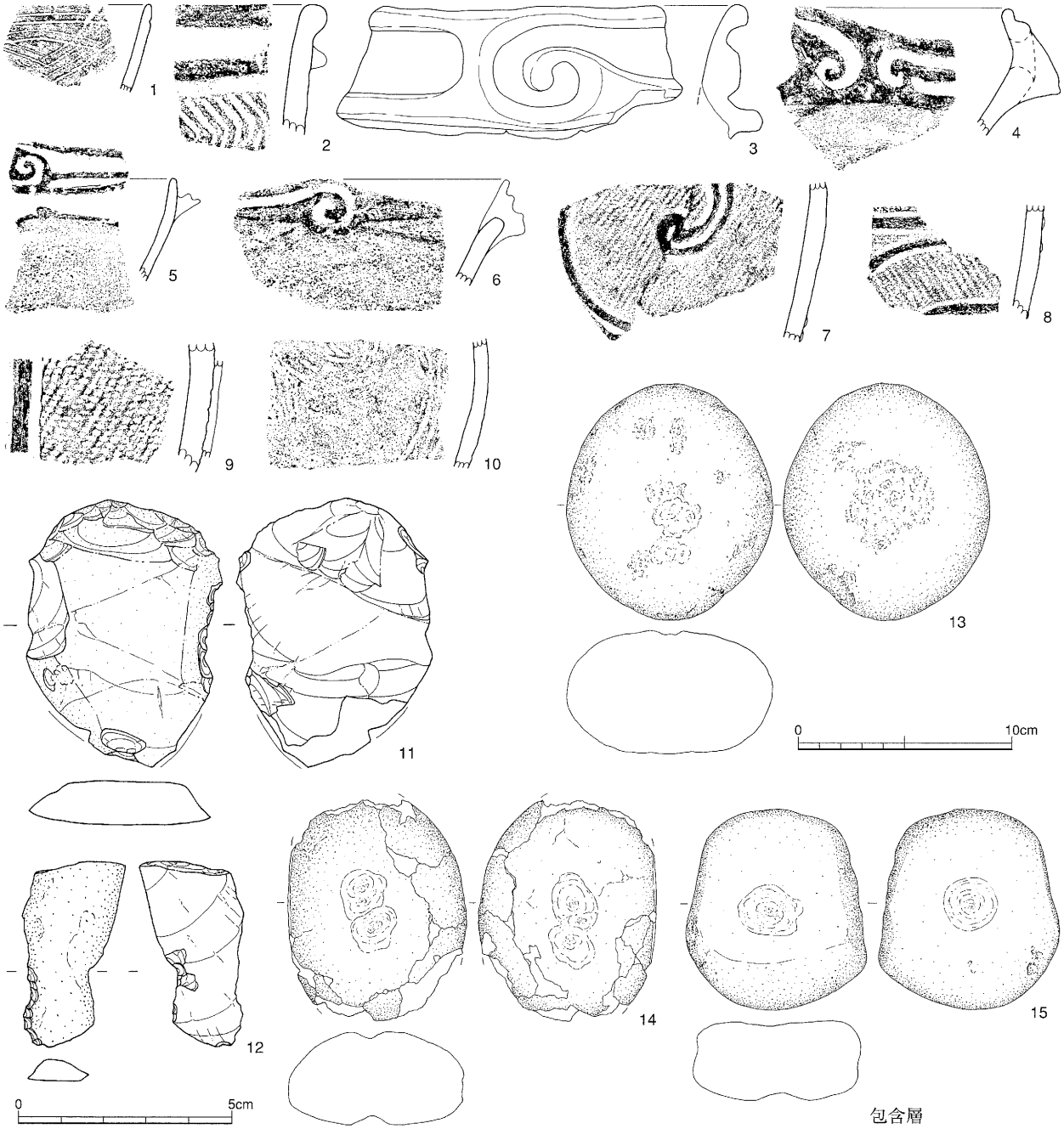
第51図　30・31号土坑（ＳＫ30・31）出土遺物

第3節　包含層出土遺物

包含層からは少量の土器・石器が出土した。そのほとんどは調査区東側に設定した深掘り区周辺のⅡ層からの出土である（第52図、第34表、図版29・35）。

土　器　縄文時代前期後半の土器と考えられる1以外は、縄文時代中期の大木8ｂ式を中心とする土器で、一部に9・10式（10）がある。

石　器　包含層からは5点の石器が出土し、内訳はスクレイパー2点（11・12）、凹石3点（13～15）である。



包含層
（1～10・13～15－1/3、11・12－3/2）

第52図　包含層出土遺物

第５次調査出土遺物観察表

土器　法量：cm、（ ）：残存値、推：推定数値
石器　大きさ：mm、重量：g、（ ）：残存値

第22表　１号掘立柱建物跡（ＳＢ１）ピット４出土遺物観察表

挿図番号	層　位	器形・部位	口径×器高×底径	文　様　・　地　文　の　特　徴	登録番号	写真図版
第39図１	中　層	深鉢・胴部		地文縄文ＬＲ	A314	図版26－１

第23表　１号土坑（ＳＫ１）出土遺物観察表

挿図番号	層　位	器形・部位	口径×器高×底径	文　様　・　地　文　の　特　徴	登録番号	写真図版
第47図１	中　層	深鉢・胴部		地文縄文ＬＲ　横位平行沈線	A315	図版26－１

第24表　５号土坑（ＳＫ５）出土遺物観察表

挿図番号	層　位	器形・部位	口径×器高×底径	文　様　・　地　文　の　特　徴	登録番号	写真図版
第47図１	上　層	深鉢・口縁部		地文縄文ＲＬ　２条１組貼付隆帯による渦巻	A316	図版26－１
第47図２	上　層	深鉢・胴部		地文撚糸ＲＬ	A317	図版26－２

挿図番号	層　位	器　種	石　材	長	幅	厚	重　量	遺存度	特　　徴	登録番号	写真図版
第47図３	上～中層	スクレイパー	珪質頁岩	32.5	27.2	6.3	6.5	完　形	下端に二次加工	K041	図版34－３

第25表　10号土坑（ＳＫ10）出土遺物観察表

挿図番号	層　位	器形・部位	口径×器高×底径	文　様　・　地　文　の　特　徴	登録番号	写真図版
第47図１	上　層	深鉢・口縁部		地文縄文ＲＬ　２条１組貼付隆帯＋沈線の橋状把手　把手上部に孔あり	A318	図版26－１
第47図２	上　層	深鉢・胴部		地文縄文ＲＬ	A319	図版26－２
第47図３	上　層	深鉢・胴部		地文縄文ＲＬ　複数の沈線垂下　磨消縄文	A320	図版26－３

第26表　11号土坑（ＳＫ11）出土遺物観察表

挿図番号	層　位	器形・部位	口径×器高×底径	文　様　・　地　文　の　特　徴	登録番号	写真図版
第47図１	上　層	深鉢・胴部		地文縄文ＬＲ　３条１組沈線垂下	A321	図版26－１

第27表　12号土坑（ＳＫ12）出土遺物観察表

挿図番号	層　位	器形・部位	口径×器高×底径	文　様　・　地　文　の　特　徴	登録番号	写真図版
第47図１	坑底直上	深鉢・口縁部		顔面状の立体的中空把手　破片形状を調整？	A322	図版26－１

第28表　16号土坑（ＳＫ16）出土遺物観察表

挿図番号	層　位	器形・部位	口径×器高×底径	文　様　・　地　文　の　特　徴	登録番号	写真図版
第47図１	上　層	深鉢・胴部		地文縄文ＲＬ　貼付隆帯＋沈線　剣先文　剝落	A323	図版26－１

第29表　18号土坑（ＳＫ18）出土遺物観察表

挿図番号	層　位	器形・部位	口径×器高×底径	文　様　・　地　文　の　特　徴	登録番号	写真図版
第47図１		深鉢・胴部		２条１組貼付隆帯　曲線文	A324	図版26－１
第47図２		深鉢・胴部		地文縄文ＬＲ　３条１組沈線垂下	A325	図版26－２

第30表　21号土坑（ＳＫ21）出土遺物観察表

挿図番号	層　位	器形・部位	口径×器高×底径	文　様　・　地　文　の　特　徴	登録番号	写真図版
第49図１	下　層	深鉢・胴下部欠損	37.0×(56.0)×－	口縁部：貼付隆帯＋沈線　横位渦巻橋状把手　頸部：把手から連続する貼付隆帯　クランク文　胴部：地文縄文ＬＲ　３条１組貼付隆帯によるパネル状区画文・渦巻文　１条貼付隆帯の小渦巻文	A326	図版27－１
第49図２	中　層	深鉢・底部	－×4.4×11.0	地文縄文ＲＬ　底面網代痕　内面横位調整痕・底面内面同心円状調整痕	A327	図版27－２
第49図３	下　層	深鉢・底部	－×7.0×(13.7)	地文縄文不明　３条１組の縦位貼付隆帯	A328	図版27－３

挿図番号	層　位	器　種	石　材	長	幅	厚	重　量	遺存度	特　　徴	登録番号	写真図版
第48図４	下　層	敲　石	閃緑岩	109.1	72.1	22.5	275	完　形	左側縁に剝離痕	K083	
第48図５	下　層	凹　石	閃緑岩	103.5	80.9	51.0	575	完　形	正面中央に弱い敲打痕	K084	
第48図６	下　層	凹　石	閃緑岩	98.1	95.4	58.0	665	完　形	正面中央に弱い敲打痕	K085	
第48図７	下　層	凹　石	閃緑岩	105.8	95.9	53.1	760	完　形	両面中央に弱い敲打痕	K086	
第48図８	下　層	凹　石	礫　岩	117.0	90.8	49.2	700	完　形	両面中央に敲打による窪み両面とも２カ所	K087	図版34－８
第48図９	下　層	凹　石	多孔質安山岩	93.0	74.5	54.4	425	完　形	両面中央に敲打による窪み	K088	図版34－９
第48図10	下　層	凹　石	閃緑岩	107.5	63.0	38.0	335	完　形	両面中央に敲打による窪み両面とも複数の窪みが連結	K089	図版34－10
第48図11	下　層	磨　石	閃緑岩	67.8	59.2	42.0	175	完　形	両面を使用	K090	図版34－11
第48図12	下　層	磨　石	閃緑岩	67.3	64.9	41.9	250	完　形	両面を使用	K091	図版34－12
第48図13	下　層	磨　石	閃緑岩	75.0	68.8	47.0	310	完　形	両面を使用	K092	図版34－13

第31表　25号土坑（ＳＫ25）出土遺物観察表

挿図番号	層　位	器形・部位	口径×器高×底径	文　様　・　地　文　の　特　徴	登録番号	写真図版
第50図１	中　層	深鉢・胴下部欠損	23.2×(13.0)×－	地文縄文ＲＬ　口縁部：２条１組貼付隆帯による三角形区画文　区画内中央に縦位の２条１組貼付隆帯　交点上位に１条の貼付隆帯を持つ突起・交点下位に小突起それぞれ４単位　頸部：上下端に３条１組横位沈線　その下位に１条の波状沈線　胴部：２条１組沈線曲線文　１条蛇行沈線垂下	A329	図版28－１
第50図２	中　層	深鉢・胴部下半	－×(14.6)×8.7	地文縄文ＲＬ　３条１組沈線渦巻文・曲線文・縦位　２条１組曲線文・垂下　１条縦位蛇行沈線	A330	図版28－２
第50図３	中　層	深鉢・胴部下半	－×(11.4)×10.4	地文縄文ＲＬ　３条１組沈線渦巻文・垂下　底面網代痕	A331	図版28－３
第50図４	中　層	深鉢・口縁部		地文縄文ＬＲ　上面に貼付隆帯渦巻文を持つ突起　３条１組のクランク文　口縁部文様上下に横位沈線区画	A332	図版28－４
第50図５	中　層	深鉢・口縁部		口縁部上端に２条の横位刺突文　以下３条１組貼付隆帯＋沈線クランク文・曲線文　地文縄文不明　剝落	A333	図版28－５
第50図６	中　層	深鉢・胴部		地文縄文ＬＲ　３条１組の沈線渦巻文　３～４条１組沈線のパネル状区画	A334	図版28－６

挿図番号	層　位	器　種	石　材	長	幅	厚	重　量	遺存度	特　徴	登録番号	写真図版
第50図７	中　層	凹　石	閃緑岩	111.0	103.8	41.9	620	完　形	両面に敲打による窪み　両面とも２カ所連結　左側縁の一部に敲打痕	K093	図版35－７
第50図８	中　層	凹　石	閃緑岩	108.1	82.3	49.2	615	完　形	両面に敲打による窪み　両面とも２カ所連結	K094	図版35－８
第50図９	中　層	磨　石	閃緑岩	90.0	90.4	44.0	545	完　形	両面を使用	K095	図版35－９
第50図10	中　層	磨　石	閃緑岩	165.0	138.2	56.2	2095	完　形	両面を使用　扁平な比較大形礫素材　小形扁平石皿類似	K096	図版35－10
第50図11	中　層	石　皿	閃緑岩	(131.7)	(143.4)	(67.9)	1570	破　片	大形扁平石皿	K097	図版35－11

第32表　30号土坑（ＳＫ30）出土遺物観察表

挿図番号	層　位	器形・部位	口径×器高×底径	文　様　・　地　文　の　特　徴	登録番号	写真図版
第51図１	上　層	深鉢・口縁部		太沈線による渦巻文把手	A335	図版28－１
第51図２	下　層	深鉢・胴部		横位貼付隆帯上に粗い刻み目＋沈線　太沈線による横位三角文	A336	図版28－２
第51図３	下　層	深鉢・胴部		地文縄文ＲＬ　１条の沈線による曲線文	A337	図版28－３

第33表　31号土坑（ＳＫ31）出土遺物観察表

挿図番号	層　位	器形・部位	口径×器高×底径	文　様　・　地　文　の　特　徴	登録番号	写真図版
第51図１	下　層	深鉢・胴下部欠損	23.0×33.8×－	地文縄文ＲＬ　口縁上位に１条の横位貼付隆帯　Ｓ字状突起・小突起各２単位	A338	図版29－１
第51図２	下　層	浅鉢・底部	－×7.0×11.0	やや上げ底	A339	図版29－２

第34表　包含層出土遺物観察表

挿図番号	層　位	器形・部位	口径×器高×底径	文　様　・　地　文　の　特　徴	登録番号	写真図版
第52図１	Ⅱ　層	深鉢・口縁部		推定半截竹管による２条１組の細沈線　口縁部上端に横位平行・以下菱形文	A340	図版29－１
第52図２	Ⅱ　層	深鉢・口縁部		口縁上位に横位貼付太隆帯　以下太沈線による矢羽根状文	A341	図版29－２
第52図３	Ⅱ　層	深鉢・口縁部		太隆帯＋太沈線渦巻文　太隆帯楕円区画文	A342	図版29－３
第52図４	Ⅱ　層	深鉢・口縁部		屈折した口縁上端に幅狭口縁部文様　太沈線による横位渦巻文　孔を持つ突起	A343	図版29－４
第52図５	Ⅱ　層	深鉢・口縁部		屈折した口縁部上端に横位沈線による渦巻文突起	A344	図版29－５
第52図６	Ⅱ　層	深鉢・口縁部		屈折した口縁上端に幅狭口縁部文様　太沈線による横位渦巻文突起	A345	図版29－６
第52図７	Ⅱ　層	深鉢・胴部		地文縄文ＬＲ　２条１組の貼付隆帯渦巻文	A346	図版29－７
第52図８	Ⅱ　層	深鉢・胴部		地文縄文ＬＲ？　１条の貼付隆帯＋沈線による平行・曲線文　磨消縄文	A347	図版29－８
第52図９	Ⅱ　層	深鉢・胴部		地文縄文ＬＲ　１条の貼付隆帯垂下	A348	図版29－９
第52図10	Ⅱ　層	浅鉢・胴部		剝落により地文縄文不明　３条１組沈線の曲線文	A349	図版29－10

挿図番号	層　位	器　種	石　材	長	幅	厚	重　量	遺存度	特　徴	登録番号	写真図版
第52図11	Ⅱ　層	スクレイパー	珪質頁岩	63.9	45.9	10.8	37.3	ほぼ完形	右側縁中央部に緩い抉り	K042	図版35－11
第52図12	Ⅱ　層	スクレイパー	珪質頁岩	(44.0)	24.2	5.0	6.1	上部欠損	左側縁下位に緩い抉り	K043	図版35－12
第52図13	Ⅱ　層	凹　石	礫　岩	112.5	96.5	58.2		完　形	両面中央に敲打による窪み　正面には散在した敲打痕あり　痕裏面は弱い窪み	K098	図版35－13
第52図14	Ⅰ　層	凹　石	閃緑岩	(105.2)	83.5	44.0	550	ほぼ完形	両面中央に敲打による窪み　両面とも２カ所	K099	図版35－14
第52図15	Ⅱ　層	凹　石	閃緑岩	95.7	84.5	37.0	415	完　形	両面中央に敲打による窪み	K100	図版35－15

第Ⅳ章　まとめ

今回の調査は、都市計画街路富沢山田線建設に先立つ調査として実施した。

確認調査は、建設予定地内約7,000㎡の全域に10×３ｍの確認調査区20ヵ所、600㎡を設定し、遺構の確認を行ったものであった。遺構・遺物包含層の有無を確認することに目的があったため、予定地内における上野遺跡のおよその輪郭を掴むことはできたが、将来行われる本調査に委ねる部分が多いことは報告したとおりである。

第５次調査は、確認調査の結果を受け、建設予定地内の東端域410㎡を調査したものであり、上野遺跡南東端の台地縁辺域における様相の一端が把握された。いずれも限られた条件・範囲内での調査ではあったが、今回の建設予定地内に縄文時代中期中葉～後葉の連続する集落跡が展開することが判明した。古くから注目されてきた上野遺跡について、過去の調査資料とともに、今後行われる上野遺跡の調査・研究に活用が期待される新たな資料を提示することができたと考えている。

本章では、確認調査と第５次調査に分け、それぞれの調査成果及び問題点について述べてまとめにかえるものとする。

第１節　確認調査

遺構密度は６・７トレンチが最も高く、トレンチ全体が遺構堆積土となる状況が認められた。住居跡は６・７・10トレンチから検出でき、出土遺物も多い。２～４・10・11・14～22トレンチからは、土坑状プランが確認できた。２・19～22トレンチでは、これらがフラスコ状土坑となることを確認した。19～22トレンチは確認調査後に本調査を行った区域である。

出土した縄文土器は、縄文時代中期の大木７ｂ～９・10式の連続する土器型式となっている。それはこれまでに行われた調査報告と一致するが、トレンチによって若干の時期差を見出すことができる。大木８ｂ式は建設予定地内の全域から出土しており、本遺跡の主体時期を示す。大木８ａ式以前は11トレンチ以東を中心として、西端域に近い２トレンチに認められる。12・13トレンチにおいて大木７ｂ式が出土しており、この区域が建設予定地内の中では最も古い段階に属す。一方、大木９・10式は２～12トレンチから出土し、大木８ａ式以前の空白域に集中する。こうしたことから、今回調査した建設予定地内における縄文時代中期集落跡の遺構分布には、時期的変遷を伴う消長関係の存在が想定される。

出土土器から見た建設予定地内における古→新の変遷は、東側主体→全域→西側主体という連続的な分布推移が認められる。これは必ずしも遺構年代を示したものではないが、建設予定地内における上野遺跡の時期・変遷の一端を窺わせるものと考えられる。７トレンチの南東へ約150ｍの地点付近にあたる1976年（第１次）調査区からは住居跡８軒が発見され、出土した土器は大木８ｂ～10式とされている（結城 1989、主浜 1995）。これは今回の調査において認められた時期別の分布推移と整合するものと考えられる。

遺跡全体の石器組成は、凹石・磨石が圧倒的に多く、磨石との組み合わせが考えられる石皿も一定量出土している。凹石・磨石に次いで、石匙や二次加工・微細剥離痕のある剥片を含むスクレイパー類が非常に多く見られる。それに対し、石斧類は打製石斧が１点出土したのみで、石鏃に至っては検出されなかった。こうした石器組成の偏りは今回の調査が遺構確認調査であったことに起因する可能性もあるため、スクレイパー類、凹石・磨石類の卓越傾向を指摘するにとどめておきたい。

なお、５・10・12・13トレンチからは９世紀以降の赤焼土器・ロクロ土師器の完形品・破片、７トレンチからは

須恵器破片が少量出土している。各トレンチで観察された土層堆積の状態から、古代の遺物包含層が残されている可能性は低いと考えられるが、希薄ながらも当該期遺構の存在を考慮する必要もある。

第2節　第5次調査

第5次調査で検出した遺構は、掘立柱建物跡1棟と土坑28基である。これらの遺構分布は調査区北西部分に集中し、土坑の分布はその中でも北側に密度が高く、南側ほど散漫に分布している。土坑群はフラスコ状土坑を主体とするもので、底面付近が残存すると考えられるものを含めると26基ある。坑底に小ピットを持つフラスコ状土坑は2基見られたが、溝を持つものは認められなかった。また、堆積土中よりまとまった土器が出土したものは3基あり（ＳＫ21・25・31)、底面直上から1点の大形把手が出土したものが1基ある（ＳＫ21)。これらの土坑の時期は出土遺物から縄文時代中期中葉に位置づけが考えられる。

掘立柱建物跡は一部で土坑との切り合いが見られたものの、その密集域に隣接した比較的希薄な土坑分布域に位置する。しかし、その年代的位置づけは保留した。

検出した土坑28基中、フラスコ状土坑は22基（ＳＫ１・２・５・11～18・20～23・25～27・29～31・34)、フラスコ状土坑の残存と考えられる浅い土坑は4基（ＳＫ28・32・33・35)、それ以外の土坑は2基（ＳＫ10・19）である。土坑は調査区北側に多く、フラスコ状を呈さない土坑はすべて調査区北側に分布している。調査区北西端は特に土坑が集中する区域で、最も著しい重複は4基（ＳＫ17・27～29）1ヵ所で、その周辺に2基の重複土坑が4ヵ所（ＳＫ12・13、14・15、18・33、19・20）見られる。南側は7基のフラスコ状土坑が散漫に分布し、2基の重複が1ヵ所（ＳＫ25・26）認められるにすぎず、全体的に見ても重複は多い状態ではない。

フラスコ状土坑には大・中・小の規模差があり、大形のものは3基と少ない（ＳＫ１・16・21)。その分布は散漫で、1ヵ所に集中する傾向は認められない。フラスコ状土坑の坑底は平坦で、その中央に小ピットを持つものはＳＫ11・14の2基がある。ＳＫ14はＳＫ15と重複し、坑底に小ピットを持たないＳＫ15よりも新しい。小ピットはフラスコ状を呈さないＳＫ19にも認められる。フラスコ状土坑の堆積土は壁の崩落・流入によると推測できる堆積状態が観察され、有機質を含んだ薄い黒褐色シルト質粘土が坑底のほか堆積土中・上層に認められるものもあった。開口部は不整形のものや坑底とあまり変わらない規模のものがある。こうしたことは本来の掘り込み面よりも下位での遺構確認となることのほか、堆積土の堆積状態や断面形態のあり方を考慮すれば、壁の崩落に伴う開口部の変形が推測される。中でも調査区壁面において断面観察できたＳＫ５は、壁の崩落のない断面形態を残すものと考えられた。

ＳＫ21・25・31からは、復元可能な深鉢形の大形土器破片がまとまって出土した。いずれも坑底より浮いた位置からの出土で、埋没過程にある土坑内に一括廃棄されたものと考えられ、ＳＫ21・31はその初期段階で行われている。ＳＫ21からは胴部上半以上が接合・復元された大形の深鉢形土器が出土し、胴下部破片を欠落する状態であった。逆にＳＫ25からは胴下部のみの接合・復元された深鉢形土器が出土している。ＳＫ12の壁寄りからは、大形把手部の破片が坑底直上から出土した。他に少量の土器破片が出土した土坑もあるが、いずれも混在遺物と考えられる。これらの土器は縄文時代中期の大木８ａ・８ｂ式で、前後の型式を含まない。包含層出土遺物も大木８ａ・８ｂ式主体だが、遺物量は少ない。

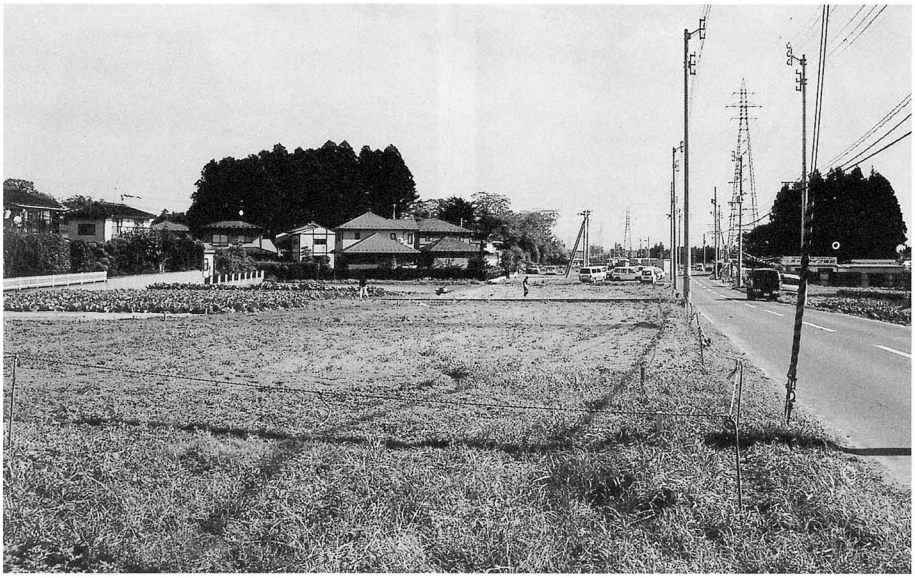
石器が出土した土坑は、ＳＫ５・21・25である。ＳＫ５は埋没中に混入したものと考えられるが、ＳＫ21・25は多量の大形土器破片とともに凹石・磨石の完形品、石皿の破片が出土している。本調査区となった22トレンチと包含層出土石器を含めても出土総点数は23点と少なく、その内訳も凹石・磨石17点、スクレイパー類3点、石皿1点、剥片2点となる。

今次（第５次）調査での遺構分布のあり方は、22基のフラスコ状土坑が発見されている近隣の第４次調査（結城1989）と一致するものであり、住居跡群の周辺域にフラスコ状土坑が分布する様相の一端を示すものと考えられる。一方、今回の調査区よりも狭い調査面積（100㎡）であった第４次調査の出土遺物量は多く、石器組成も多様であったのに対し、今次本調査区から出土した遺物は量が少なく、石器組成を検討するまでにはいたらなかった。

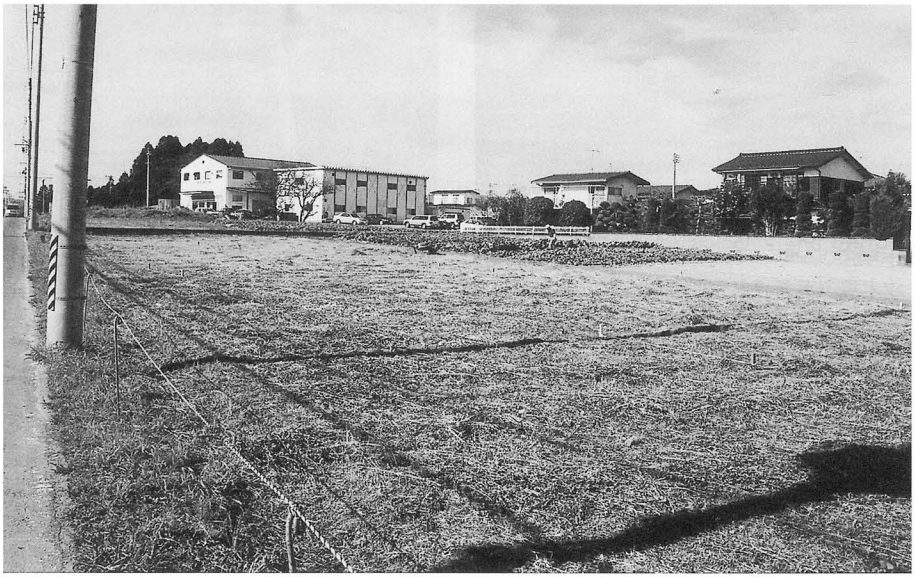
参考文献

伊東信雄　1950「仙臺市内の古代遺跡」『仙臺市史３　別編１』仙臺市史編纂委員會
金森安孝・工藤哲司・千葉　仁　1986『仙台市文化財調査報告書第88集　昭和60年度　上野遺跡　市道十文字線関係調査略報』仙台市教育委員会
主浜光朗　1995「上野遺跡」『仙台市史　特別編２　考古資料』仙台市史編さん委員会
仙台市教育委員会　1995『仙台市太白区文化財分布地図』
仙台市史編さん委員会　1995『仙台市史　特別編２　考古資料』
松本彦七郎　1930「陸前國名取郡西多賀村の三石器時代乃至直後遺蹟（二）（完）」『考古学雑誌』第20巻第４号　考古学会
結城慎一　1989『仙台市文化財調査報告書第127集　上野遺跡－電力鉄塔関係発掘調査報告書－』仙台市教育委員会

図　　版



遺跡近景（1トレンチから東を望む）



遺跡近景（6トレンチから西を望む）

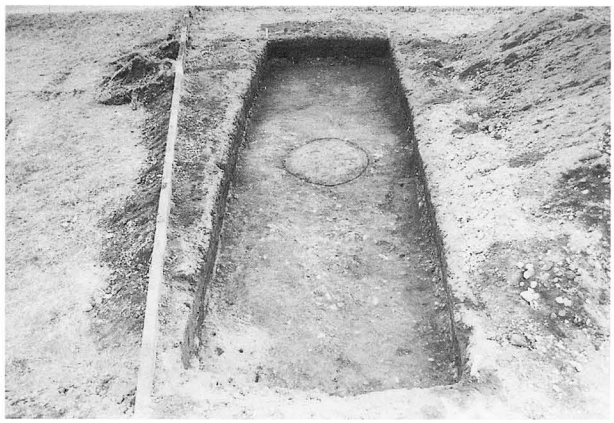
遺跡近景（15トレンチ周辺から東を望む）

図 版 2

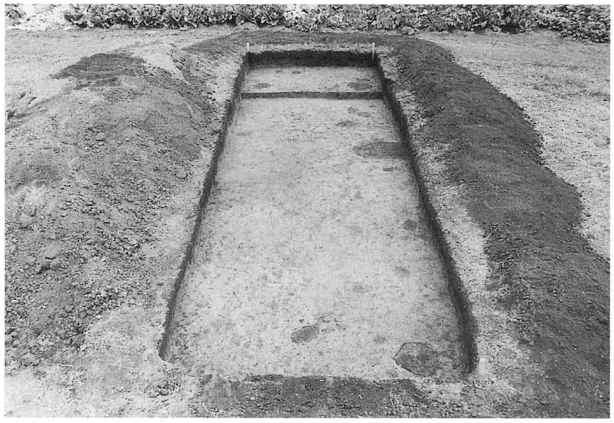
1トレンチ全景（北から）

2トレンチ全景（南から）

2トレンチ1号土坑（ＳＫ１）（北西から）

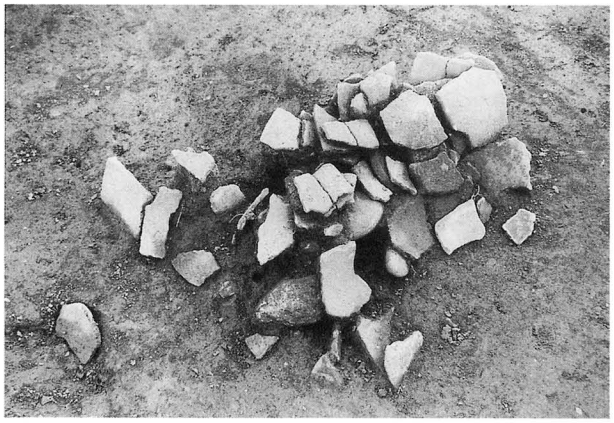


3トレンチ全景（北から）



4トレンチ全景（南から）

5トレンチ全景（北から）



5トレンチ縄文土器出土状態（西から）

5トレンチ須恵器及び土師器坏出土状態（西から）

6トレンチ全景（南から）

6トレンチ１・２号埋設土器（ＳＸ１・２）及び
１号配石状遺構（ＳＸ３）検出状況（北東から）

6トレンチ１・２号埋設土器（ＳＸ１・２）検出状況
（南東から）

6トレンチ１号住居跡（ＳＩ１）複式炉上面検出状況
（南東から）

7トレンチ全景（南東から）

7トレンチ１号住居跡（ＳＩ１）複式炉検出状態
（南東から）

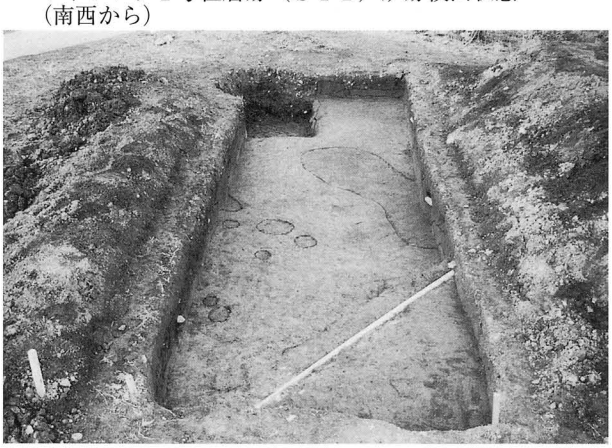
7トレンチ１号住居跡（ＳＩ１）複式炉検出状態
（南から）

7トレンチ１・２号埋設土器（ＳＸ１・２）及び
周辺遺物検出状態（北西から）

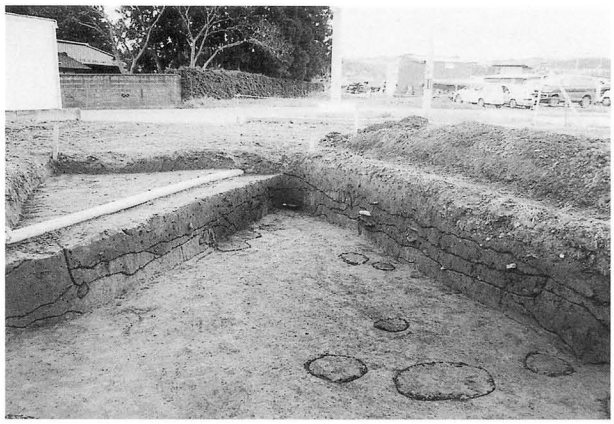
図 版 4

7トレンチ2号住居跡（ＳＩ２）炉跡検出状態（南西から）

7トレンチ2号住居跡（ＳＩ２）石器出土状態（北から）



10トレンチ全景（南から）

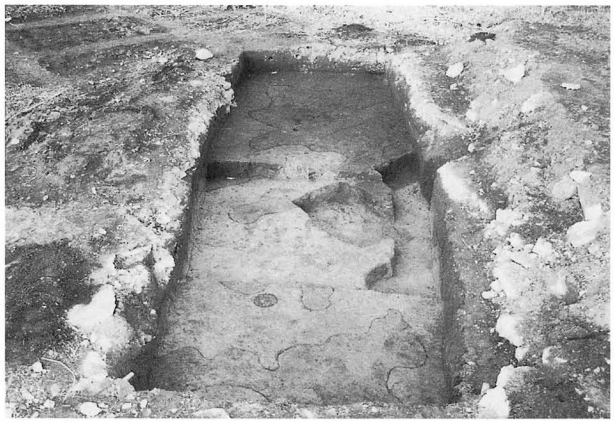


10トレンチ1号住居跡（ＳＩ１）土層断面（北東から）

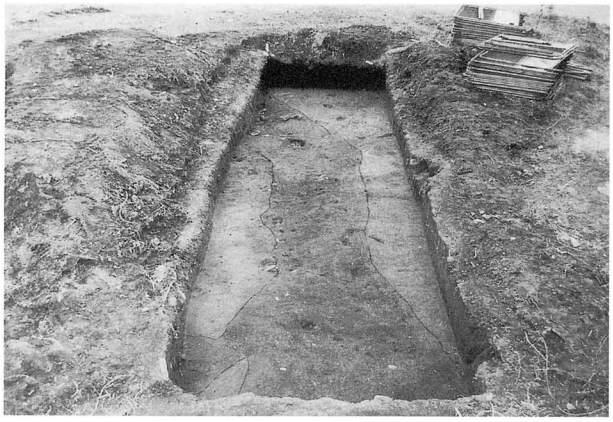
10トレンチ1号住居跡（ＳＩ１）縄文土器・石器出土状態（東から）

10トレンチ土師器坏出土状態（北東から）

11トレンチ全景（南東から）



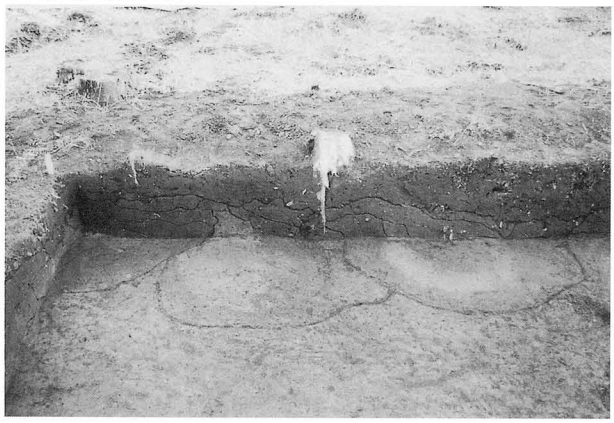
12トレンチ全景（南西から）



13トレンチ全景（北から）

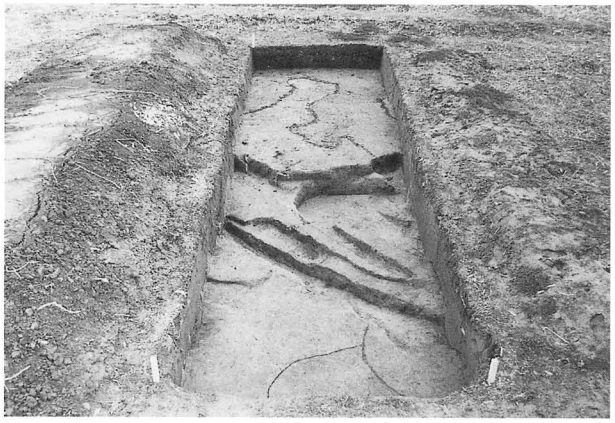
13トレンチ１号溝状プラン（ＳＸ１）南側遺物出土状態（北から）

14トレンチ全景（南から）



14トレンチ土坑状プラン検出状態（西から）

15トレンチ全景（南から）



16トレンチ全景（南から）

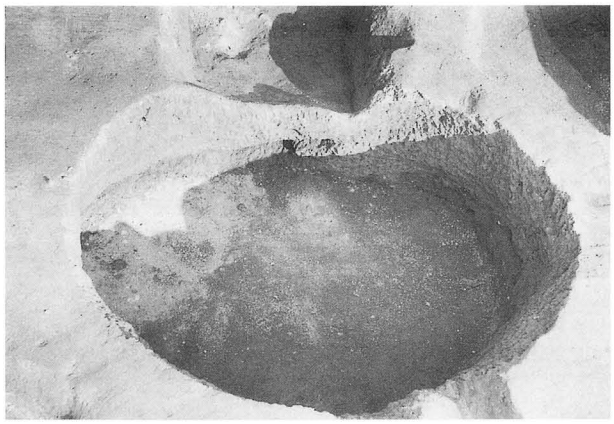
17トレンチ全景（北から）

18トレンチ全景（南から）

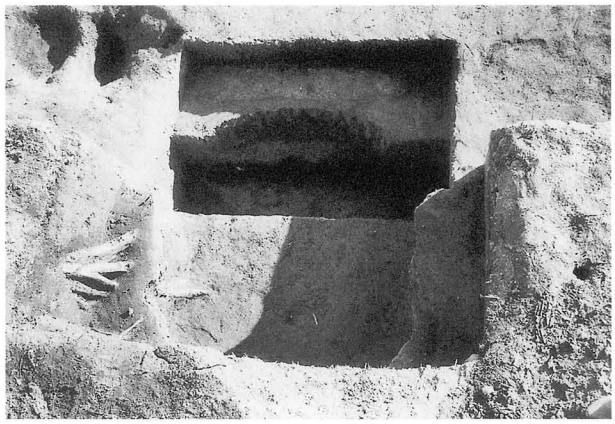
図 版 6

第５次調査区全景（西から）

第５次調査区北側遺構集中部（西から）



1号土坑（ＳＫ１）全景（西から）

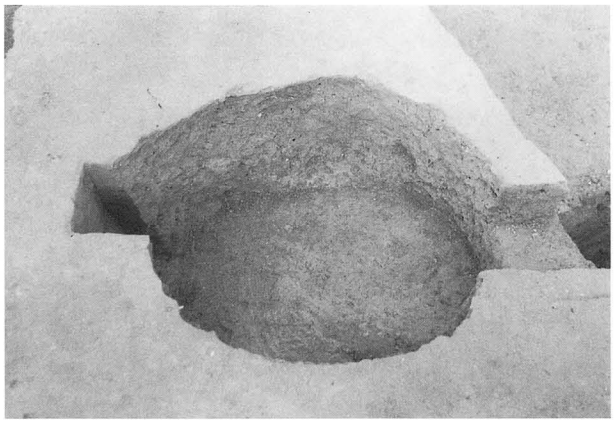


2号土坑（ＳＫ２）全景（北から）

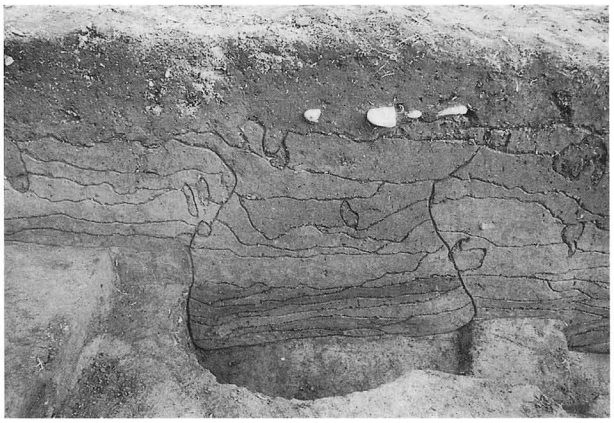
1号土坑（ＳＫ１）土層断面（東から）

2号土坑（ＳＫ２）土層断面（南から）

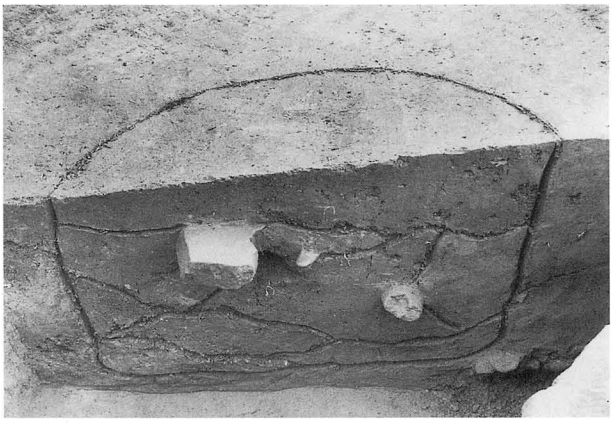
5号土坑（ＳＫ５）全景（北西から）



10号土坑（ＳＫ10）全景（南から）

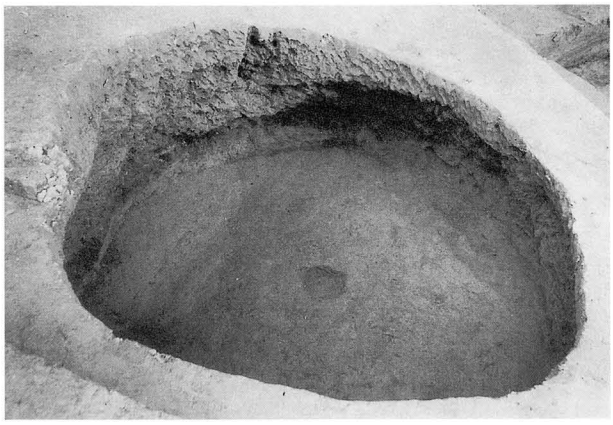


5号土坑（ＳＫ５）土層断面（北西から）

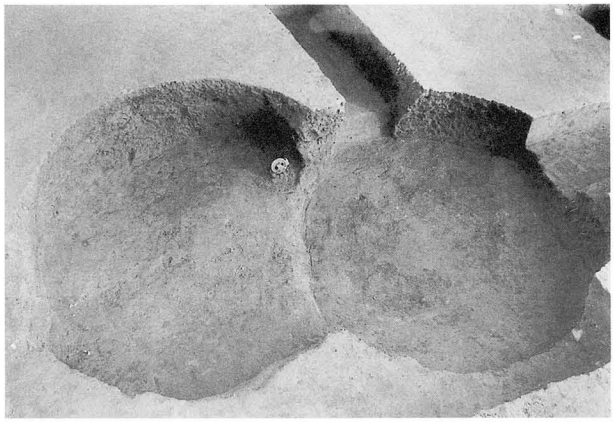


10号土坑（ＳＫ10）土層断面（北から）

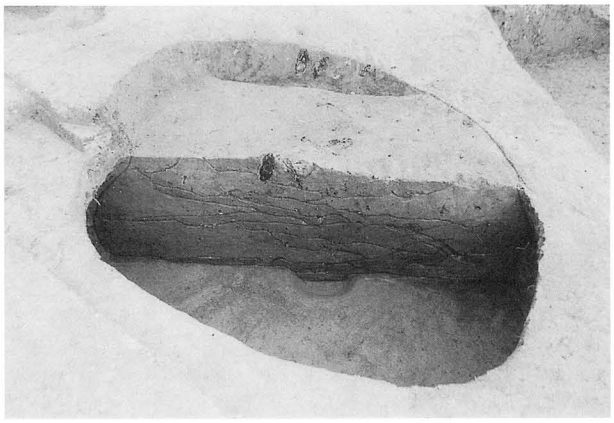
図 版 8



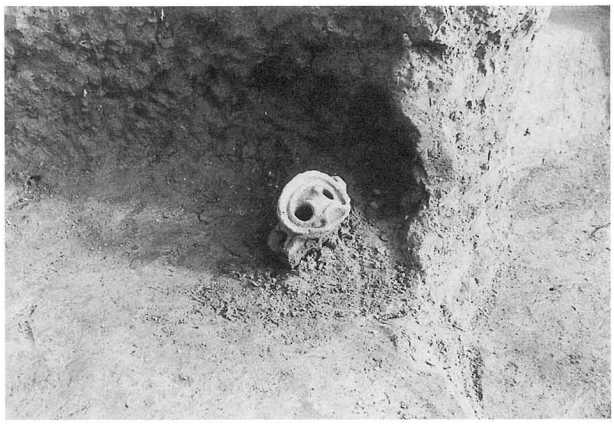
11号土坑（ＳＫ11）全景（南西から）



12・13号土坑（ＳＫ12・13）全景（南西から）

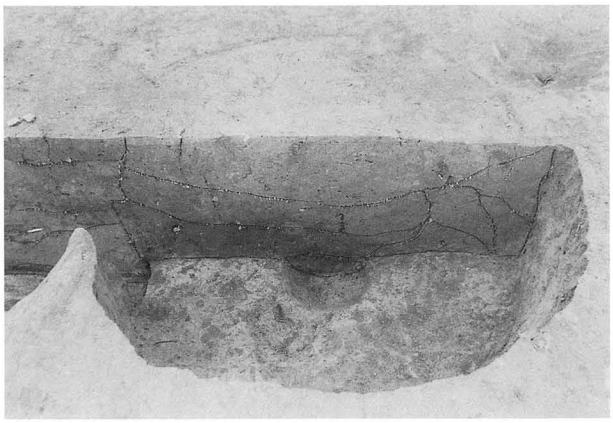


11号土坑（ＳＫ11）土層断面（南西から）

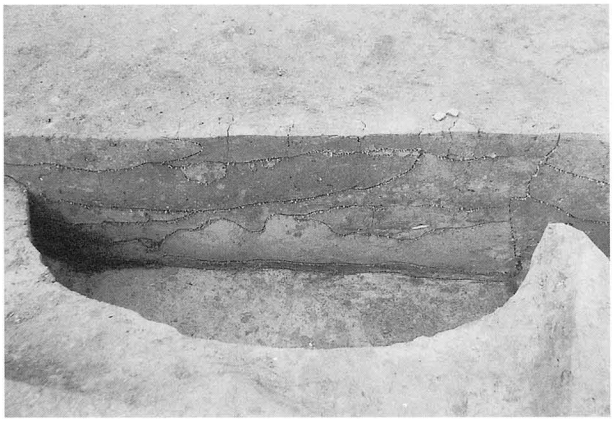


12号土坑（ＳＫ12）大形把手出土状態（南西から）

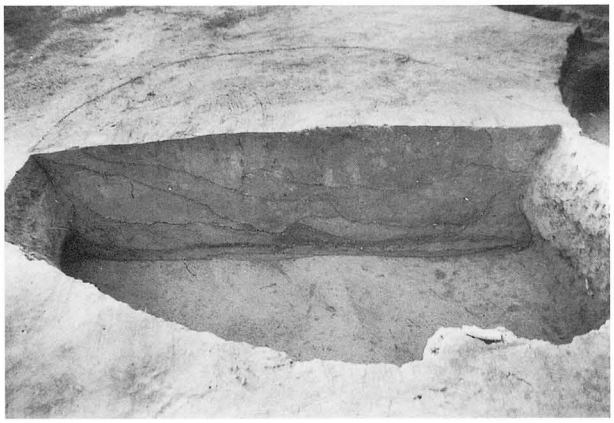
14～16号土坑（ＳＫ14～16）全景（北東から）



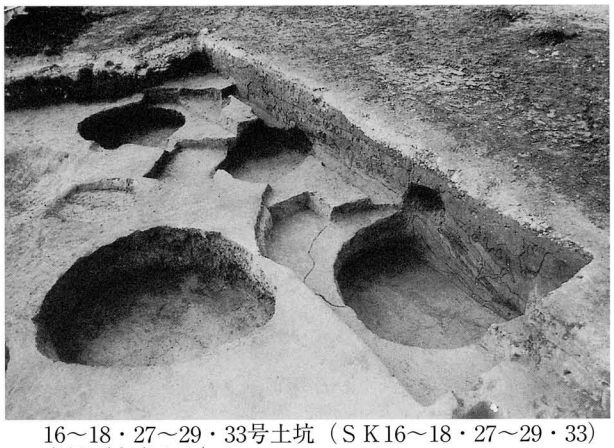
14号土坑（ＳＫ14）土層断面（南東から）



15号土坑（ＳＫ15）土層断面（南東から）



16号土坑（ＳＫ16）土層断面（東から）



16～18・27～29・33号土坑（ＳＫ16～18・27～29・33）全景（南東から）

18号土坑（ＳＫ18）全景（東から）

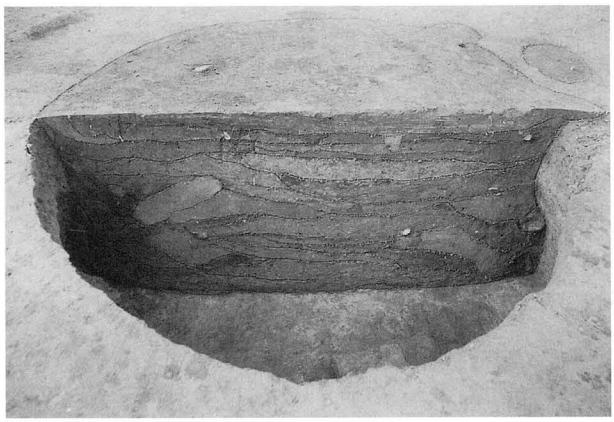
17・27号土坑（ＳＫ17・27）土層断面（南から）

18・33号土坑（ＳＫ18・33）土層断面（南から）

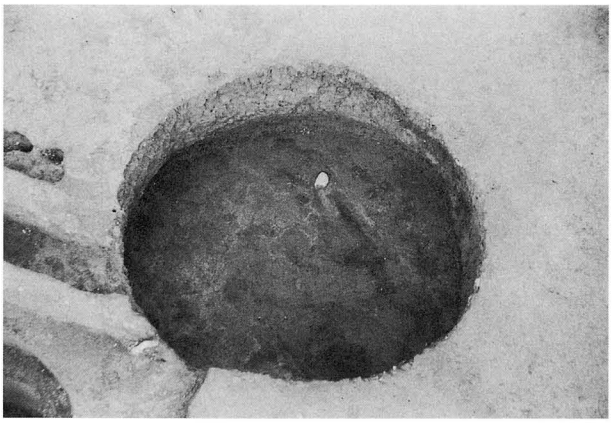
19・20号土坑（ＳＫ19・20）土層断面（北東から）

21号土坑（ＳＫ21）全景及び遺物出土状態（北東から）

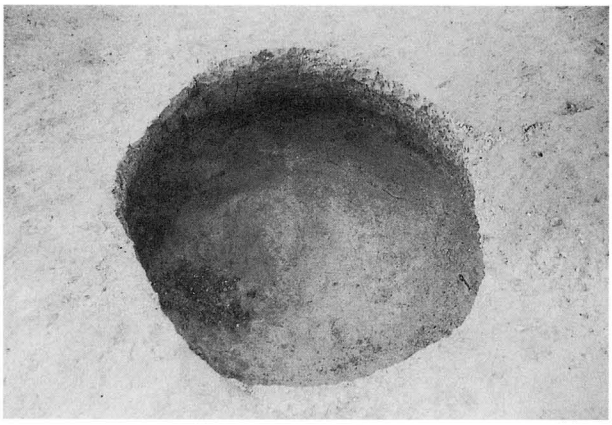
21号土坑（ＳＫ21）土器・石器出土状態（東から）



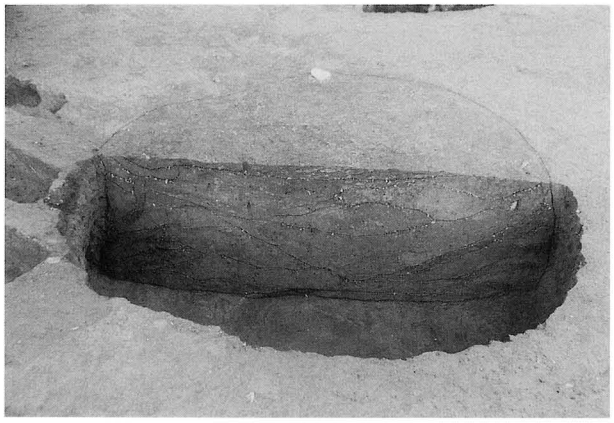
21号土坑（ＳＫ21）土層断面（南東から）



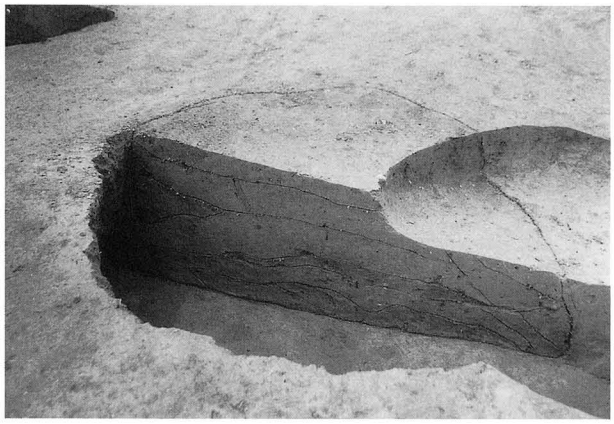
22号土坑（ＳＫ22）全景（北東から）



23号土坑（ＳＫ23）全景（南東から）



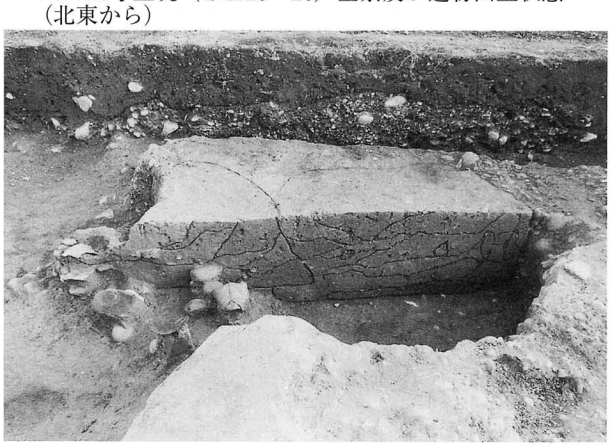
22号土坑（ＳＫ22）土層断面（北東から）



23号土坑（ＳＫ23）土層断面（南から）

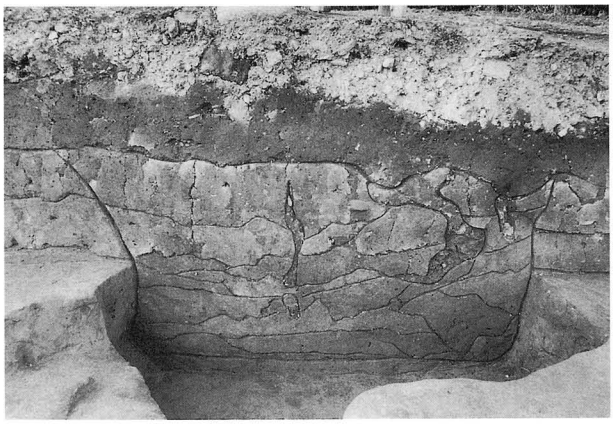
25・26号土坑（ＳＫ25・26）全景及び遺物出土状態（北東から）

25号土坑（ＳＫ25）土器・石器出土状態（西から）



25・26号土坑（ＳＫ25・26）土層断面（北西から）

29号土坑（ＳＫ29）全景（南西から）



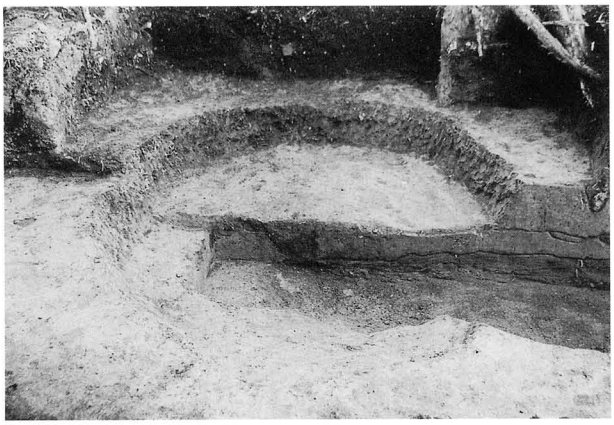
29号土坑（ＳＫ29）土層断面（南から）

30号土坑（ＳＫ30）全景（南東から）

31号土坑（ＳＫ31）全景及び遺物出土状態（南東から）

30号土坑（ＳＫ30）土層断面（南東から）

31号土坑（ＳＫ31）土器出土状態（南から）



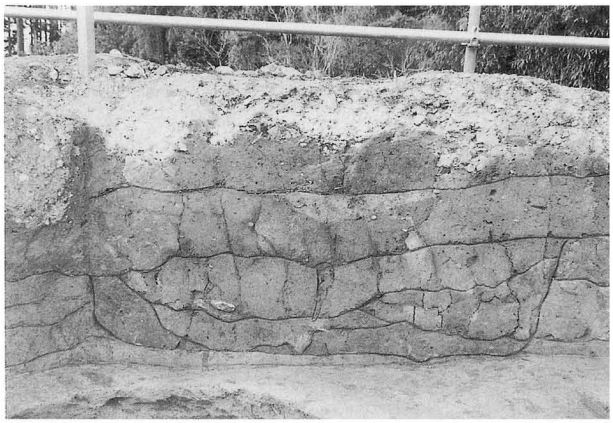
32号土坑（ＳＫ32）全景（北西から）

31号土坑（ＳＫ31）全景（南東から）

32号土坑（ＳＫ32）土層断面（北西から）

33号土坑（ＳＫ33）北側全景（南東から）

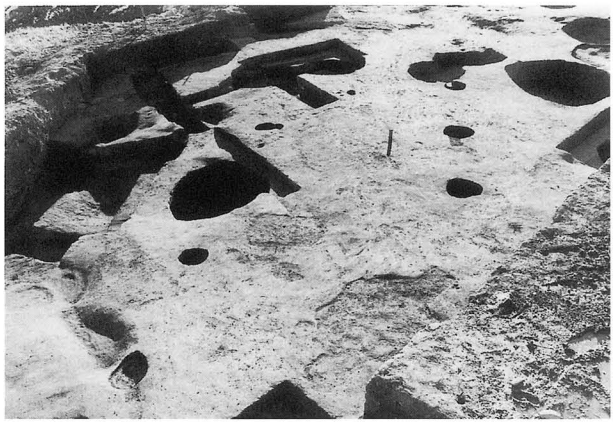
34号土坑（ＳＫ34）全景（北西から）



33号土坑（ＳＫ33）土層断面（南から）

34号土坑（ＳＫ34）土層断面（北から）

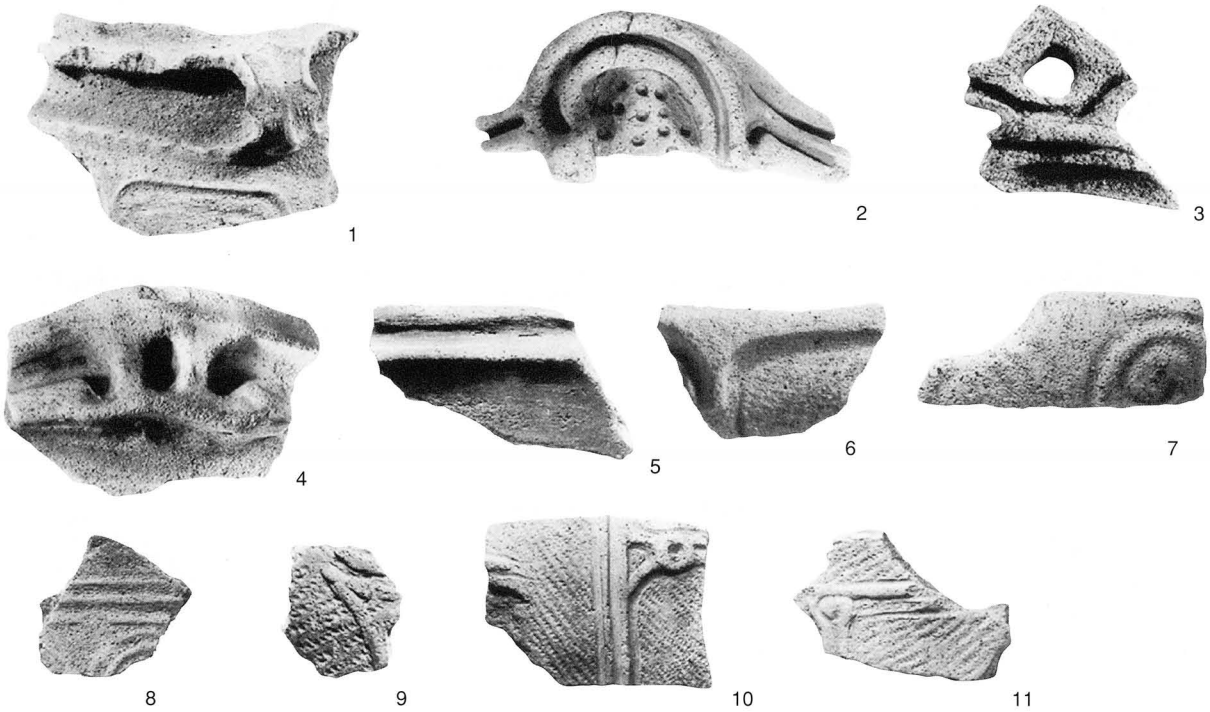
35号土坑（ＳＫ35）全景（西から）



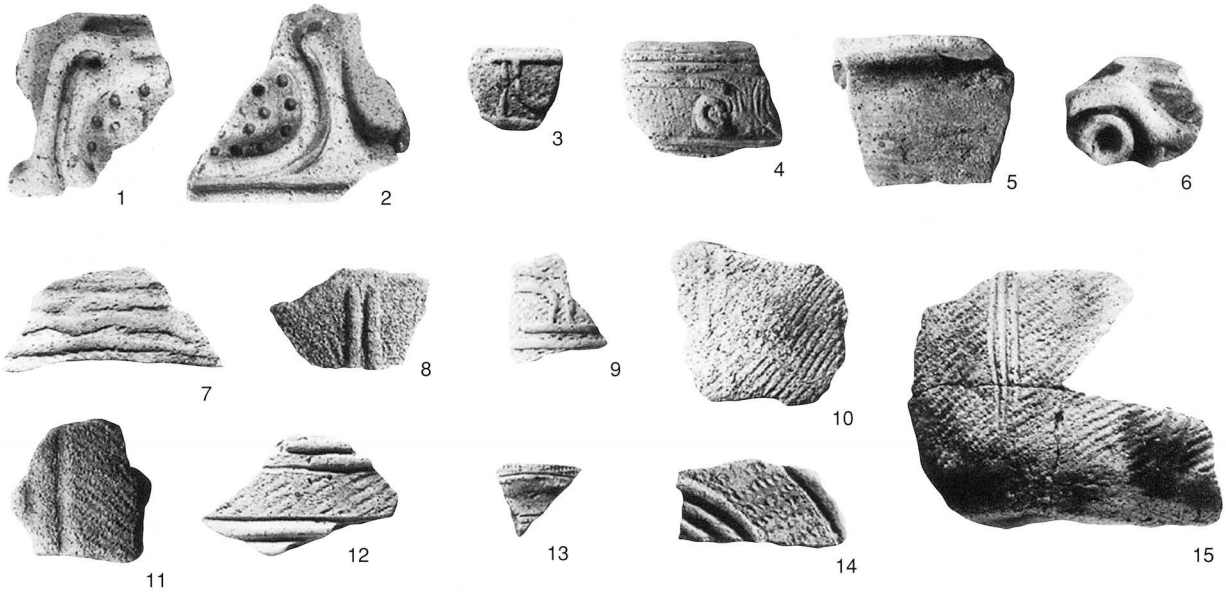
１号掘立柱建物跡（ＳＢ１）全景（北東から）

第５次調査１区南東壁土層断面（西から）

第５次調査風景（南西から）

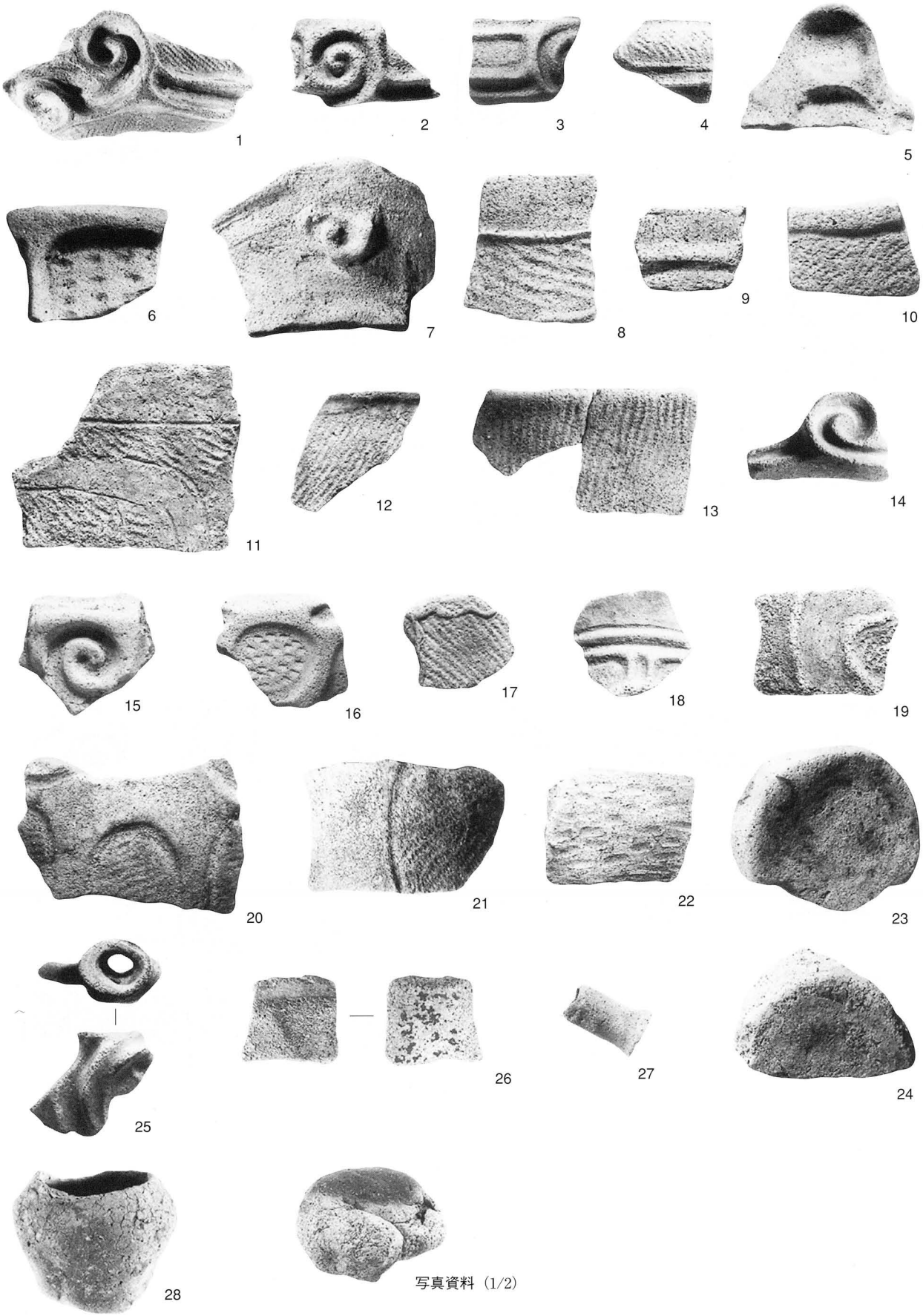


2トレンチ1号土坑（ＳＫ１）出土土器



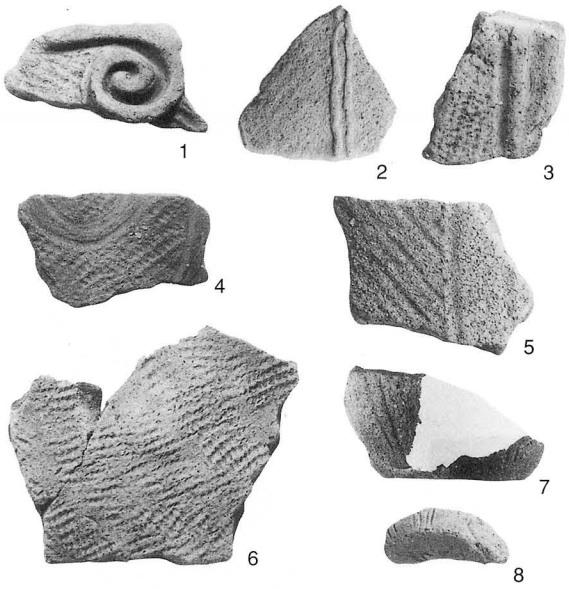
2トレンチ包含層出土土器

図 版 14

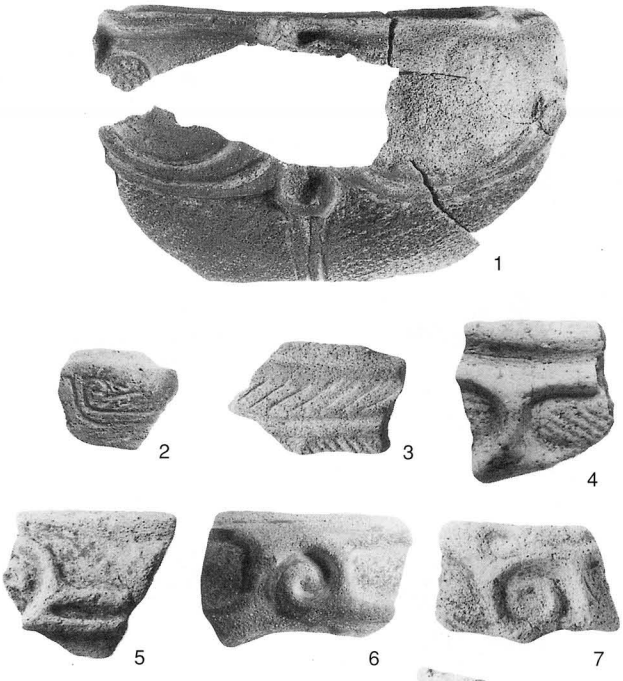


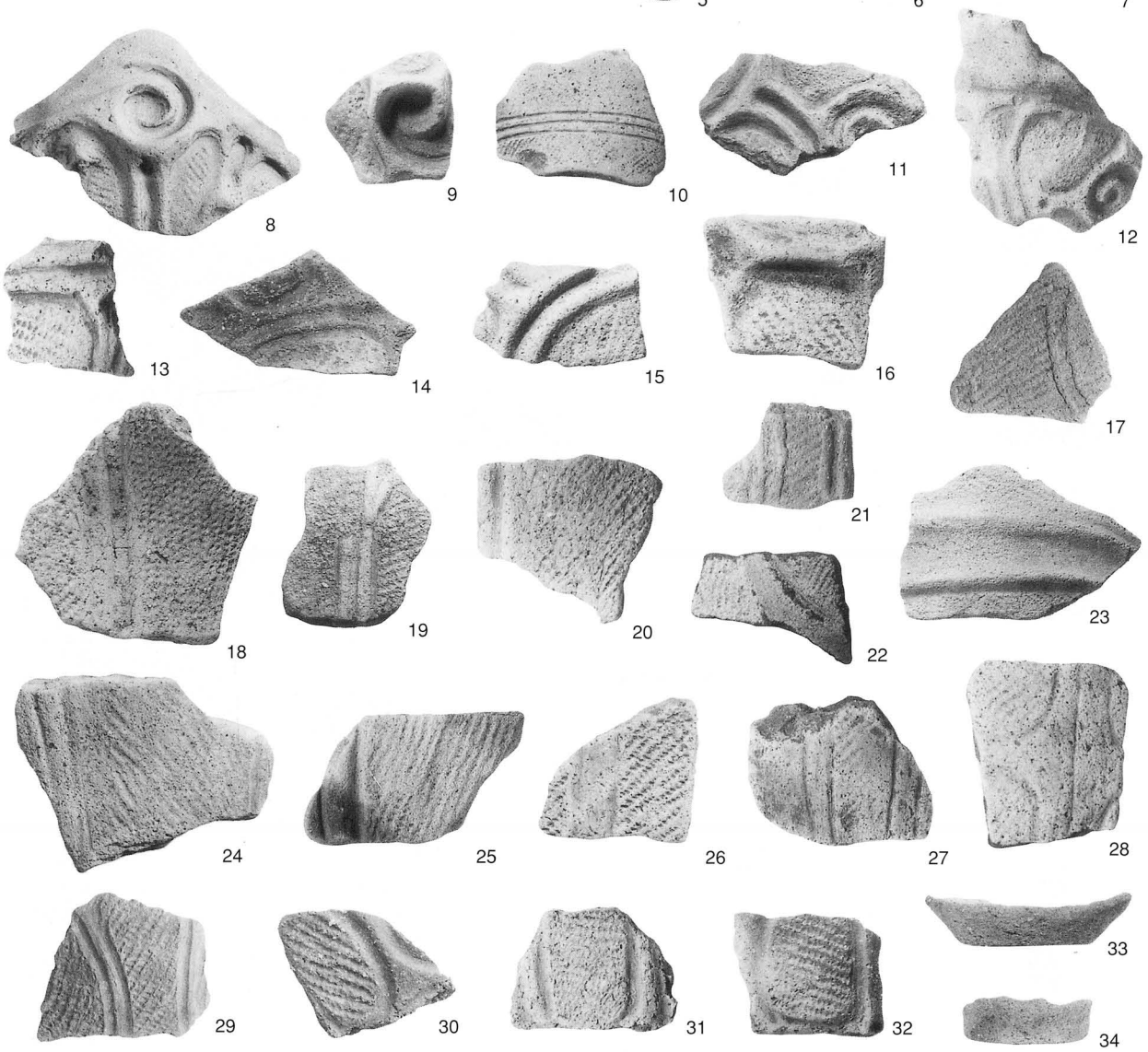
写真資料（1/2）

5トレンチ包含層出土土器



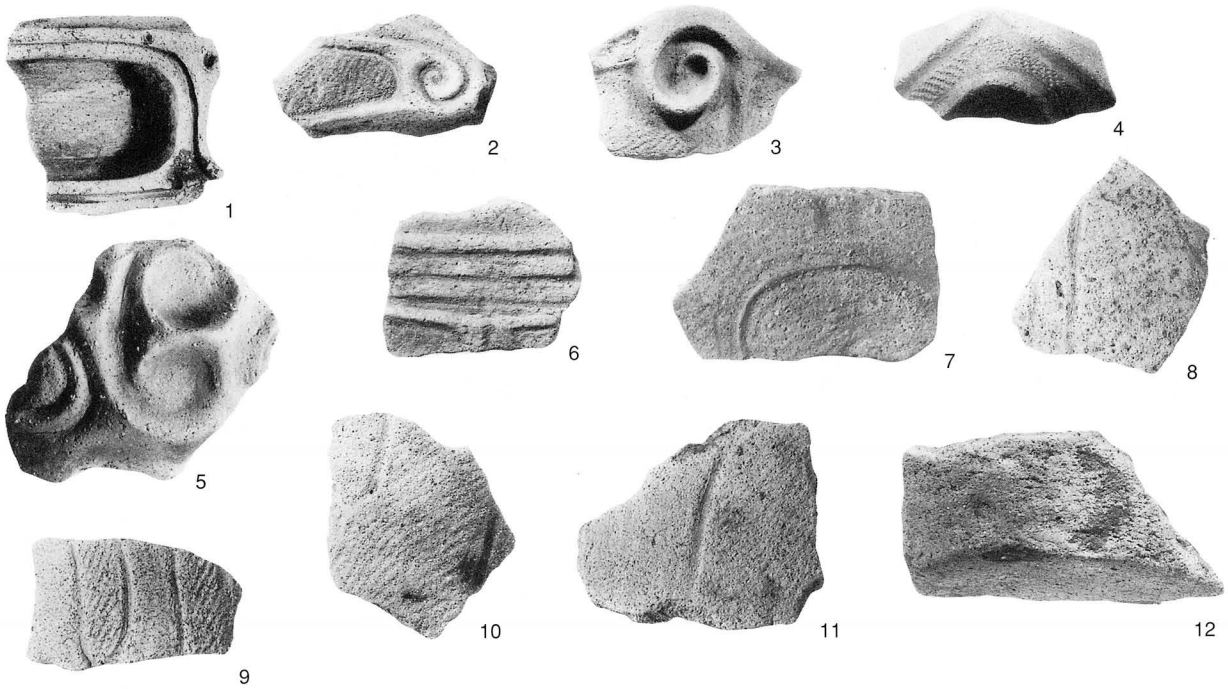
6トレンチ1号住居跡（ＳＩ１）出土土器



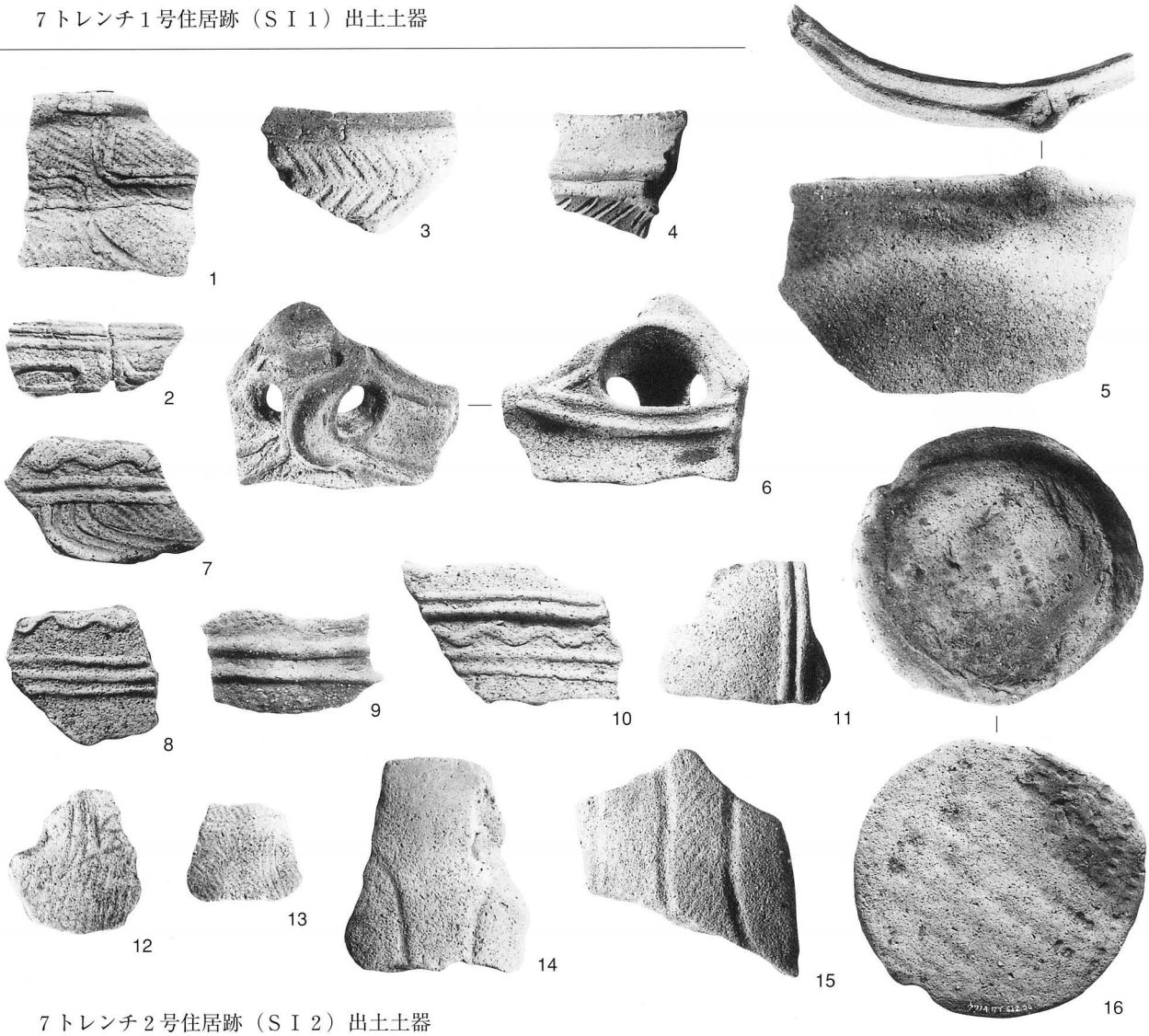


6トレンチ包含層出土土器

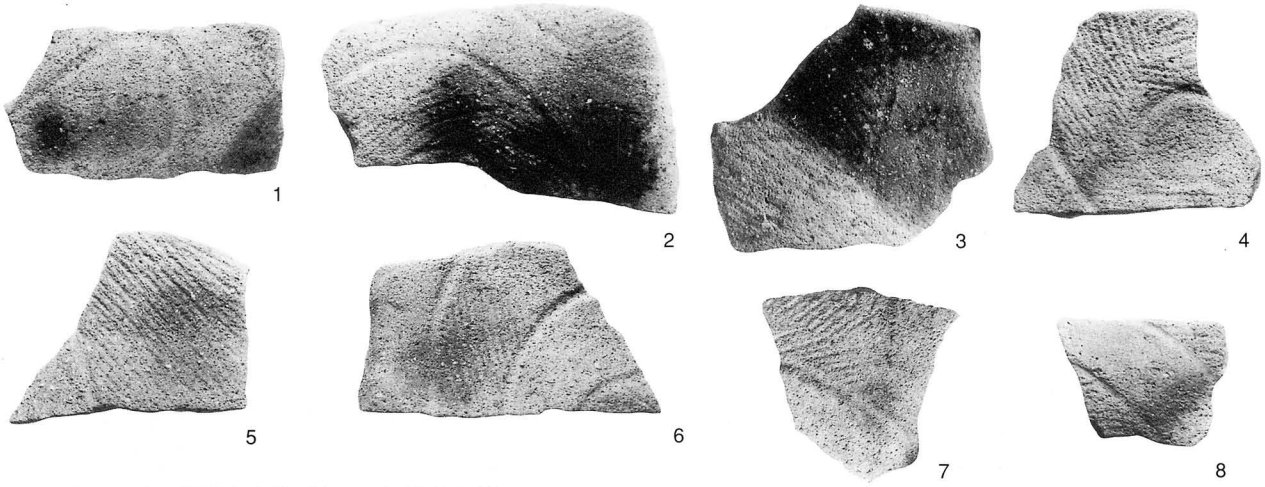
図 版 16



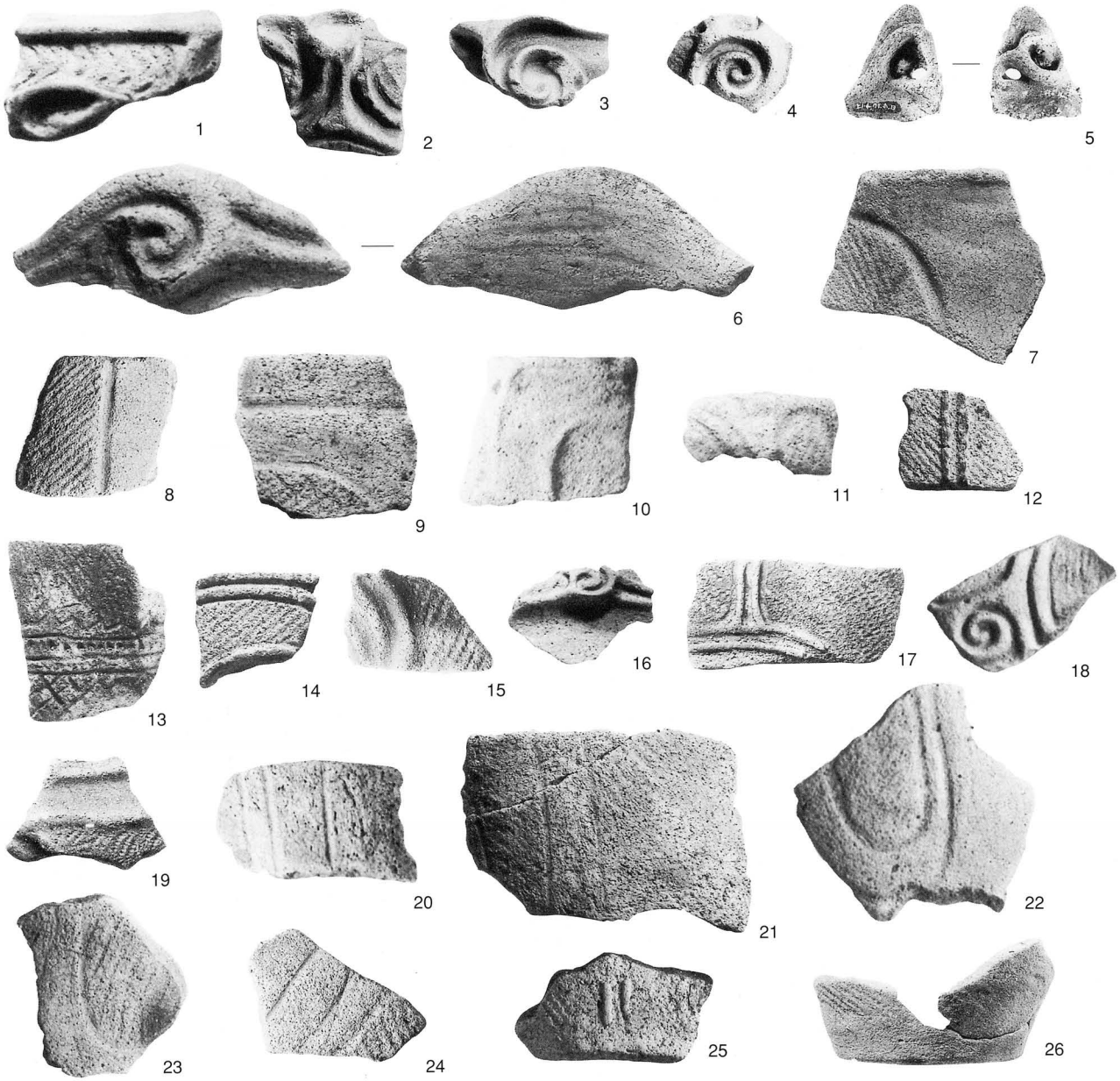
7トレンチ1号住居跡（ＳＩ１）出土土器



7トレンチ2号住居跡（ＳＩ２）出土土器

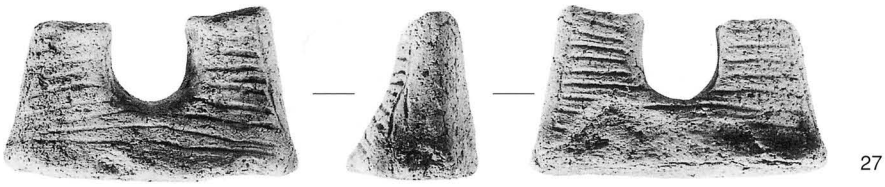


7トレンチ1号埋設土器（ＳＸ１）出土土器

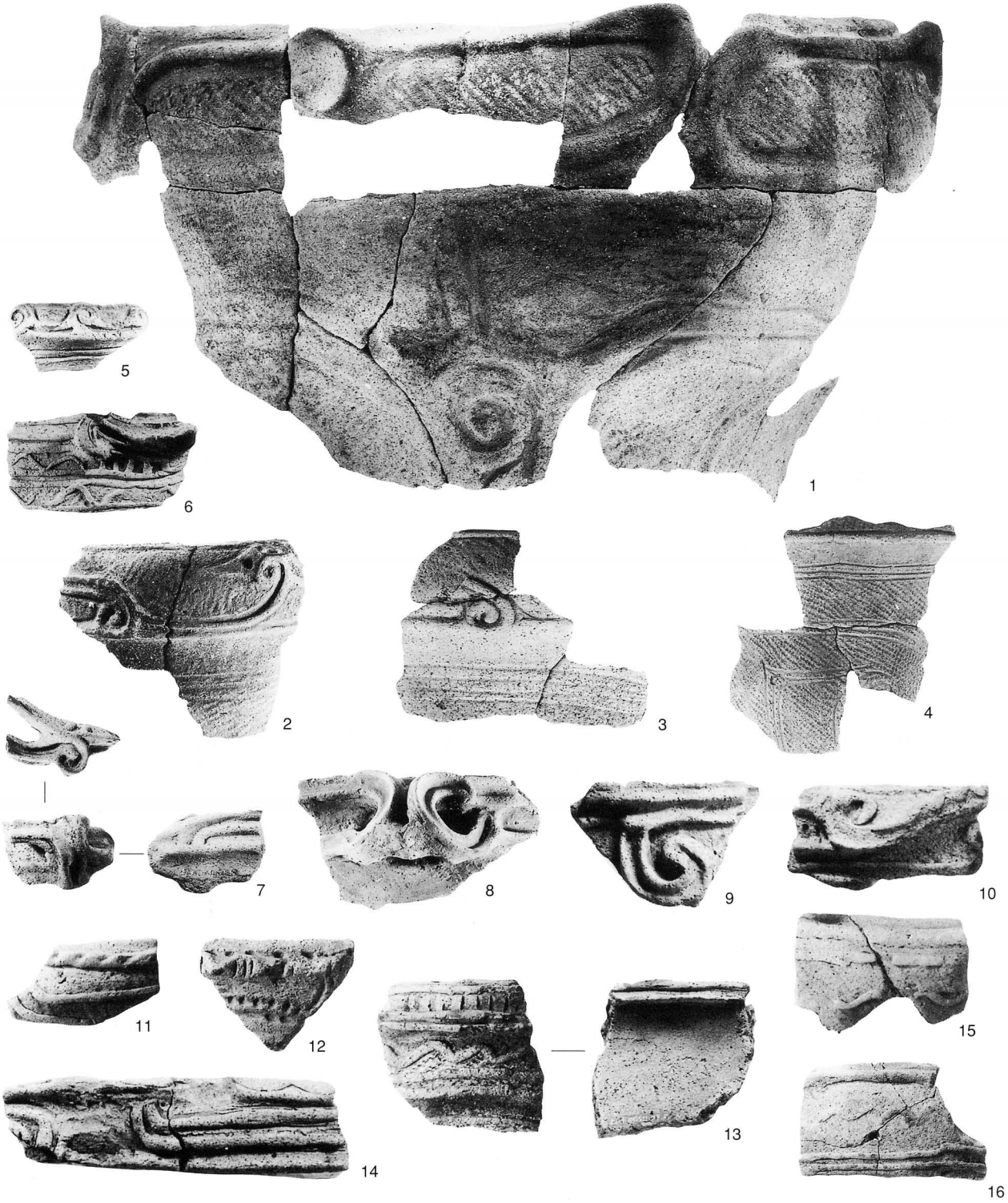


7トレンチ包含層出土土器

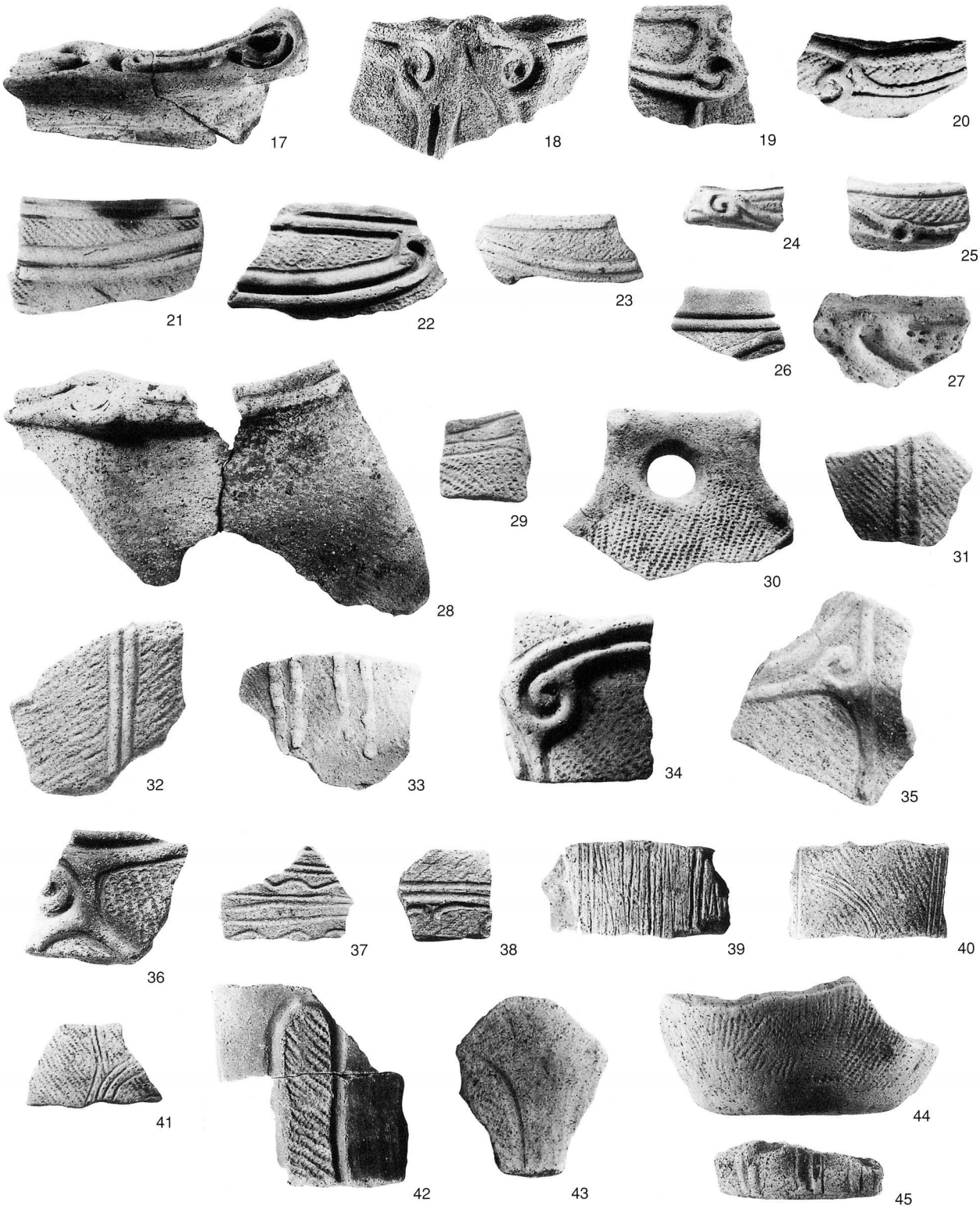
図 版 18



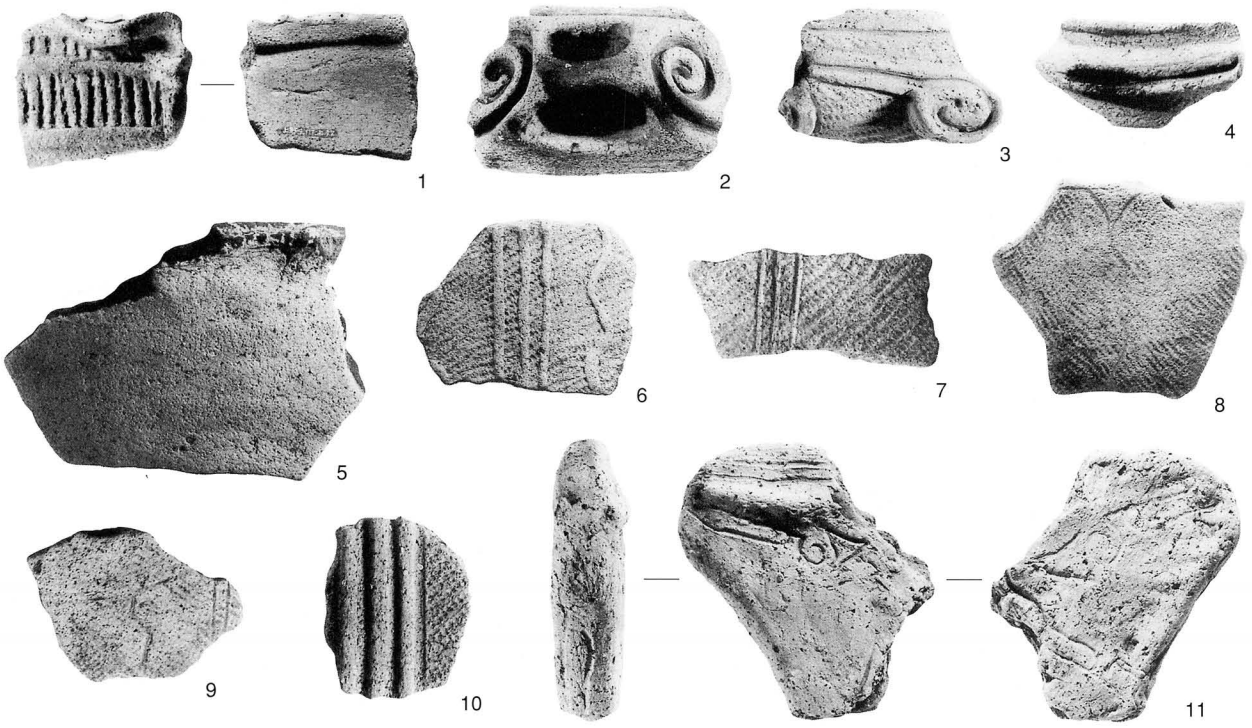
7トレンチ包含層出土土製品（2）



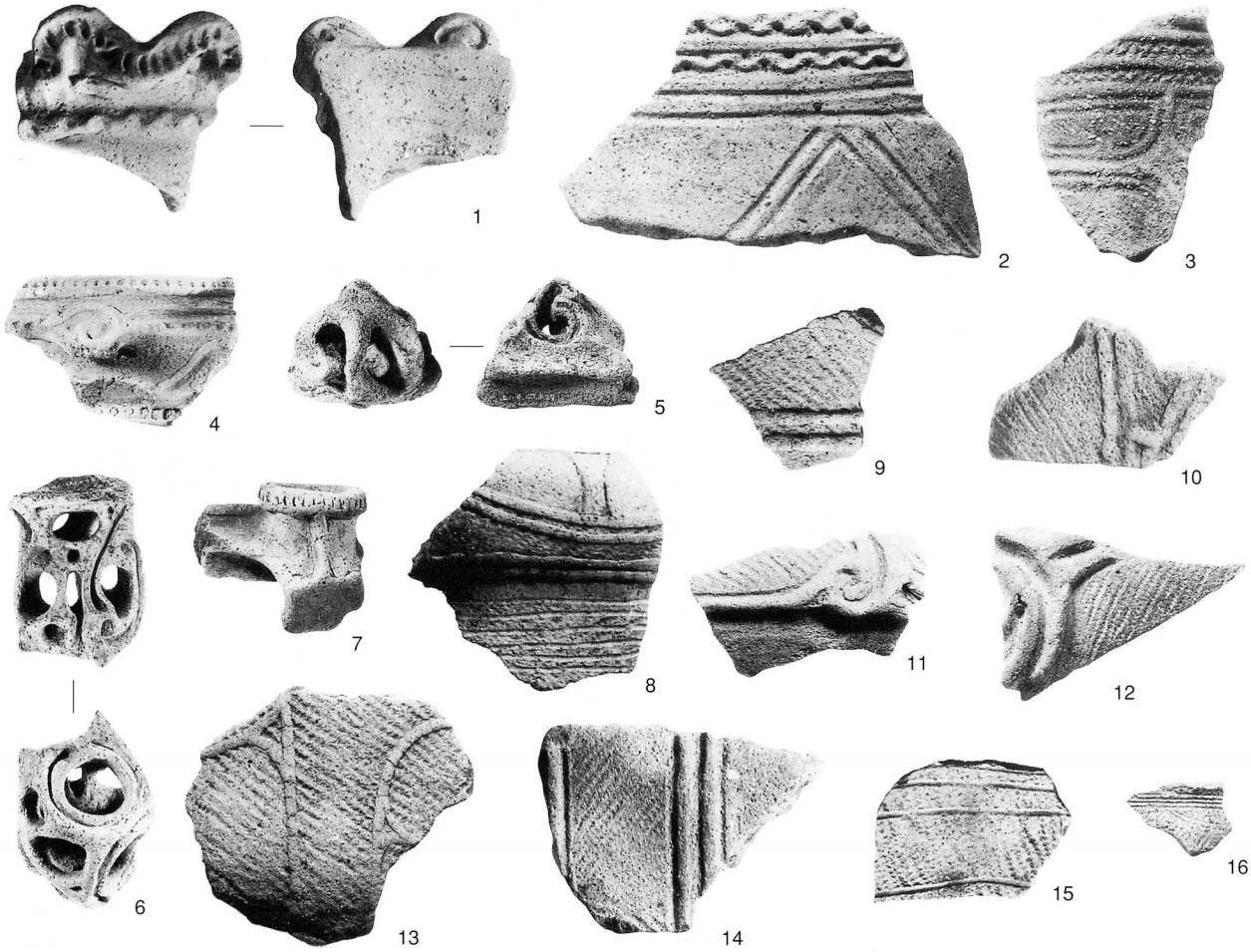
10トレンチ１号住居跡（ＳＩ１）出土土器（1）



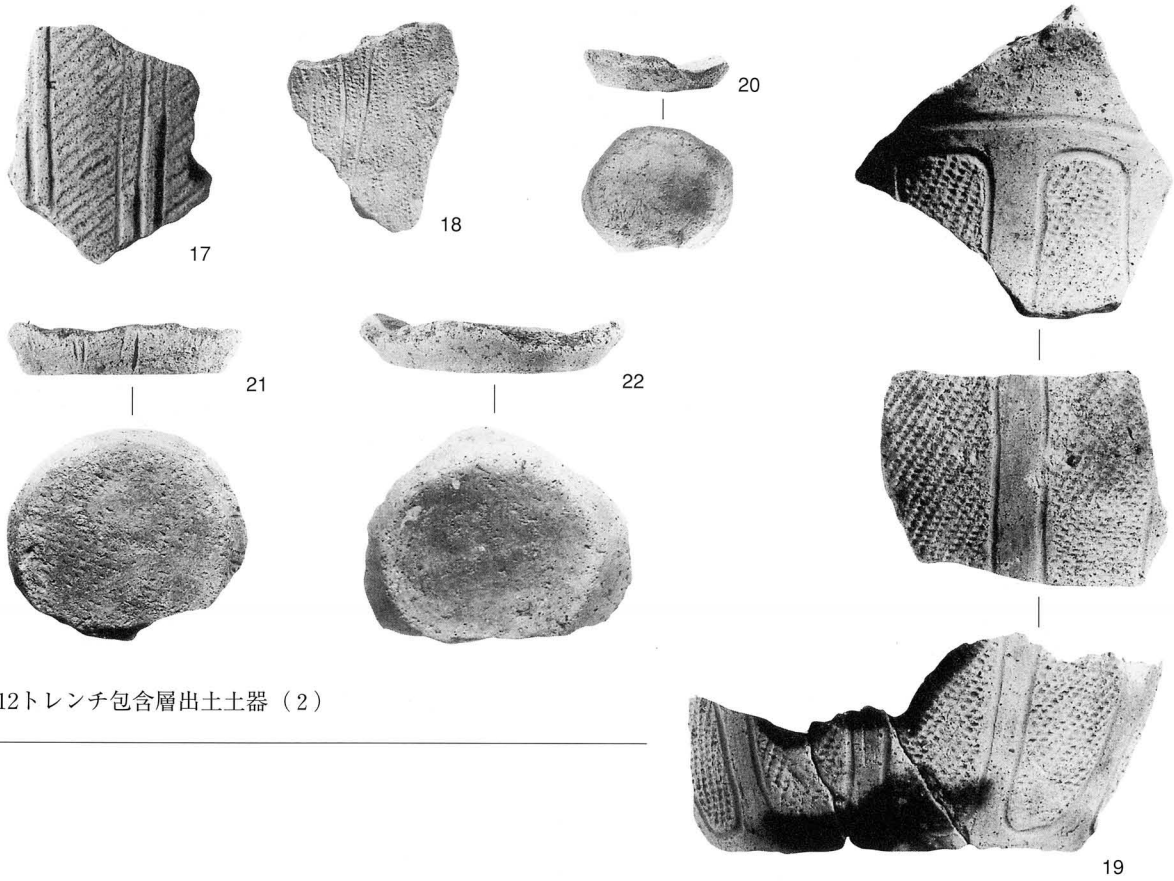
10トレンチ１号住居跡（ＳＩ１）出土土器（２）



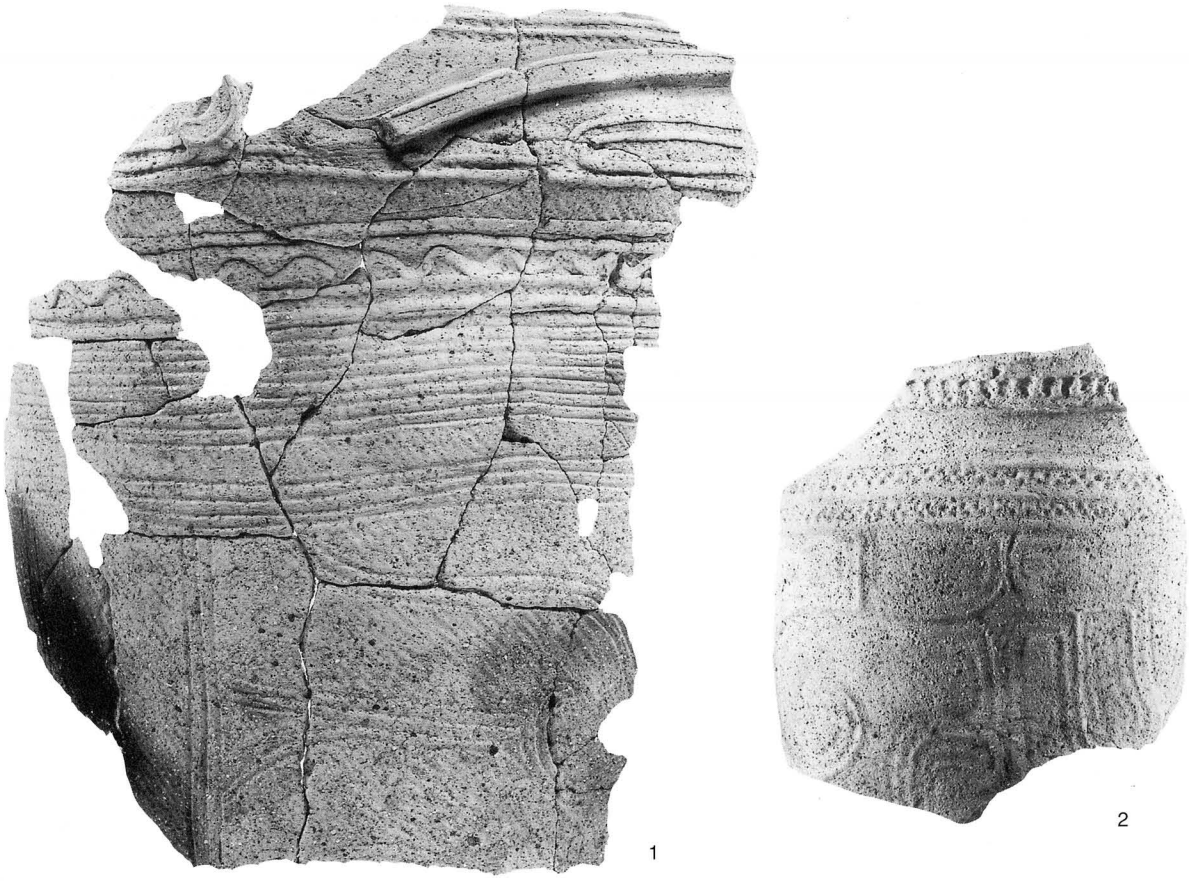
11トレンチ包含層出土土器・土製品



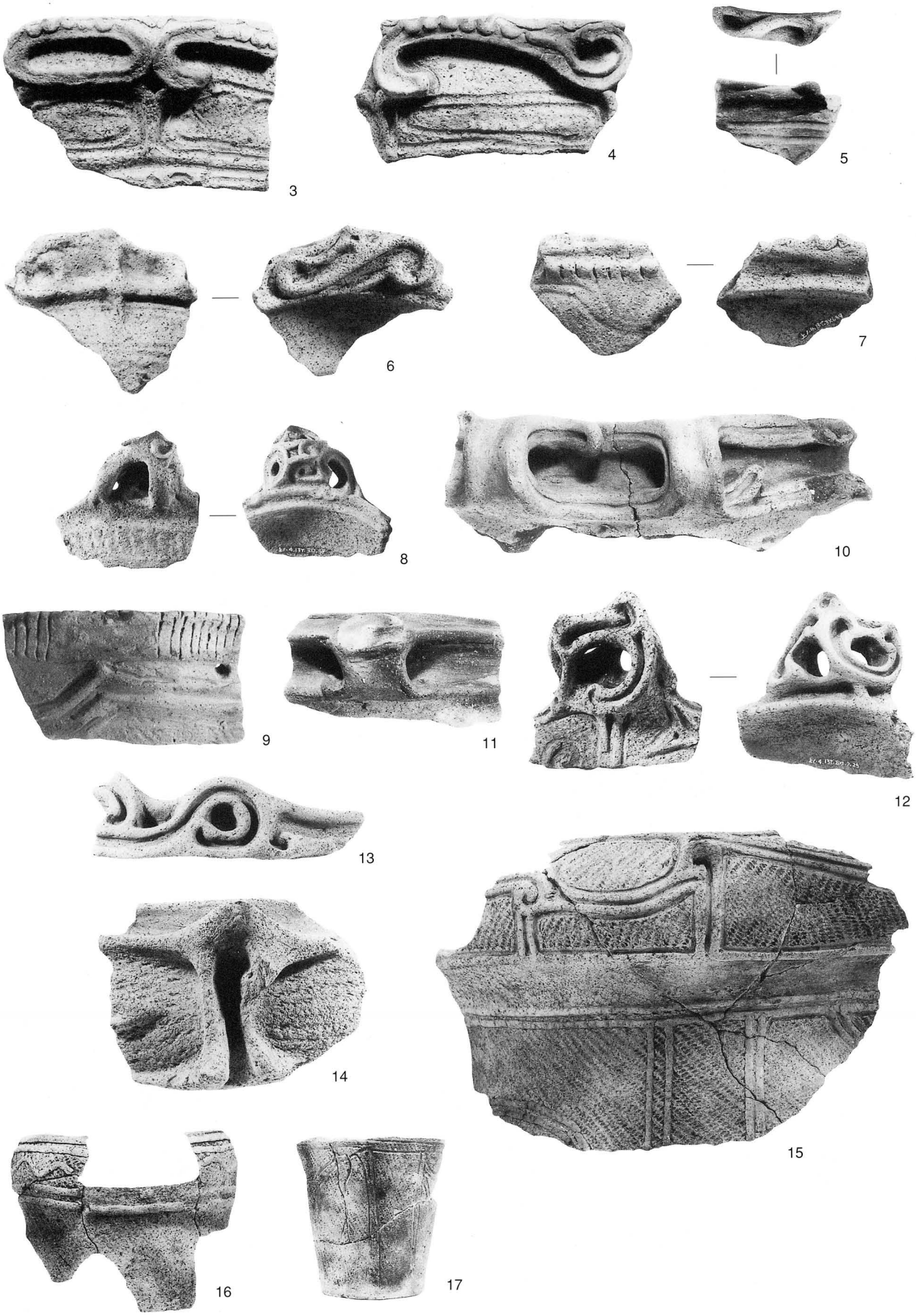
12トレンチ包含層出土土器（1）



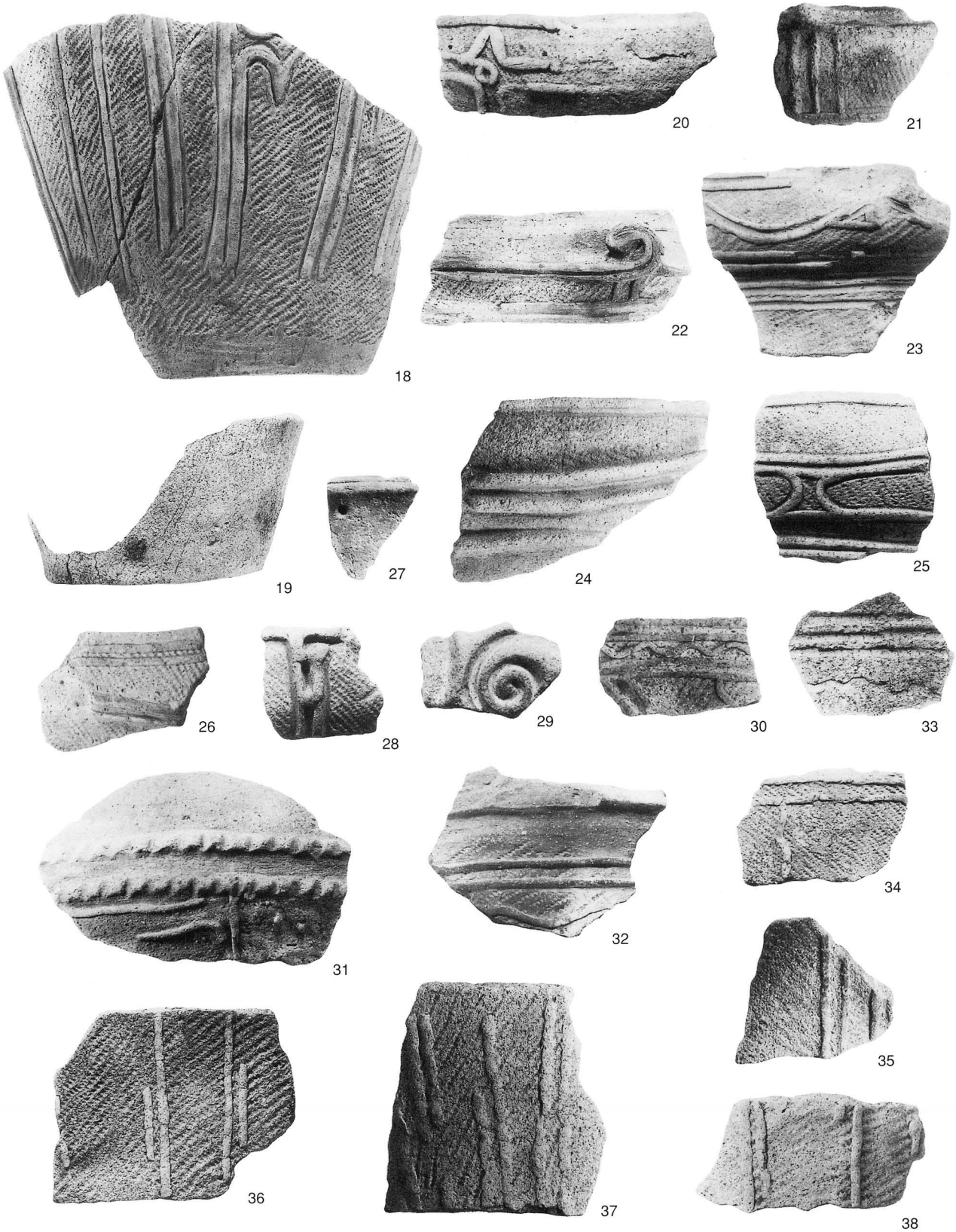
12トレンチ包含層出土土器（2）



13トレンチ１号溝状プラン（ＳＸ１）出土土器（1）



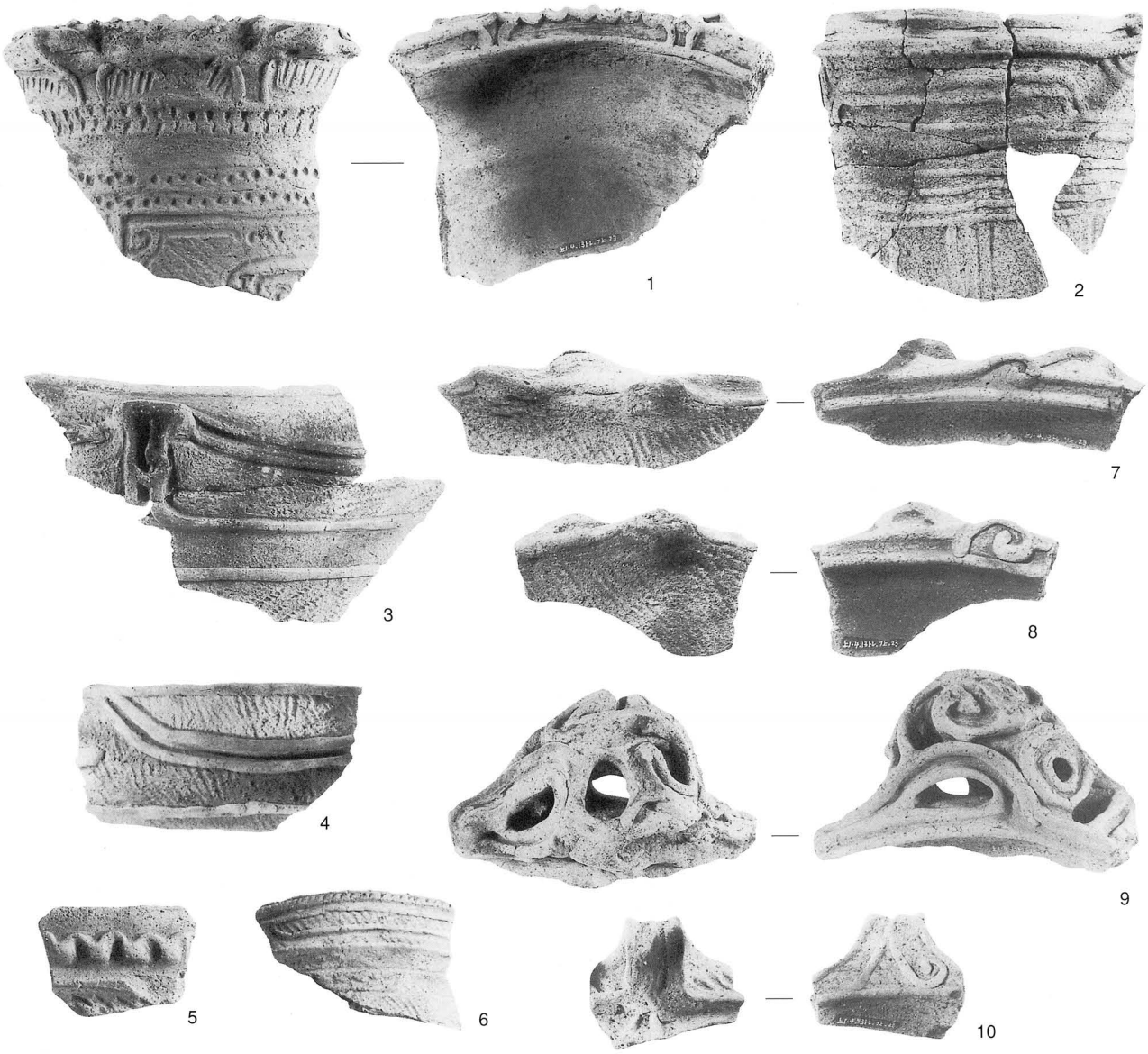
13トレンチ１号溝状プラン（ＳＸ１）出土土器（２）



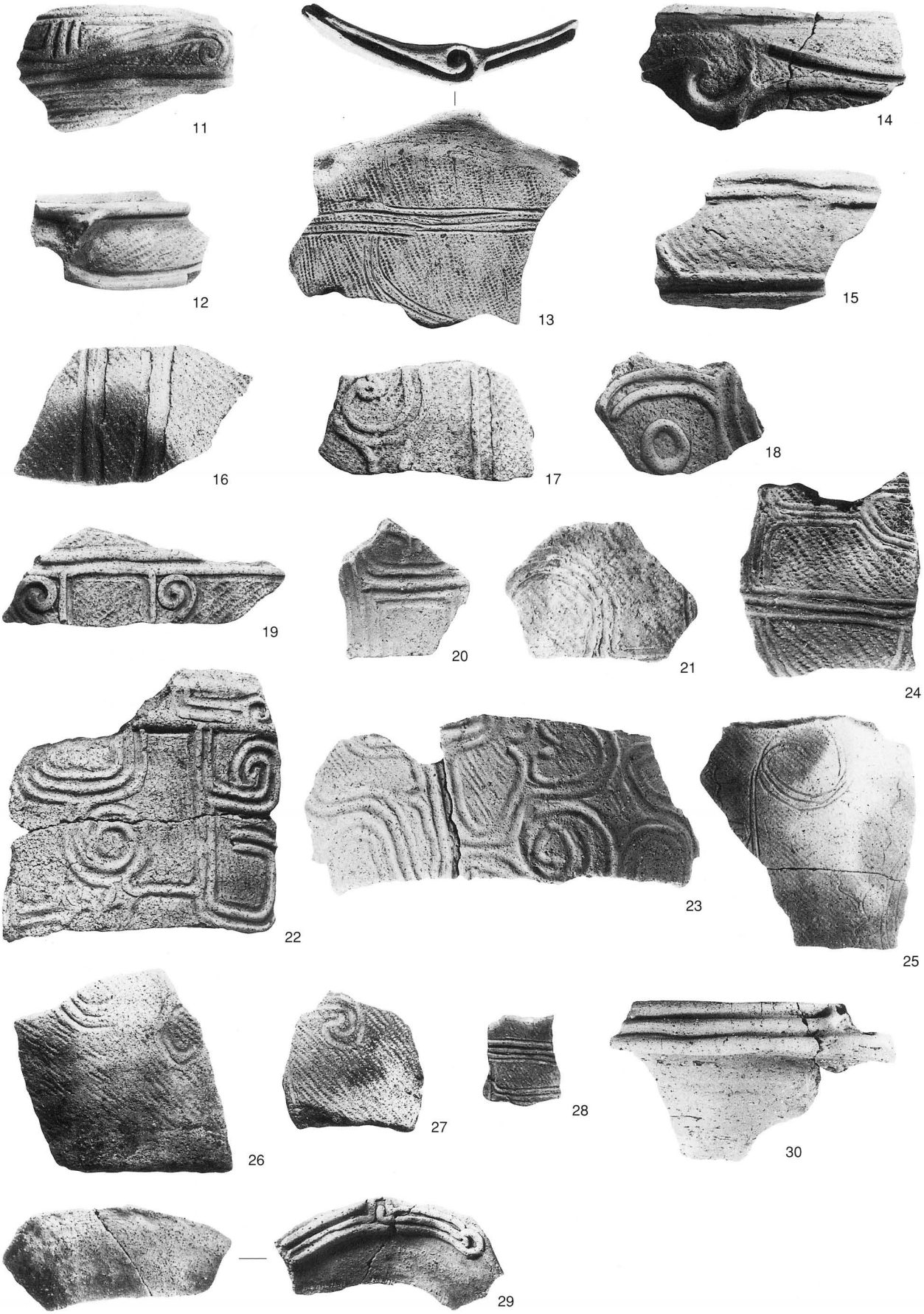
13トレンチ１号溝状プラン（ＳＸ１）出土土器（３）

13トレンチ１号溝状プラン（ＳＸ１）出土土器（4）

写真資料（1/2）



13トレンチ包含層出土土器（1）

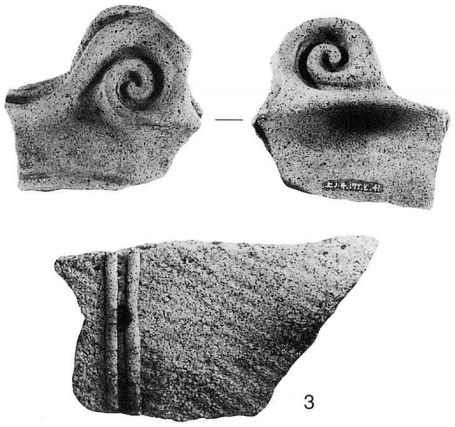


13トレンチ包含層出土土器（2）

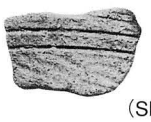
図 版 26

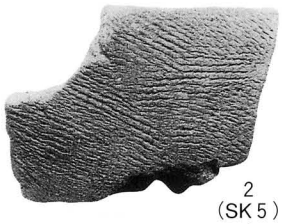
15トレンチ包含層出土土器

1号掘立柱建物跡（SB１）出土土器



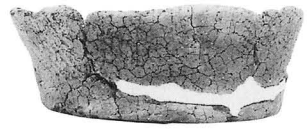
17トレンチ包含層出土土器



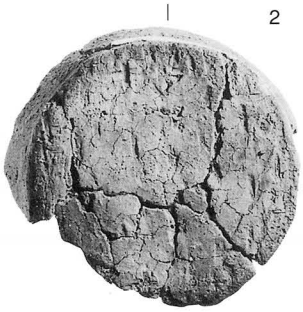


1・5・10・12・16・18号土坑（ＳＫ１・５・10・12・16・18）出土土器

1

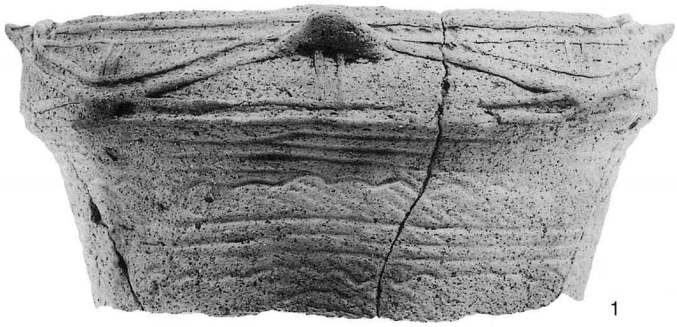


2

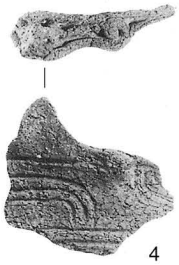


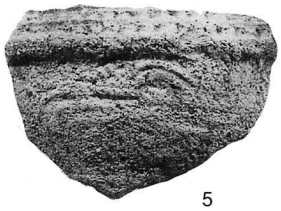
3

21号土坑（ＳＫ21）出土土器


1

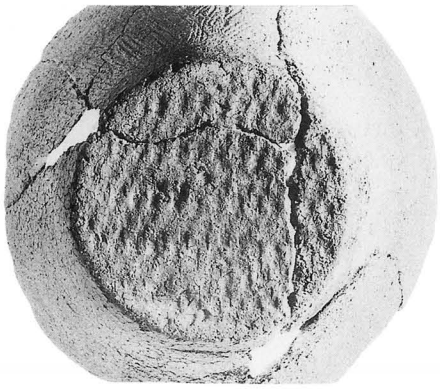
2


4


5

3

6



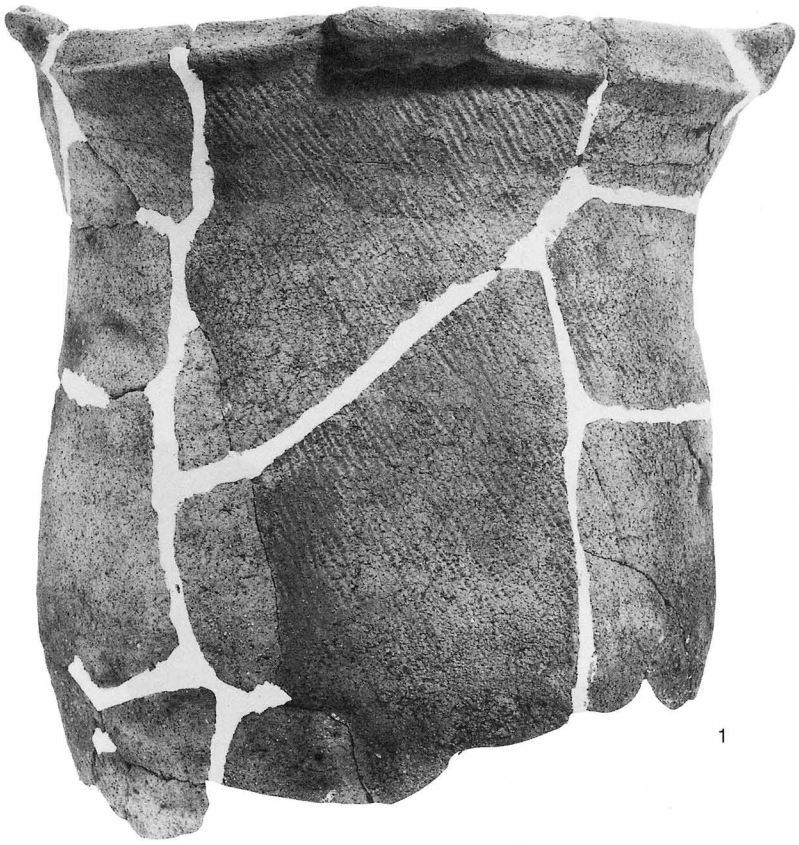
25号土坑（ＳＫ25）出土土器

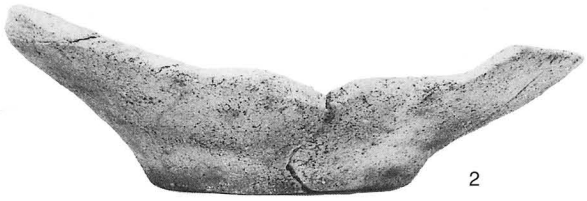
1

2

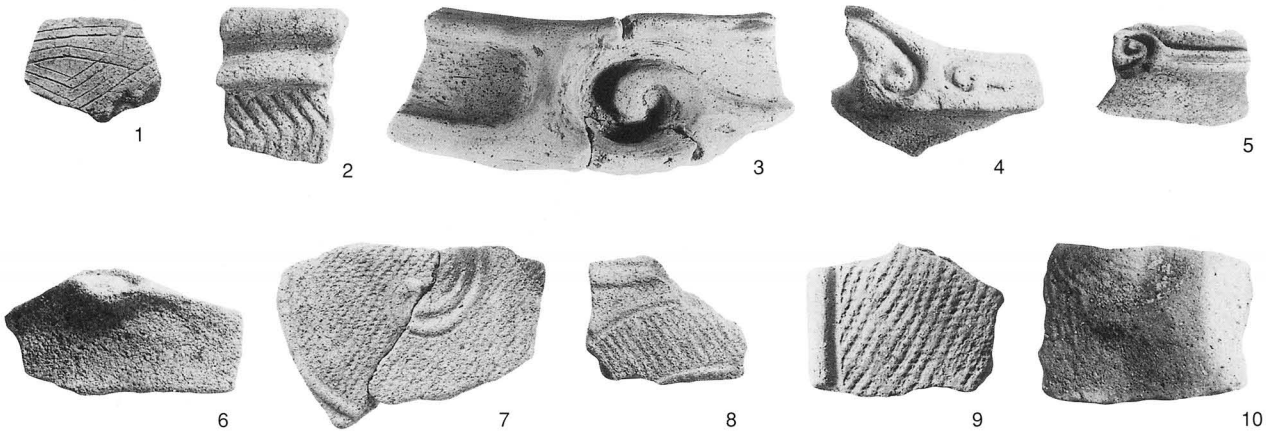
3

30号土坑（ＳＫ30）出土土器



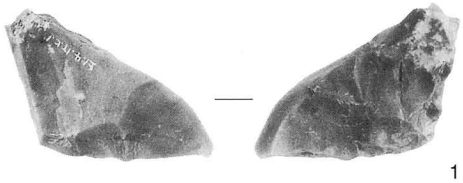


31号土坑（ＳＫ31）出土土器



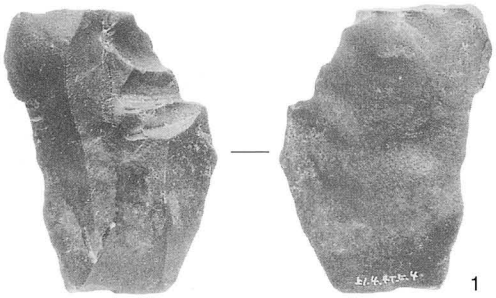
包含層出土土器

図 版 30



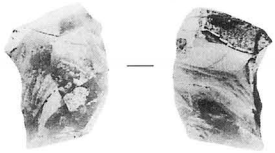
1

1トレンチ包含層出土石器

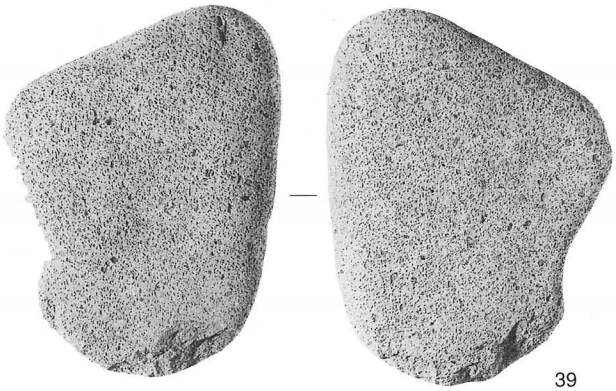


1

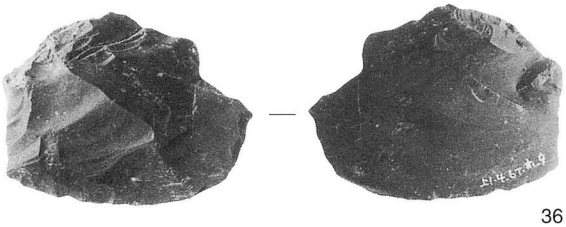
4トレンチ包含層出土石器



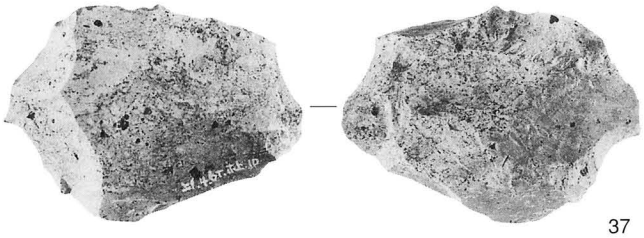
35



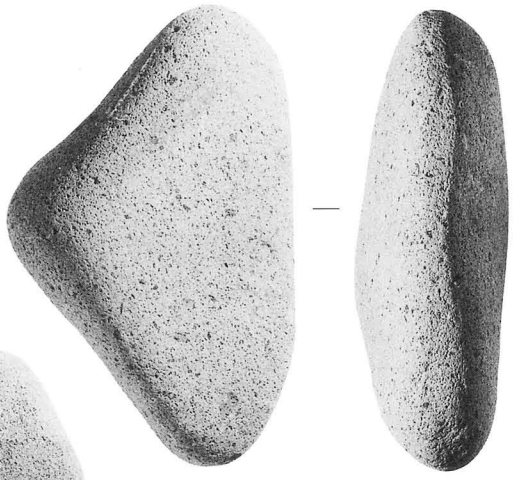
39



36



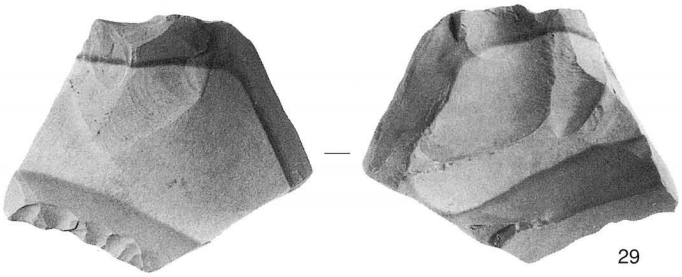
37



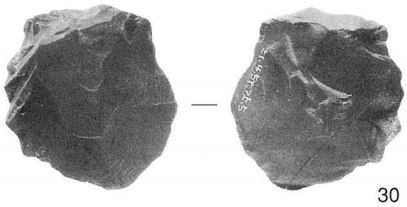
47

51

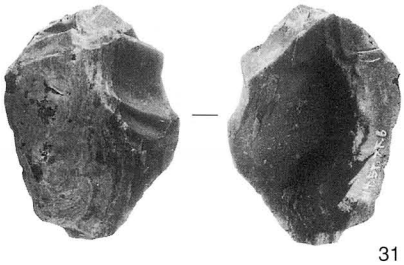
6トレンチ包含層出土石器



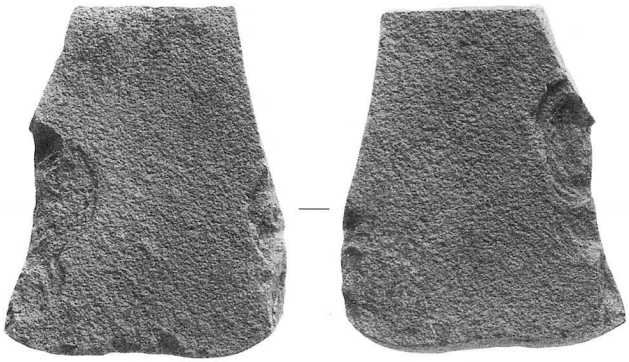
29



30

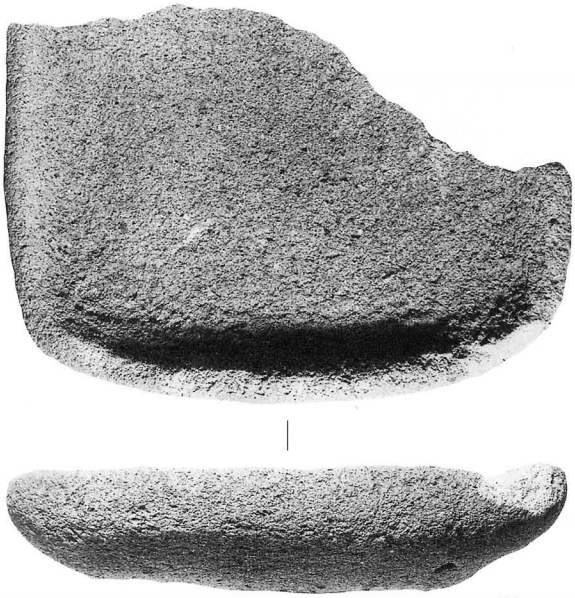


31



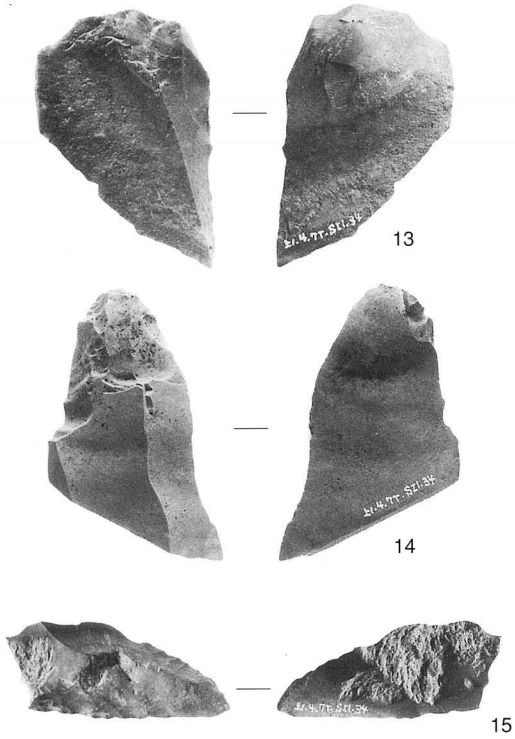
32

35

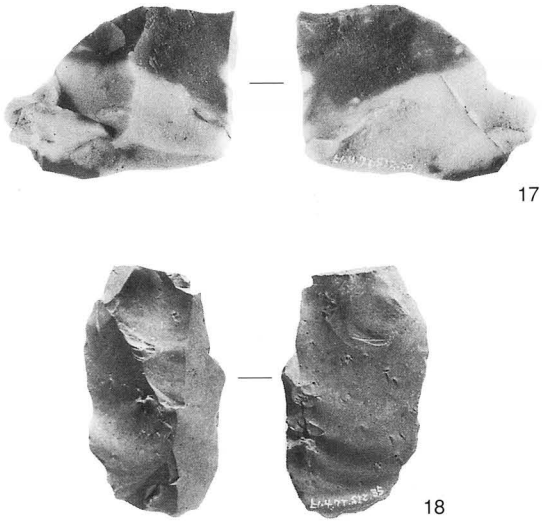


36

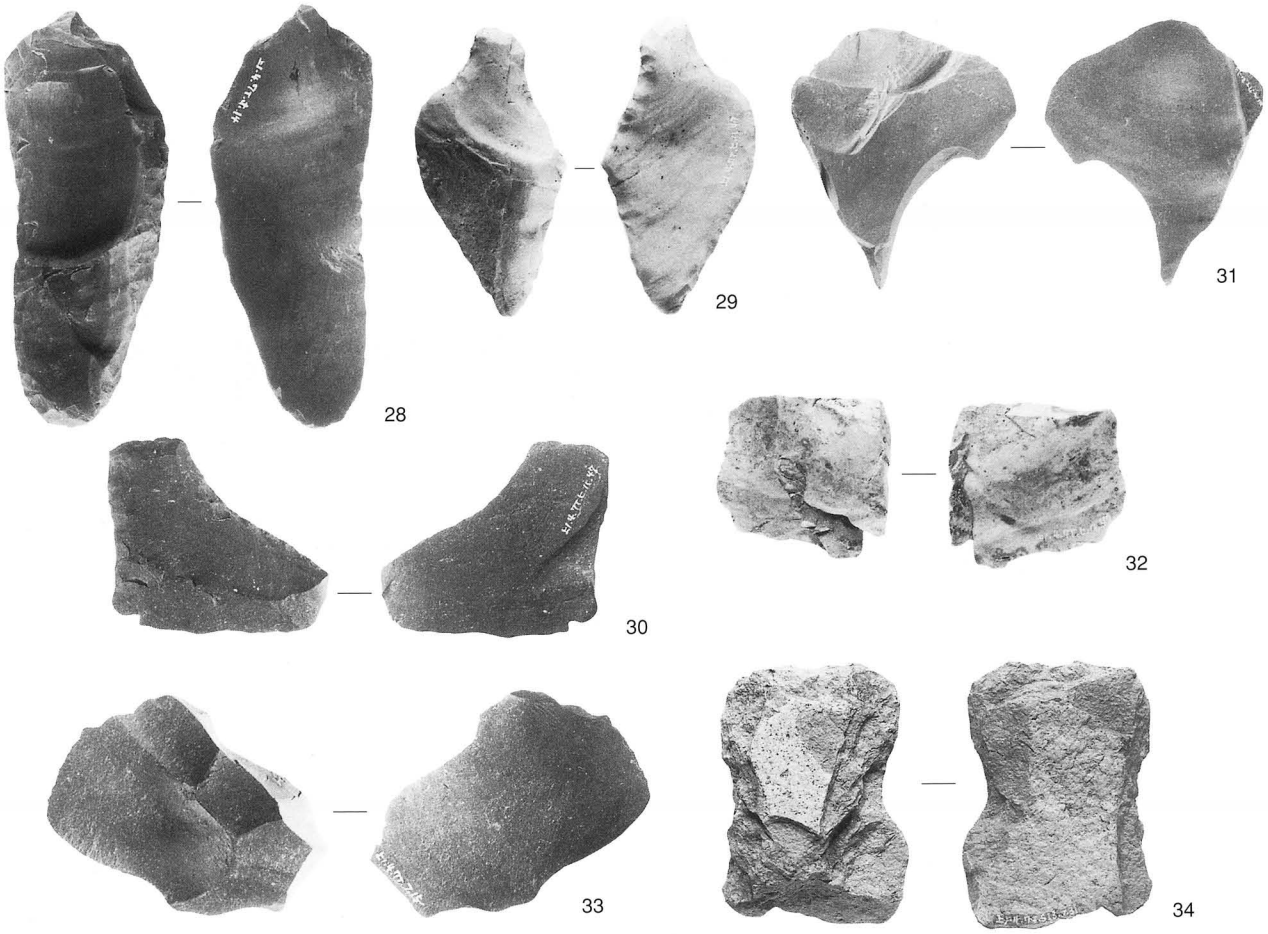
5トレンチ包含層出土石器



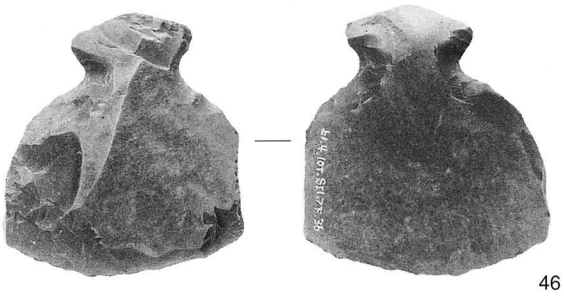
7トレンチ1号住居跡（ＳＩ１）出土石器



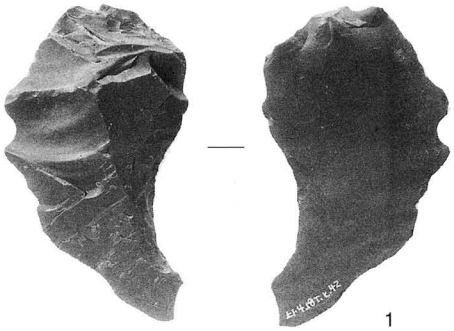
7トレンチ2号住居跡（ＳＩ２）出土石器



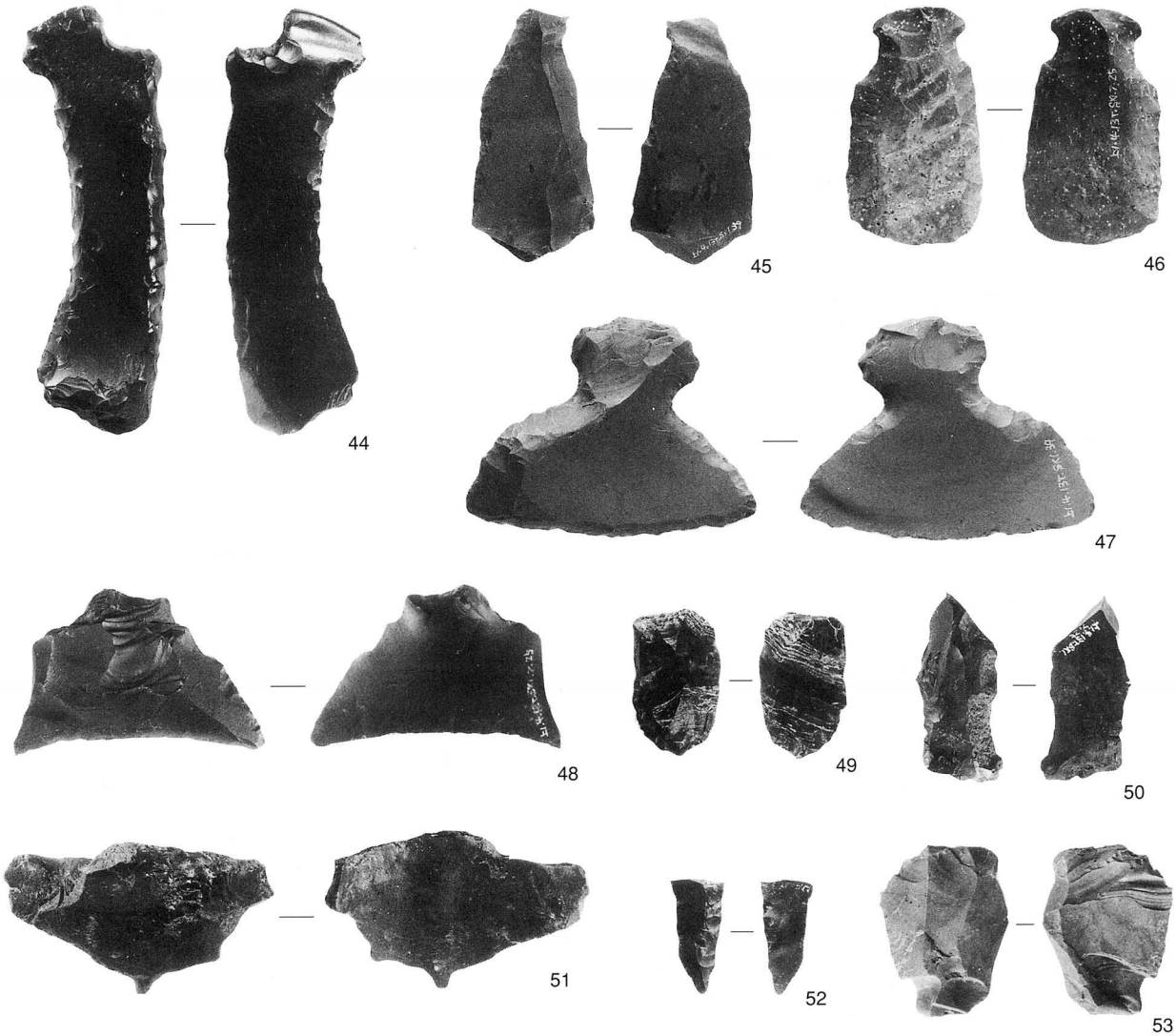
7トレンチ包含層出土石器



10トレンチ１号住居跡（ＳＩ１）出土石器

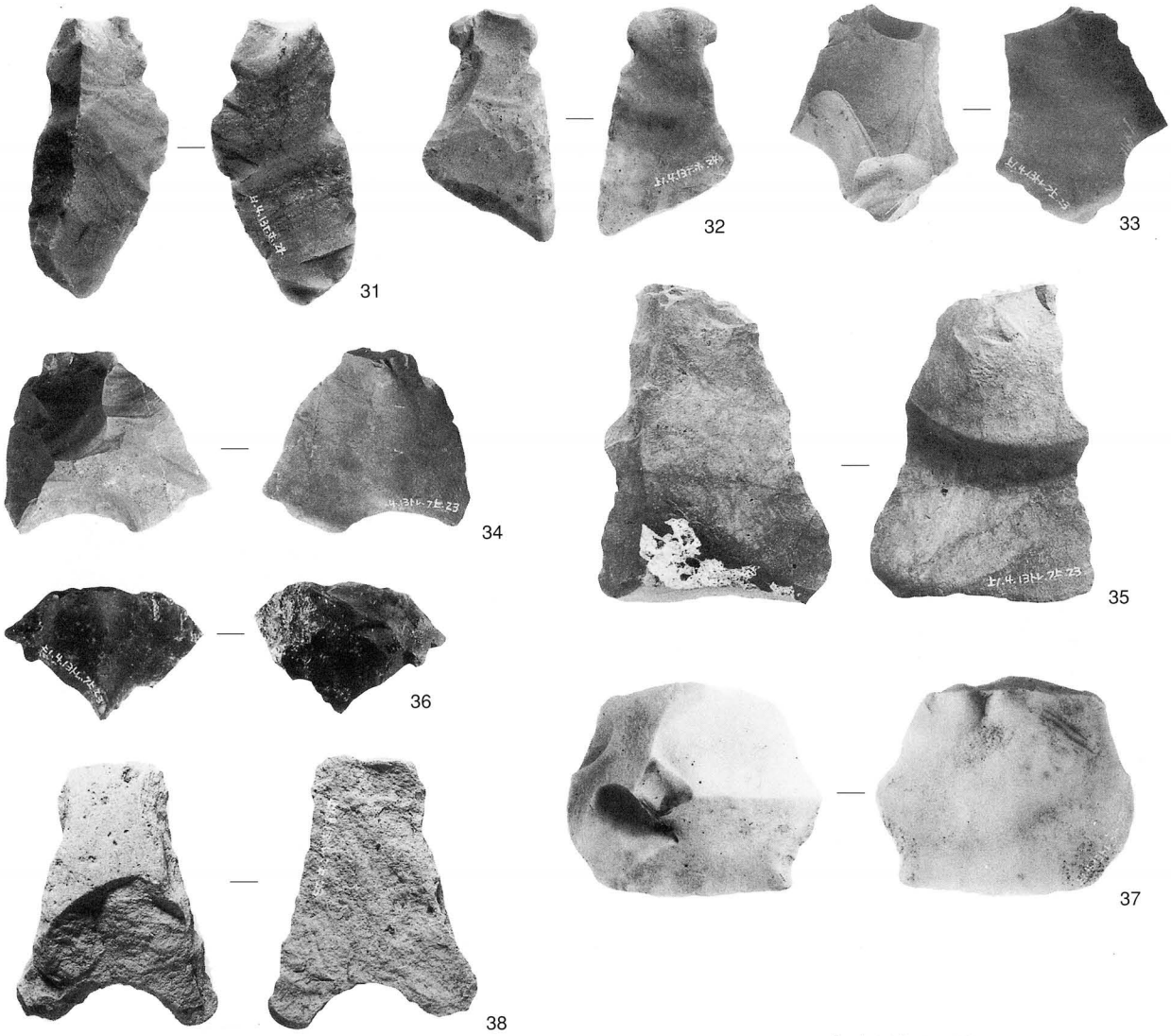


18トレンチ包含層出土石器

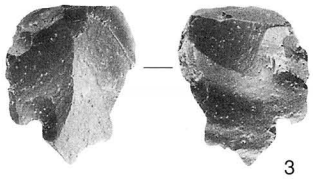


13トレンチ１号溝状プラン（ＳＸ１）出土石器

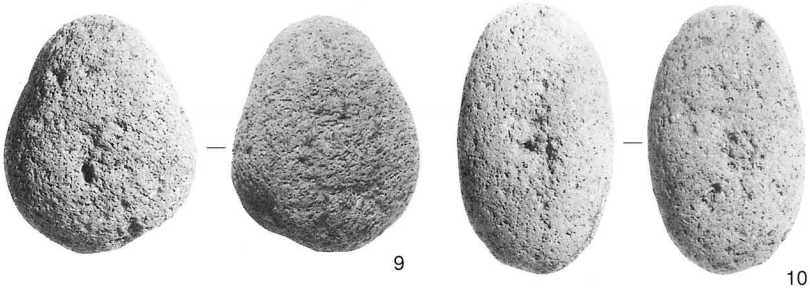
図 版 34

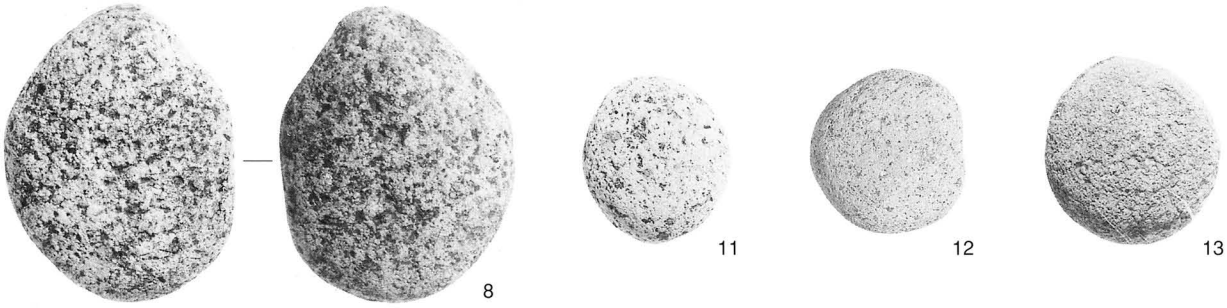


13トレンチ包含層出土石器

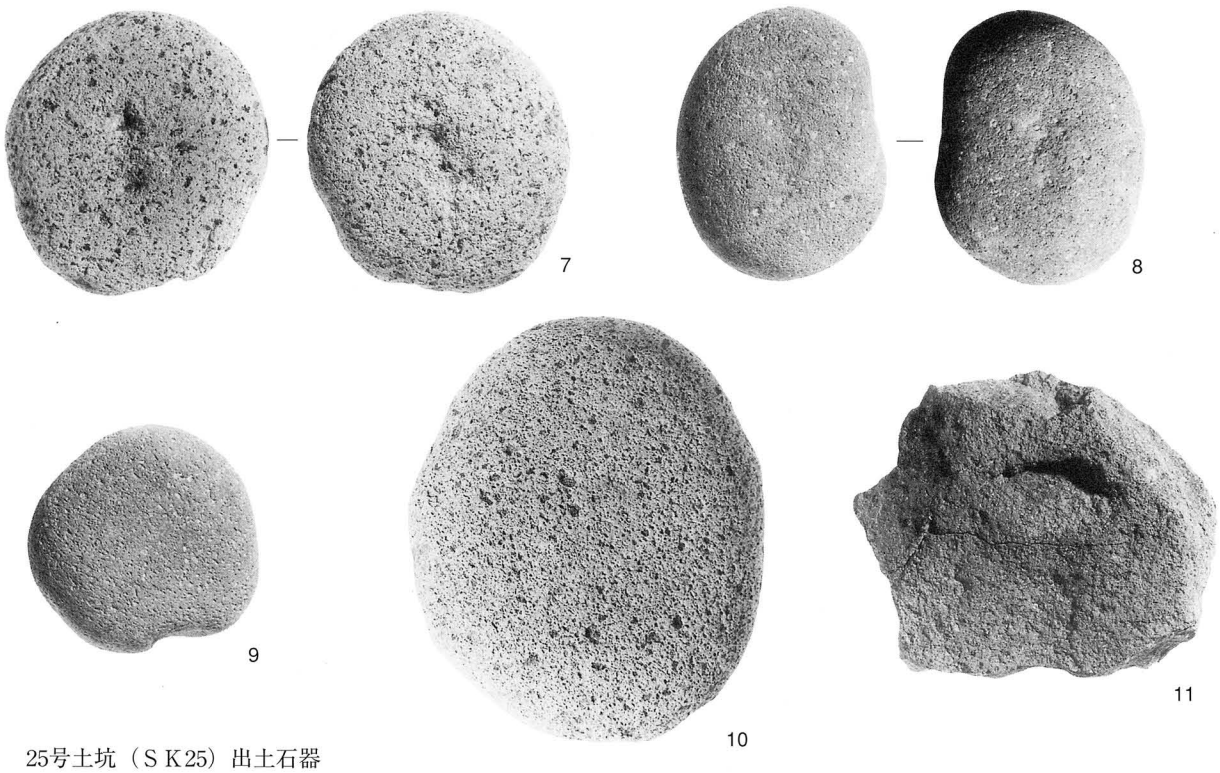


5号土坑（ＳＫ５）出土石器

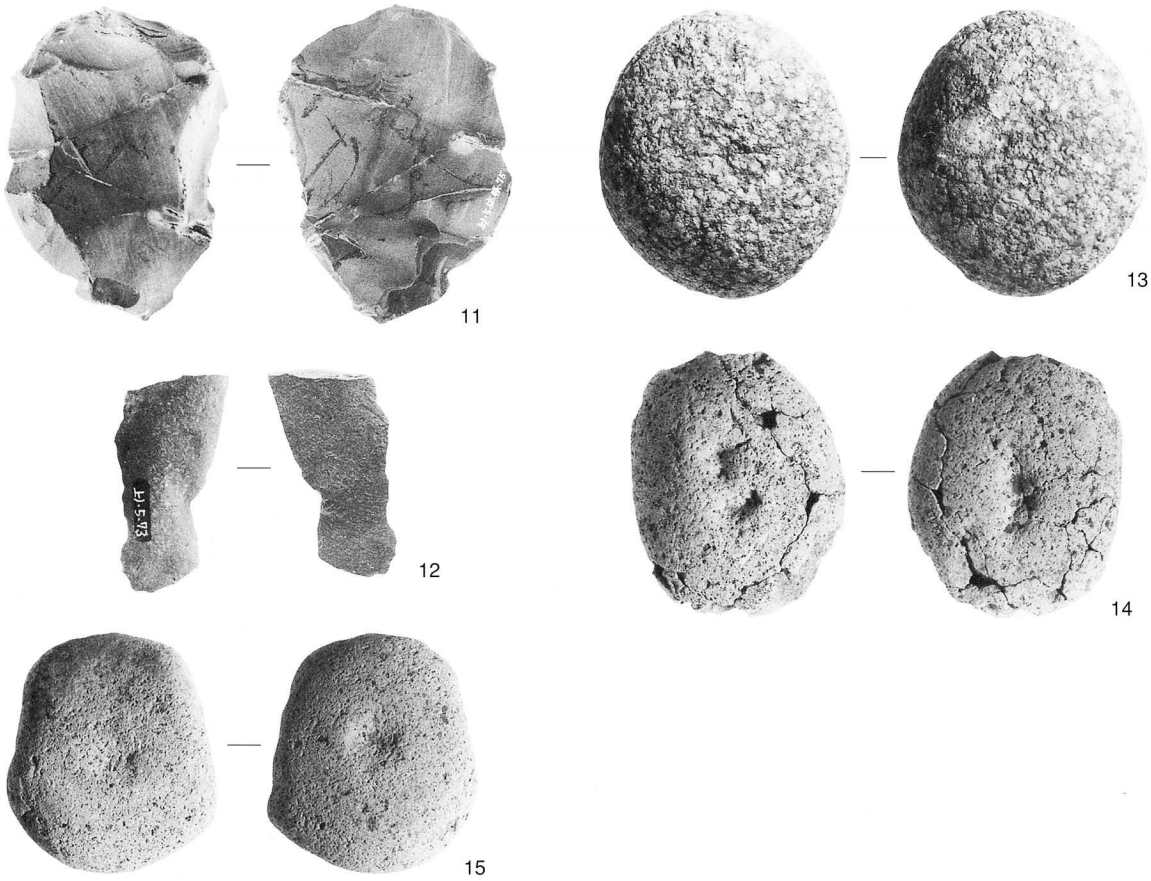




21号土坑（ＳＫ21）出土石器



25号土坑（ＳＫ25）出土石器



包含層出土石器

報告書抄録

ふりがな	うわのいせき
書名	上野遺跡
副書名	平成15年度確認調査・第５次発掘調査報告書
シリーズ名	仙台市文化財調査報告書
シリーズ番号	第278集
編著者名	仙台市教育委員会 工藤信一郎・玉川文化財研究所 中山　豊
編集・発行機関	仙台市教育委員会
所在地	〒990－8671 宮城県仙台市青葉区国分町３－７－１　TEL022－214－8894
発行年月日	西暦2004年３月31日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
上野（うわの） 確認調査（かくにんちょうさ）	宮城県仙台市（みやぎけんせんだいし） 太白区富田（たいはくくとみた） 字上野西・上野中（あざうわのにし・うわのなか） 地内（ちない）	041009	仙台市 C－108 宮城県 01002	38° 12′ 38″	140° 51′ 04″	20031027 ～ 20031219	600	都市計画街路建設に伴う事前調査
上野（うわの） 第５次調査（だいじちょうさ）	宮城県仙台市（みやぎけんせんだいし） 太白区富田（たいはくくとみた） 字上野中地内（あざうわのなかちない）	041009	仙台市 C－108 宮城県 01002	38° 12′ 37″	140° 51′ 09″	20031126 ～ 20040120	410	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
上野 確認調査	集落跡	縄文時代中期	竪穴住居跡　４軒 埋設土器　４基 土坑　多数 配石　１ヵ所 遺構プラン　多数	土器・石器・土偶	フラスコ状土坑を伴う集落跡
上野 第５次調査	集落跡	縄文時代中期	土坑　28基	土器・石器	フラスコ状土坑を中心とする集落縁辺域
			掘立柱建物跡　１棟	土器	

仙台市文化財調査報告書第278集

上　野　遺　跡

－平成15年度確認調査・第５次発掘調査報告書－

発行日　2004年３月

発　行　仙台市教育委員会
仙台市青葉区国分町三丁目７－１
文化財課　022（214）8893～4

印　刷　有限会社 平電子印刷所
いわき市平北白土字西ノ内13
0246（23）9051